

## SharePoint Server 2007/2010 検証環境から本番環境への展開 自習書

---



バックアップ&リカバリー

管理

展開と複製

ストレージ最適化

テストとレポート

アーカイブとコンプライアンス

SharePoint への移行

#### 著作権

このドキュメントに記載されている情報（URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む）は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものです。実在する名称とは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用をお願いします。AvePoint は、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途 AvePoint のライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

## はじめに

---

### 1. 目的

本ドキュメントでは、Microsoft SharePoint Server 2010(以下、SharePoint 2010)環境において、検証環境で構築した構成を本番環境に展開する際のポイントを整理し、DocAve を用いた実際の展開方法を解説します。展開手順については、画面キャプチャを用いてステップバイステップで紹介します。

利用する製品は、AvePoint DocAve 展開マネージャー for SharePoint v5 および AvePoint DocAve バックアップ&リカバリー for SharePoint v5 です。

### 2. 対象製品

AvePoint DocAve v5

### 3. 前提条件

SharePoint 2010 でファーム環境を構築するには Active Directory 環境が必須になります。より実践に近い環境での学習を行うため、本ドキュメントでは Active Directory 環境でのファーム構成の SharePoint 2010 を前提としています。

### 4. 用語

本ドキュメントの中で使用している略語の正式名称はそれぞれ以下の通りです。

表 1 用語一覧

略語	説明
AD	Active Directory
SharePoint 2010	Microsoft SharePoint Server 2010
DocAve	DocAve ソフトウェアプラットフォーム
DocAve 展開マネージャー	DocAve 展開マネージャー for SharePoint
DocAve バックアップ&リカバリー	DocAve バックアップ&リカバリー for SharePoint
エージェント	DocAve エージェント
マネージャー	DocAve マネージャー

## 変更履歴

---

バージョン	リリース時期	変更内容
Version 1.0	2011 年 12 月 1 日	初版リリース

## 目次

SharePoint Server 2010 DocAve 展開マネージャー自習書.....	1
はじめに.....	3
変更履歴.....	4
目次.....	5
第 1 章 検証環境から本番環境への展開のポイント.....	7
1.1. 検証環境から本番環境への展開を行う目的.....	8
1.2. 展開作業でよくあるニーズ.....	9
第 2 章 DocAve 展開マネージャーの概要.....	12
2.1. DocAve 展開マネージャーとは.....	13
2.1.1. フロントエンド展開.....	14
2.1.2. デザインマネージャー.....	15
2.1.3. ソリューションセンター.....	16
2.2. ライブモードとステージモード.....	17
2.2.1. ライブモード.....	17
2.2.2. ステージモード.....	18
【コラム】ステージモードを利用したバージョン管理.....	20
第 3 章 モデル環境.....	21
3.1. システム構成.....	22
3.2. ソフトウェア構成.....	23
3.3. サイト構成.....	24
第 4 章 展開シナリオ.....	25
4.1. 展開作業のパターン.....	26
4.2. 検証環境から本番環境への初期展開.....	27
4.2.1. 検証環境準備－サイトコレクションの作成.....	27
4.2.2. 検証環境準備－サイトテンプレートの展開.....	29
4.2.3. 検証環境準備－サイトのテーマの展開.....	31
4.2.4. 検証環境準備－サイト列の展開.....	33
4.2.5. 検証環境準備－ライブラリの展開.....	35
4.2.6. ファームレベルの展開－ソリューションパッケージの展開.....	37
4.2.7. ファームレベルの展開－web.config の展開.....	40
4.2.8. ファームレベルの展開－CSS ファイルの展開.....	43
4.2.9. ファームレベルの展開－アイコンファイルの展開.....	46
4.2.10. 初期展開－サイトコレクションの展開.....	49
【コラム】用語セットの展開.....	51
4.3. 運用時の追加展開.....	52
4.3.1. サイトコレクションレベルの追加－マスターページの展開.....	52
4.3.2. サイトコレクションレベルの追加－コンテンツタイプの展開.....	55
4.3.3. サイトコレクションレベルの追加－サイト列の展開.....	58
4.3.4. サイトコレクションレベルの追加－サンドボックスソリューションの展開.....	61
4.3.5. サイトコレクションレベルの追加－サイトトップ変更の展開.....	64
4.3.6. リストレベルの追加－リストテンプレートの変更の展開.....	67

4.3.7. リストレベルの追加－アイテム投稿フォームのカスタマイズの展開.....	70
4.3.8. リストレベルの追加－ビューの追加の展開.....	73
4.3.9. リストレベルの追加－InfoPath フォームの修正の展開.....	75
4.3.10. アイテムレベルの追加－ページの追加の展開.....	77
4.4. 共通手順.....	80
4.4.1. デザインマネージャー－プランの設定.....	80
4.4.2. デザインマネージャー－オプションの設定.....	85
4.4.3. デザインマネージャー－スケジュールの設定.....	86
4.4.4. デザインマネージャー－実行と結果確認.....	87
4.4.5. フロントエンド展開－プランの設定.....	90
4.4.6. フロントエンド展開－オプションの設定.....	96
4.4.7. フロントエンド展開－スケジュールの設定.....	97
4.4.8. フロントエンド展開－実行と結果の確認.....	98
4.4.9. ソリューションセンター－プランの設定.....	101
4.4.10. ソリューションセンター－実行と結果の確認.....	109
4.4.11. デザインマネージャー設定.....	112
4.4.12. ソリューションセンター設定.....	115
4.4.13. フロントエンド展開設定.....	118
第 5 章 展開時のロールバック.....	122
5.1. 問題発生時のロールバック.....	123
5.1.1. デザインマネージャー－ロールバックのシナリオ.....	123
5.1.2. デザインマネージャー－ロールバック手順.....	124
5.1.3. フロントエンド展開－ロールバックのシナリオ.....	132
5.1.4. フロントエンド展開－ロールバック手順.....	133
第 6 章 パラメータシート.....	143
6.1. 設計シート.....	144
6.1.1. デザインマネージャープランの構成.....	144
6.1.2. フロントエンド展開プランの構成.....	146
6.1.3. ソリューションセンタープランの構成.....	147
6.1.4. 展開マネージャーの設定.....	148
第 7 章 付録.....	150
7.1. 評価項目シート.....	151

## 第1章 検証環境から本番環境への展開のポイント

---

本章では、検証環境から本番環境への SharePoint 展開のポイント、および DocAve を用いた展開概要について説明します。

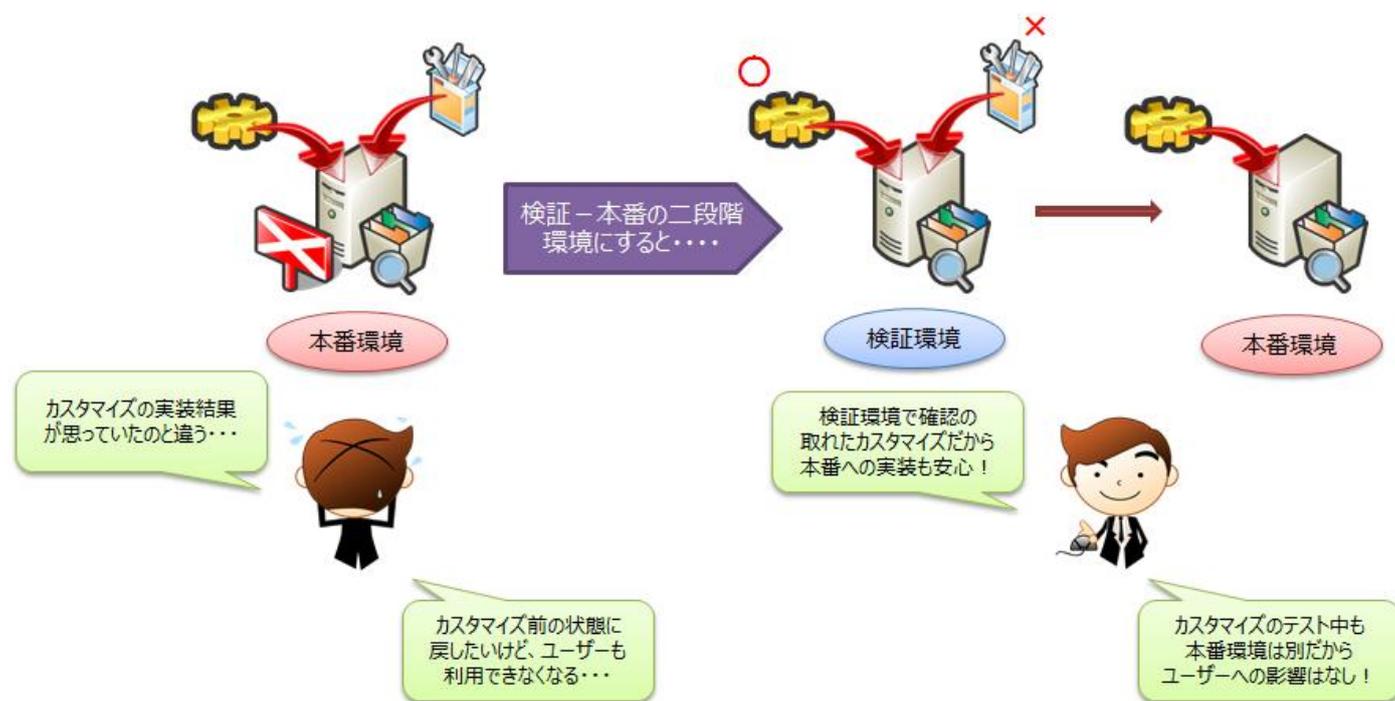
## 1.1. 検証環境から本番環境への展開を行う目的

SharePoint は非常に自由度が高いプラットフォームです。既定で用意されているテンプレートもありますが、自社の業務や利用目的に合わせたカスタマイズを行うことで、それぞれの企業のニーズに対応した柔軟な情報共有基盤を提供することができます。

SharePointにおけるカスタマイズとは、独自のアプリケーション開発のような難易度の高いものだけを指すわけではありません。「サイトのテーマ」や「マスターページ」を利用したデザインの変更や、標準で用意されている「Web パーツ」や「リスト」を画面上でどのように配置するかを検討、リストへの列の追加などもカスタマイズの1つです。このように、SharePointの活用にあたってカスタマイズは切り離せない関係にあり、ユーザーにとって使いやすい環境を構築するためには様々な要素を考慮する必要があります。

これらの要素を机上の設計のみで決定することは非常に困難です。しかし、検討や確認が不足したまま直接本番環境へ展開すると、実装時に予期せぬ問題が発生したり、復旧のために大掛かりなリストア作業が発生したりするといったトラブルにつながってしまいます。また、実際に SharePoint 運用が開始してから追加のカスタマイズ要望が発生した場合、運用中の環境でトラブルが発生すれば、ユーザーが SharePoint を長時間利用できなくなる事態を引き起こしてしまいます。

こうしたリスクを回避する手段の一つとして、検証用と本番用の 2 つの環境を準備し、2 段階の展開を行う手法が挙げられます。本番環境を構築する前に、別途用意した検証環境でカスタマイズ要素の実装・稼働確認を取り、実際の動作が確かめられたものを本番環境へ展開するというステップを踏むことで、実装にあたっての課題を事前に把握しておくことや、本番環境への影響なくカスタマイズの評価を行うことが可能です。



## 1.2. 展開作業でよくあるニーズ

本番展開時のリスクを減らすために、検証環境での確認を取ってから本番環境への導入を行うことは非常に重要なステップですが、一方で SharePoint 標準の機能のみで展開を行おうとすると以下のような課題が発生してくる場合があります。

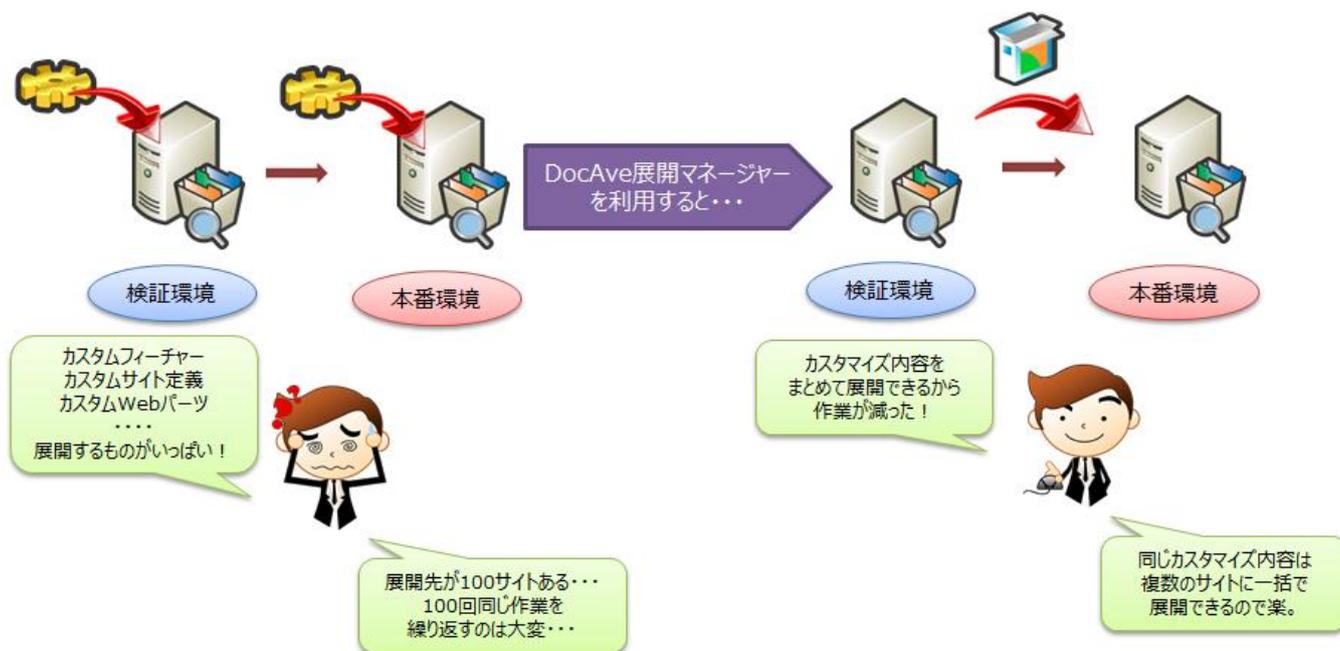
課題 1	繰り返し作業の手間を減らしたい
課題 2	手動で再設定を行うことによるオペレーションミスのお機を減らしたい
課題 3	任意の粒度で柔軟に展開を行いたい
課題 4	展開時に問題が発生した場合のロールバックを簡単に行いたい

以下に各課題の詳細と、各課題に対する DocAve の活用ポイントを説明します。

### 課題 1: 繰り返し作業の手間を減らしたい

前段でも述べたとおり、自社の業務や利用目的に合わせた環境を作り上げるには、SharePoint のカスタマイズが必要不可欠です。しかし、カスタマイズ内容によっては複数の場所へ展開することが難しく、同じ設定を何度も繰り返さなければならないケースがあります。対象となるサイトの数が少なければ手作業でも対応できますが、対象が数百、数千となると手作業での対応は非常に困難です。

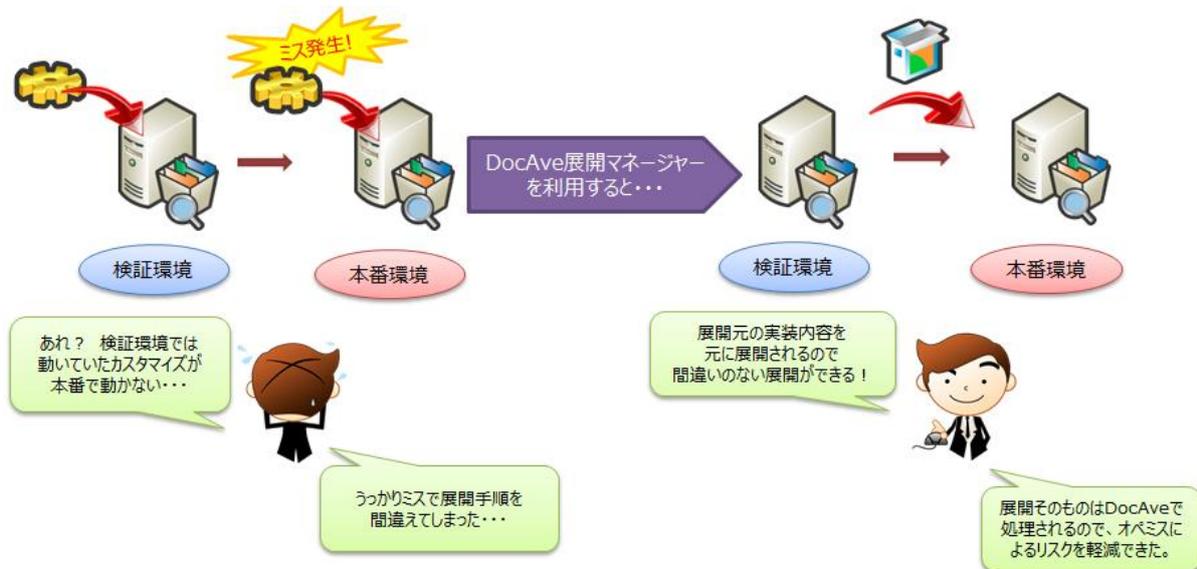
DocAve 展開マネージャーを利用すると、一つの展開元のデザイン要素を、複数の展開先に一括で展開できるため、同じカスタマイズを実装するのに何度も繰り返し作業を行う必要がなく、作業者の負荷を軽減することが可能です。



## 課題 2: 手動で再設定を行うことによるオペレーションミスの機会を減らしたい

カスタマイズの内容によっては、手順が複雑であったり、設定するためのステップが多かったりすることがあります。展開のためにこれらの手順を手動で繰り返すことは、思わぬオペレーションミスが発生する機会を増やしてしまう可能性が否定できません。検証環境で稼働確認を取ったカスタマイズが、手動展開によるオペレーションミスにより本番で稼働しないとなれば、2段階の展開を行っているメリットが大幅に低減してしまいます。

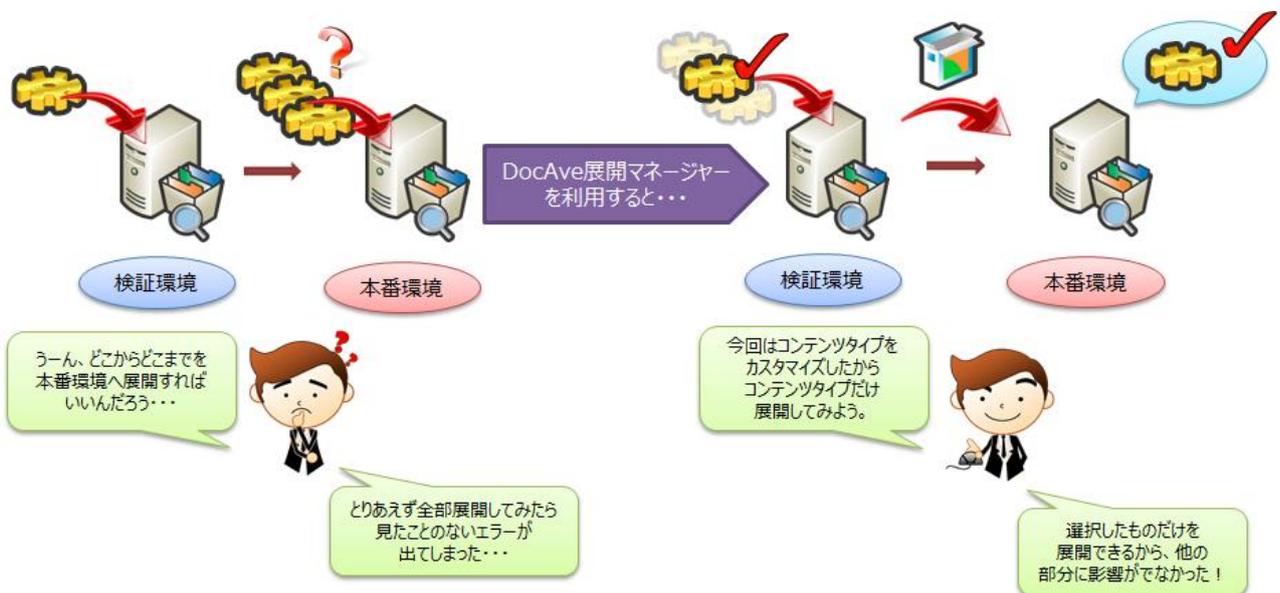
DocAve 展開マネージャーを利用すると、既に展開の完了している展開元の設定を基に展開先へ設定を反映することができるため、手順漏れによる展開失敗のリスクを抑えることが可能です。



## 課題 3: 任意の粒度で柔軟に展開を行いたい

カスタマイズを行う範囲は様々であるため、展開による影響を抑えるために、その範囲を正確に把握し、ピンポイントにカスタマイズ内容を反映することが必要です。カスタマイズとは関連のない範囲まで展開対象としてしまうと、予期しない変更が含まれてしまう可能性が高まります。

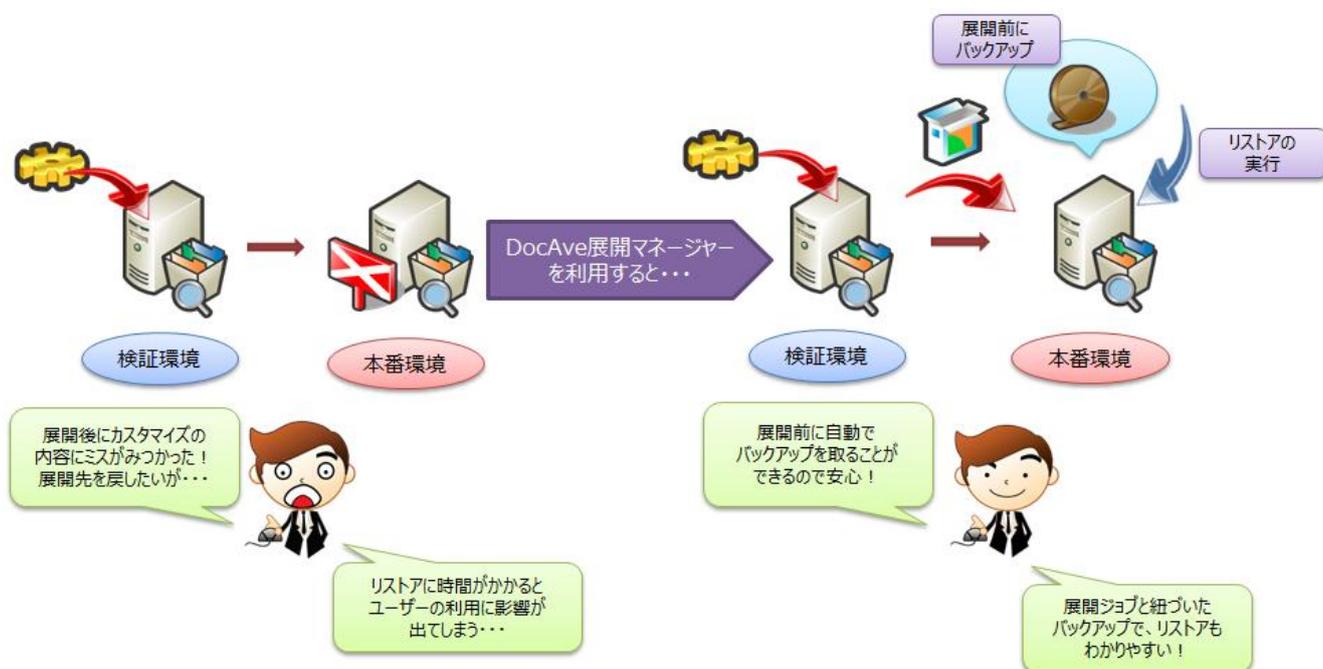
DocAve 展開マネージャーを利用すると、GUI から展開要素のツリー構造を確認できるため、カスタマイズの影響範囲を認識しやすく、また展開元の粒度を任意に変更できるので、不要な展開による展開失敗のリスクを軽減することが可能です。



#### 課題 4: 展開時に問題が発生した場合のリストアを簡単に行いたい

検証環境で稼働確認を取ったカスタマイズを展開する運用を行っても、本番への展開後に想定外の問題が起こったり、急な仕様変更が発生する可能性はゼロではありません。リストアについても、手作業で行う場合のオペレーションミスや作業時間が増大するリスクは展開を行う際と同じです。加えて、本番環境のリストアに時間がかかることは、SharePoint をユーザーが利用できない時間を増やしてしまうことでもあり、運用上非常に大きな影響があります。

DocAve 展開マネージャーを利用すると、オプションを利用することにより展開前に展開先のバックアップを自動的に取得することができます。そのため、運用側は展開前のバックアップについて個別に意識する必要がなくなり、またロールバックについても実行した展開のジョブに紐づいた情報から簡単に行うことが可能です。



## 第2章 DocAve 展開マネージャーの概要

---

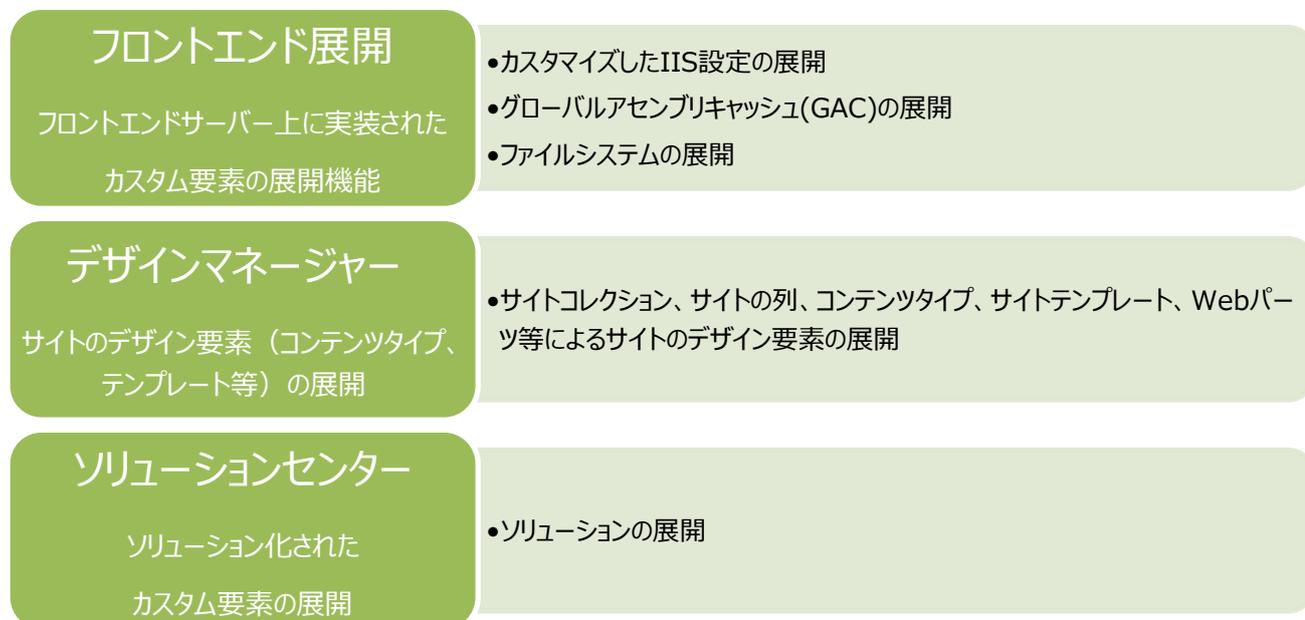
本章では、DocAve 展開マネージャーの機能および展開モードについて説明します。

## 2.1. DocAve 展開マネージャーとは

DocAve 展開マネージャーを使用すると、SharePoint 環境に実装されたカスタマイズを GUI ベースで選択して展開することができます。展開作業は、同一の SharePoint ファームだけではなく、異なる SharePoint ファーム間でも実行可能です。

DocAve 展開マネージャーは「フロントエンド展開」・「デザインマネージャー」・「ソリューションセンター」の 3 つの機能から構成されており、それぞれ展開できる要素が異なります。

図 2.1-1 DocAve 展開マネージャーの機能概要



### 2.1.1. フロントエンド展開

DocAve 展開マネージャーのフロントエンド展開では、Web フロントエンドサーバー上に実装されたカスタム要素の展開が可能です。

Web フロントエンドサーバー上のカスタム要素には、例として以下のようなものがあります。

- web.config ファイルに対する変更
- グローバルアセンブリキャッシュ(GAC)の追加
- Hive(\*1)へ追加したファイル

\*1...%COMMONPROGRAM FILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14 (MOSS 2007 の場合 12) 以下のフォルダ

Web フロントエンドサーバー上のこれらのカスタム要素は、複数の Web フロントエンドサーバーがあっても自動的にコピーがされないため、通常は手作業にて同一の設定内容を各サーバーへ反映していく作業が必要となります。

DocAve 展開マネージャーのフロントエンド展開機能を使えば、Web フロントエンド上のカスタマイズ要素を DocAve ツールの管理の基で機械的に展開することができるため、別環境に対して管理者が同じ設定を繰り返す手間や、手作業によるオペレーションミスなどの人的作業のリスクの軽減につなげることが可能です。

図 2.1-2 DocAve フロントエンド展開



## 2.1.2. デザインマネージャー

DocAve 展開マネージャーのデザインマネージャーでは、SharePoint 上に実装されたカスタム要素や設定、デザイン要素の展開が可能です。

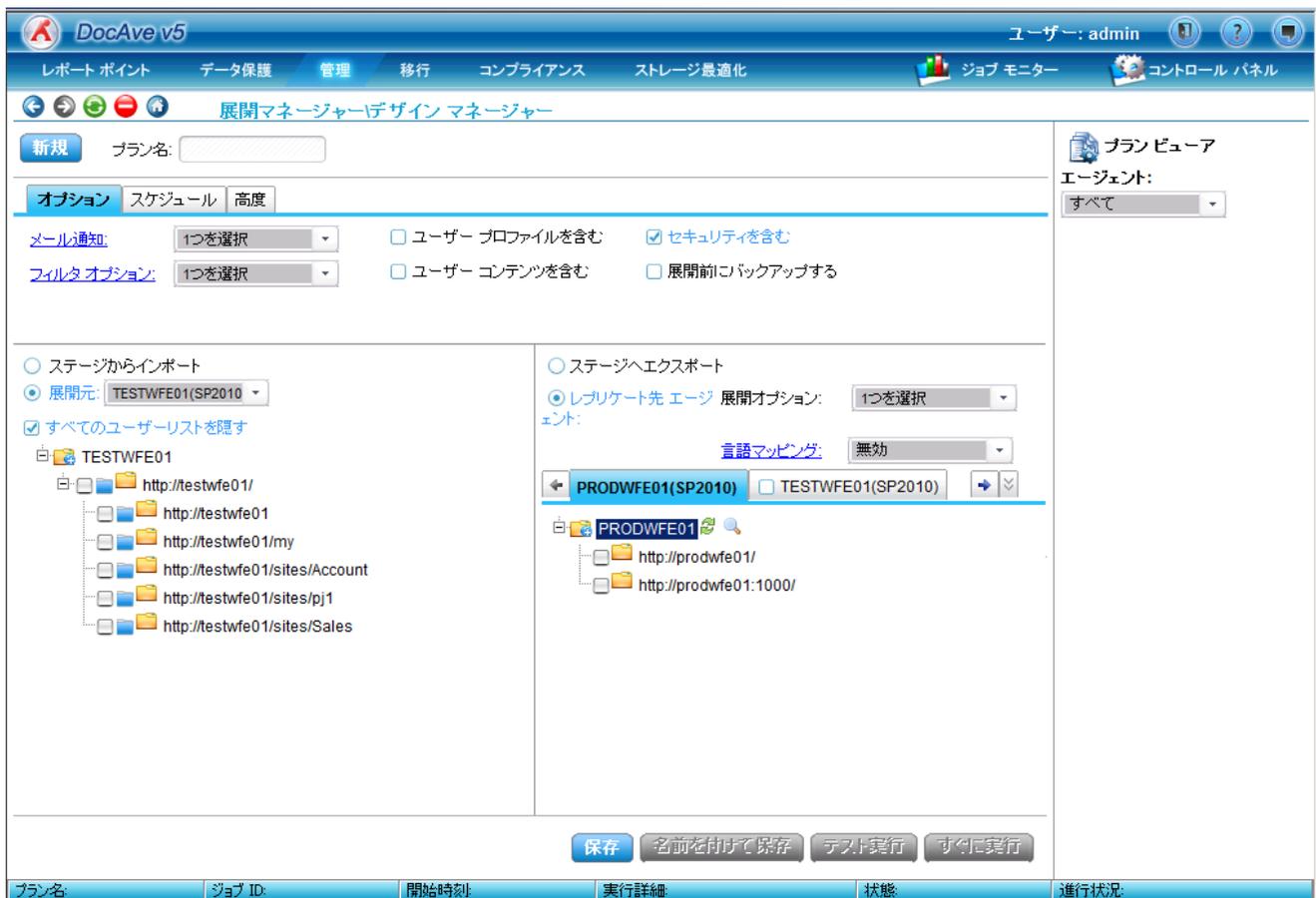
SharePoint 上に実装されたカスタム要素には、例として以下のようなものがあります。

- 独自にカスタマイズしたサイトテーマやサイトテンプレート
- ライブラリやリストに追加したカスタム列
- サイトテンプレートに既定で含まれるもの以外のライブラリやリストの追加
- ビューの追加

SharePoint 上のこれらの展開要素は、基本的にサイトやサイトコレクションの範囲でしか有効にならないため、全社的なルール変更等に基づいてカスタム要素を追加した場合、他のすべてのサイトやサイトコレクションに対して同じ設定を実施する必要があります。

DocAve 展開マネージャーのデザインマネージャー機能を使えば、SharePoint 上のカスタマイズを任意の粒度で選択し、かつ複数の展開先に対して一括で反映させることが可能です。

図 2.1-3 DocAve デザインマネージャー



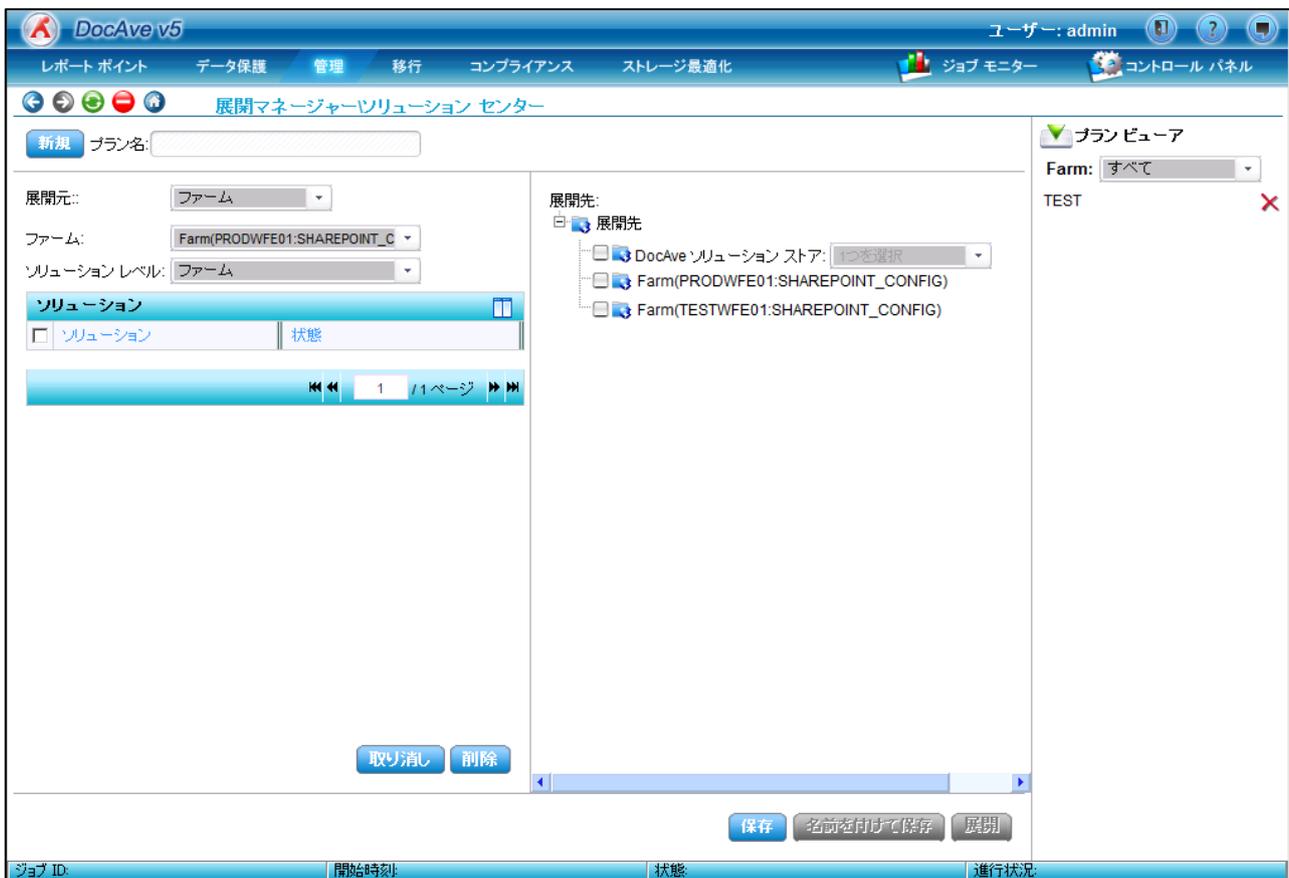
### 2.1.3. ソリューションセンター

DocAve 展開マネージャーのソリューションセンターでは、SharePoint 上に実装されたソリューションの展開が可能です。

SharePoint のカスタマイズの一つとして、複数の機能(フィーチャー)、aspx ファイル、リソースファイルなどをまとめてパッケージ化した「ソリューション」という形で展開する手法がよく取られます。フィーチャーや Web パーツなどは単体で展開することも可能ですが、ソリューションとしてまとめることで、いくつかの要素を一つのカスタマイズとして展開することができるようになります。

DocAve のソリューションセンターでは、基本となるファーム間でのソリューション展開機能をはじめとして、ファーム内のソリューションを一覧できることによるソリューションの把握や、「DocAve ソリューションストア」を利用したソリューションの管理を行うことが可能です。「DocAve ソリューションストア」を利用すると、SharePoint ファーム以外の任意の場所にソリューションを隔離して管理することができるため、検証環境内の開発が完了したソリューションを DocAve ソリューションストアに展開し、本番環境ファームへの展開は必ずこのソリューションストアを展開元とする、といった運用ルールを作ることで、まだ開発が完了していないテスト中のソリューションを誤って本番環境へ展開してしまうなどの運用ミスを防ぐ目的にも利用できます。

図 2.1-4 DocAve ソリューションセンター



## 2.2. ライブモードとステージモード

展開マネージャーの内、デザインマネージャーおよびフロントエンド展開での展開には、ライブモードとステージモードという二つのモードが用意されています。それぞれ異なる特徴を持っているため、利用シーンに合わせて選択、または組み合わせて使うことで展開作業をより柔軟に行うことができます。

なお、本ドキュメント第4章以降の手順紹介では、ライブモードを利用しています。ステージモードで展開を行う際の留意事項については、「2.2.2 ステージモード」を参照してください。

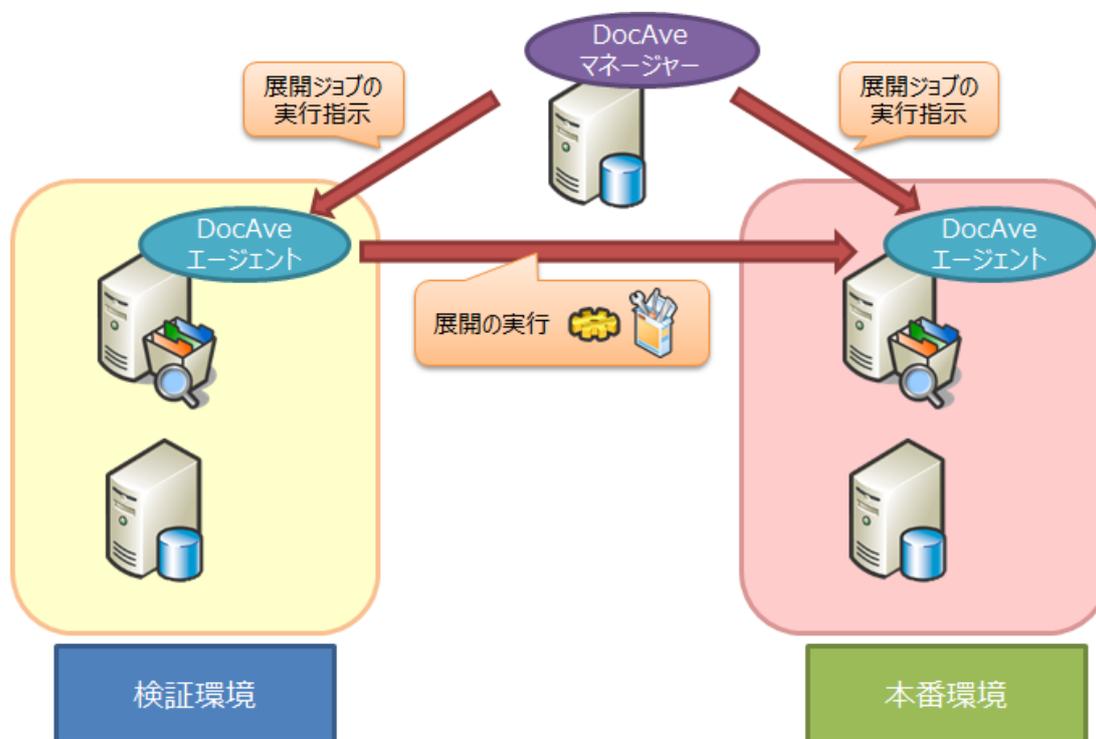
### 2.2.1. ライブモード

展開元のデータ取得から展開先へのデータ展開を一連のジョブとして実行するモードです。

ライブモードでは展開元のエージェントと展開先のエージェントが通信をすることでデータの展開を行っているため、双方の環境がネットワークを通じて疎通できる状態である必要があります。

また、展開元・展開先の組み合わせや、利用するオプションの設定は「プラン」として保存しておくことができるため、同じ範囲や設定の展開を複数回行う場合や、増分展開を行いたい場合などに活用できるモードです。

図 2.2-1 ライブモードの利用イメージ



## 2.2.2. ステージモード

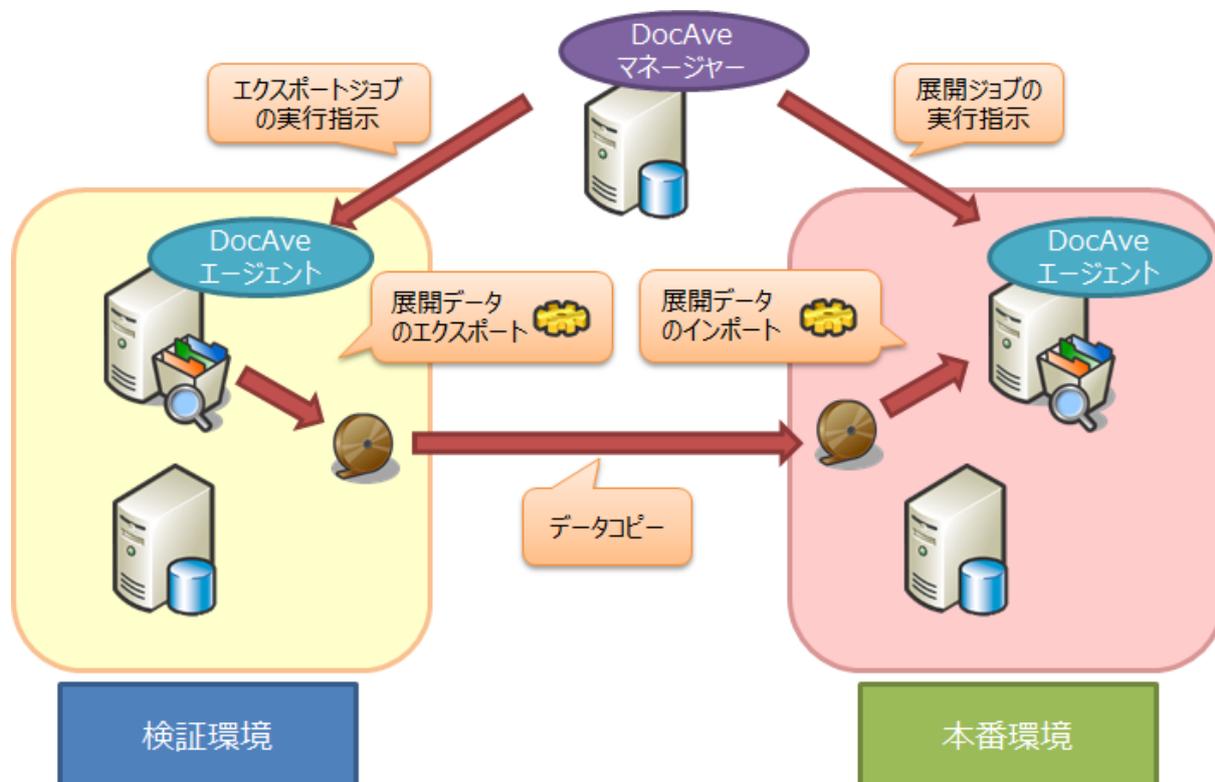
ステージモードはライブモードと異なり、データ取得のフェーズとデータ展開のフェーズを分割して実行するモードです。

ステージモードでは展開元のデータを任意の場所にエクスポートし、次に展開先にデータをインポートするという2段階の展開作業となりますが、各フェーズを個別に実行できるため、展開元と展開先のエージェントが直接通信できる環境でなくても展開作業を行うことができます(マネージャーからは双方のエージェントと通信できる必要があります)。

展開元と展開先でドメインが分かれている場合や、通信の制限が厳しく設定されている場合など、展開元と展開先の環境でネットワーク経由での疎通ができない環境での展開に有効です。

前述のとおり、ステージモードでは展開データをエクスポート・インポートする必要があるため、事前に「論理デバイス」と呼ばれるデータの保存、および読込先となる場所を展開元・展開先の双方のファームで作成しておく必要があります。論理デバイスの設定については、「5.1.2(1)(事前作業)論理デバイスの設定」を参照してください。

図 2.2-2 ステージモードの利用イメージ



※ステージモード利用時の制限事項

ステージモードはライブモードに比べて、その仕様上、下記機能に制限があります。

表 2.2-1 ステージモード利用時の制限事項

機能名	制限事項
メール通知	利用不可
フィルタオプション	利用不可
ユーザープロファイルを含む	ユーザープロファイルを含むことができないため、異なるファーム間では下記要素を展開できない。 ➤ 対象ユーザー ➤ セキュリティ※ <sup>1</sup>
スケジュール設定	利用不可
展開タイプ設定	「完全」のみ利用可能
エクスポート対象	複数ノード(サイト・リストなど)を対象として、エクスポートできない。

※<sup>1</sup> 同一ドメイン内など、展開先でも同じセキュリティ情報を利用できる場合は、セキュリティの展開が可能です。

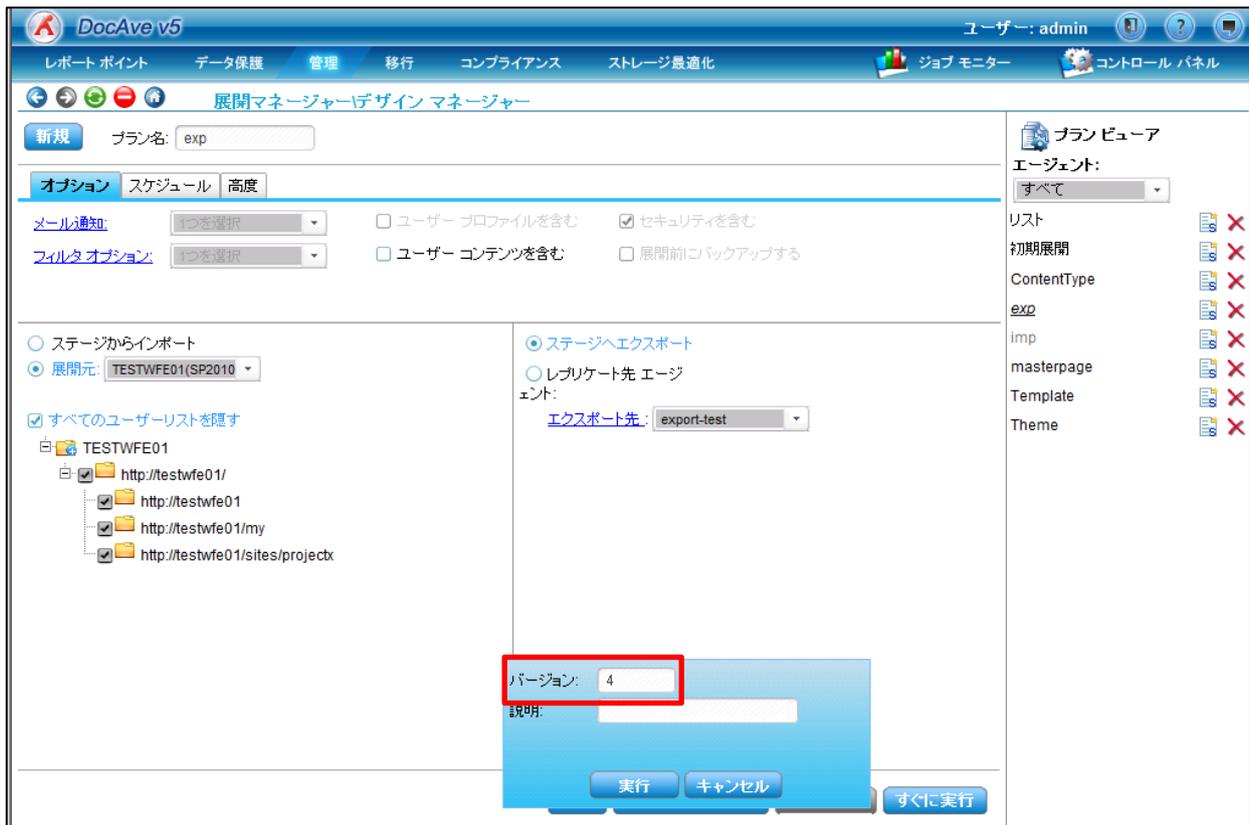
## 【コラム】ステージモードを利用したバージョン管理

DocAve 展開マネージャーのステージモード特有の機能として、展開データのバージョン管理機能が存在します。

「2.2.2 ステージモード」で触れたとおり、ステージモードでは展開元データの取得から展開先へのデータ復元までを一連のジョブとして行うのではなく、「展開元のデータのエクスポート」と「展開先へのデータのインポート」が独立したジョブとなります。この内、「展開元データのエクスポート」の実行時にエクスポートデータに対してバージョン番号を付与することができるため、修正やカスタマイズごとにデータエクスポートをしておくことで、展開データのバージョン管理を行うことができます。

エクスポートデータを削除しない限り、何度でも展開を行うことができるため、バージョンごとの展開結果の比較や、特定のバージョンのデータへの再展開などの用途に利用することが可能です。

図 2.2-3 ステージモードでのバージョン管理イメージ



## 第3章 モデル環境

---

本章では、本ドキュメントで検証環境からの本番展開に使用するモデル環境の構成について説明します。

### 3.1. システム構成

本ドキュメントでは、より実践的な環境での学習を行うため、シングルサーバーファーム環境ではなく、ファーム構成の SharePoint を用いたシナリオ手順について紹介します。ドメイン構成は 1 フォレスト/1 ドメイン、SharePoint ファーム構成は、1-1-1 構成( Web フロントエンドサーバー : 1 / Index サーバー : 1 台 / SQL サーバー : 1 台 )とし、検証ファームと本番ファームを用意します。ドメインコントローラー、および DocAve マネージャー用サーバーは専用に各 1 台とします。

図 3.1-1 サーバー構成図

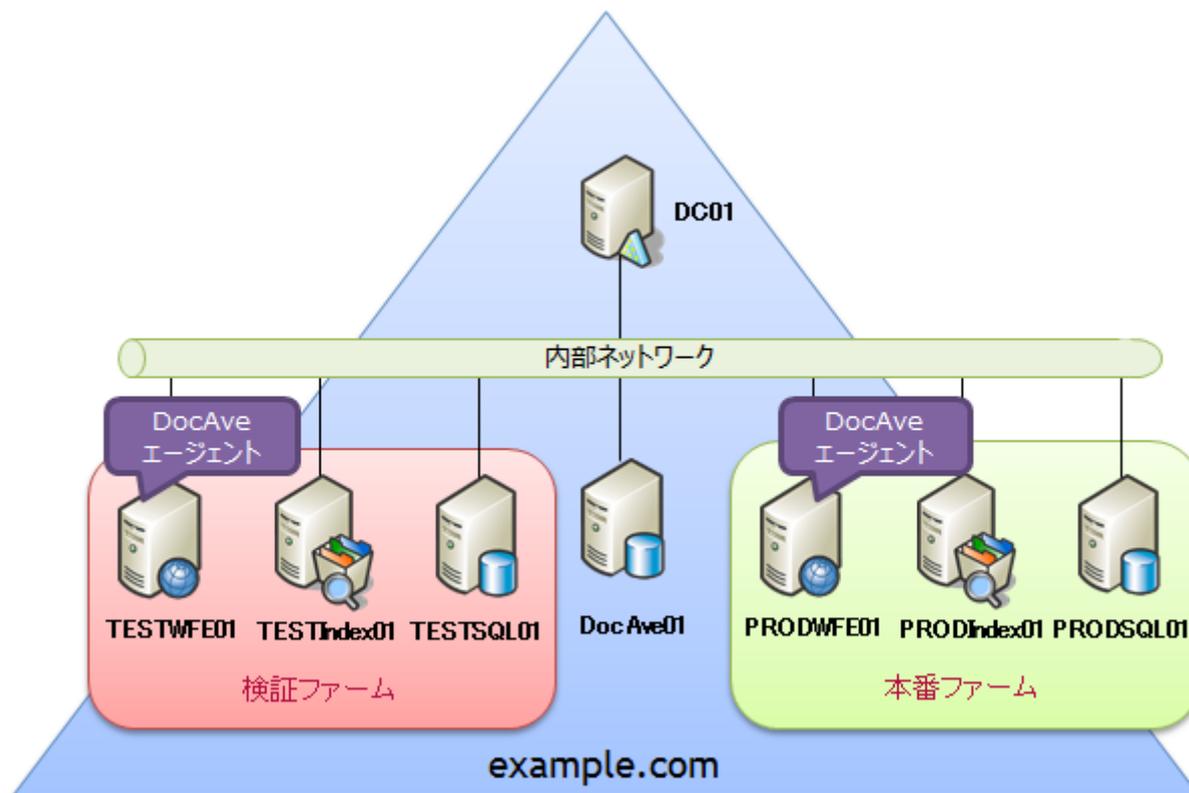


表 3.1-1 サーバー一覧

サーバー名	役割
DocAve01	DocAve マネージャーサーバー
DC01	ドメインコントローラー
PRODSQL01	SQL サーバー(本番ファーム)
PRODWFE01	Web フロントエンドサーバー(本番ファーム)
PRODIndex01	インデックスサーバー(本番ファーム)
TESTSQL01	SQL サーバー(検証ファーム)
TESTWFE01	Web フロントエンドサーバー(検証ファーム)
TESTIndex01	インデックスサーバー(検証ファーム)

## 3.2. ソフトウェア構成

モデル環境では、各サーバーに以下のソフトウェアが導入済みであることを前提とします。

表 3.2-1 ソフトウェア一覧

サーバー名	コンポーネント
DocAve01	<ul style="list-style-type: none"><li>・Windows Server 2008 R2 Standard Edition x64 SP1</li><li>・.NET Framework 3.5 SP1</li><li>・DocAve マネージャー</li></ul>
PRODWFE01 TESTWFE01	<ul style="list-style-type: none"><li>・Windows Server 2008 R2 Standard Edition x64 SP1</li><li>・.NET Framework 3.5 SP1</li><li>・Internet Information Service 7.0</li><li>・SharePoint Server 2010 Standard Edition SP1</li><li>・DocAve エージェント</li></ul>
PRODIndex01 TESTIndex01	<ul style="list-style-type: none"><li>・Windows Server 2008 R2 Standard Edition x64 SP1</li><li>・.NET Framework 3.5 SP1</li><li>・Internet Information Service 7.0</li><li>・SharePoint Server 2010 Standard Edition SP1</li></ul>
PRODSQL01 TESTSQL01	<ul style="list-style-type: none"><li>・Windows Server 2008 R2 Standard Edition x64 SP1</li><li>・.NET Framework 3.5 SP1</li><li>・SQL Server 2008 R2 Standard Edition</li></ul>
DC01	<ul style="list-style-type: none"><li>・Windows Server 2008 R2 Standard Edition x64 SP1</li><li>・.NET Framework 3.5 SP1</li><li>・ドメインコントローラー (Active Directory)</li><li>・DNS サーバー</li></ul>

### 3.3. サイト構成

ここでは、モデル環境で利用するサンプルのサイト構成と展開の流れを図で示します。

図 3.3-1 サイト構成と展開の流れ

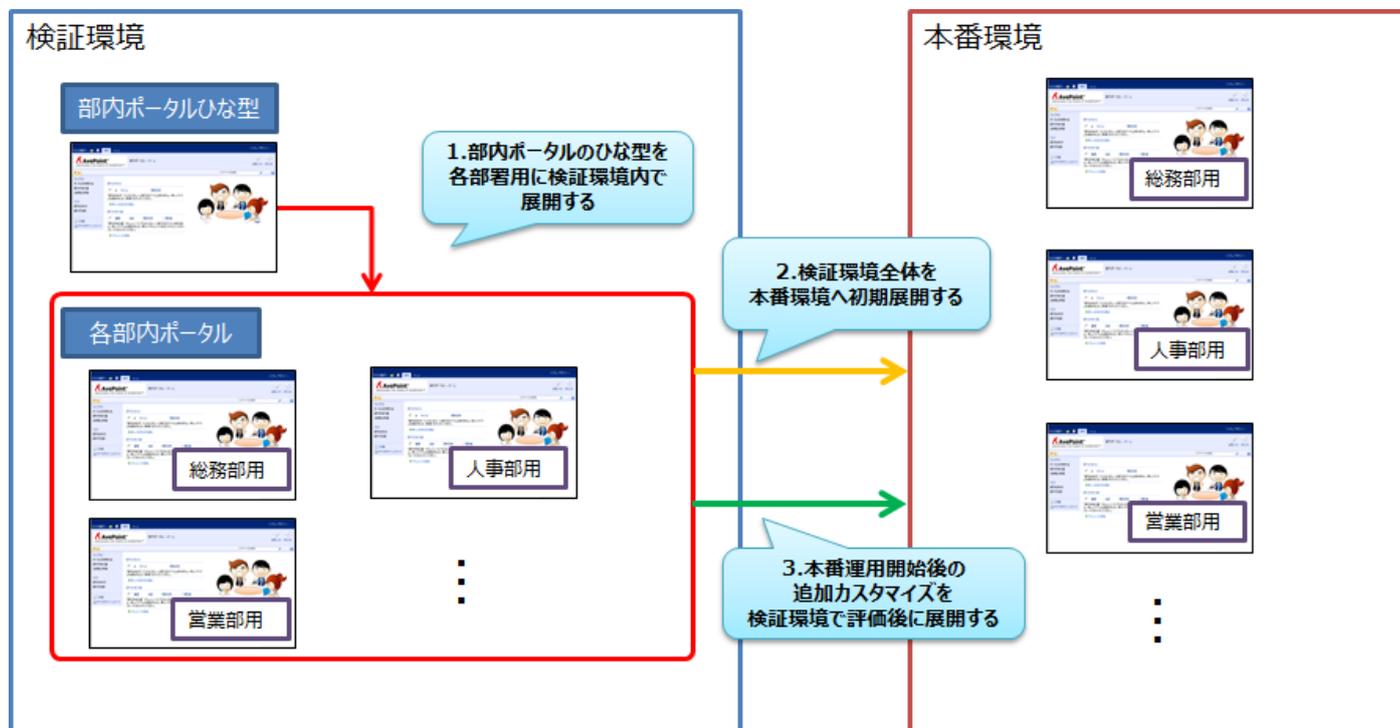


表 3.3-1 サイト一覧

サイト URL	用途
<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a>	部内ポータルのひな型サイト
<a href="http://testwfe01/sites/GA">http://testwfe01/sites/GA</a>	検証環境ファームの総務部用サイト
<a href="http://testwfe01/sites/HR">http://testwfe01/sites/HR</a>	検証環境ファームの人事部用サイト
<a href="http://testwfe01/sites/SA">http://testwfe01/sites/SA</a>	検証環境ファームの営業部用サイト
<a href="http://prodwfe01/sites/GA">http://prodwfe01/sites/GA</a>	本番環境ファームの総務部用サイト
<a href="http://prodwfe01/sites/HR">http://prodwfe01/sites/HR</a>	本番環境ファームの人事部用サイト
<a href="http://prodwfe01/sites/SA">http://prodwfe01/sites/SA</a>	本番環境ファームの営業部用サイト

なお、本書ではモデル環境におけるシナリオとして「総務部」「人事部」「営業部」の3部署用のサイトコレクションに対する展開をベースに記載しておりますが、実際の展開作業においては、お客様の環境に合わせてさらに多くの数のサイトやサイトコレクションに対して同様の手順で展開を行うことが可能です。

## 第4章 展開シナリオ

---

本章では、検証環境から本番環境への展開シナリオを通じて、DocAve 展開マネージャーの設定・実行手順を説明します。

## 4.1. 展開作業のパターン

SharePoint 環境における展開には様々なパターンがありますが、本ドキュメントでは代表的な例として以下のようなケースのシナリオを基に実際の処理手順を説明します。各シナリオ、手順の詳細については、表内に記載された章を参照してください。

表 4.1-1 展開作業のパターン一覧

展開作業パターン		展開概要	シナリオ解説
<b>検証環境から本番環境への初期展開</b>			
検証環境準備	サイトコレクションの作成	一つのひな型サイトコレクションから同内容のサイトコレクションを展開	4.2.1
	サイトテンプレートの追加	複数のサイトに対するサイトテンプレートの一括展開	4.2.2
	サイトのテーマの展開	複数のサイトに対するカスタムテーマの一括展開	4.2.3
	サイト列の展開	複数サイトに対するカスタム列の一括展開	4.2.4
	ライブラリの展開	複数のサイトに対するライブラリの一括展開	4.2.5
ファーム間展開	ソリューションパッケージの展開	ソリューションの二段階展開(検証環境→DocAve ソリューションストア→本番環境)	4.2.6
	web.config の展開	サイト表示の制限数を変更した web.config の展開	4.2.7
	CSS ファイルの展開	標準フォントの変更を行った CSS ファイルの展開	4.2.8
	アイコンファイルの展開	カスタムのアイコンファイルの展開	4.2.9
	サイトコレクションの展開	検証環境準備で作成したサイトコレクションの展開	4.2.10
<b>運用時の追加展開</b>			
サイトコレクションレベル	マスターページの展開	修正済みのマスターページの一括展開	4.3.1
	コンテンツタイプの展開	社内共通フォーマットとしてコンテンツタイプの展開	4.3.2
	サイト列の展開	サイト列が設定されたドキュメントライブラリの展開	4.3.3
	サンドボックスソリューションの展開	サンドボックスソリューションとして作成された Web パーツの展開	4.3.4
	サイトトップ変更の反映	サイトトップのデザイン変更(Web パーツの追加、配置変更)の展開	4.3.5
リストレベル	リストテンプレート変更の展開	変更したリストテンプレートの展開	4.3.6
	アイテム投稿フォームのカスタマイズの展開	SharePoint Designer によるアイテム投稿フォームのカスタマイズの展開	4.3.7
	ビューの追加の展開	リストへのビューの展開	4.3.8
	InfoPath フォームの修正による展開	InfoPath フォームを使用したライブラリの展開	4.3.9
アイテムレベル	ページの追加展開	ページライブラリの新規ページ・既存ページの展開	4.3.10

## 4.2. 検証環境から本番環境への初期展開

このセクションでは、DocAve 展開マネージャーを利用して、検証環境から本番環境への初期展開を行うためのシナリオおよびシナリオを実現するためのプラン設定を説明します。実際の展開にあたっては、各項目のプラン設定を基に、後述の「4.4 共通手順」の手順に従ってプランの作成・実行を行ってください。

### 4.2.1. 検証環境準備－サイトコレクションの作成

#### (1) シナリオ

A 社では、社内の情報共有基盤として新たに SharePoint 2010 を導入することになりました。

今回、A 社では部署ごとにサイトコレクションを作成します。各部署のサイトコレクションでは同一のデザイン構成とコンテンツを提供する方針となっています。そのため、ひな型となるサイトコレクションを 1 つ作成し、そのひな形を基に同じデザイン構成とコンテンツのサイトコレクションを複数作成する方針となりました。以下に、展開対象のイメージと展開要素を示します。

図 4.2-1 サイトコレクションの展開イメージ



表 4.2-1 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容	
部内ポータル	フィーチャー	・「ドキュメントセット」機能を有効化 ・「コンテンツオーガナイザー」機能を有効化
	Web パーツ	・部内共有文書、部内お知らせの Web パーツをトップに配置
	デザイン	・左上にロゴを追加 ・サイトのテーマに「クラシック」を利用
ポータルの利用方法	—	・標準のページライブラリを利用
部内共有文書	—	・標準のドキュメントライブラリを使用
名刺発注申請	フォーム	・入力フォームをカスタムフォームに変更
部内お知らせ	—	・標準のお知らせリストを利用
部内予定表	—	・標準の予定表リストを利用

(2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-2 プラン設定－サイトコレクションの作成



表 4.2-2 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> (ひな形となる「サイトコレクションURL」を選択)
展開先	<a href="http://testwfe01/sites/GA">http://testwfe01/sites/GA</a> (ひな形から作成する「サイトコレクションURL」を入力)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを OFF
ユーザーコンテンツを含む	チェックを ON
セキュリティを含む	チェックを OFF

このシナリオの要件では、サイトコレクション全体の要素を展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、検証環境内のひな型となるサイトコレクションのレベルを展開元として選択します。

展開先は新しく作るサイトコレクションとなるため、チェックボックスを有効化し、展開先の入力フォームにサイトコレクションの URL を入力します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

## 4.2.2. 検証環境準備－サイトテンプレートの展開

### (1) シナリオ

ひな形を基にした部署ごとのサイトコレクションが作成された後に、各部署で利用するプロジェクト運営用のカスタムサイトテンプレートが用意されることになりました。各部署でプロジェクト用のサイト作成ができるよう、展開済みの複数のサイトコレクションに対し、このカスタムサイトテンプレートを一括で展開する必要があります。

ただし、各部署のサイトコレクションは既に部署固有のテストデータや設定情報が反映されているため、その他の設定に影響を及ぼさずにカスタムテンプレートを展開する必要があります。

図 4.2-3 サイトテンプレートの展開イメージ

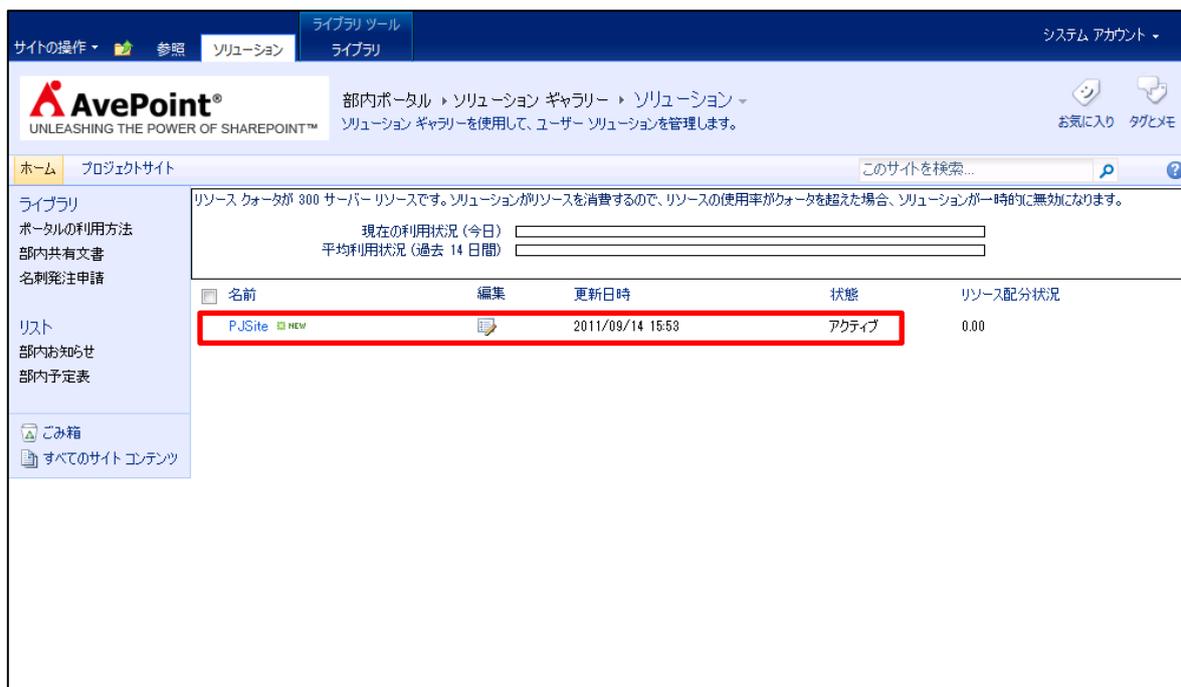


表 4.2-3 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
ソリューションギャラリー	・プロジェクト用サイトのサイトテンプレート(wsp ファイル)を追加

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-4 プラン設定－サイトテンプレートの展開

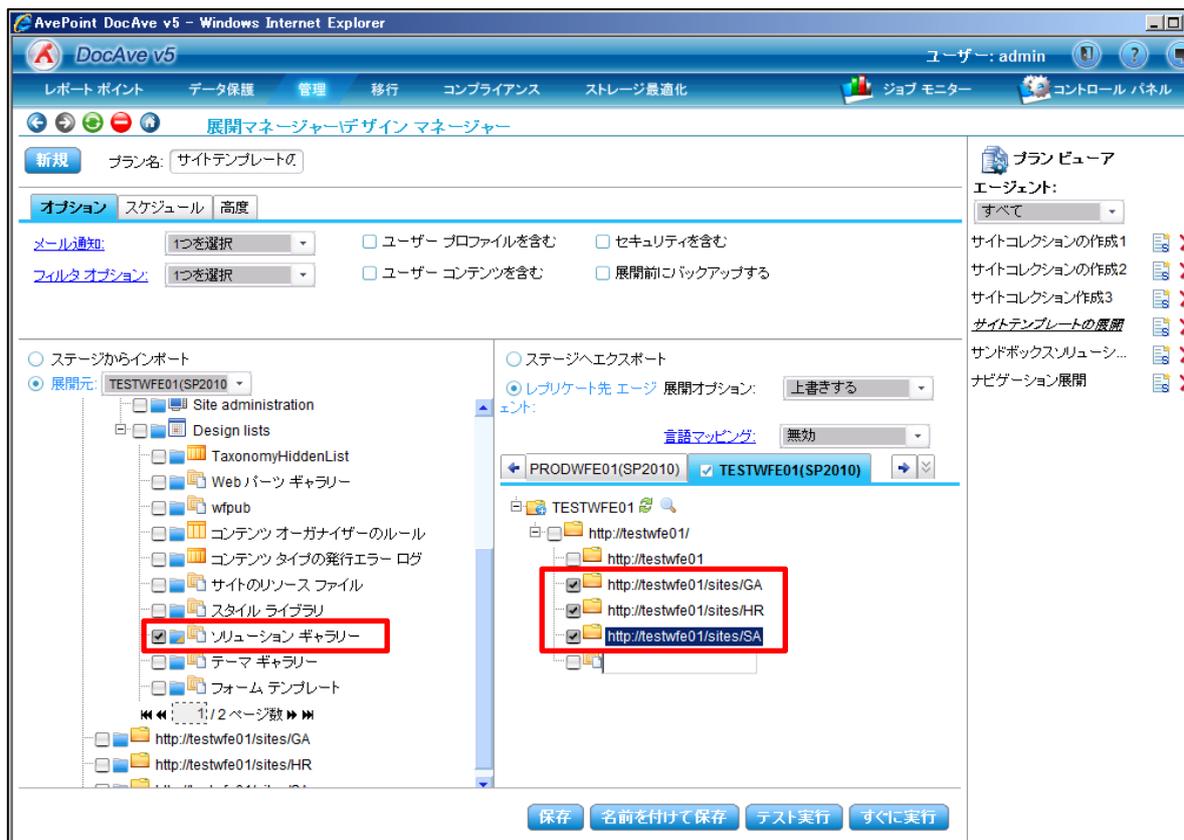


表 4.2-4 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> のソリューションギャラリー (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Design lists」の順に展開し、「ソリューションギャラリー」を選択)
展開先	<a href="http://testwfe01/sites/GA">http://testwfe01/sites/GA</a> (総務部用のポータルサイト) <a href="http://testwfe01/sites/HR">http://testwfe01/sites/HR</a> (人事部用のポータルサイト) <a href="http://testwfe01/sites/SA">http://testwfe01/sites/SA</a> (営業部用のポータルサイト) (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを ON
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF

このシナリオの要件では、カスタムのサイトテンプレートを展開し、かつその他の設定には影響を及ぼさないようにする必要があります。デザインマネージャーを利用して、サイトテンプレートが格納されている「ソリューションギャラリー」のみを展開元として選択します。展開先には、サイトテンプレートを配布したいすべてのサイトコレクションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

### 4.2.3. 検証環境準備－サイトのテーマの展開

#### (1) シナリオ

ひな形を基にした部署ごとのサイトコレクションが作成された後に、会社カラーをイメージした新しいカスタムサイトテーマが作成されることになりました。各部署で新しいサイトテーマが反映できるよう、展開済みの複数のサイトコレクションに対し、このカスタムサイトテーマを一括で展開する必要があります。

ただし、各部署のサイトコレクションは既に部署固有のテストデータや設定情報が反映されているため、その他の設定に影響を及ぼさずにカスタムテーマを展開する必要があります。

図 4.2-5 サイトテーマの展開イメージ

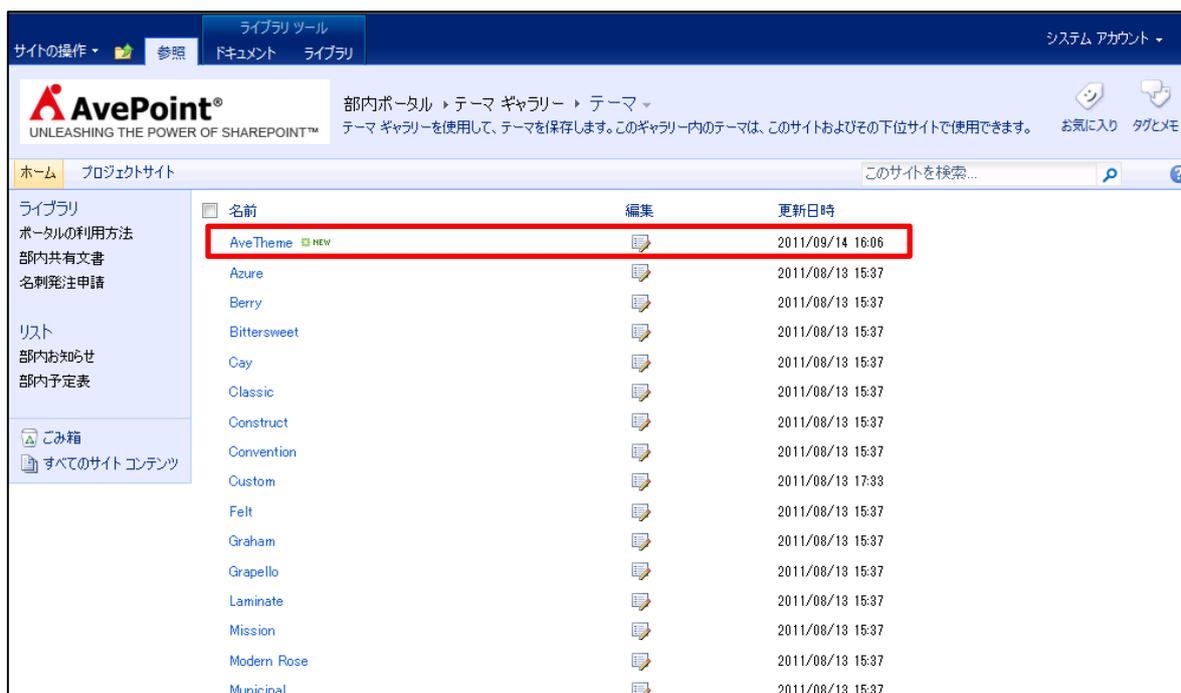


表 4.2-5 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
テーマギャラリー	・カスタムのサイトテーマを追加

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-6 プラン設定－サイトのテーマ展開

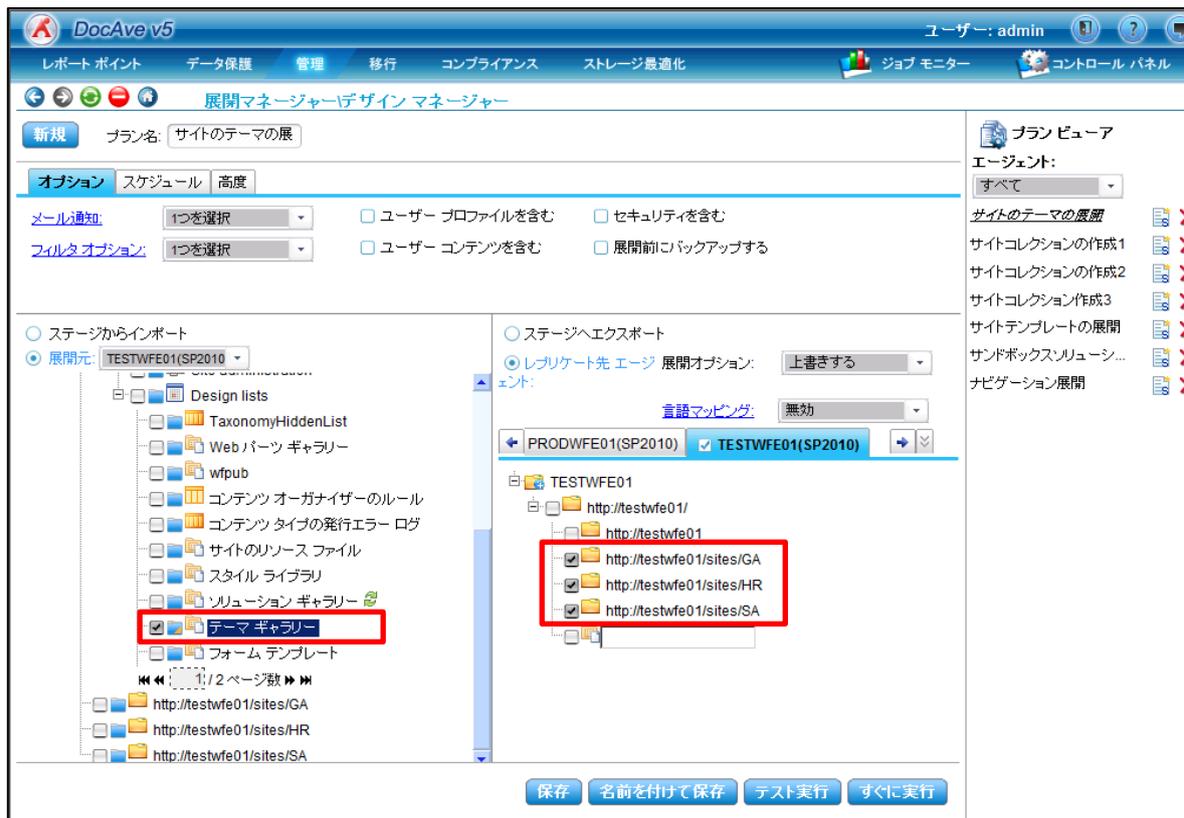


表 4.2-6 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> のテーマギャラリー (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Design lists」の順に展開し、「テーマギャラリー」を選択)
展開先	<a href="http://testwfe01/sites/GA">http://testwfe01/sites/GA</a> (総務部用のポータルサイト) <a href="http://testwfe01/sites/HR">http://testwfe01/sites/HR</a> (人事部用のポータルサイト) <a href="http://testwfe01/sites/SA">http://testwfe01/sites/SA</a> (営業部用のポータルサイト) (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを ON
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF

このシナリオの要件では、カスタムのサイトテーマを展開し、かつその他の設定には影響を及ぼさないようにする必要がありますため、デザインマネージャーを利用して、サイトテーマが格納されている「テーマギャラリー」のみを展開元として選択します。

展開先には、サイトテーマを配布したいすべてのサイトコレクションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.2.4. 検証環境準備－サイト列の展開

##### (1) シナリオ

ひな形を基にした部署ごとのサイトコレクションが作成された後に、「部内お知らせ」にお知らせの分類を示す「カテゴリ」列を追加したいという要望が発生しました。各部署のリストで「カテゴリ」を利用できるよう、展開済みの複数のサイトコレクションに対し、このサイト列の定義を一括で展開する必要があります。

ただし、各部署のサイトコレクションは既に部署固有のテストデータや設定情報が反映されているため、その他の設定に影響を及ぼさずにカスタム列を追加する必要があります。

図 4.2-7 サイト列の展開イメージ



表 4.2-7 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
サイトの列	・サイト列として「カテゴリ」列を追加

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-8 プラン設定－サイト列の展開

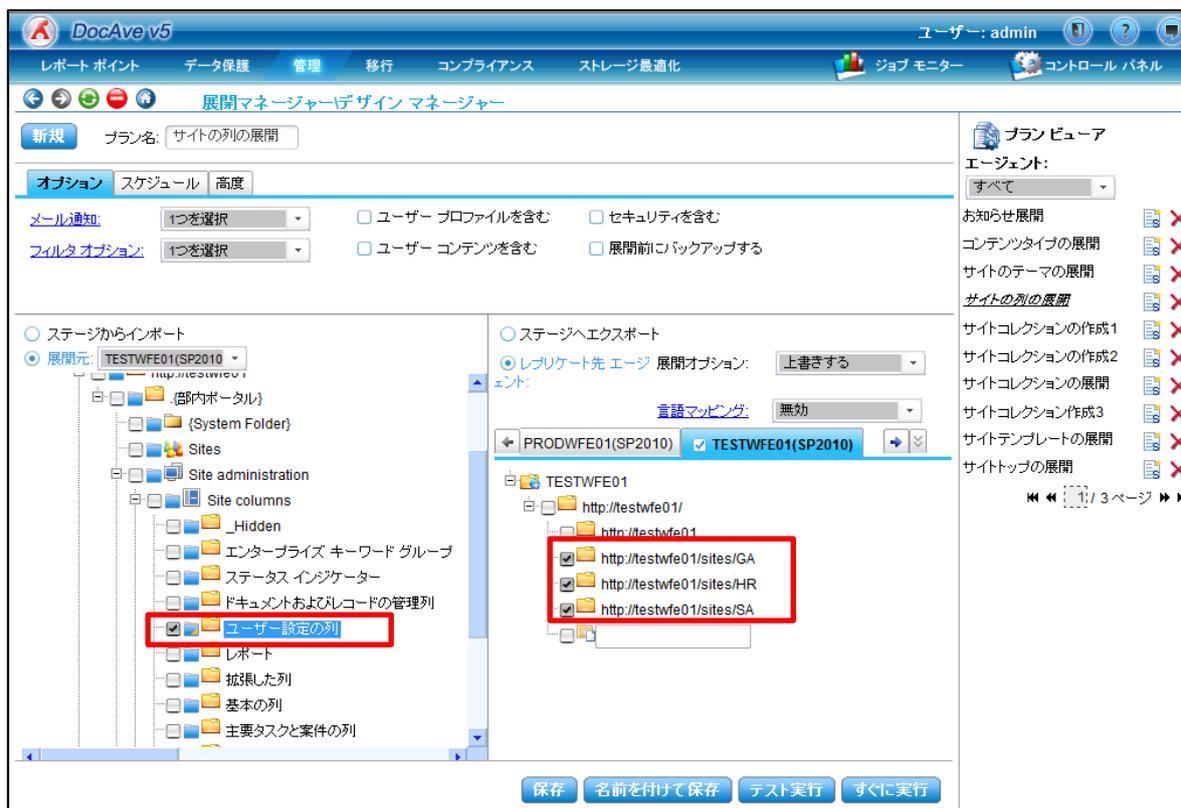


表 4.2-8 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> のユーザー設定の列 (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Site administration」-「Site columns」の順に展開し、「ユーザー設定の列」を選択)
展開先	<a href="http://testwfe01/sites/GA">http://testwfe01/sites/GA</a> (総務部用のポータルサイト) <a href="http://testwfe01/sites/HR">http://testwfe01/sites/HR</a> (人事部用のポータルサイト) <a href="http://testwfe01/sites/SA">http://testwfe01/sites/SA</a> (営業部用のポータルサイト) (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを ON
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF

このシナリオの要件では、サイト列の定義を展開し、かつその他の設定には影響を及ぼさないようにする必要がありますため、デザインマネージャーを利用して、サイト列のみを展開元として選択します。

展開先には、サイト列の定義を配布したいすべてのサイトコレクションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.2.5. 検証環境準備－ライブラリの展開

##### (1) シナリオ

ひな形を基にした部署ごとのサイトコレクションが作成された後に、各部署で利用する共通の申請書テンプレートを保管するための「申請書テンプレート」ドキュメントライブラリを追加したいという要望が発生しました。各部署で申請書テンプレート用のライブラリを利用できるよう、展開済みの複数のサイトコレクションに対し、このカスタムライブラリを一括で展開する必要があります。

ただし、各部署のサイトコレクションは既に部署固有のテストデータや設定情報が反映されているため、その他の設定に影響を及ぼさずにカスタムライブラリを展開する必要があります。

図 4.2-9 ライブラリの展開イメージ



表 4.2-9 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
申請書テンプレート	・各種申請書のフォーマットを保管するための列を追加したカスタムドキュメントライブラリ

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-10 プラン設定—ライブラリの展開

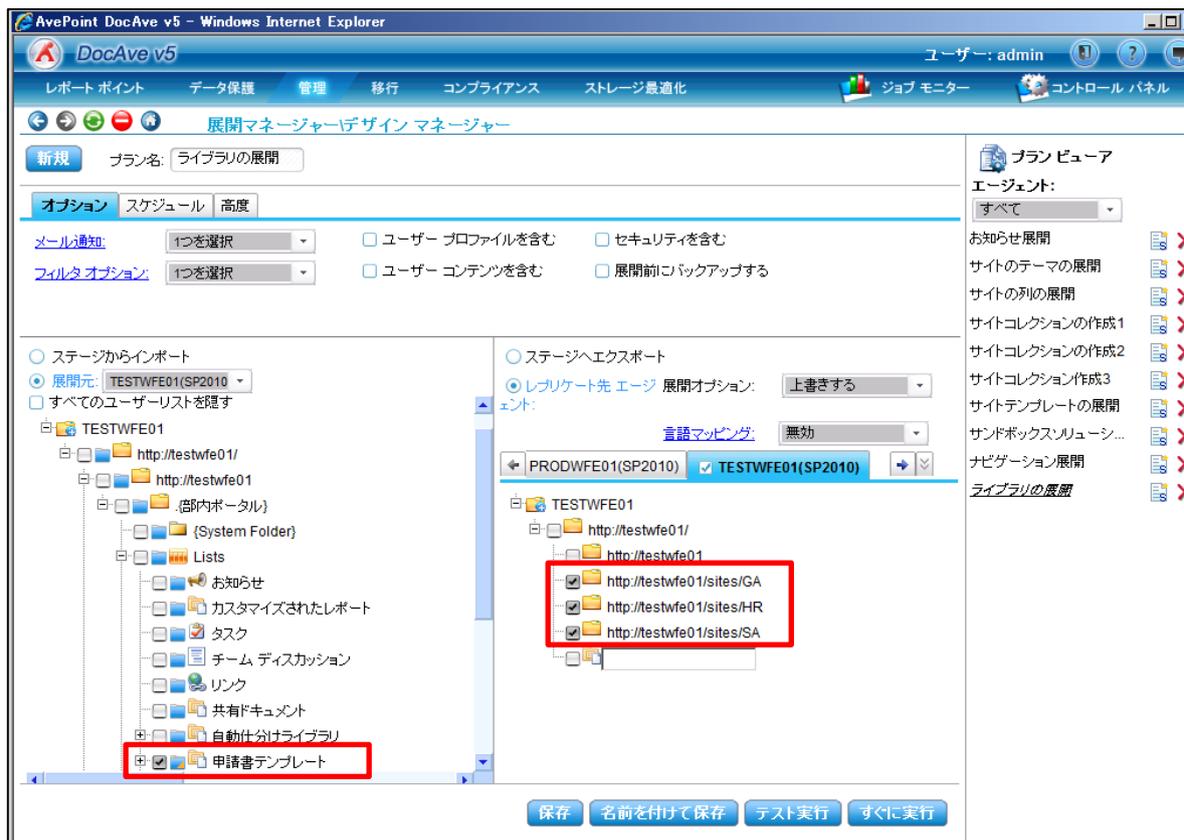


表 4.2-10 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> の申請書テンプレート (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Lists」の順に展開し、展開対象の「申請書テンプレート」を選択)
展開先	<a href="http://testwfe01/sites/GA">http://testwfe01/sites/GA</a> (総務部用のポータルサイト) <a href="http://testwfe01/sites/HR">http://testwfe01/sites/HR</a> (人事部用のポータルサイト) <a href="http://testwfe01/sites/SA">http://testwfe01/sites/SA</a> (営業部用のポータルサイト) (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを OFF
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF

このシナリオの要件では、カスタムのドキュメントライブラリを展開し、かつその他の設定には影響を及ぼさないようにする必要があります。そのため、デザインマネージャーを利用して、ひな形サイトの追加したドキュメントライブラリのみを展開元として選択します。

展開先には、カスタムのドキュメントライブラリを配布したいすべてのサイトコレクションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.2.6. ファームレベルの展開 – ソリューションパッケージの展開

##### (1) シナリオ

A 社では独自の機能として開発したカスタマイズ機能を SharePoint へ実装することになりました。開発した機能はソリューションファイル(wsp ファイル)としてまとめられています。

A 社の開発ルールでは、開発の終了した機能とまだ開発・テスト中の機能を区別するため、開発が完了したソリューションは本番環境への展開待ち機能として特定の管理場所に保存する方針となりました。本番環境に対しては、必ずこの管理場所に保存されたソリューションを展開するものとします。

図 4.2-11 ソリューションの展開イメージ



図 4.2-12 DocAve ソリューションストアへの展開イメージ

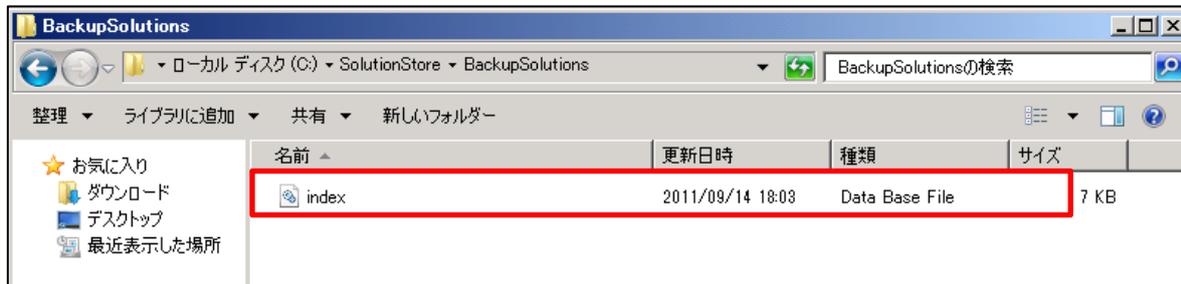


表 4.2-11 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
ソリューション	・検証環境で開発が完了したソリューション

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、ソリューションセンターのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-13 プラン設定－DocAve ソリューションストアへ展開

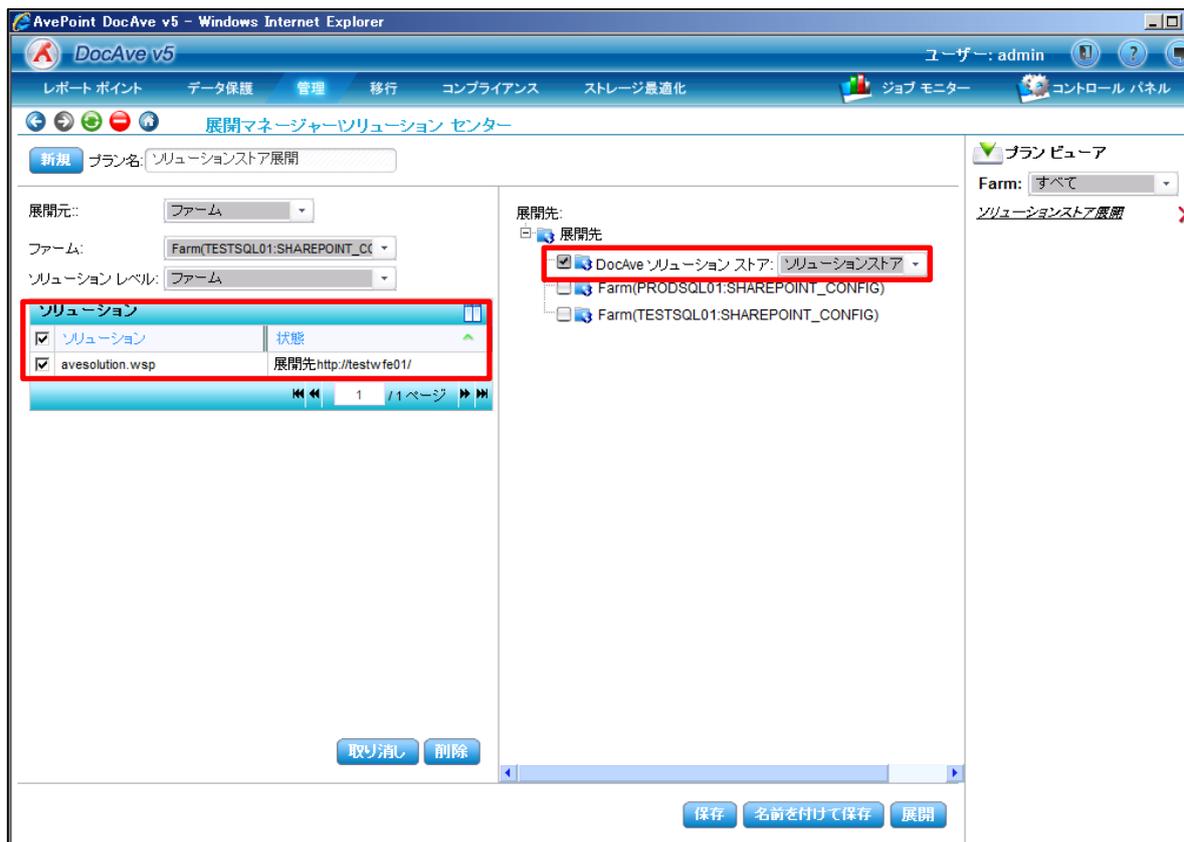


表 4.2-12 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	ファーム
ファーム	<i>Farm(TESTSQL01:SHAREPOINT_CONFIG)</i> (展開したいソリューションが存在する「SharePoint ファーム」を選択)
ソリューションレベル	ファーム
ソリューション	<i>avesolution.wsp</i> (展開対象の「ソリューション(wsp ファイル)」を選択)
展開先	ソリューションストア (「DocAve ソリューションストア」をチェックし、事前に設定した「論理デバイス」を選択)

このシナリオの要件では、まず開発が完了したソリューションを特定の管理場所に保存する必要があるため、「DocAve ソリューションストア」に対する展開を行います。DocAve ソリューションストアは、管理者が設定した任意の場所でソリューションをまとめて管理することができる機能です。この機能を利用すると、ファーム内に展開されているソリューションとは別に管理を行うことができるため、今回のシナリオのように開発が完了したものの発行場所といった用途で開発環境の管理を行うことが可能です。

※ 斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

DocAve ソリューションストアへ展開するには、検証環境内のソリューション一覧から展開したいソリューションを展開元として選択します。

展開先には、「DocAve ソリューションストア」から任意の場所を設定します (DocAve ソリューションストアの場所は、事前に「論理デバイス」設定しておく必要があります。詳細の手順は「5.1.2(1)(事前作業)論理デバイスの設定」を参照ください)。

また、DocAve ソリューションストアに展開されたソリューションをさらに本番環境へ展開するには、ソリューションセンターのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-14 プラン設定 – 本番環境への展開

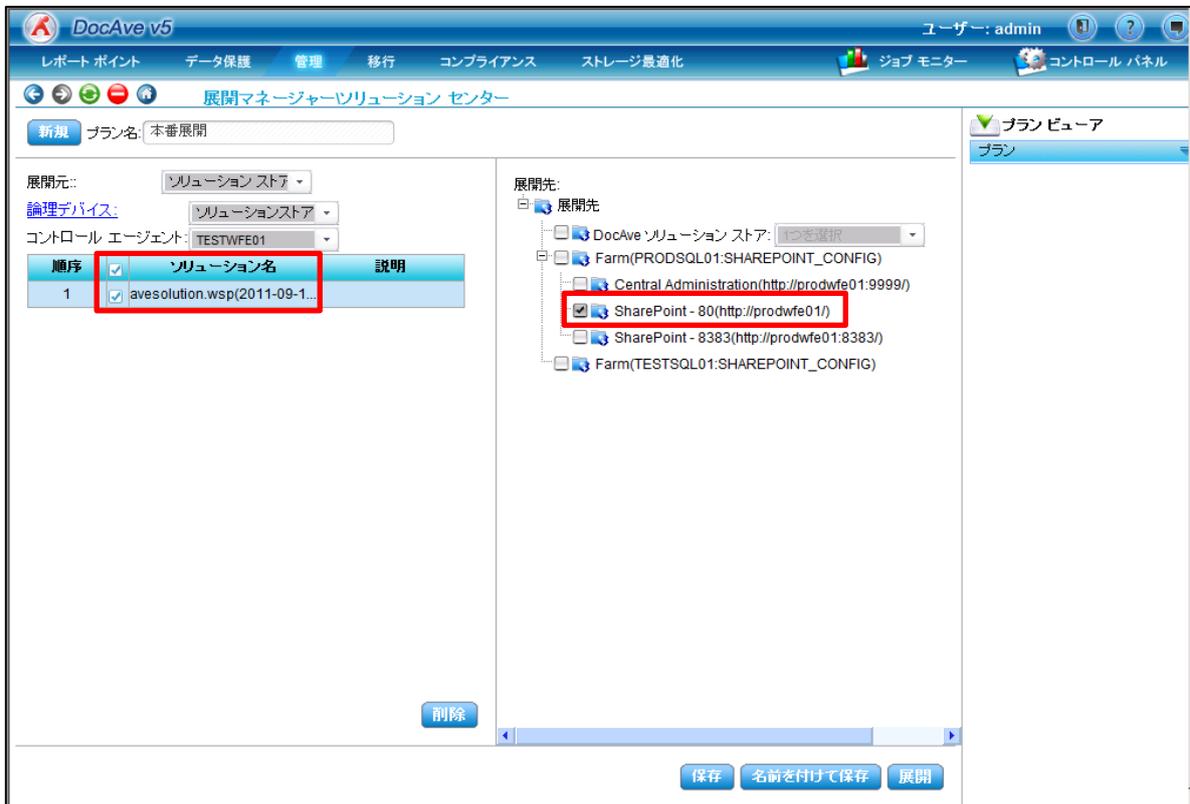


表 4.2-13 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	ソリューションストア
論理デバイス	ソリューションストア (事前に設定した「論理デバイス」を選択)
コントロールエージェント	TESTWFE01 (対象の「DocAve エージェント」を選択)
ソリューション	avesolution.wsp (展開対象の「ソリューション(wsp ファイル)」を選択)
展開先	SharePoint-80(http://prodwfe01/) (特定のソリューションを展開したい「Web アプリケーション」を選択)

DocAve ソリューションストア内のソリューションは展開元として指定することが可能です。本番環境への展開を行うためには、DocAve ソリューションストア内のソリューションを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームもしくは、Web アプリケーションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.2.7. ファームレベルの展開－web.configの展開

##### (1) シナリオ

A社ではプロジェクトサイトで「目次 Web パーツ」を利用していますが、ここに表示される件数を既定の 50 件から 80 件に拡張したいという要件が発生しました。この要件を実現するためには、Web フロントエンドサーバー上に存在する web.config ファイル内の定義を変更する必要があります。

検証環境ファームで web.config ファイルの定義変更を行い、要件通りの動作が実現できることを確認できました。この定義変更を、本番環境ファームにも正確に展開する必要があります。

図 4.2-15 web.configの展開イメージ

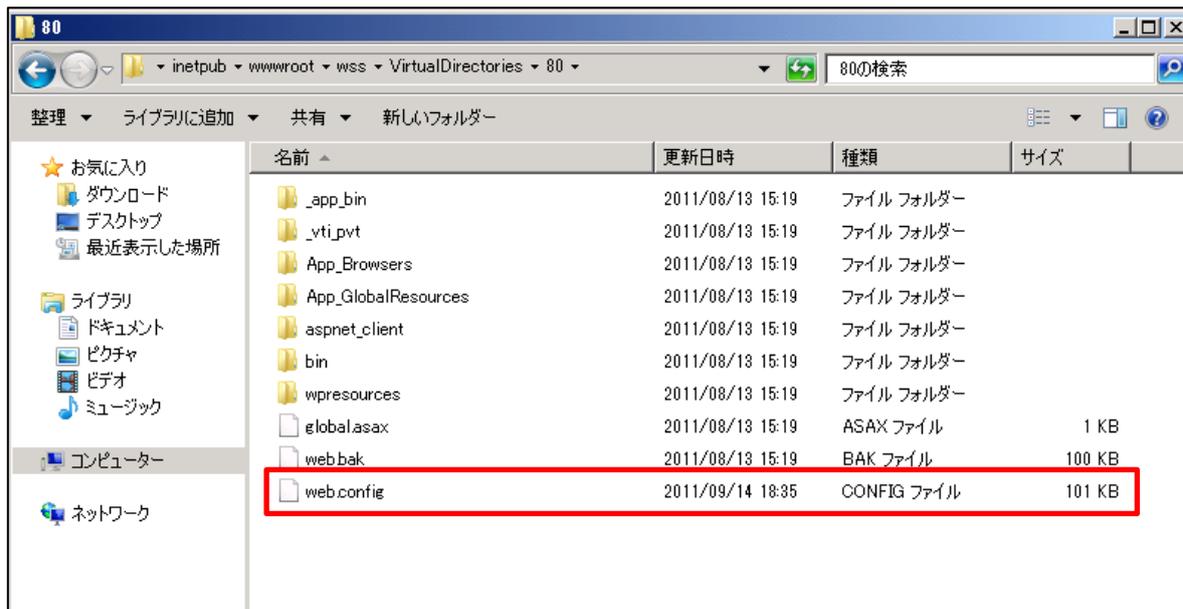


表 4.2-14 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
web.config ファイル	・「目次 Web パーツ」の表示件数の変更(50 件→80 件)

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、フロントエンド展開のプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-16 プラン設定(展開元設定) –web.config ファイルの展開

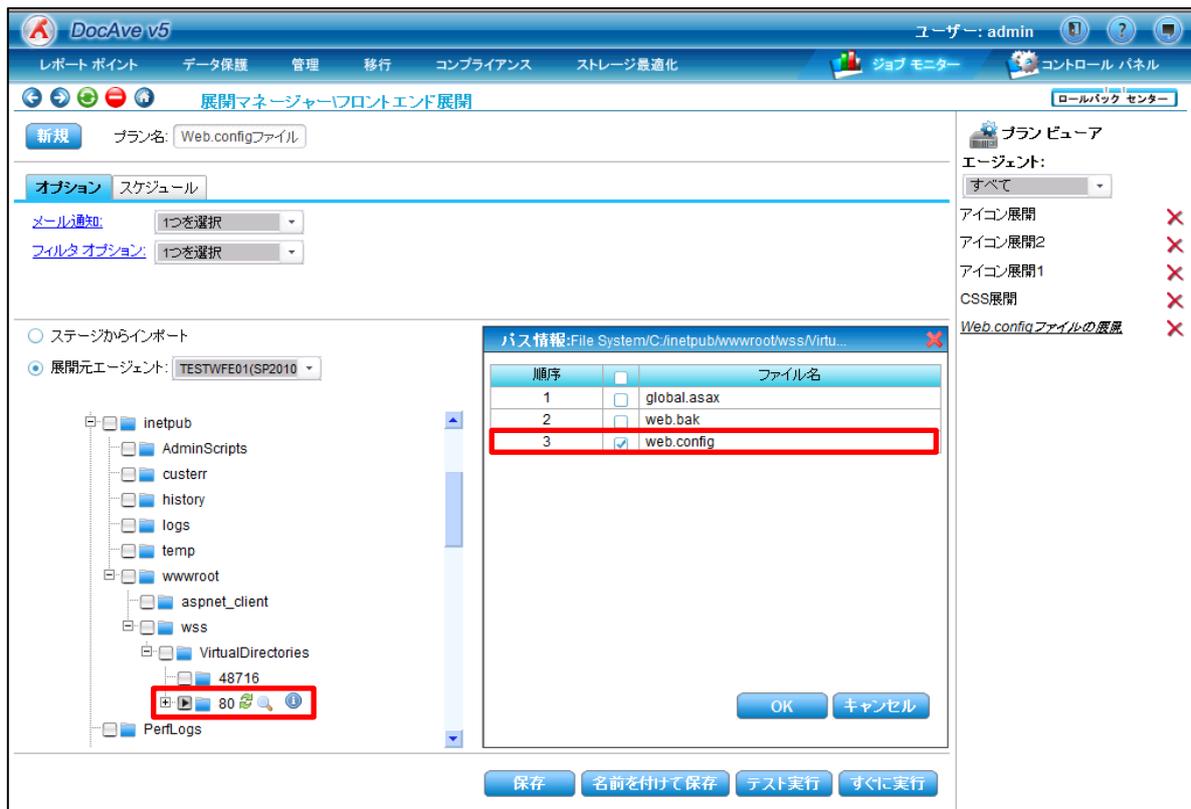


図 4.2-17 プラン設定(展開先設定) –web.config ファイルの展開

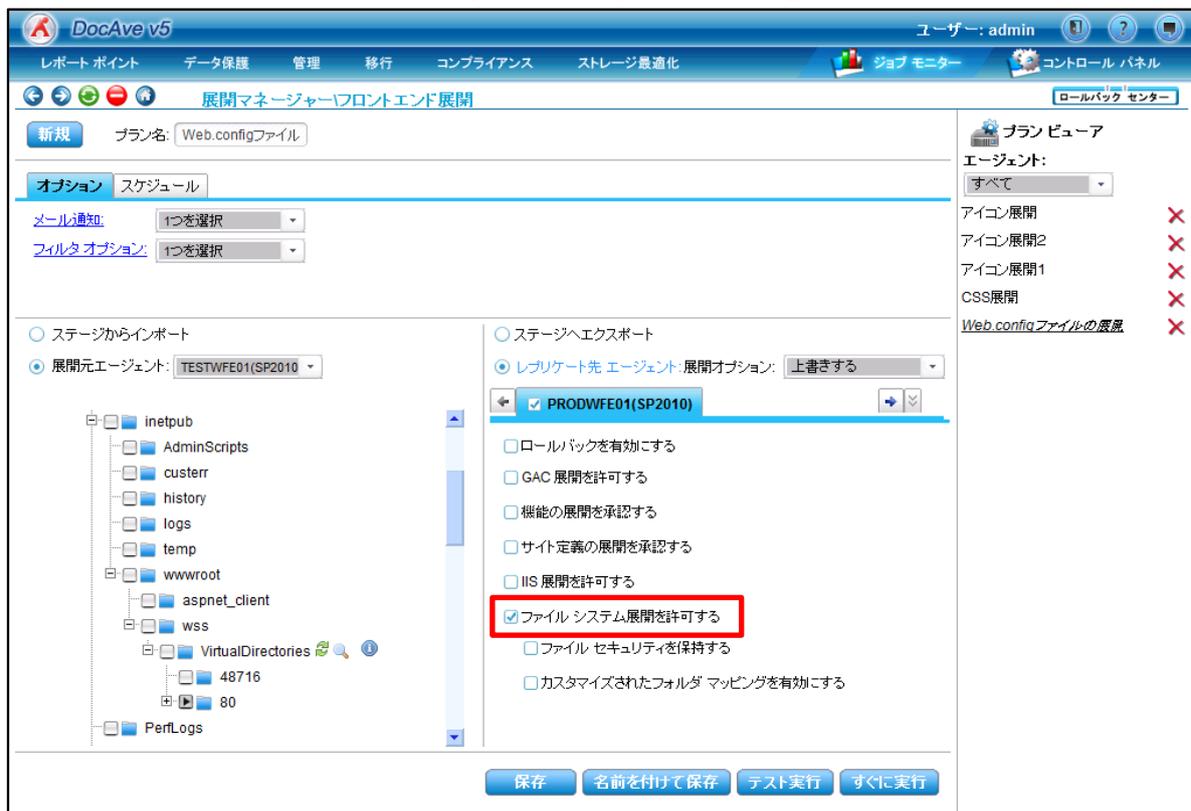


表 4.2-15 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元エージェント	TESTWFE01(SP2010)
展開元	File System (C:¥inetpub¥wwwroot¥wss¥virtualDirectories¥80)を選択した状態で「i」ボタンをクリックし、「web.config」のみを選択。
展開オプション	上書き
ファイルシステム展開を許可する	チェックを ON
ファイルセキュリティを保持する	チェックを OFF
カスタマイズされたフォルダマッピングを有効にする	チェックを OFF

このシナリオの要件では、変更を実施した web.config ファイルを展開し、かつその他の設定には影響を及ぼさないようにする必要があるので、フロントエンド展開を利用して、検証環境ファーム内の web.config ファイルのみを展開元として選択します。

展開先には、「ファイルシステム展開を許可する」をチェックします。

※ 斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

## 4.2.8. ファームレベルの展開－CSS ファイルの展開

### (1) シナリオ

検証環境ファームの評価利用を行った一部のユーザーより、サイト全体の見やすさの観点から、サイトの標準フォントサイズを既定のサイズよりも一回り大きなサイズに変更してほしいとの要望が寄せられました。検討の結果、A 社では要望を取り入れ、サイトデザインの一環としてフォントサイズの変更を行う方針となりました。この要件を実現するためには、Web フロントエンドサーバー上に存在する CSS ファイルの内容を変更する必要があります。

検証環境ファームで CSS ファイルの変更を行い、要件通りのデザインが実現できることを確認しました。このファイル変更を、本番環境ファームにも正確に展開する必要があります。

図 4.2-18 css ファイルの展開イメージ

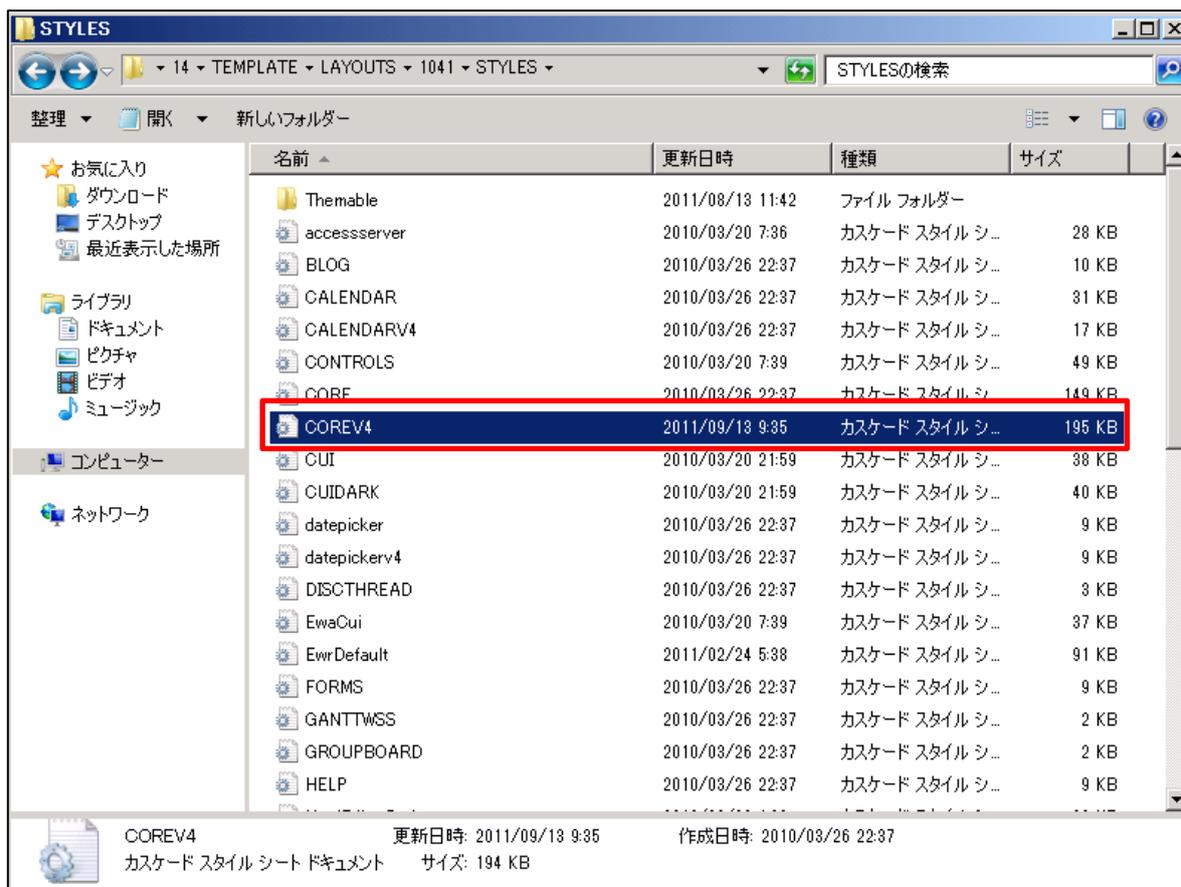


表 4.2-16 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
CSS ファイル	・COREV4.CSS の変更によるサイトのフォントサイズ変更

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、フロントエンド展開のプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-19 プラン設定(展開元設定)－CSS ファイルの展開

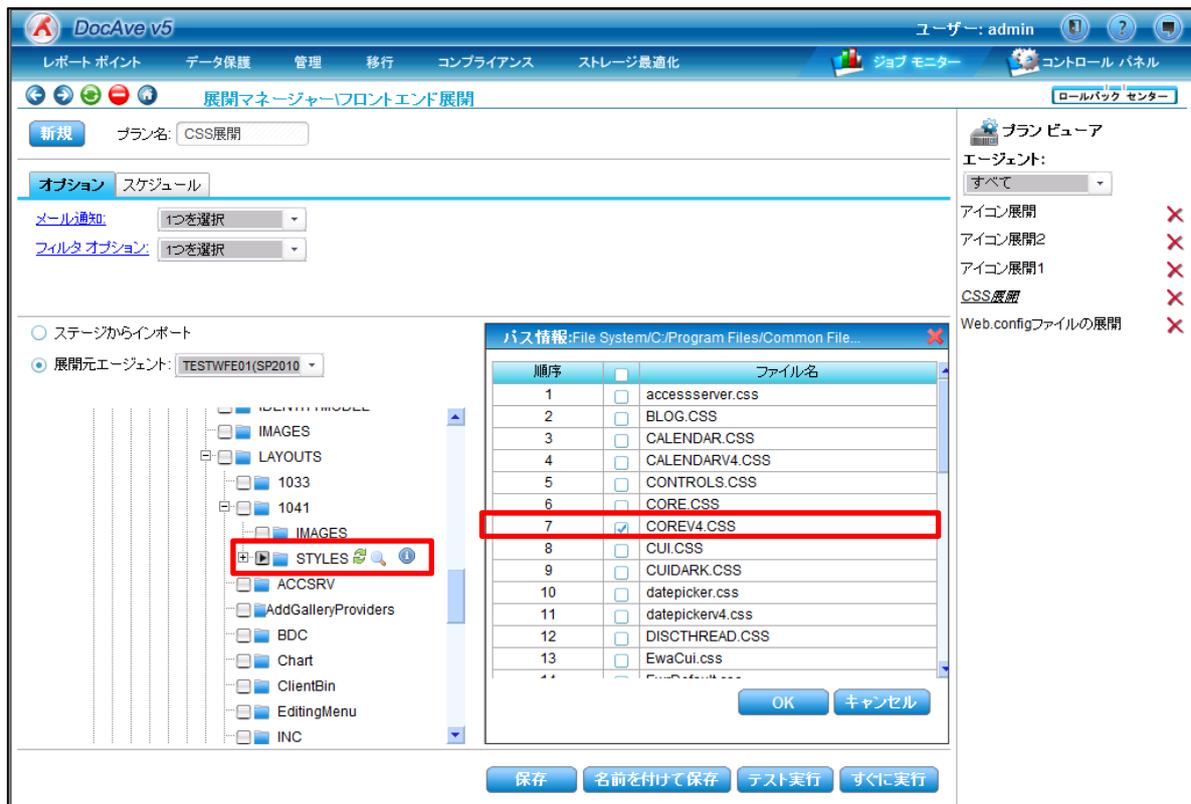


図 4.2-20 プラン設定(展開先設定)－CSS ファイルの展開

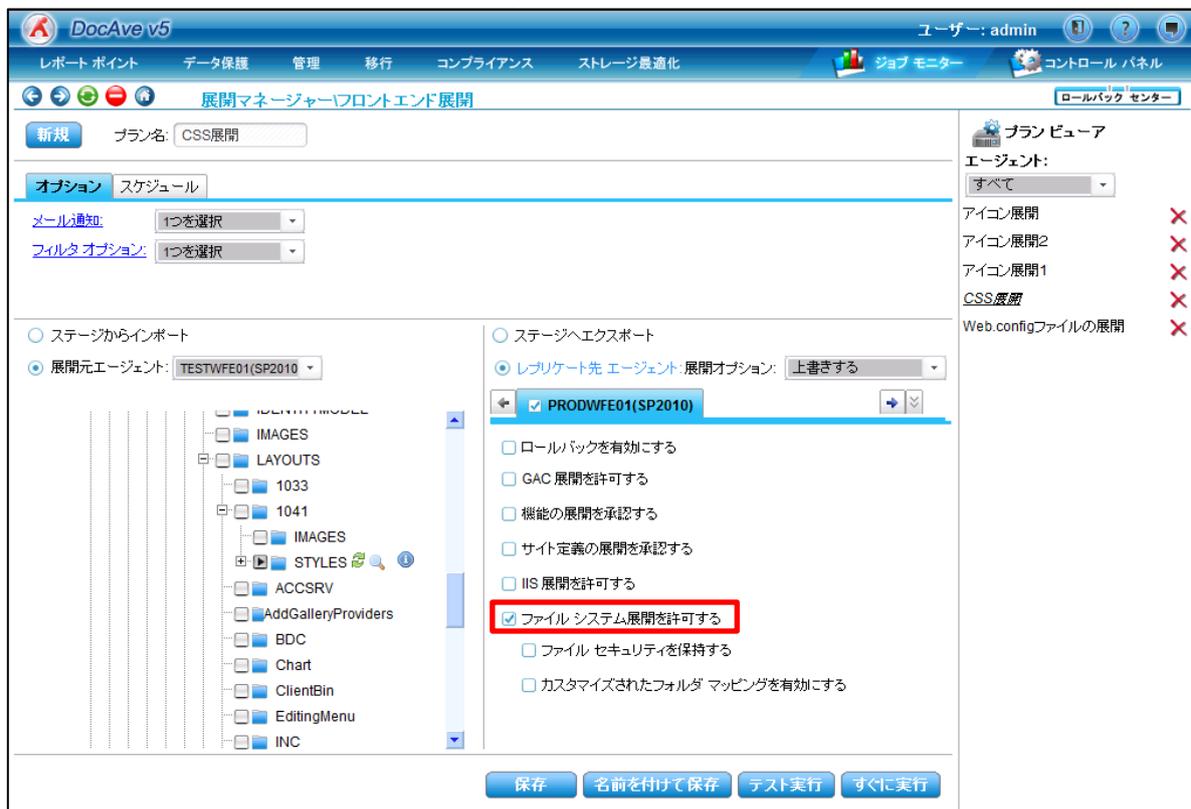


表 4.2-17 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元エージェント	TESTWFE01(SP2010)
展開元	File System(C¥:Program files¥Common files¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥14¥TEMPLATE¥LAYOUTS¥1041¥STYLES)を選択した状態で「i」ボタンをクリックし、「COREV4.CSS」のみを選択。
展開オプション	上書き
ファイルシステム展開を許可する	チェックを ON
ファイルのセキュリティを保持する	チェックを OFF
カスタマイズされたフォルダマッピングを有効にする	チェックを OFF

このシナリオの要件では、変更を実施した COREV4.CSS ファイルを展開し、かつその他の設定には影響を及ぼさないようにする必要があるので、フロントエンド展開を利用して、検証環境ファーム内の COREV4.CSS ファイルのみを展開元として選択します。展開先には、「ファイルシステム展開を許可する」をチェックします。

#### 4.2.9. ファームレベルの展開－アイコンファイルの展開

##### (1) シナリオ

A 社では、承認後の編集を禁止する契約書関連のフォーマットとして PDF ファイルを多く取り扱っています。SharePoint の既定では、ドキュメントライブラリ内の PDF ドキュメントは固有のアイコンが表示されませんが、ユーザー側の見た目のわかりやすさを重視して、PDF ファイル用のアイコンを実装する方針となりました。この要件を実現するためには、Web フロントエンドサーバー上の所定の場所にアイコン画像のファイルを配置し、アイコンの定義情報が記載されている「DOCICON.XML」の内容を変更する必要があります。

検証環境ファームでアイコンファイルの配置および定義ファイルの変更を行い、要件通りのデザインが実現できることを確認しました。このアイコンファイルの変更を、本番環境ファームにも正確に展開する必要があります。

図 4.2-21 アイコンファイルの展開イメージ

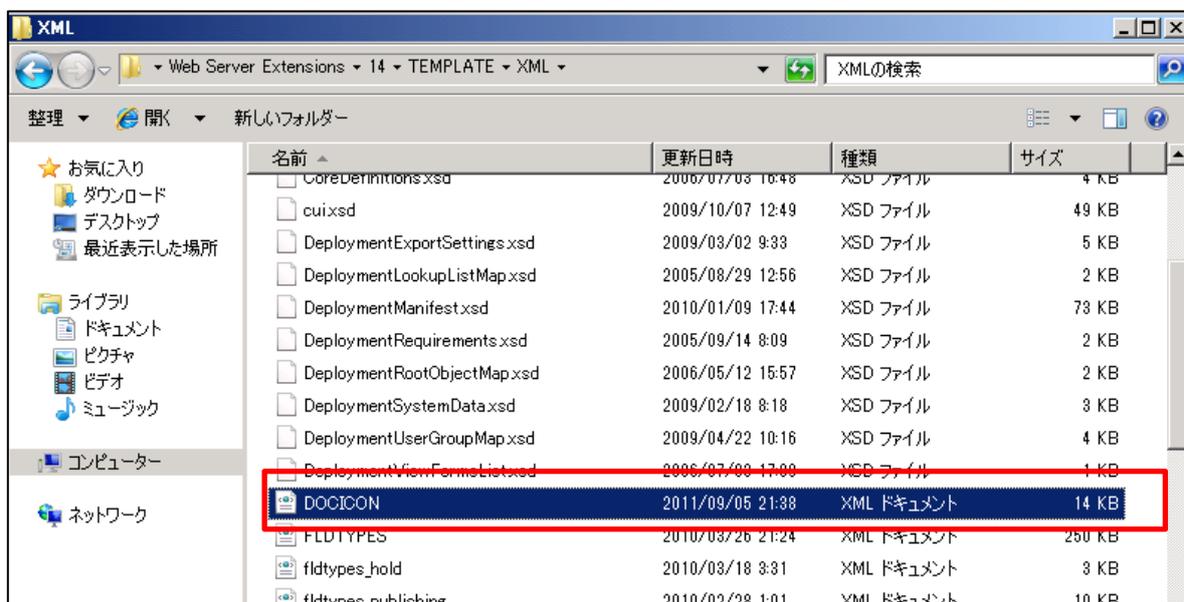


表 4.2-18 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
Pdficon_small.gif	・PDF ファイルのイメージファイルを追加
DOCICON.XML	・DOCICON.xml へのアイコン定義の追加

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、フロントエンド展開のプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-22 プラン設定(展開元設定)－アイコンファイルの展開

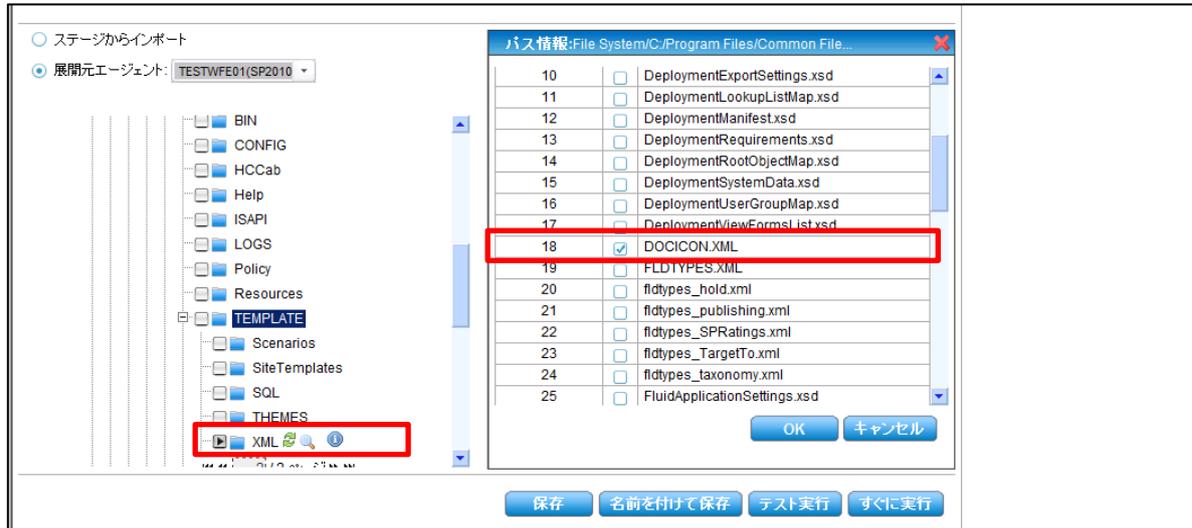
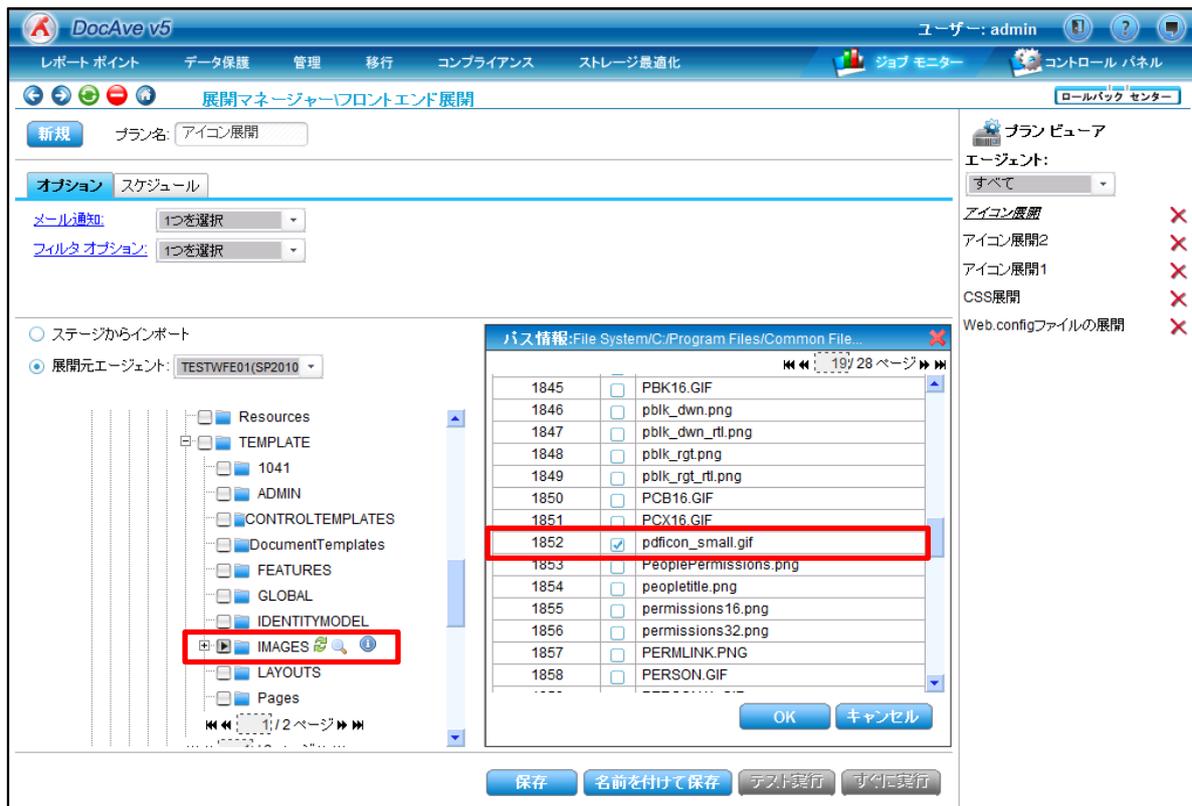


図 4.2-23 プラン設定(展開先設定)–アイコンファイルの展開

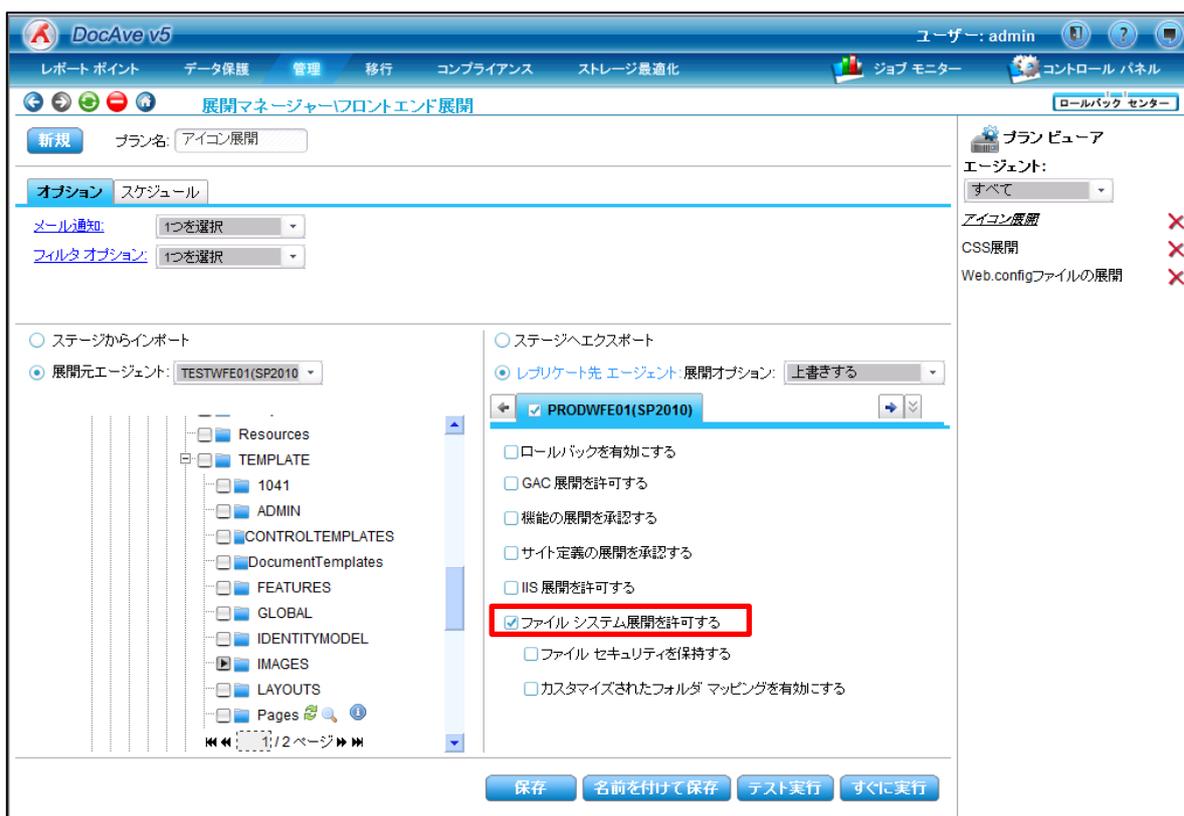


表 4.2-19 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元エージェント	TESTWFE01(SP2010)
展開元	File System ( C¥:Program files¥Common files¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥14¥TEMPLATE¥IMAGES) を選択した状態で「i」ボタンをクリックし、「Pdficon_small.gif」のみを選択。
	File System ( C¥:Program files¥Common files¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥14¥TEMPLATE¥XML) を選択した状態で「i」ボタンをクリックし、「DOCICON.xml」のみを選択。
展開オプション	上書き
ファイルシステム展開を許可する	チェックを ON
ファイルセキュリティを保持する	チェックを OFF
カスタマイズされたフォルダマッピングを有効にする	チェックを OFF

このシナリオの要件では、Web フロントエンドサーバー上に追加で配置したアイコンファイルおよび定義ファイルを展開し、かつその他の設定には影響を及ぼさないようにする必要があるため、フロントエンド展開を利用して、検証環境ファーム内のアイコンファイルおよび定義ファイルを展開元として選択します(\*1)。

展開先には、「ファイルシステム展開を許可する」をチェックします。

\*1…本シナリオでは、ドキュメントライブラリ上のアイコンファイルを変更するため「DOCICON.XML」の定義ファイルも展開対象としていますが、変更するアイコンによってはファイルのみの展開でよい場合もあります。

#### 4.2.10. 初期展開－サイトコレクションの展開

##### (1) シナリオ

ファームレベルのカスタマイズ要素の本番環境への展開が完了し、本番公開に向けてユーザーが利用するためのサイトコレクションを展開することとなりました。展開の際には、部署ごとに割り当てられ、これまで各種のカスタマイズ、設定変更を行ってきたサイトコレクションすべてを本番ファームへ展開する必要があります。

図 4.2-24 サイトコレクションの展開イメージ

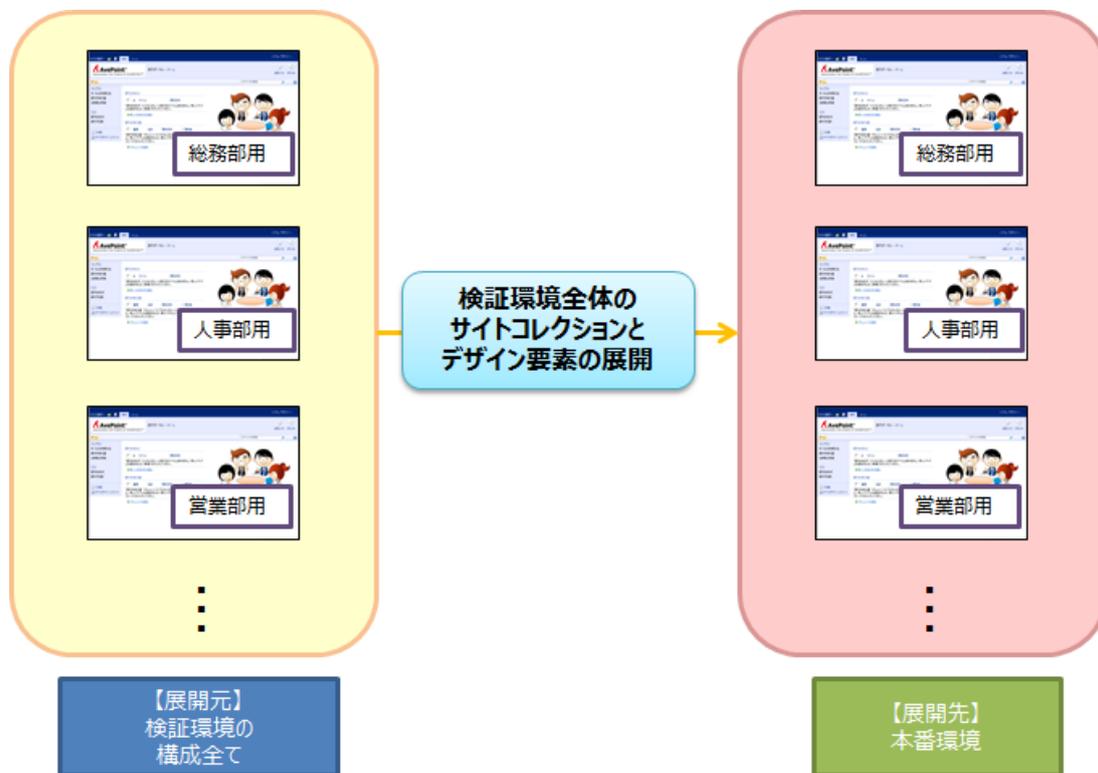


表 4.2-20 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
サイトコレクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開元の Web アプリケーション配下の全てのサイトコレクション</li> <li>http://testwfe01/sites/GA(総務部用のポータルサイト)</li> <li>http://testwfe01/sites/HR(人事部用のポータルサイト)</li> <li>http://testwfe01/sites/SA(営業部用のポータルサイト)</li> </ul>

(2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.2-25 プラン設定－サイトコレクションの展開

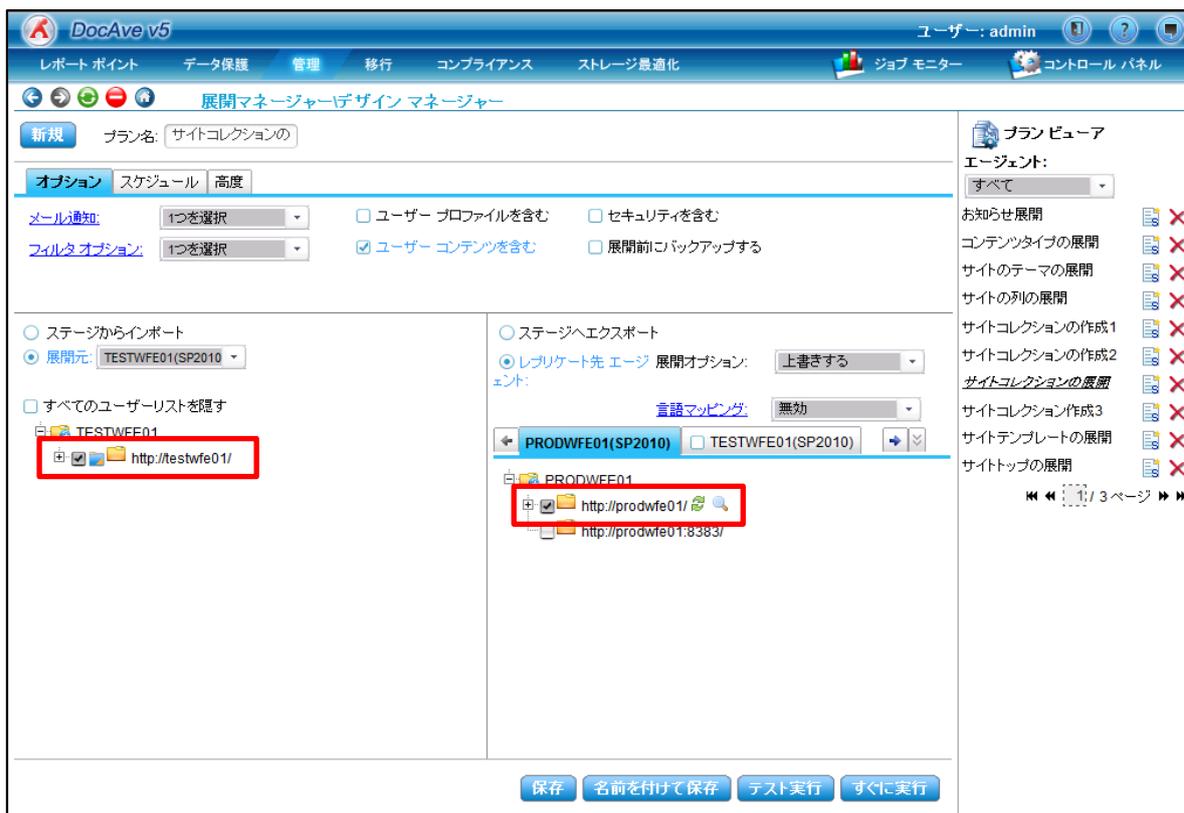


表 4.2-21 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	http://testwfe01 (展開対象の Web アプリケーションを選択)
展開先	http://prodwfe01 (展開先の Web アプリケーションを選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを OFF
ユーザーコンテンツを含む	チェックを ON
セキュリティを含む	チェックを OFF

このシナリオの要件では、検証環境ファームに存在するすべてのサイトコレクションを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャー展開を利用して、検証環境ファーム内の展開元となる Web アプリケーションを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの展開対象となる Web アプリケーションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

## 【コラム】用語セットの展開

SharePoint 2010 で新規に追加された機能として、「用語セット(管理されたメタデータ)」という機能があります。これは、階層化された単語群を「用語セット」として事前に登録しておくことで、リストやライブラリの列情報としてこれらの情報を利用することができるものです。用語セットを利用することにより、従来はできなかった階層化された選択肢の提供や、ライブラリやリストに依存しない組織全体での共通のメタデータの利用などを行うことができます。

DocAve 展開マネージャーでは、この管理メタデータを使用した列やコンテンツタイプを展開元として選択することで、紐づいている用語セットも展開先のファームヘコピーすることが可能です。特に追加の手順は必要なく、「4.2.4 検証環境準備－サイト列の展開」や「4.2.5 検証環境準備－ライブラリの展開」と同様の手順で、用語セットの定義も含めて展開先へ展開できます。

図 4.2-26 管理メタデータ設定

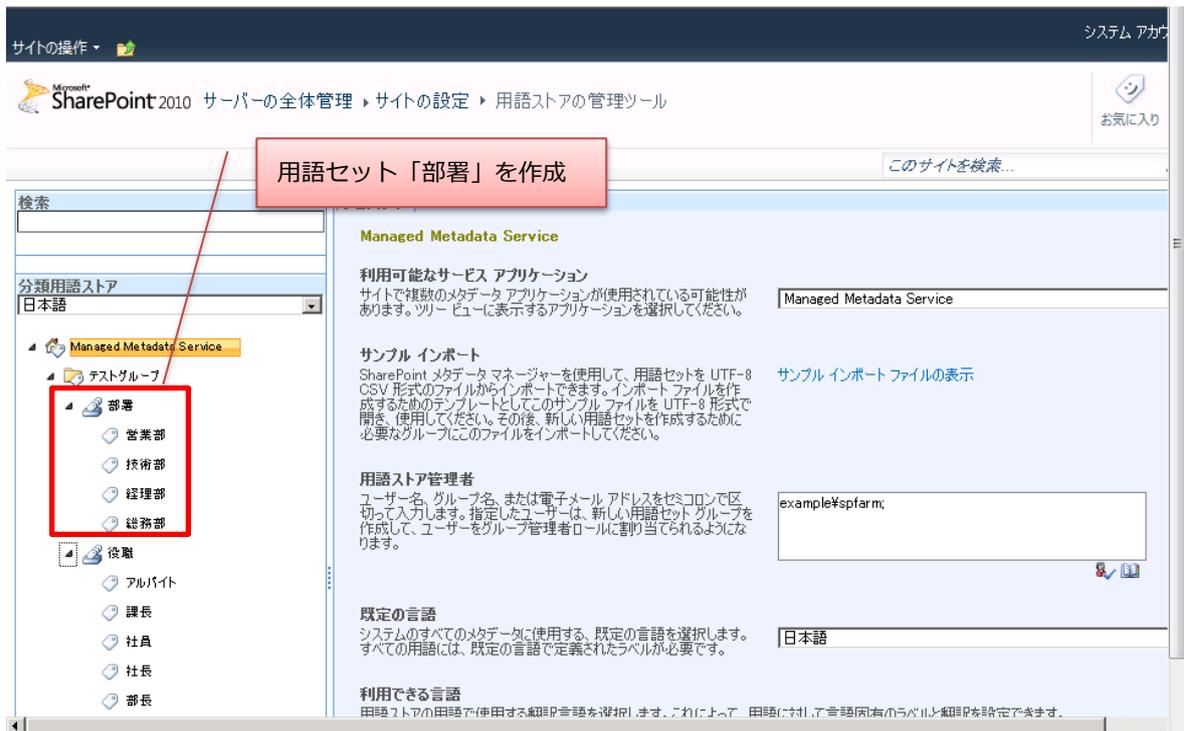


図 4.2-27 管理メタデータから作成したサイト列



### 4.3. 運用時の追加展開

このセクションでは、DocAve 展開マネージャーを利用して、既に運用を開始した環境に対する追加展開を行うためのシナリオおよびシナリオを実現するためのプラン設定を説明します。実際の展開にあたっては、各項目のプラン設定を基に、後述の「共通手順」の手順に従ってプランの作成・実行を行ってください。

なお、本セクションにおけるシナリオでは、シナリオ内でカスタマイズした項目以外の設定については、展開元・展開先で同一の内容となっていることを前提としております。展開要素以外の設定が展開元・展開先で異なっていた場合、意図しない展開結果が発生する可能性がありますので、ご注意ください。

#### 4.3.1. サイトコレクションレベルの追加—マスターページの展開

##### (1) シナリオ

部内ポータル運用開始後、利用するユーザーから、トップページのコンテンツのうち掲示板や文書ライブラリなどのよく使うものを利用しやすい位置に配置するようレイアウトを変更してほしいという要望が寄せられました。

この追加要望に応えるため、検証環境ファームにてコンテンツのレイアウトを修正したマスターページが用意され、テストの結果問題なく実装可能であることが承認されました。このマスターページをユーザーが利用する環境に反映できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、修正したマスターページ以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。

図 4.3-1 修正済みマスターページの展開イメージ

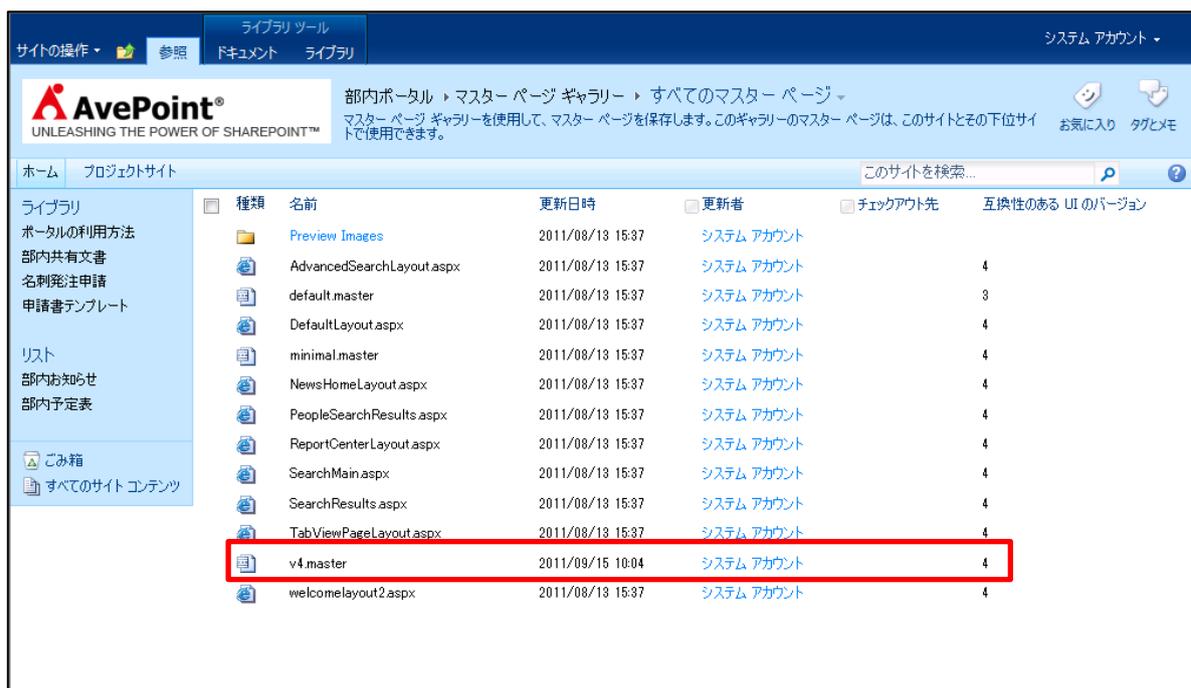


表 4.3-1 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
マスターページ	・V4.master を編集し、サイトのレイアウト変更

(2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-2 プラン設定－マスターページの展開

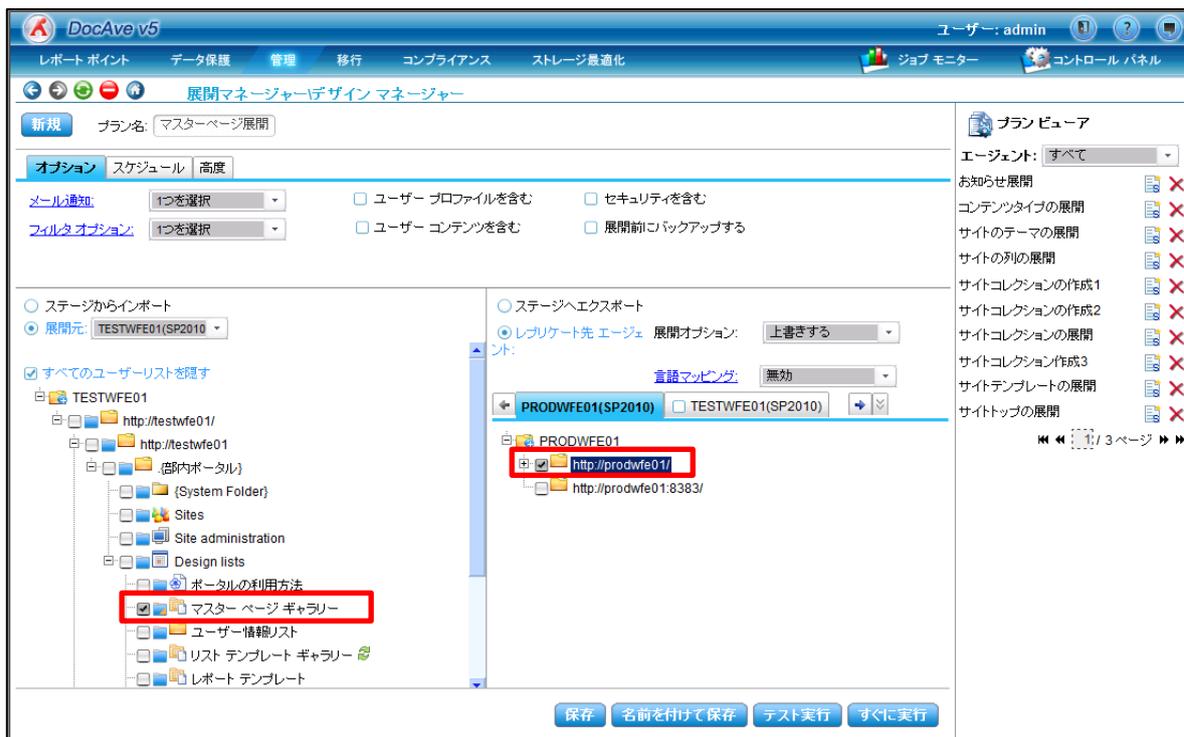


図 4.3-3 プラン設定(高度設定)－マスターページの展開

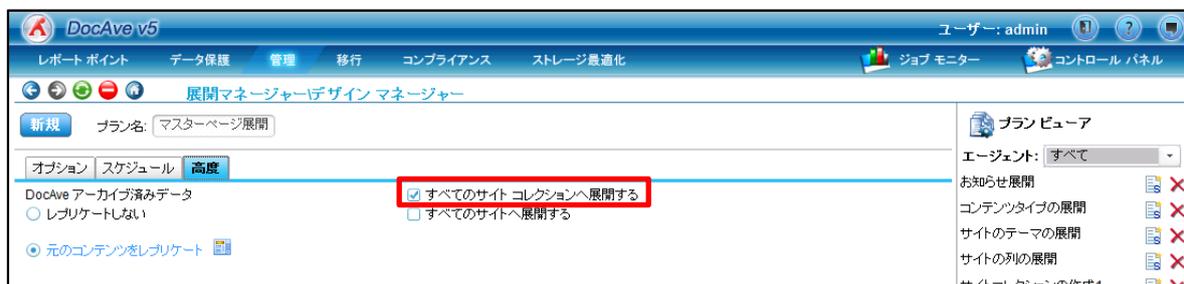


表 4.3-2 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> のマスターページギャラリー (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Design lists」の順に展開し、「マスターページギャラリー」を選択)
展開先	<a href="http://prodwfe01">http://prodwfe01</a> (対象の Web アプリケーション)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを ON
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを ON

このシナリオの要件では、検証環境ファームで修正を行ったマスターページを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、検証環境ファーム内のマスターページギャラリーを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したい Web アプリケーションを選択します。「すべてのサイトコレクションへ展開する」にチェックを入れることで Web アプリケーション配下の全てのサイトコレクションを展開対象とすることができます。

※ *斜体*で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.3.2. サイトコレクションレベルの追加－コンテンツタイプの展開

##### (1) シナリオ

部内ポータル運用開始後、A社全体の方針として、契約書関連の文書フォーマットを統一化することが決定されました。

この社内方針をポータル上へ実装するため、検証環境ファームにて共通文書フォーマット用のコンテンツタイプが作成され、テストの結果問題なく実装可能であることが承認されました。このコンテンツタイプをユーザーが利用する環境に反映できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、追加するコンテンツタイプ以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。

図 4.3-4 コンテンツタイプの展開イメージ



表 4.3-3 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
サイトコンテンツタイプ	・物品販売契約書をサイトコンテンツタイプとして追加

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-5 プラン設定－コンテンツタイプの展開

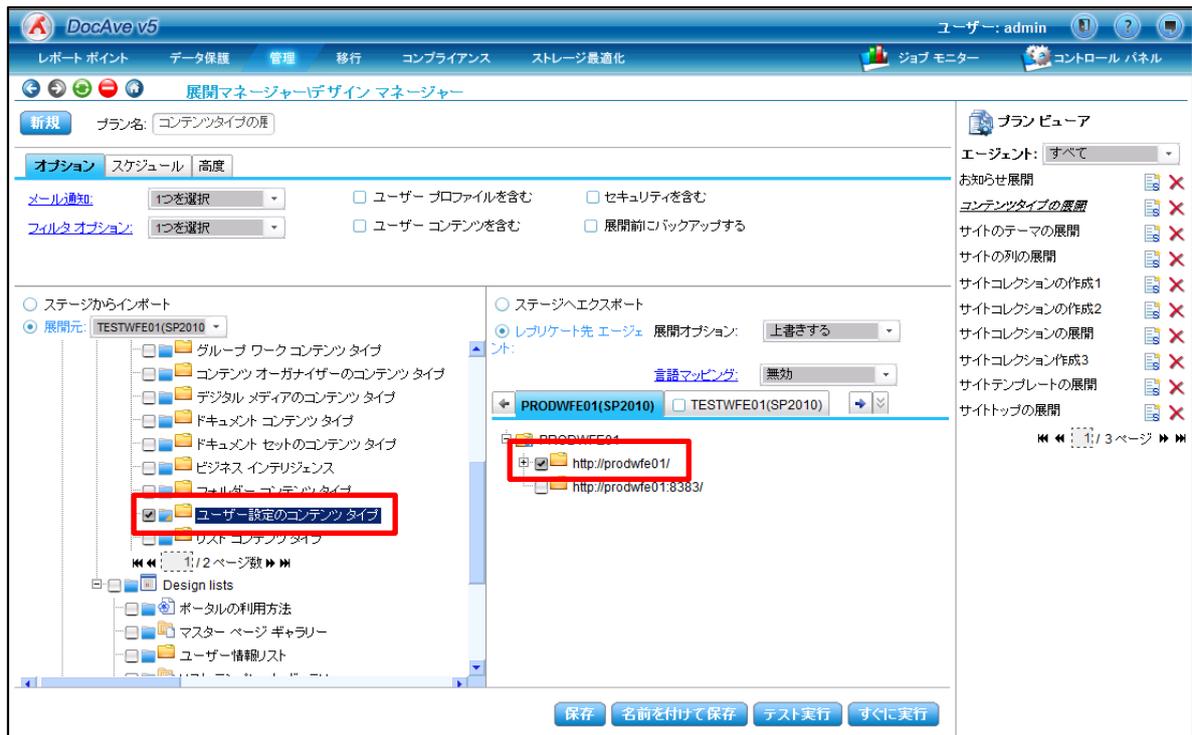


図 4.3-6 プラン設定(高度設定)－コンテンツタイプの展開

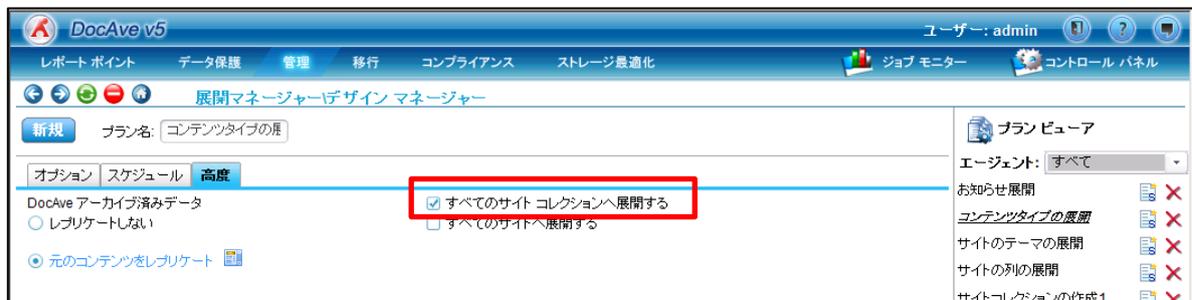


表 4.3-4 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> のユーザー設定のコンテンツタイプ (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「site administration」-「site content type」の順に展開し、「ユーザー設定のコンテンツタイプ」を選択)
展開先	<a href="http://prodwfe01">http://prodwfe01</a> (対象の Web アプリケーション)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを ON
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを ON

このシナリオの要件では、検証環境ファームで追加したコンテンツタイプを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、検証環境ファーム内のサイトコンテンツタイプのグループを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したい Web アプリケーションを選択します。「すべてのサイトコレクションへ展開する」にチェックを入れることで Web アプリケーション配下の全てのサイトコレクションを展開対象とすることができます。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

### 4.3.3. サイトコレクションレベルの追加ーサイト列の展開

#### (1) シナリオ

部内ポータルの運用開始後、「部内共有文書」のドキュメントライブラリに対し、投稿された文書の種別を示す「文書タイプ」のプロパティ列を追加してほしいとの要望が発生しました。

この要望をポータル上に実装するため、検証環境ファームにて「部内共有文書」ドキュメントライブラリに対する「文書タイプ」列の追加が行われ、テストの結果問題なく実装可能であることが承認されました。この追加列をユーザーが利用する環境に反映できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、追加するコンテンツタイプ以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。また、運用中の環境への反映漏れを防ぐため、列の定義のみの展開ではなく、ライブラリに列が追加された状態の展開を行う方針とします。

図 4.3-7 サイト列の展開イメージ

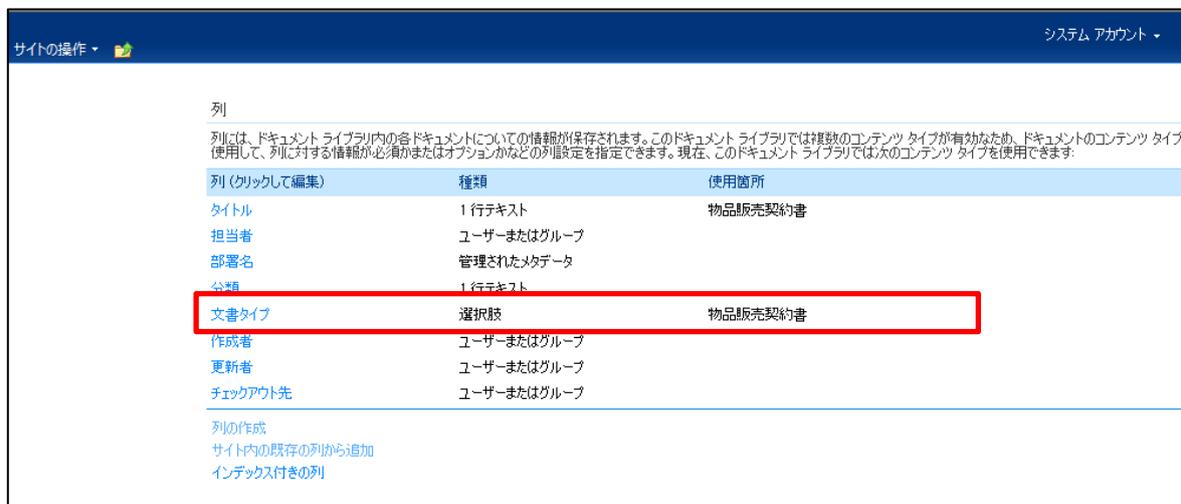
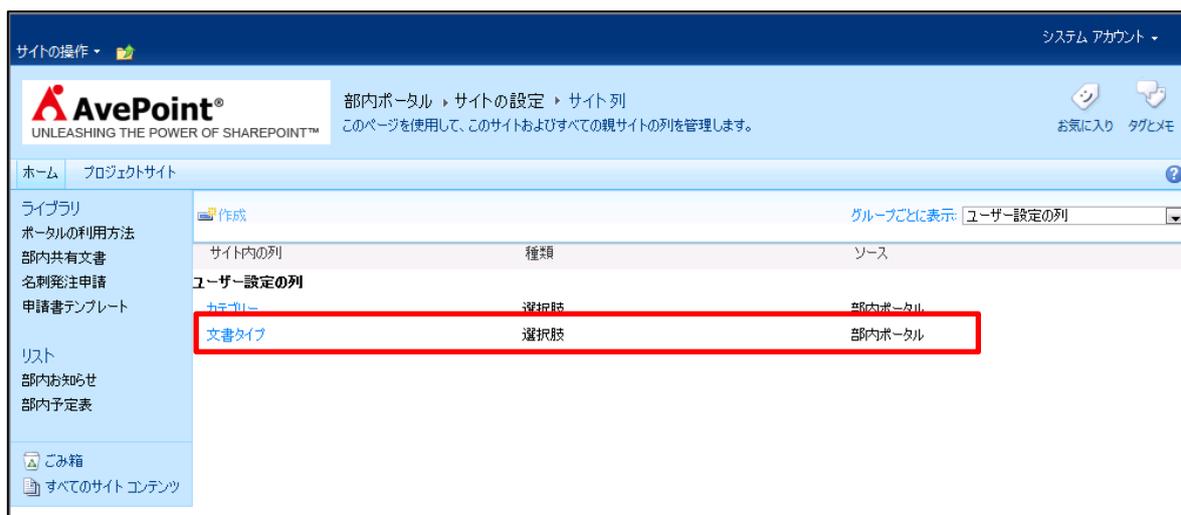


表 4.3-5 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
サイト列	・「文書タイプ」列を追加
部内共有文書	・「文書タイプ」列を「部内共有文書」ライブラリに関連付け

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-8 プラン設定－サイト列の展開

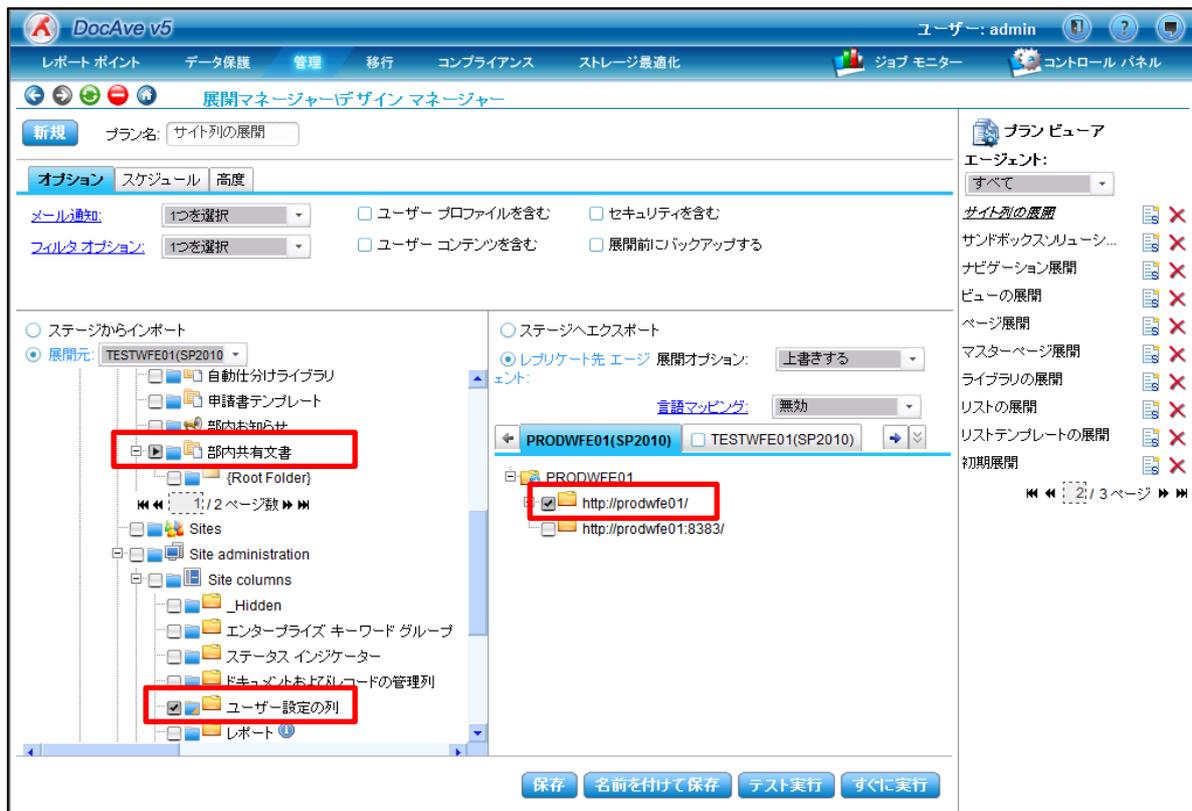


図 4.3-9 プラン設定(高度設定)－サイト列の展開

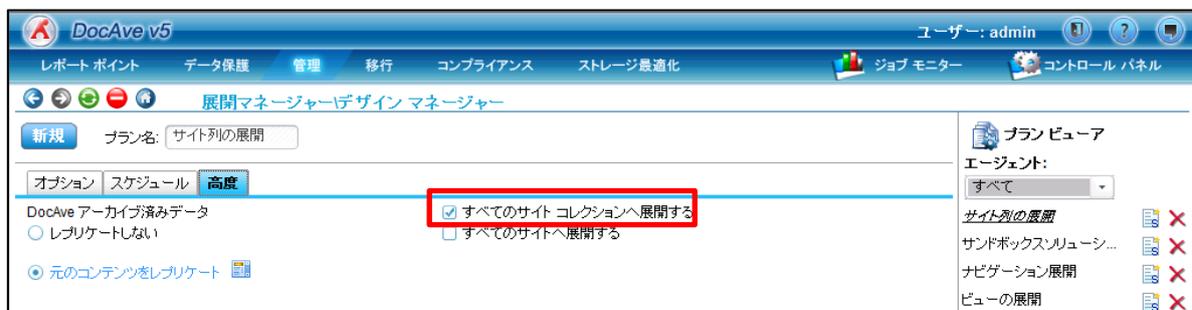


表 4.3-6 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> の部内共有文書 (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Lists」の順に展開し、展開対象の「部内共有文書」を半選択)
	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> のユーザー設定の列 (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「site administration」-「site columns」の順に展開し、「ユーザー設定の列」を選択)
展開先	<a href="http://prodwfe01">http://prodwfe01</a> (対象の Web アプリケーション)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを OFF
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを ON

このシナリオの要件では、検証環境ファームのドキュメントライブラリで追加したカスタム列を本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、追加した列および検証環境ファーム内の列を追加したライブラリを半選択した状態(チェックボックスの表示が▲になった状態)を展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したい Web アプリケーションを選択します。「すべてのサイトコレクションへ展開する」にチェックを入れることで Web アプリケーション配下の全てのサイトコレクションを展開対象とすることができます。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.3.4. サイトコレクションレベルの追加－サンドボックスソリューションの展開

##### (1) シナリオ

部内ポータル の運用開始後、追加機能として新しいカスタム Web パーツが開発されました。このカスタム Web パーツは、実装に伴う IIS リセットが発生しない、SharePoint のサンドボックスソリューションとして開発されています。

検証環境ファームでのテストの結果、このカスタム Web パーツが問題なく実装可能であることが承認されました。このカスタム Web パーツをユーザーが利用できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、追加するカスタム Web パーツ以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。

図 4.3-10 サンドボックスソリューションの展開イメージ



表 4.3-7 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
サンドボックスソリューション	・カスタム Web パーツを追加

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-11 プラン設定－サンドボックスソリューションの展開

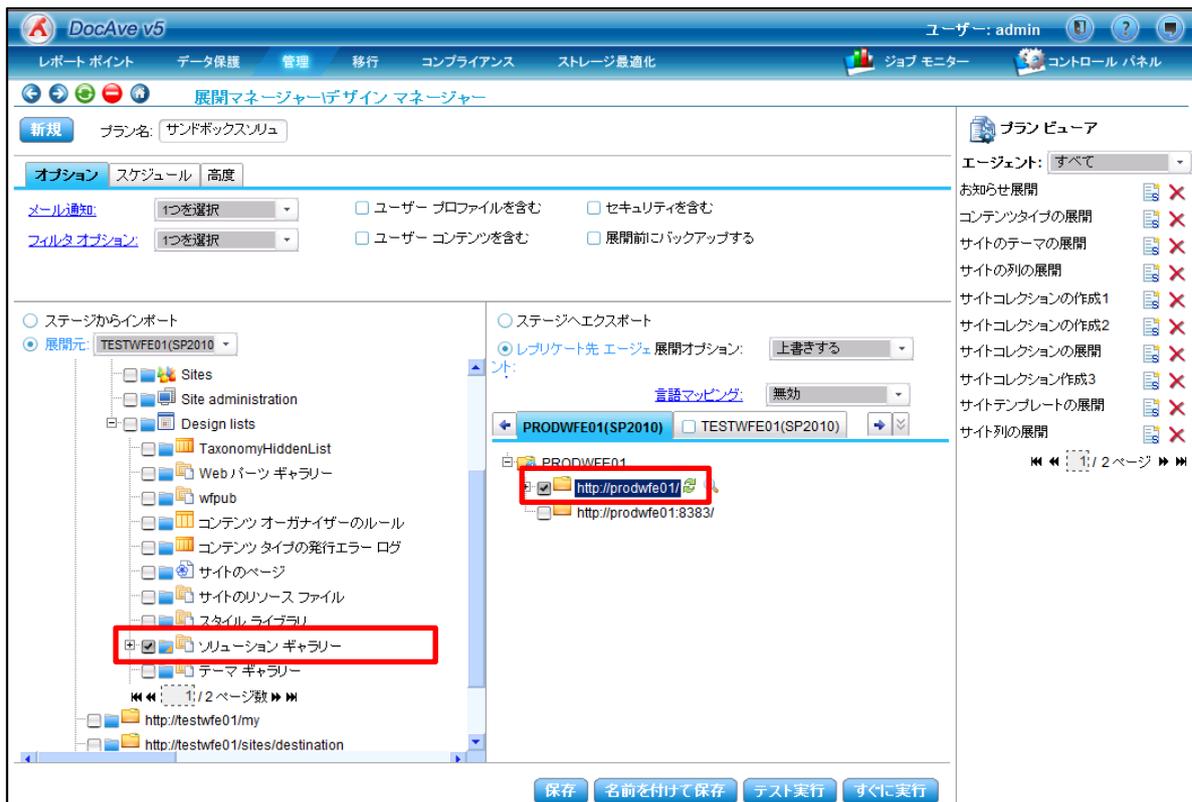


図 4.3-12 プラン設定(高度設定)－サンドボックスソリューションの展開

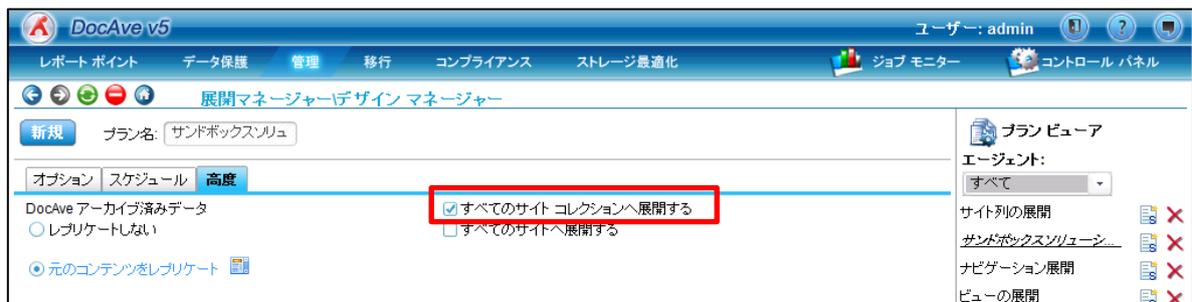


表 4.3-8 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> のソリューションギャラリー (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Design lists」の順に展開し、「ソリューションギャラリー」を選択)
展開先	<a href="http://prodwfe01">http://prodwfe01</a> (対象の Web アプリケーション)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを ON
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを ON

このシナリオの要件では、検証環境ファームで作成したサンドボックスソリューションを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、検証環境ファーム内のソリューションギャラリーを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したい Web アプリケーションを選択します。「すべてのサイトコレクションへ展開する」にチェックを入れることで Web アプリケーション配下の全てのサイトコレクションを展開対象とすることができます。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.3.5. サイトコレクションレベルの追加ーサイトトップ変更の展開

##### (1) シナリオ

部内ポータル運用開始からしばらく経ち、それまでに集まったユーザーからの要望や会社方針を基に、サイトトップの構成を見直す方針となりました。配置される Web パーツなどのコンテンツ、およびその配置が大きく変更されることとなります。

この変更を実装するため、検証環境ファームにてサイトトップの Web パーツの追加や配置変更が行われ、テストの結果問題なく実装可能であることが承認されました。このトップサイトの変更をユーザーが利用する環境に反映できるよう、本番環境ファームへ展開します。その際に、パーツの配置情報などを含めたトップサイトのデザイン全体を展開できるようにする必要があります。

図 4.3-13 サイトトップの展開イメージ



表 4.3-9 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
サイトトップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「部内予定表」Web パーツを追加</li> <li>・「ポータル利用方法」へのハイパーリンクを追加</li> </ul>

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-14 プラン設定(展開元)－サイトトップ変更の展開

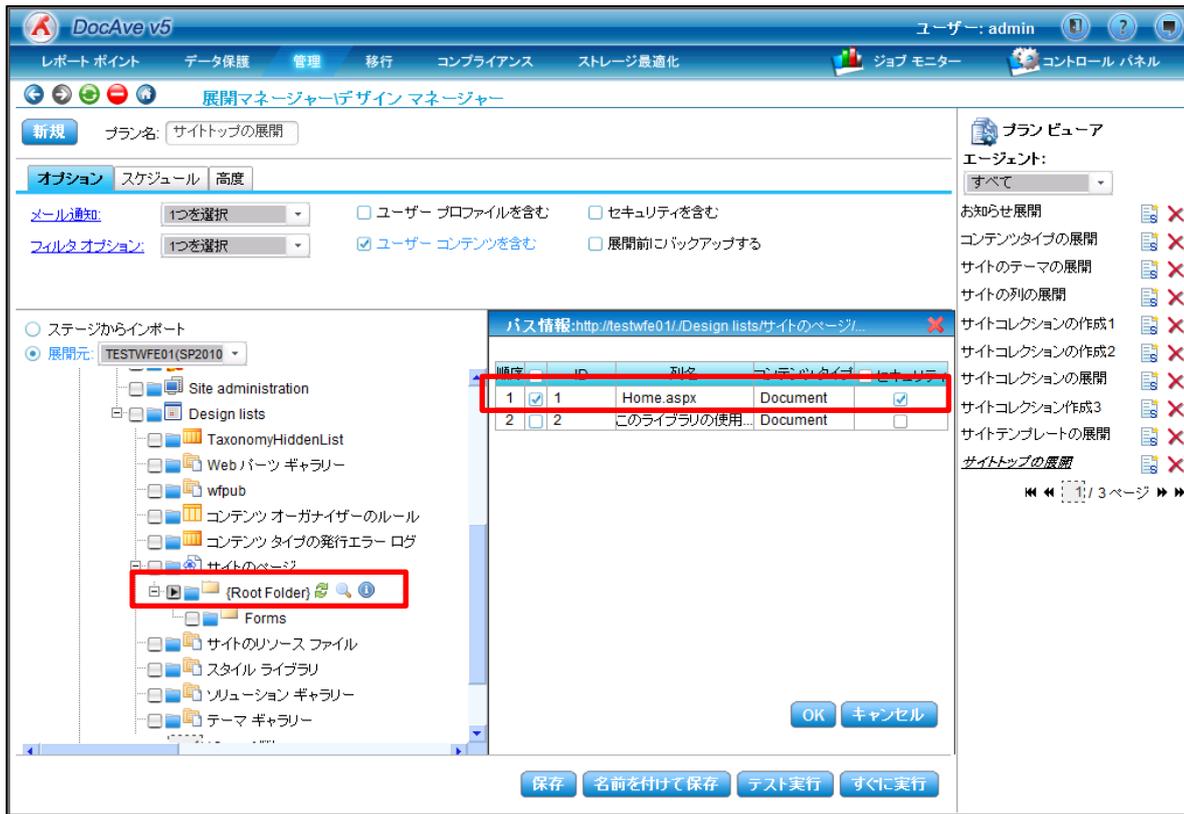


図 4.3-15 プラン設定(展開先)－サイトトップ変更の展開

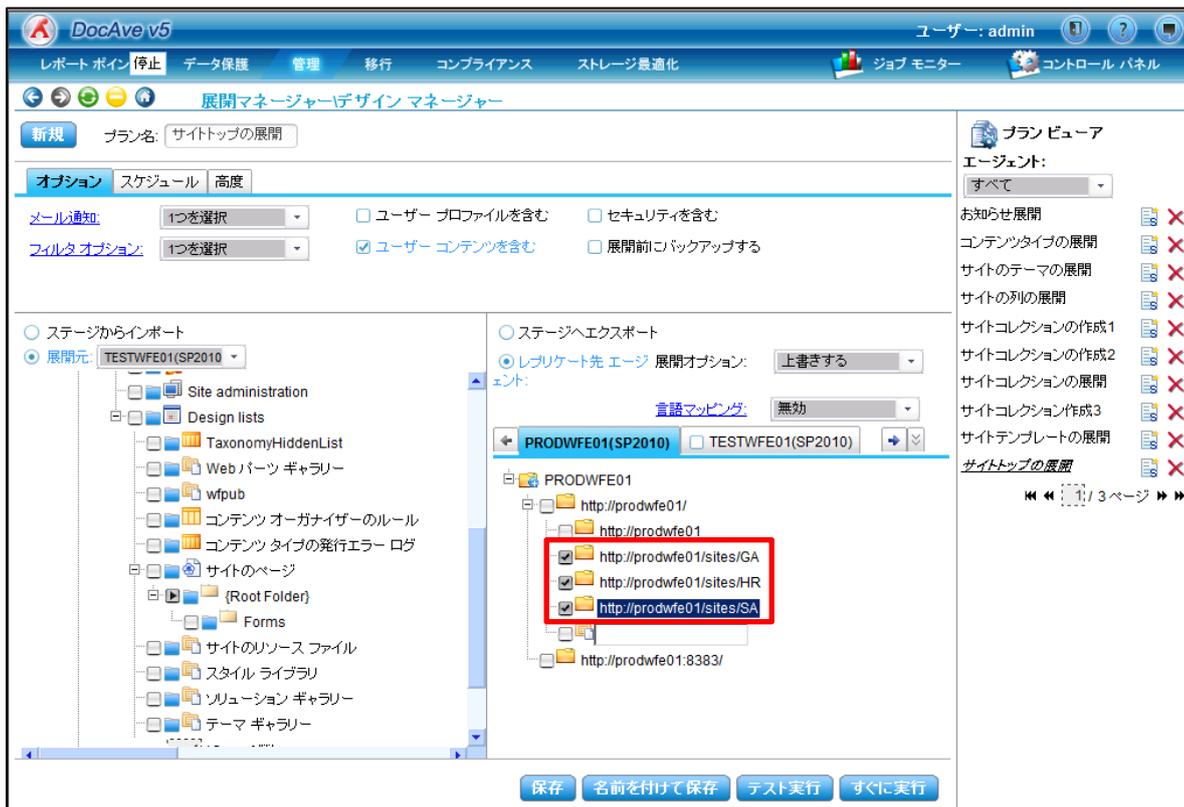


表 4.3-10 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> の Home.aspx (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Design lists」-「サイトのページ」-「Root Folder」を選択した状態で「i」ボタンをクリックし、「Home.aspx」を選択)
展開先	<i>http://prodwfe01/sites/GA</i> (総務部用のポータルサイト) <i>http://prodwfe01/sites/HR</i> (人事部用のポータルサイト) <i>http://prodwfe01/sites/SA</i> (営業部用のポータルサイト) (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを ON
ユーザーコンテンツを含む	チェックを ON
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを OFF

このシナリオの要件では、検証環境ファームで変更したトップサイトのデザインを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、検証環境ファーム内の aspx ファイルそのものを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したいすべてのサイトコレクションを選択します

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.3.6 リストレベルの追加ーリストテンプレートの変更の展開

##### (1) シナリオ

部内ポータル運用開始後、ユーザーの声から任意利用のテンプレートとして配布されていた「部内掲示板」の利用がほとんどされていないことがわかりました。配布されていたテンプレートの項目やビューが非常に利用しづらいものであったことが原因となっていたため、掲示板に投稿されるアイテムをよりユーザーに対してわかりやすく分類できるよう、リストの列やビューの追加・改善を行うこととなりました。

この変更を実装するため、検証環境ファームにてリストの表示項目やビューの変更が行われ、テストの結果問題なく実装可能であることが承認されました。

この変更されたリストテンプレートをユーザーが利用できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、変更したリストテンプレート以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。

図 4.3-16 リストテンプレートの展開イメージ



表 4.3-11 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
リストテンプレート	・「部内掲示板」の列・ビュー設定を改善したものをテンプレート化

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-17 プラン設定 (展開元)–リストテンプレートの展開

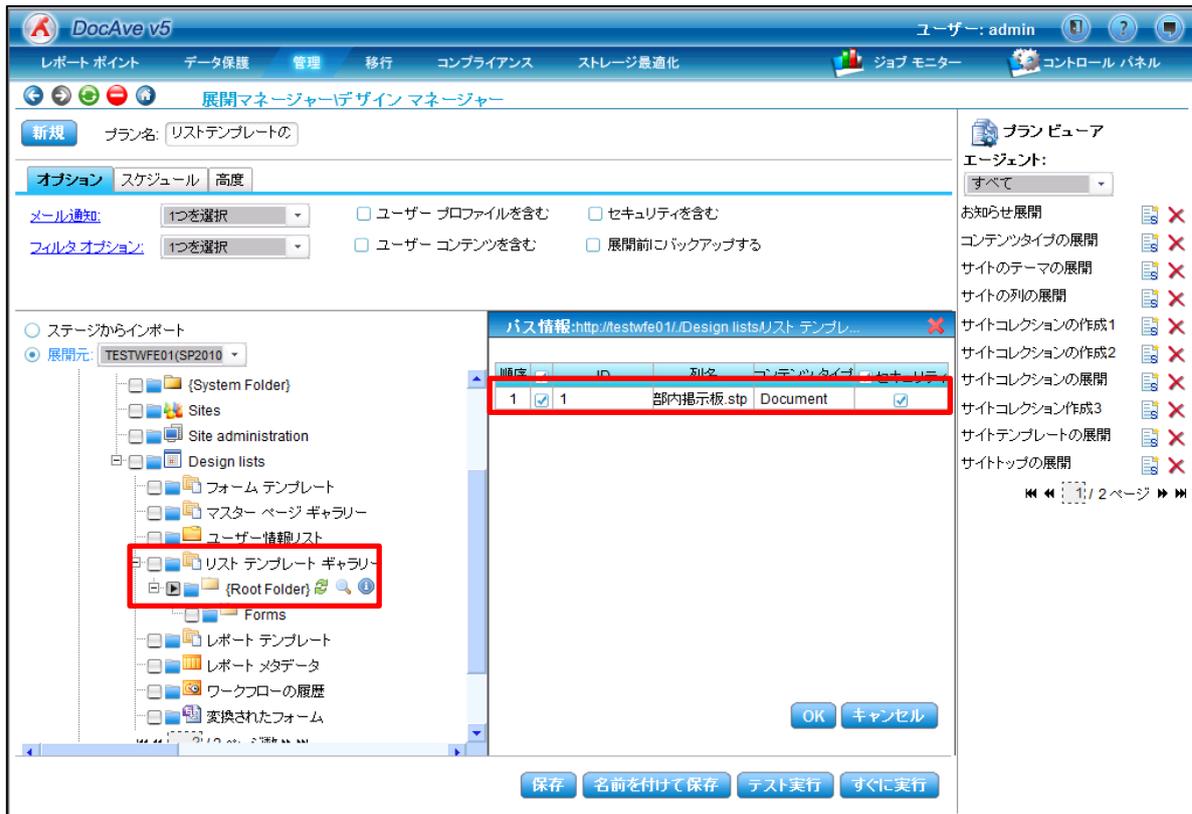


図 4.3-18 プラン設定 (展開先)–リストテンプレートの展開

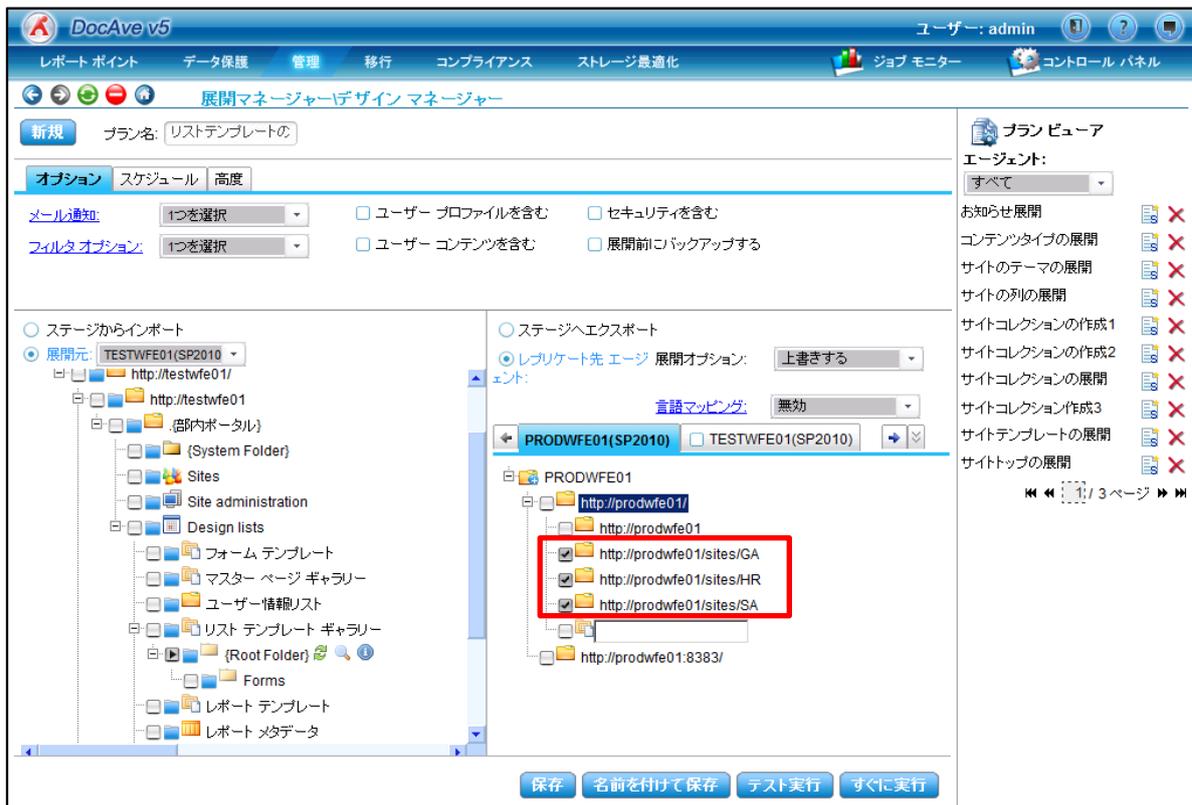


表 4.3-12 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> の部内掲示板.stp (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Design lists」-「リストプレートギャラリー」の順に展開し、「RootFolder」を選択した状態で「i」ボタンをクリックし、「部内掲示板.stp」を選択)
展開先	<a href="http://prodwfe01/sites/GA">http://prodwfe01/sites/GA</a> (総務部用のポータルサイト) <a href="http://prodwfe01/sites/HR">http://prodwfe01/sites/HR</a> (人事部用のポータルサイト) <a href="http://prodwfe01/sites/SA">http://prodwfe01/sites/SA</a> (営業部用のポータルサイト) (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを ON
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを OFF

このシナリオの要件では、検証環境ファームで変更したリストプレートを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、検証環境ファーム内のリストプレートを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したいサイトコレクションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.3.7 リストレベルの追加－アイテム投稿フォームのカスタマイズの展開

##### (1) シナリオ

部内ポータル運用開始後、ユーザーからの要望により「部内予定表」の「説明」列のサイズを拡張することになりました。

この変更を実装するため、検証環境ファームにて SharePoint Designer を利用したフォームの変更が行われ、テストの結果問題なく実装可能であることが承認されました。この入力フォームの変更をユーザーが利用する環境に反映できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、変更したカスタムフォーム以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。

図 4.3-19 アイテム投稿フォームの展開イメージ

The screenshot shows a web form titled "部内予定表 - 新しいアイテム". It has a ribbon-style menu with "編集" (Edit) and "ページ" (Page) tabs. The ribbon includes icons for "保存" (Save), "キャンセル" (Cancel), "貼り付け" (Paste), "切り取り" (Cut), "コピー" (Copy), "ファイルの添付" (Attach File), and "スペルチェック" (Spelling Check). Below the ribbon are "更新" (Update) and "クリップボード" (Clipboard) buttons. The form fields are: "タイトル\*" (Title), "場所" (Location), "開始時刻\*" (Start Time) set to 2011/09/15 at 16:00, and "終了時刻\*" (End Time) set to 2011/09/15 at 17:00. The "説明" (Description) field is a large text area with a rich text editor toolbar, highlighted by a red border.

表 4.3-13 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
投稿フォーム	・[説明]列のサイズ拡張変更

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-20 プラン設定 (展開元)–投稿フォームの展開

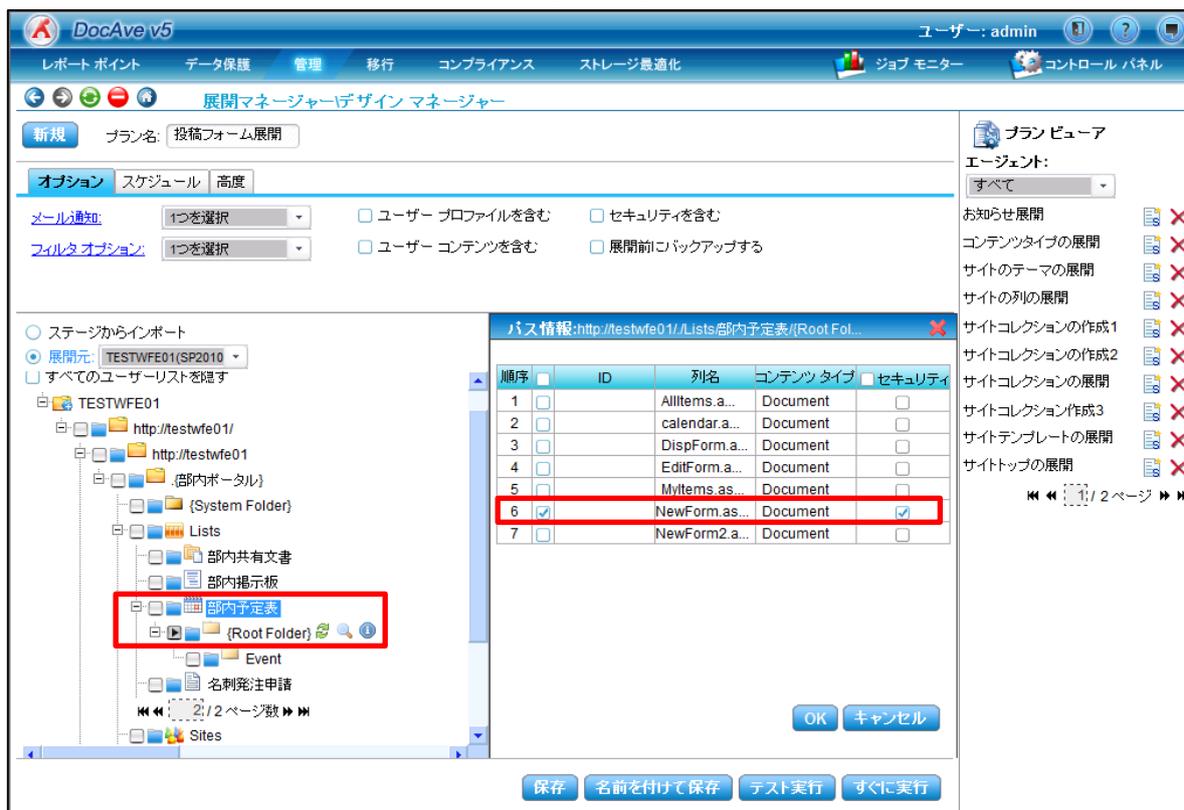


図 4.3-21 プラン設定 (展開先)–投稿フォームの展開

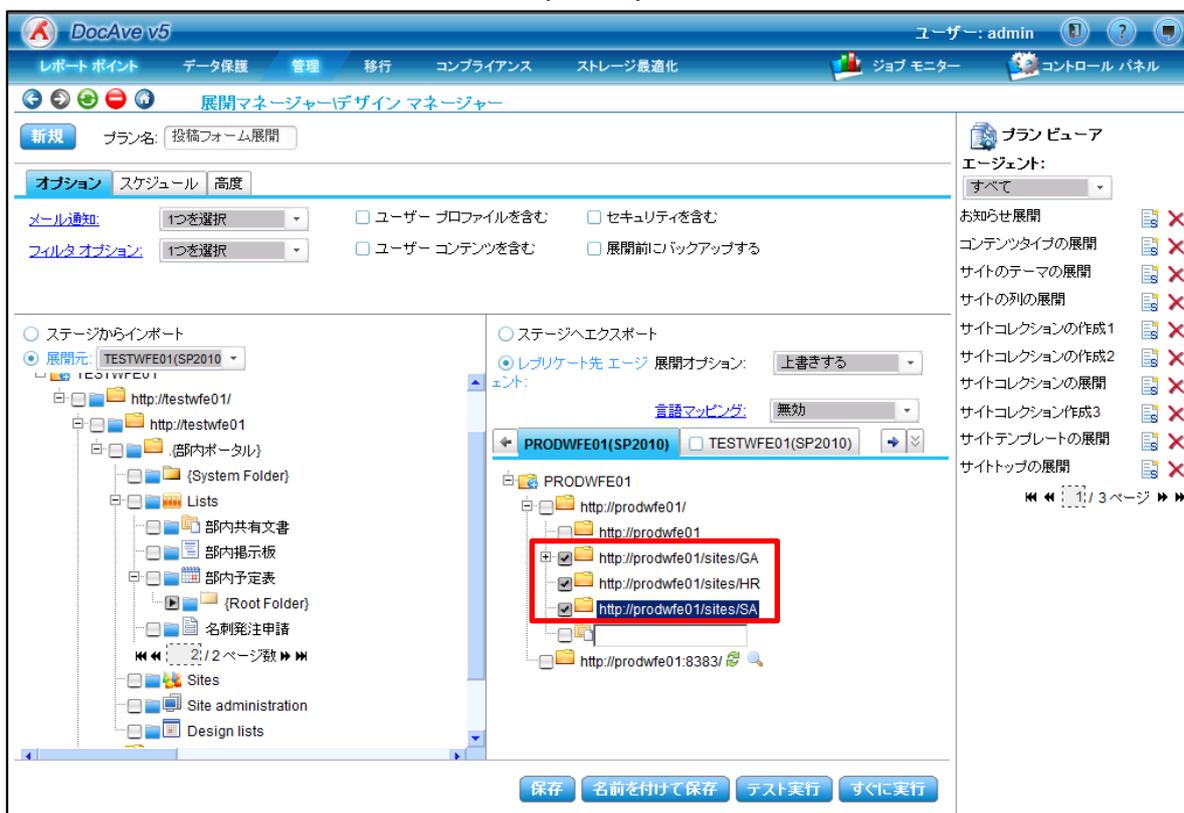


表 4.3-14 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> の NewForm.aspx (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Lists」-「部内共有文書」の順に展開し、「RootFolder」を選択した状態で「i」ボタンをクリックし、「NewForm.aspx」を選択)
展開先	<i>http://prodwfe01/sites/GA (総務部用のポータルサイト)</i> <i>http://prodwfe01/sites/HR (人事部用のポータルサイト)</i> <i>http://prodwfe01/sites/SA (営業部用のポータルサイト)</i> (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを OFF
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを OFF

このシナリオの要件では、検証環境ファームで変更した投稿フォームを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、変更した投稿フォーム(apsx ファイル)を展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したいサイトコレクションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.3.8 リストレベルの追加－ビューの追加の展開

##### (1) シナリオ

部内ポータル運用開始後、ユーザーから「部内お知らせ」のリストについて、「カテゴリ」の列の内容に応じたフィルタリングができるようにしてほしいとの要望が寄せられました。

この追加要望に応えるため、検証環境ファームにて「カテゴリ」列を条件にグループ化するビューが追加され、テストの結果、問題なく実装可能であることが承認されました。このカスタムビューをユーザーが利用する環境に反映できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、追加したビュー以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。

図 4.3-22 ビューの追加の展開イメージ

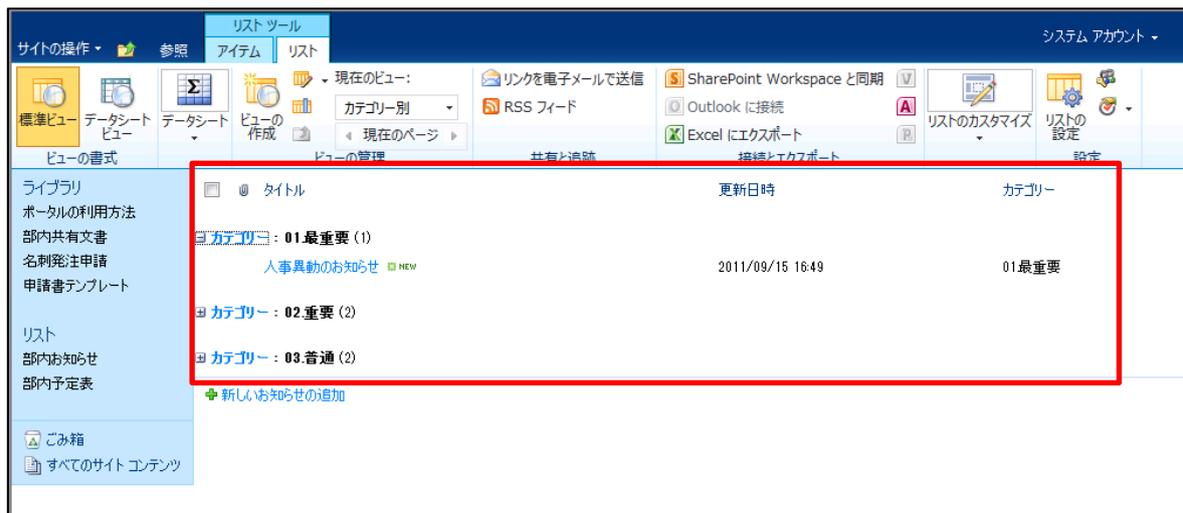


表 4.3-15 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
リストの設定	・[カテゴリ別]ビューを追加



#### 4.3.9 リストレベルの追加－InfoPath フォームの修正の展開

##### (1) シナリオ

部内ポータルへの運用開始後、名刺発注申請のフォームが新規フォームとして展開されることになりました。

この変更を実装するため、検証環境ファームにて InfoPath を利用してフォームの変更が行われ、管理用テンプレートとして発行を行いました。発行されたテンプレートは検証環境でのテストの結果、問題なく実装可能であることが承認されました。

この入力フォームの変更をユーザーが利用する環境に反映できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、追加したカスタムフォーム以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。

図 4.3-24 InfoPath フォームの変更の展開イメージ

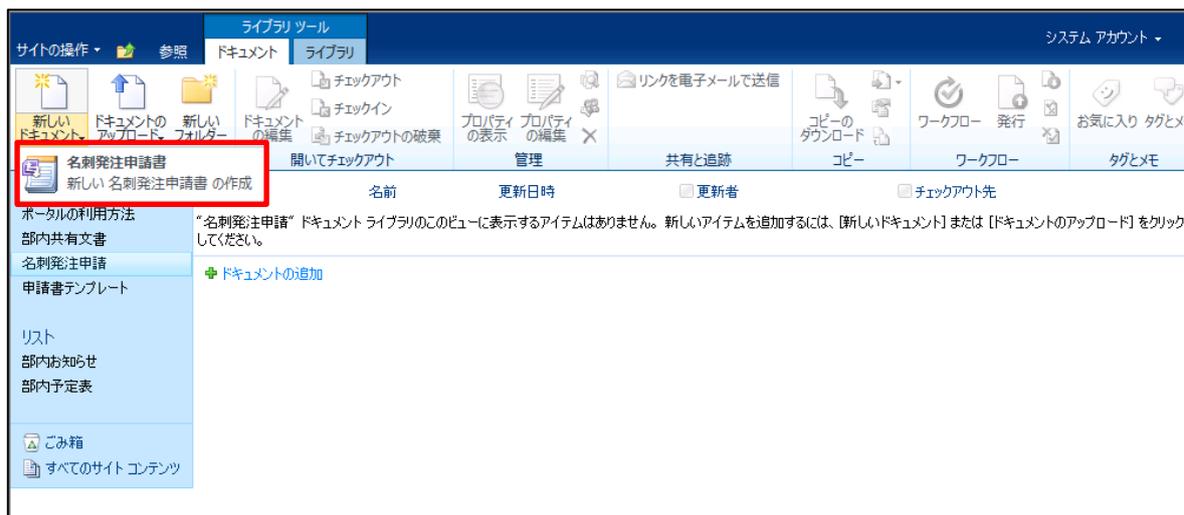


表 4.3-17 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
InfoPath フォーム	・管理用テンプレートとして、発行された InfoPath テンプレートを追加

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-25 プラン設定－InfoPath フォームの展開

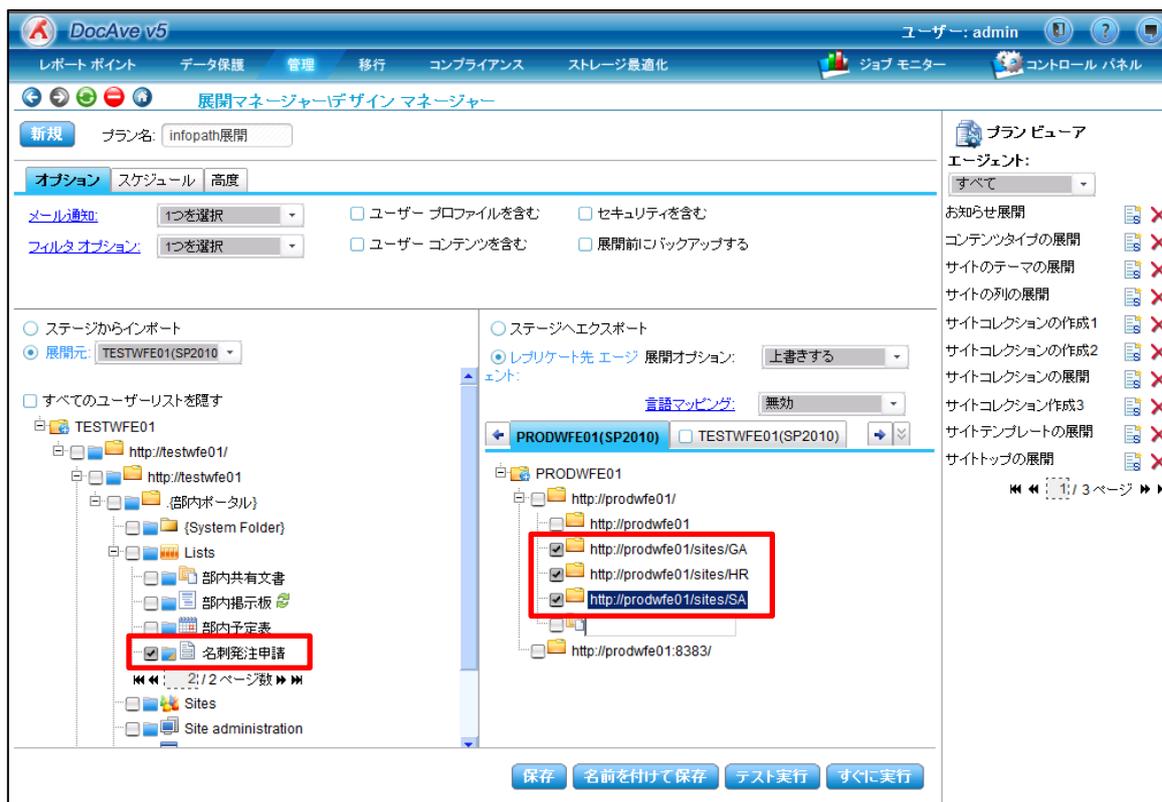


表 4.3-18 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> の名刺発注申請 (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Lists」の順に展開し、「名刺発注申請」を選択)
展開先	<a href="http://prodwfe01/sites/GA">http://prodwfe01/sites/GA</a> (総務部用のポータルサイト) <a href="http://prodwfe01/sites/HR">http://prodwfe01/sites/HR</a> (人事部用のポータルサイト) <a href="http://prodwfe01/sites/SA">http://prodwfe01/sites/SA</a> (営業部用のポータルサイト) (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを OFF
ユーザーコンテンツを含む	チェックを OFF
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを OFF

このシナリオの要件では、検証環境ファームで管理用テンプレートとして発行された InfoPath フォームを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、検証環境ファーム内のフォームライブラリを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したいサイトコレクションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

#### 4.3.10. アイテムレベルの追加－ページの追加の展開

##### (1) シナリオ

部内ポータルでは、ポータルの利用方法マニュアルを「ページライブラリ」を利用し、機能ごとにページを作成する形で管理しています。利用開始後のユーザーから受けた問い合わせが増えたこともあり、よく寄せられる質問を「よくある質問」として一つのページにまとめ、マニュアルに追加することとなりました。

この要件を実現するには、「よくある質問」の新規ページの作成および既存のマニュアルの目次ページからの「よくある質問」ページへのリンクの追加を行う必要があります。検証環境でのテストの結果、ページの追加と変更が問題なく実装可能であることが承認されました。

このページの追加と変更をユーザーが利用する環境に反映できるよう、本番環境ファームへ展開します。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、追加・変更したページ以外の要素に影響がないよう展開を行う必要があります。

図 4.3-26 ページの展開イメージ



表 4.3-19 展開対象となる要素

項目	カスタマイズ内容
ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規ページの追加 (よくある質問.aspx)</li> <li>・既存ページへのハイパーリンクの追加 (よくある質問へのリンク追加)</li> </ul>

## (2) プラン設定

本シナリオを実現するには、デザインマネージャーのプラン設定画面で下記のように項目を選択します。

図 4.3-27 プラン設定(展開元) – ページの追加の展開

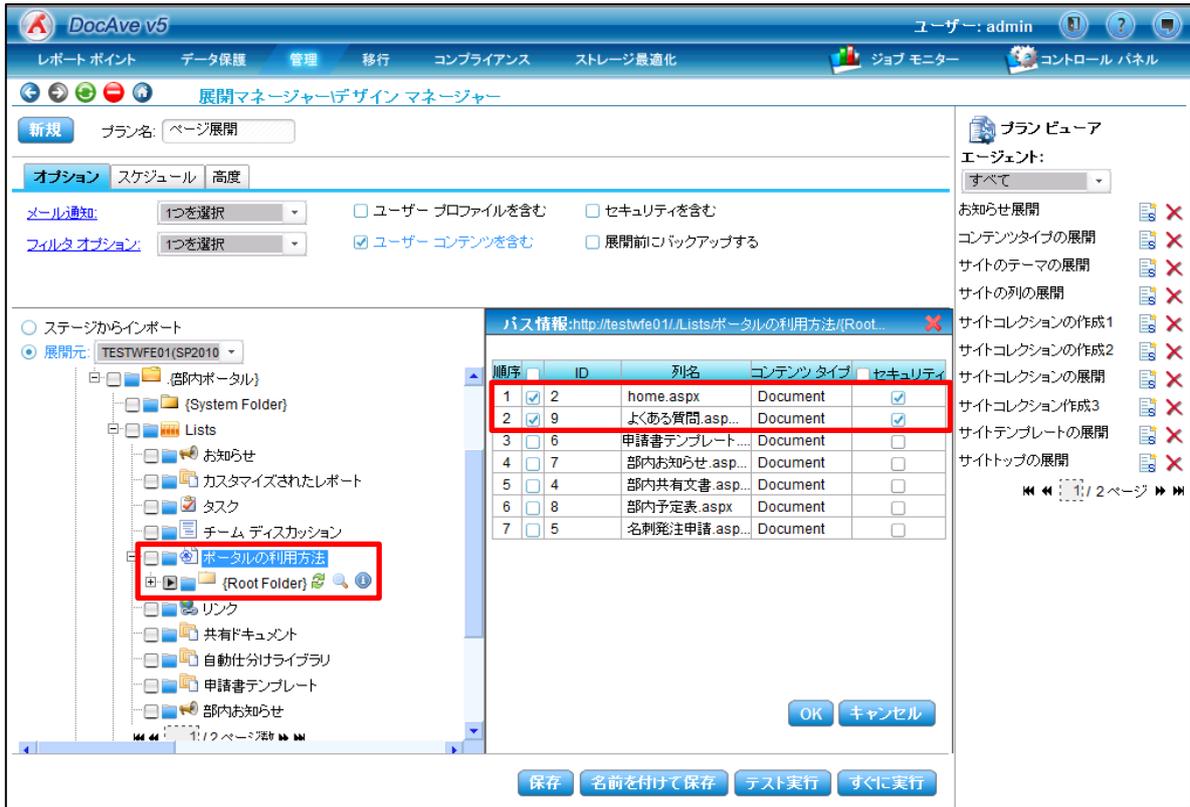


図 4.3-28 プラン設定(展開先) – ページの追加の展開

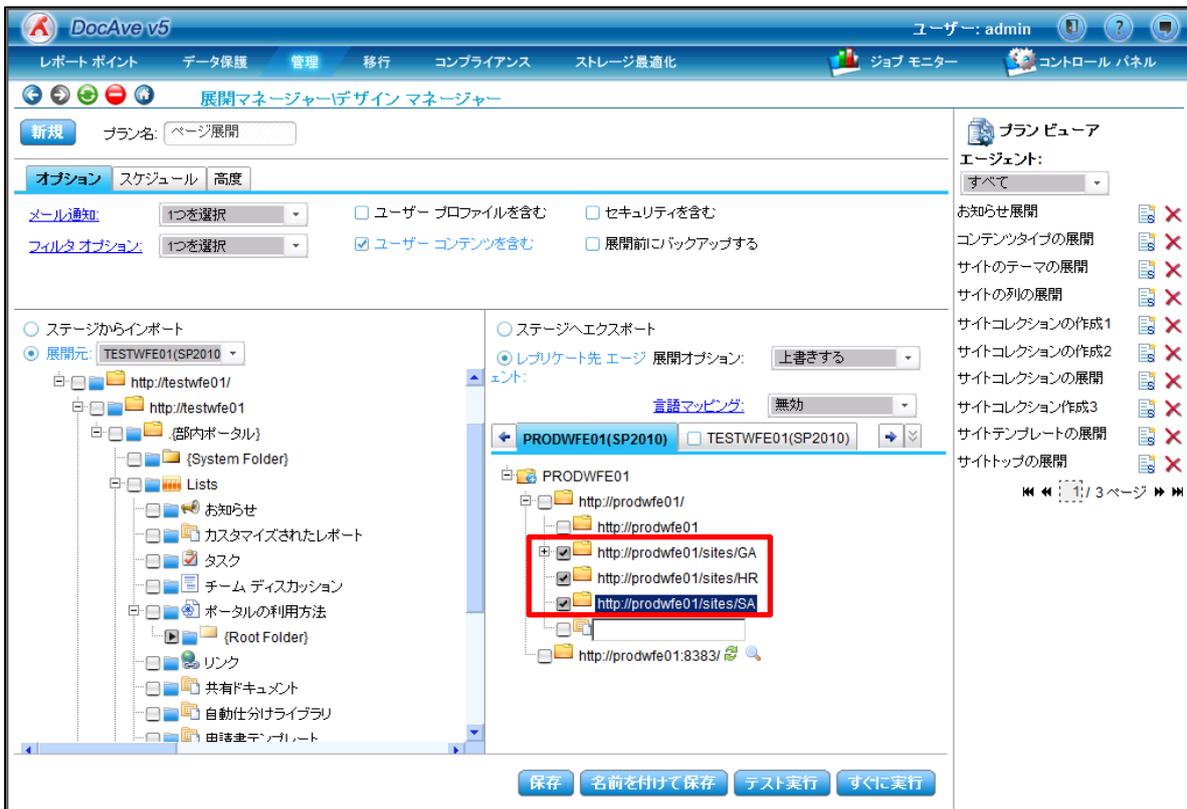


表 4.3-20 プランの設定値

設定項目	設定値
展開元	<a href="http://testwfe01">http://testwfe01</a> の Home.aspx、よくある質問.aspx (「Web アプリケーション URL」-「サイトコレクション URL」-「サイト名」-「Lists」-「ポータル利用方法」の順に展開し、「RootFolder」を選択した状態で「i」ボタンをクリックし、「Home.aspx」および「よくある質問.aspx」を選択)
展開先	<a href="http://prodwfe01/sites/GA">http://prodwfe01/sites/GA</a> (総務部用のポータルサイト) <a href="http://prodwfe01/sites/HR">http://prodwfe01/sites/HR</a> (人事部用のポータルサイト) <a href="http://prodwfe01/sites/SA">http://prodwfe01/sites/SA</a> (営業部用のポータルサイト) (「Web アプリケーション URL」を展開し、展開対象の「サイトコレクション URL」を選択)
展開オプション	上書きする
すべてのユーザーリストを隠す	チェックを OFF
ユーザーコンテンツを含む	チェックを ON
セキュリティを含む	チェックを OFF
すべてのサイトコレクションへ展開する	チェックを OFF

このシナリオの要件では、新規に追加したページおよび新規ページへのリンクを追加した既存のページを本番環境ファームへ展開する必要があるため、デザインマネージャーを利用して、検証環境ファーム内のページライブラリ内の該当アイテムを展開元として選択します。

展開先には、本番環境ファームの変更を反映したいサイトコレクションを選択します。

※斜体で表記した部分は、環境によって値が変わりますので、お客様の環境に合わせて設定ください。

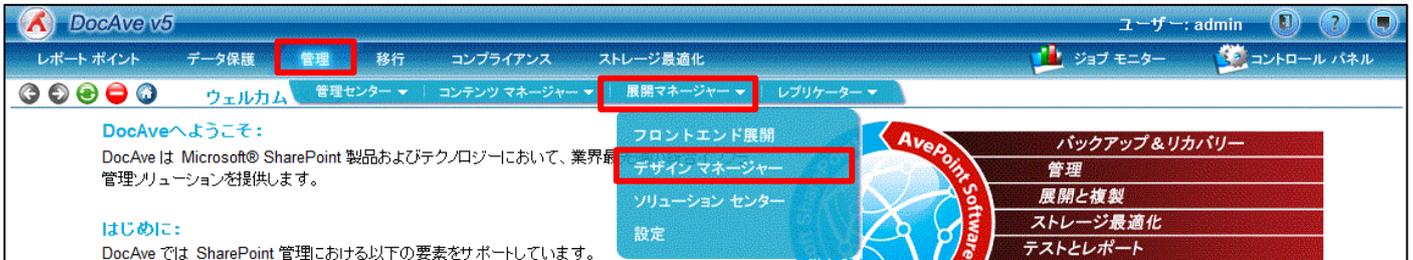
## 4.4. 共通手順

本セクションでは、展開手順の詳細を説明します。

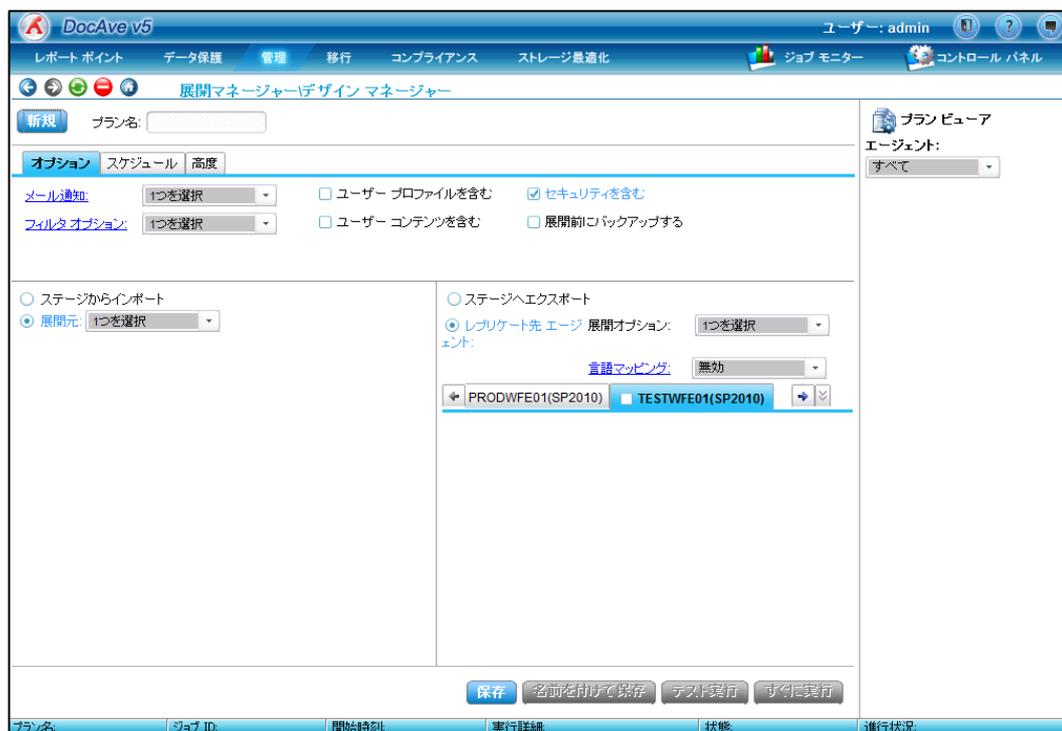
### 4.4.1. デザインマネージャープランの設定

このセクションではデザインマネージャーのプランの設定手順について説明します。

1. DocAve 管理コンソールから、「管理」-「展開マネージャー」-「デザインマネージャー」を選択します。



2. デザインマネージャーの設定画面が開きます。



3. 「プラン名」に任意のプラン名を入力します。



4. 左下ペインで「展開元」を選択し、プルダウンメニューから展開元の環境に接続可能なエージェントを選択します。



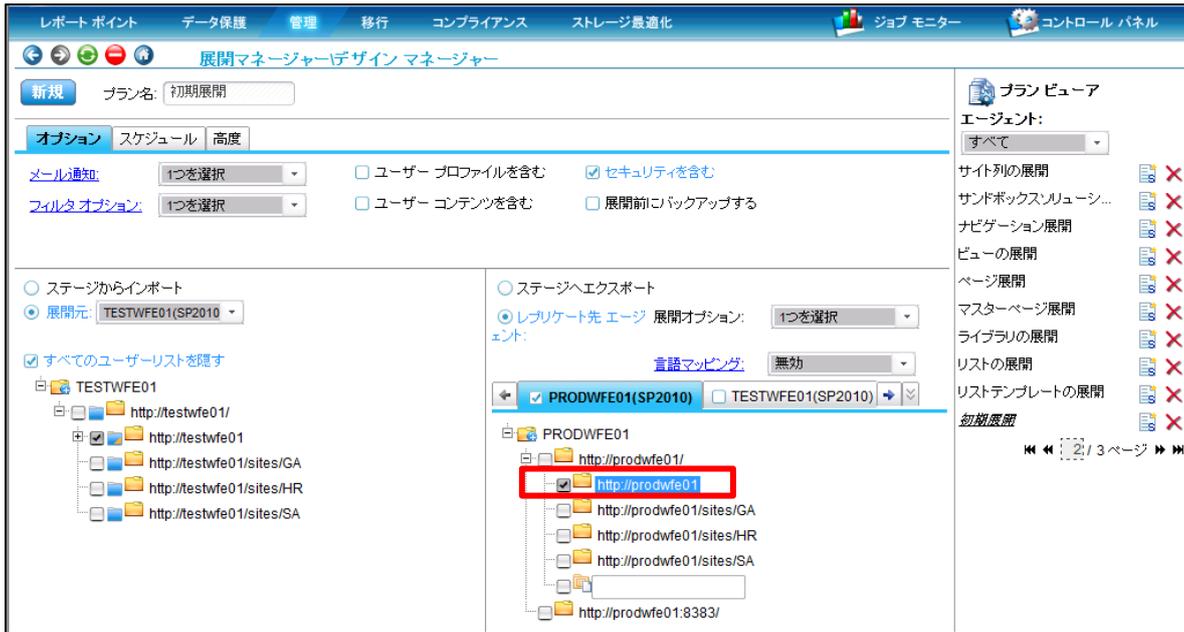
5. 展開元の SharePoint ファームがツリーで表示されます。ツリーを展開していき、対象の「展開元」にチェックします。必要に応じて、「すべてのユーザーリストを隠す」のチェックを外します。チェックを外すことで展開元として、ユーザーによって作成されたライブラリ/リストが選択可能となります。



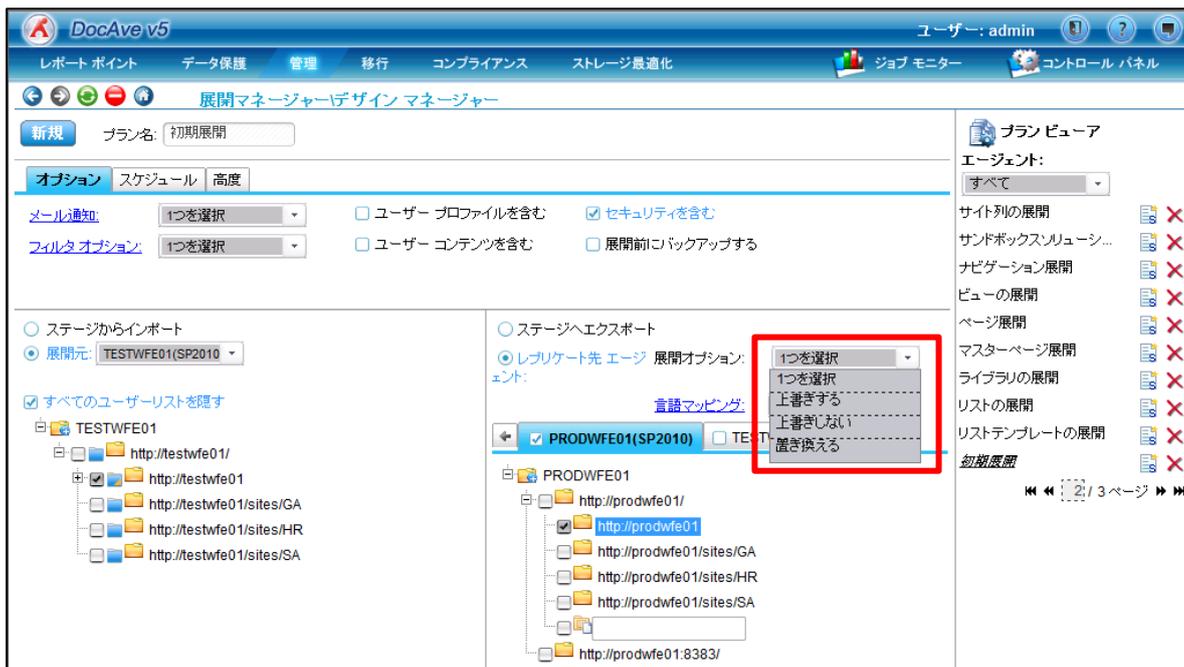
6. 右下ペインで、「レプリケート先エージェント」が選択されていることを確認し、下部のタブから展開先の環境に接続可能なエージェントにチェックを入れます。



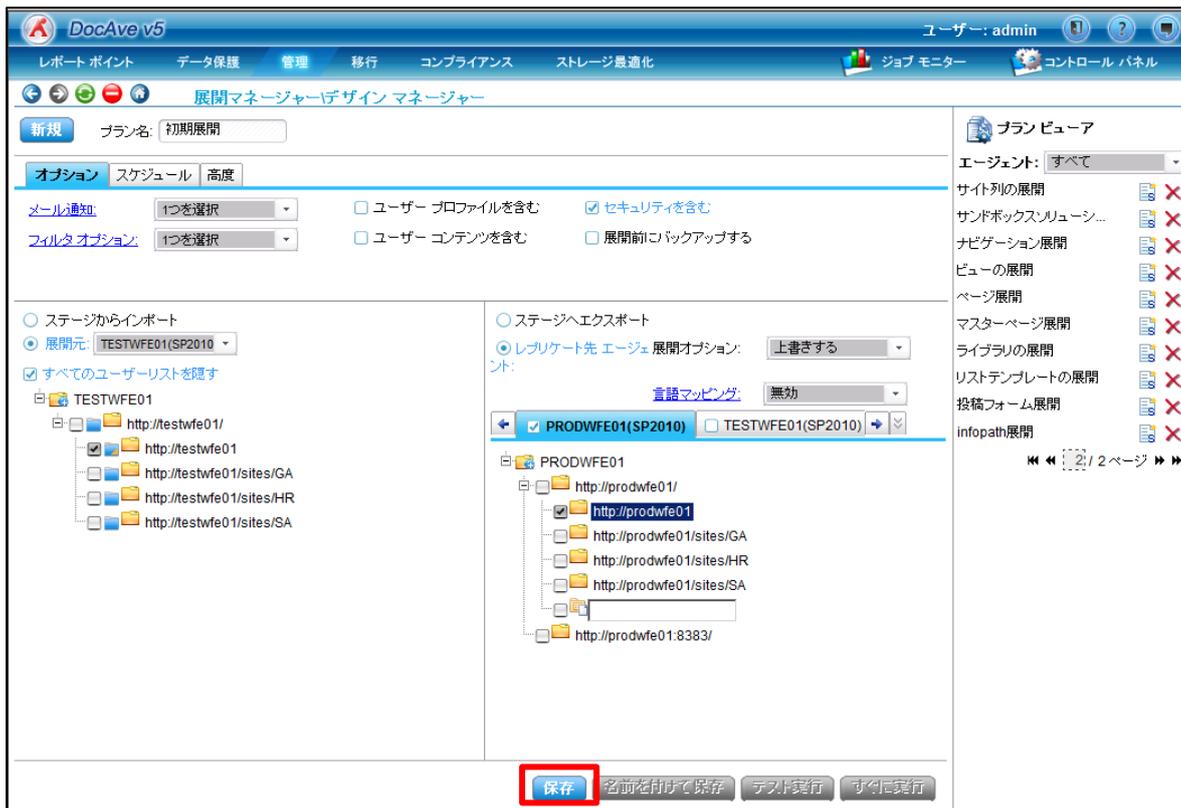
7. 展開先の SharePoint ファームがツリーで表示されます。ツリーを展開し、シナリオに応じて、対象の「**展開先**」をチェックします。



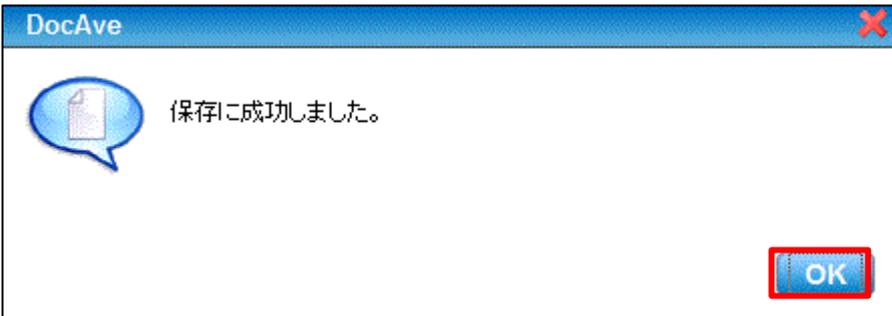
8. 展開オプションを選択します。シナリオに応じて、「**展開オプション**」を選択します。



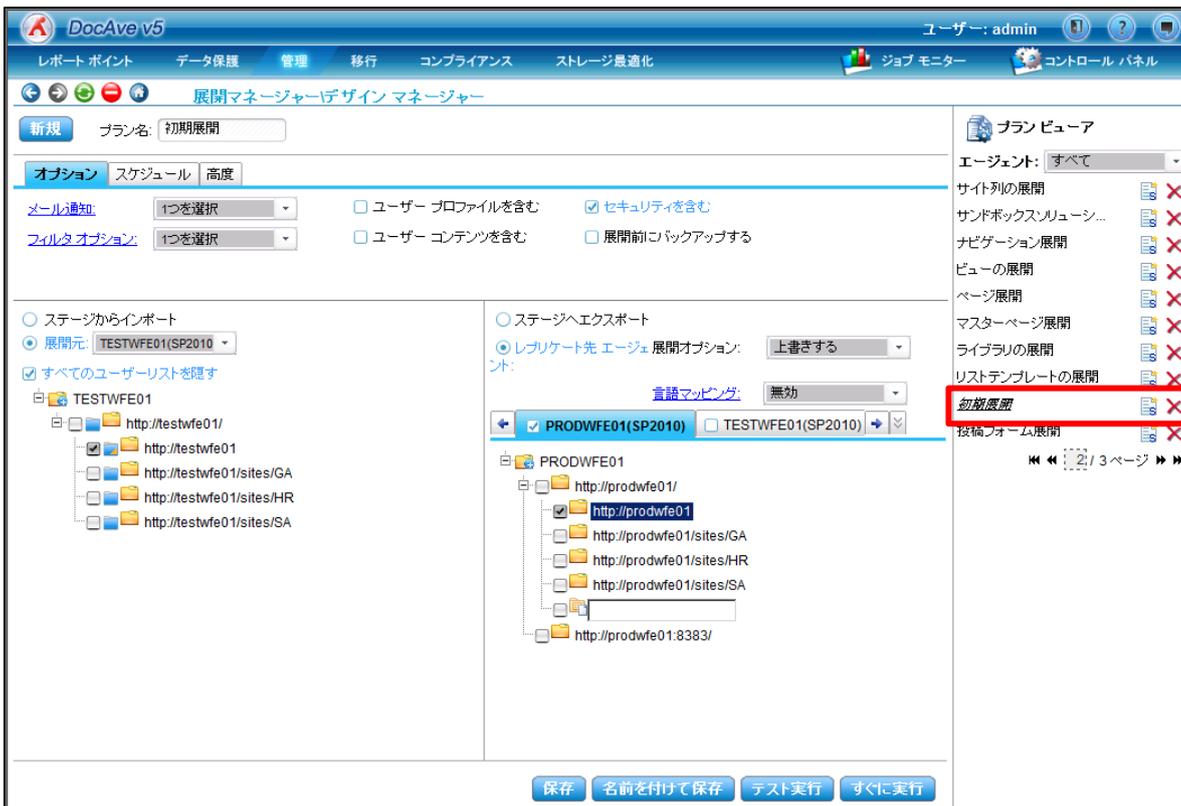
9. デザインマネージャーの構成内容を確認し、「保存」をクリックします。



10. 「保存に成功しました。」と表示されることを確認し、「OK」をクリックします。



11. プランビューアに保存したプランが表示されていることを確認します。



#### 4.4.2. デザインマネージャーオプションの設定

このセクションではオプションの設定手順について説明します。

1. 「オプション」タブでオプションの設定を行います。既定では「セキュリティを含む」が選択されています。

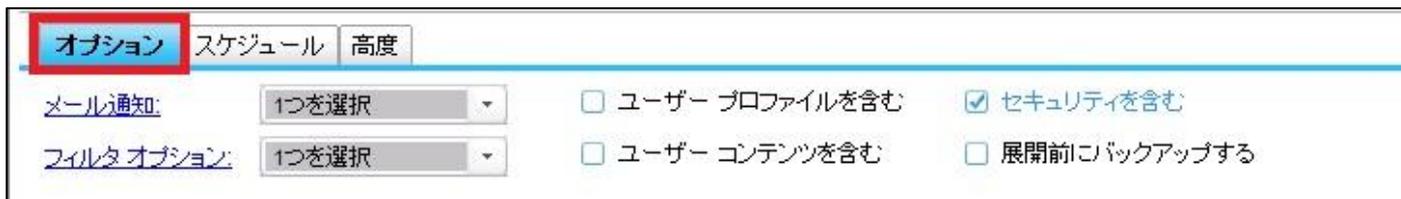


表 4.4-1 「オプション」の設定項目一覧

設定項目	説明
メール通知	メール通知のプロファイルを選択します。 ※メール通知のプロファイルは「コントロールパネル」-「レポート」-「メール通知」から設定することが可能です。
フィルタオプション	フィルタオプションのプロファイルを選択します。 ※フィルタオプションのプロファイルは「管理」-「展開マネージャー」-「フィルタオプション」から設定することが可能です。
ユーザー プロファイルを含む	ユーザープロファイルを展開します。
ユーザー コンテンツを含む	ユーザーコンテンツを展開します。ユーザーコンテンツとは、ライブラリ/リスト内のアイテムおよび Web パーツ情報が含まれます。
セキュリティを含む	セキュリティを保持した状態で展開します。
展開前にバックアップする	展開を実行する前コンテンツをバックアップすることができます。 バックアップを使用することで展開先を展開前の状態にリセットすることができます。 ※事前にバックアップ先となる「論理デバイス」を設定する必要があります。

#### 4.4.3. デザインマネージャースケジュールの設定

このセクションではスケジュールの設定手順について説明します。

1. 「スケジュール」タブでスケジュールの設定を行います。既定では「スケジュールを無効にする」が選択されています。

The screenshot shows the 'スケジュール' (Schedule) tab selected. The 'スケジュールを無効にする' checkbox is checked. The '開始時刻' field is empty. The '間隔' field has a dropdown menu. The '展開タイプ' section has '完全' selected. The '説明' field is empty.

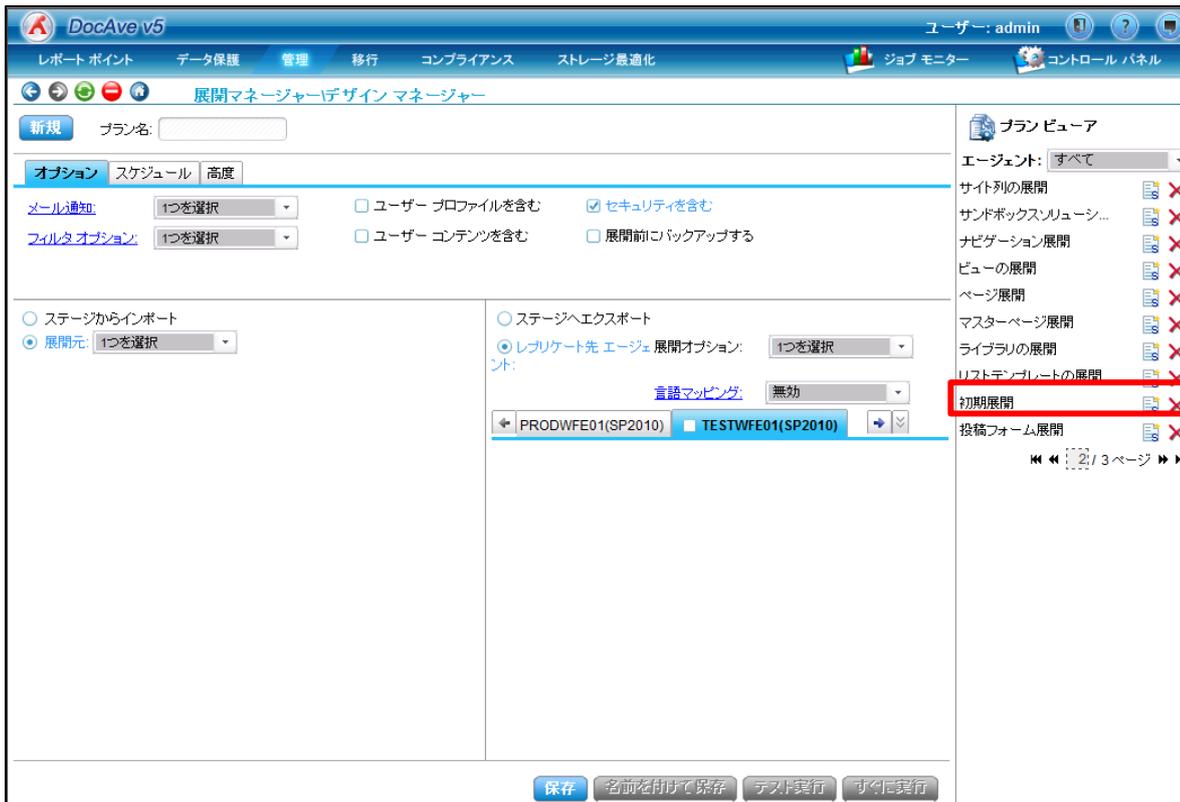
表 4.4-2 「スケジュール」の設定項目一覧

設定項目	説明	
スケジュールを無効にする	チェックボックスを有効にすると、スケジュールが無効になり即時実行されます。	
開始時刻	入力した時刻に展開が開始されます。	
間隔	「1 回のみ」「時間」「日間」「週間」「ヶ月」より、実行間隔を指定できます。	
展開タイプ	完全	選択した展開元の完全なデータが展開されます。
	増分	直近の増分データ展開または、完全データ展開以降に追加されたデータだけ展開されます。
説明	スケジュールの説明を入力します。	

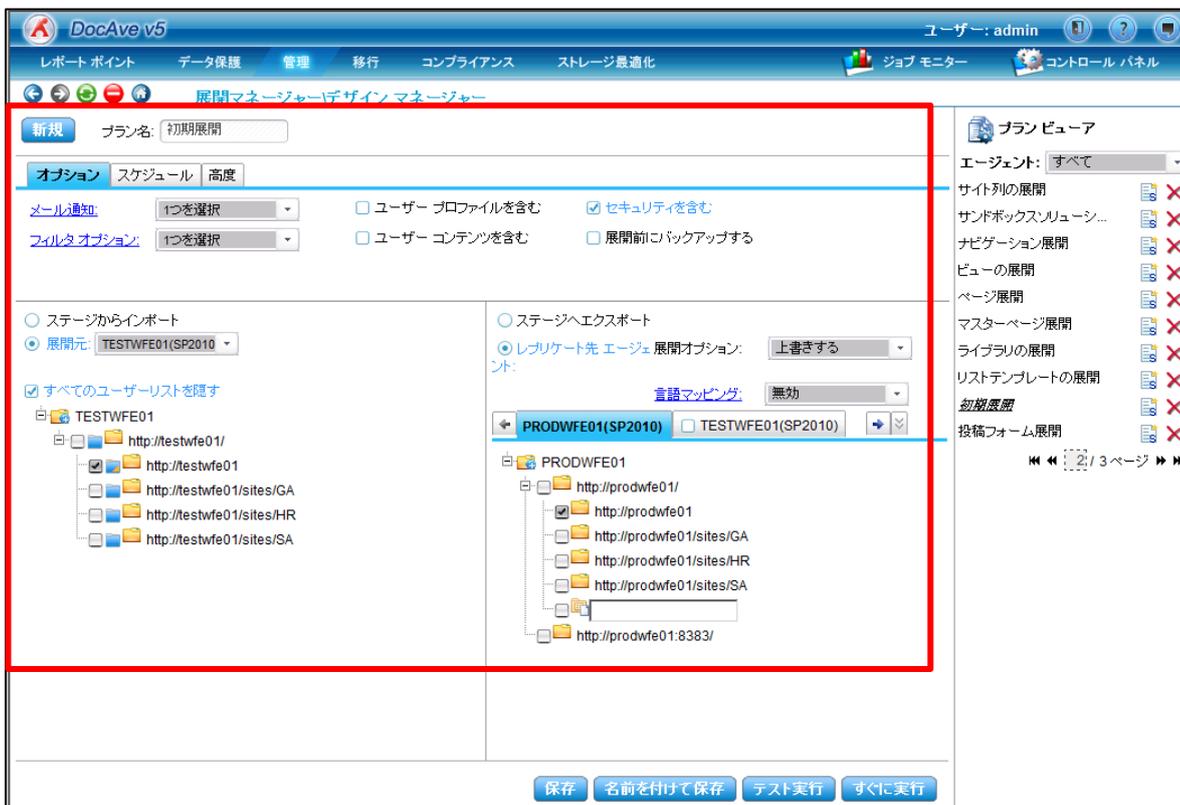
#### 4.4.4. デザインマネージャー実行と結果確認

このセクションではデザインマネージャーの実行と結果確認について説明します。

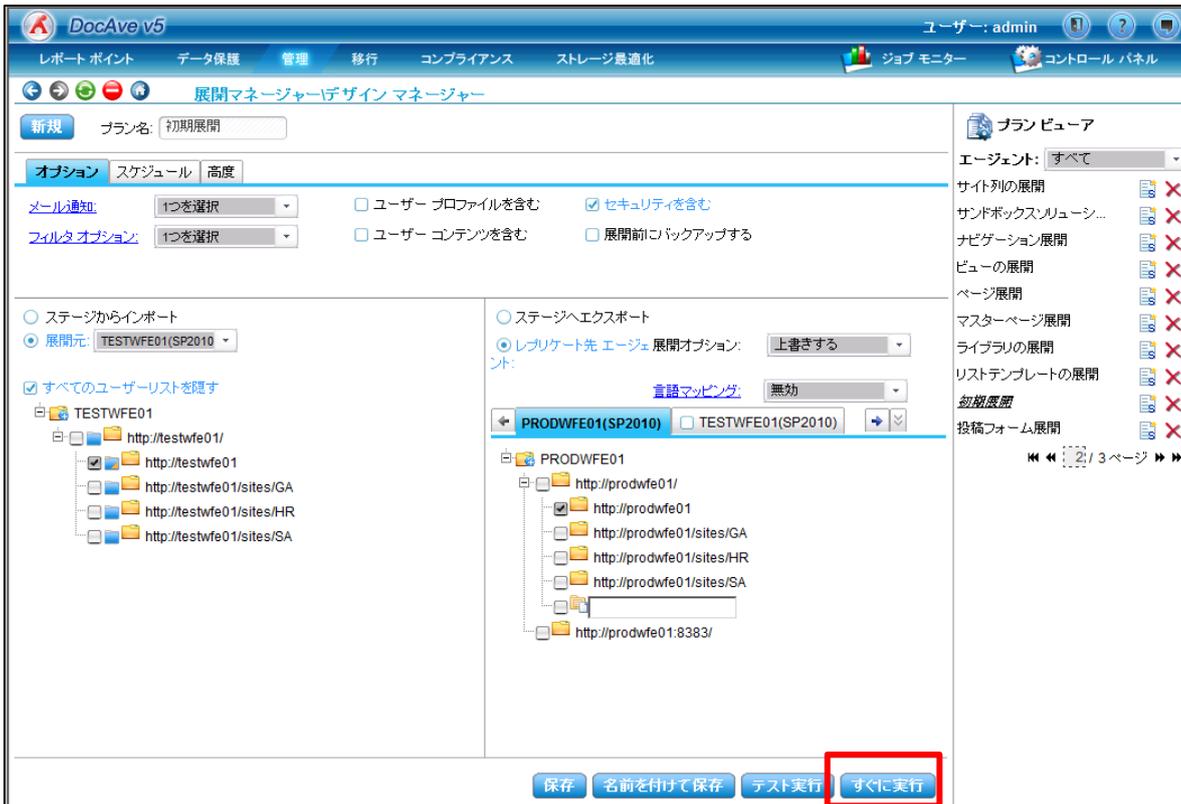
1. 「プランビューア」より実行する「プラン」を選択します。



2. 選択したプランの設定が表示されていることを確認します。



3. 「すぐに実行」をクリックします。



4. 「実行オプション」を選択し、「実行」をクリックします。



5. デザインマネージャーが実行され、実行中の画面が表示されます。必要に応じて、「ジョブレポートに移る」を選択します。



6. ジョブモニターにて、実行したプランのジョブが進行中であることを確認します。



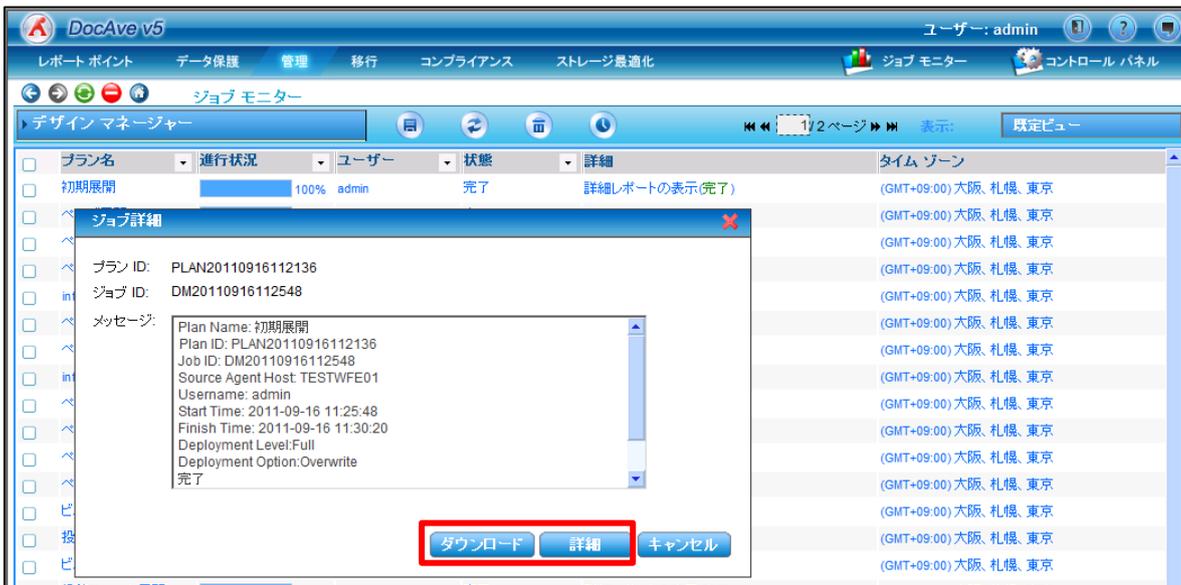
7. 実行したプランのジョブが完了したことを確認します。



8. ジョブの実行結果の詳細を確認したい場合は、当該のジョブの「詳細レポートの表示(完了)」をクリックします。



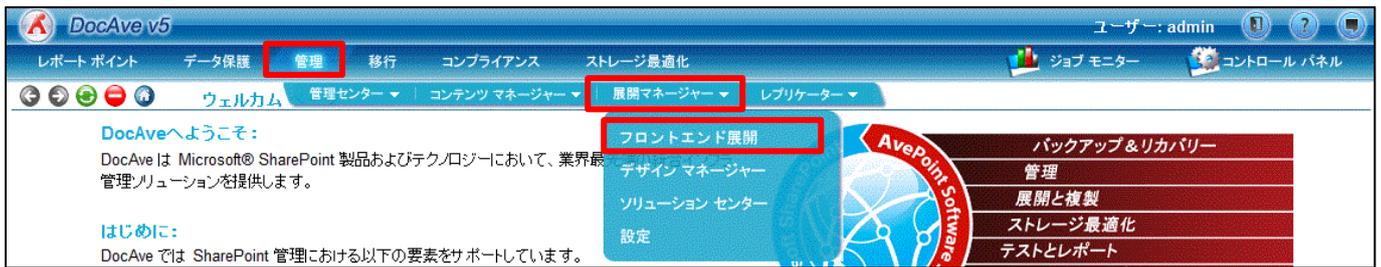
9. ジョブの詳細が表示されますので、実行ログの「ダウンロード」や実行結果の「詳細」を確認することができます。



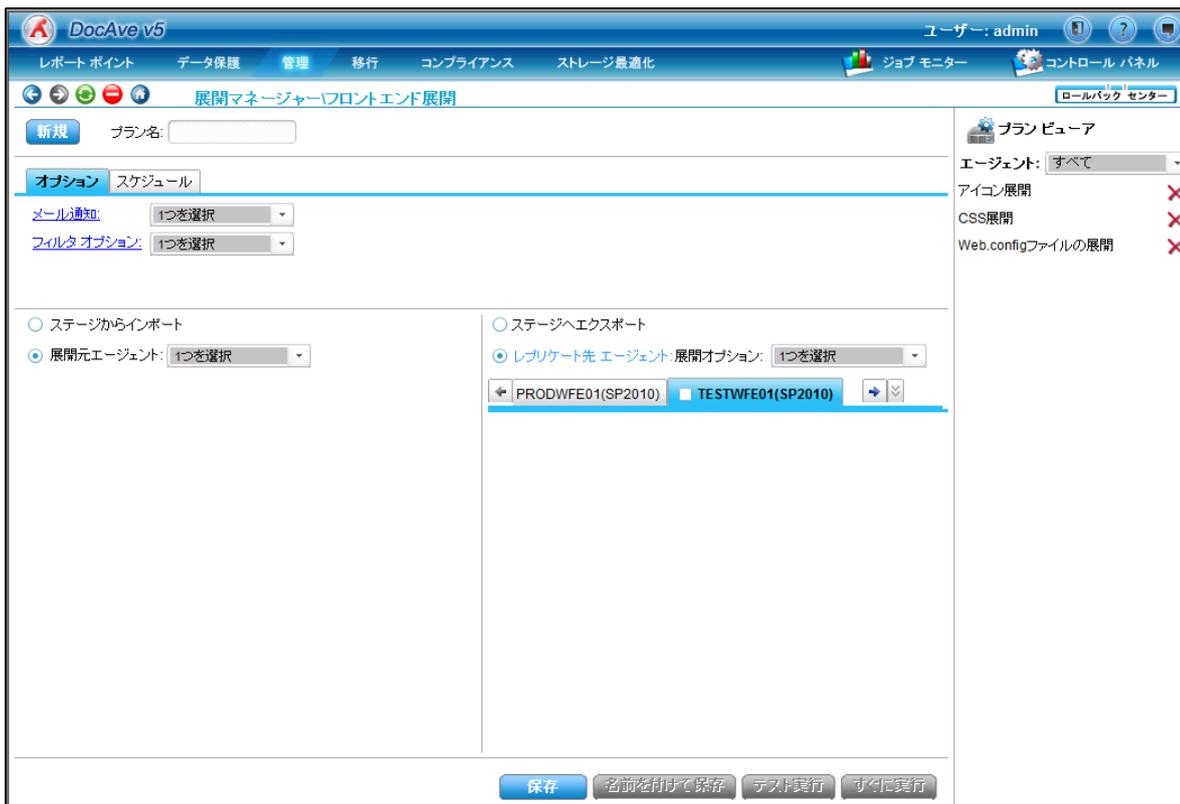
#### 4.4.5. フロントエンド展開プランの設定

このセクションではフロントエンド展開のプランの設定手順について説明します。

1. DocAve 管理コンソールから、「管理」-「展開マネージャー」-「フロントエンド展開」を選択します。



2. フロントエンド展開の設定画面が開きます。



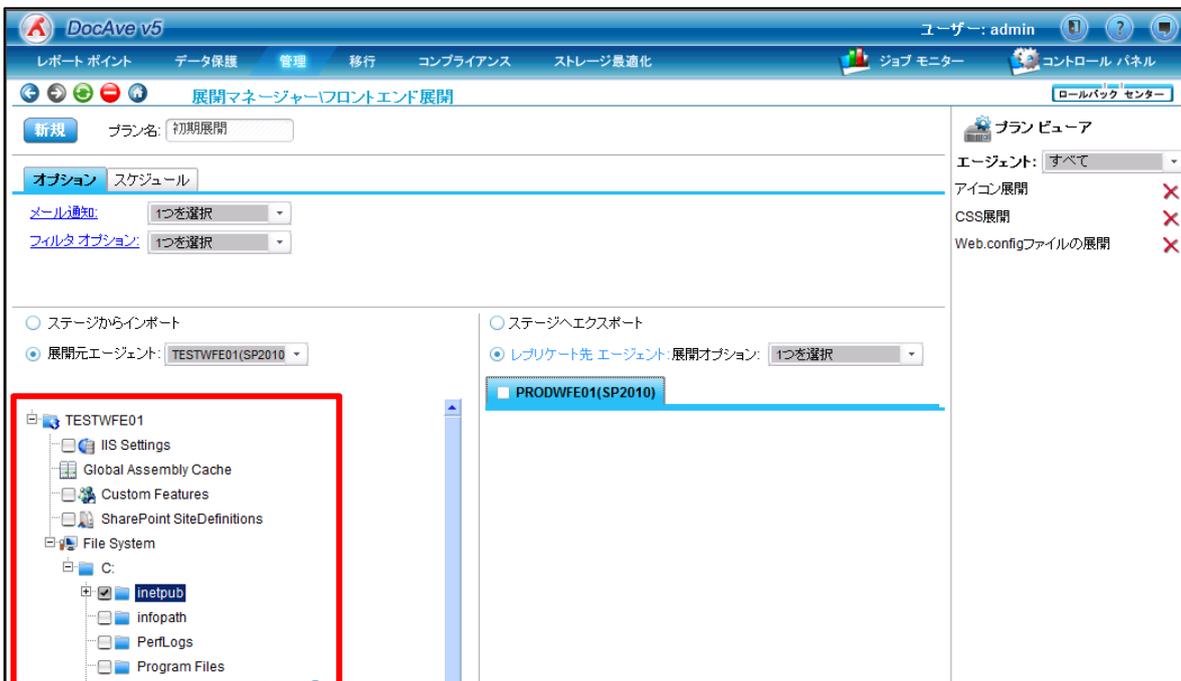
3. 「プラン名」に任意のプラン名を入力します。



4. 左下ペインで「展開元」を選択し、プルダウンメニューから展開元の環境に接続可能なエージェントを選択します。



5. 展開元のツリーで表示されます。ツリーを展開し、対象の「展開元」をチェックします。例として、「File System」を選択しておりますが、必要に応じて展開元をチェックします。



6. 右下ペインで、「レプリケート先エージェント」が選択されていることを確認し、下部のタブから展開先の環境に接続可能なエージェントにチェックを入れます。チェックを入れると展開方法を設定できるようになります。

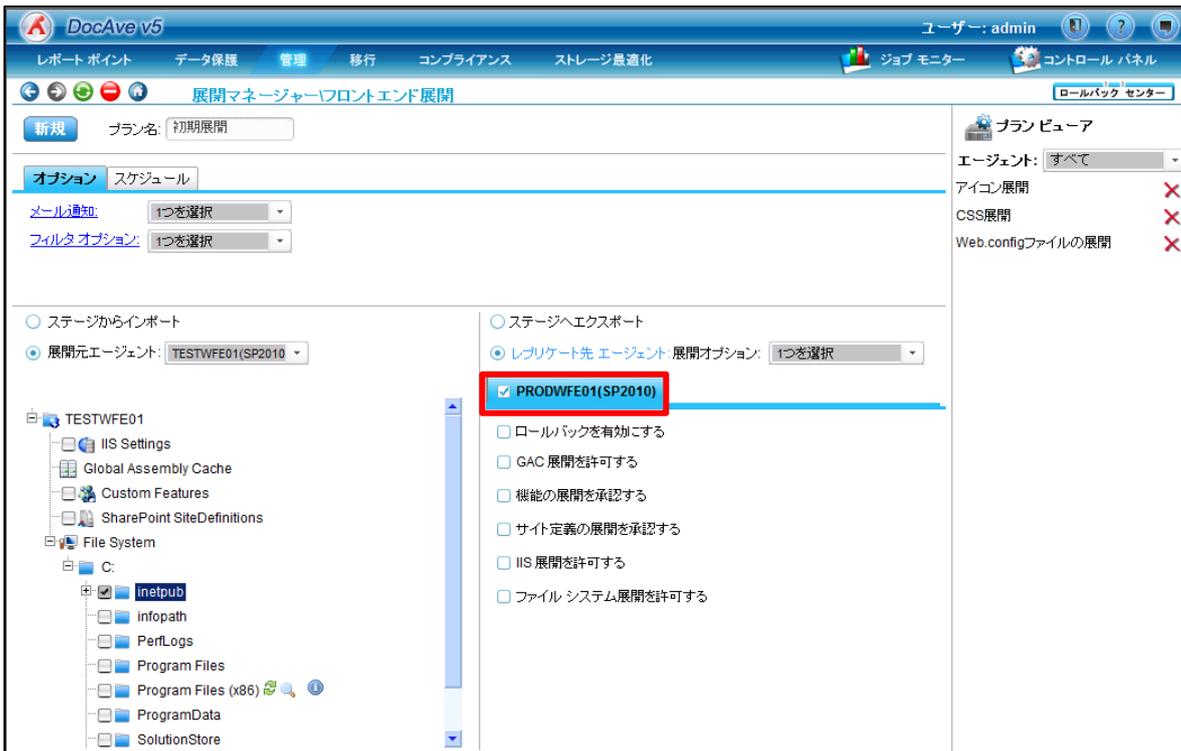
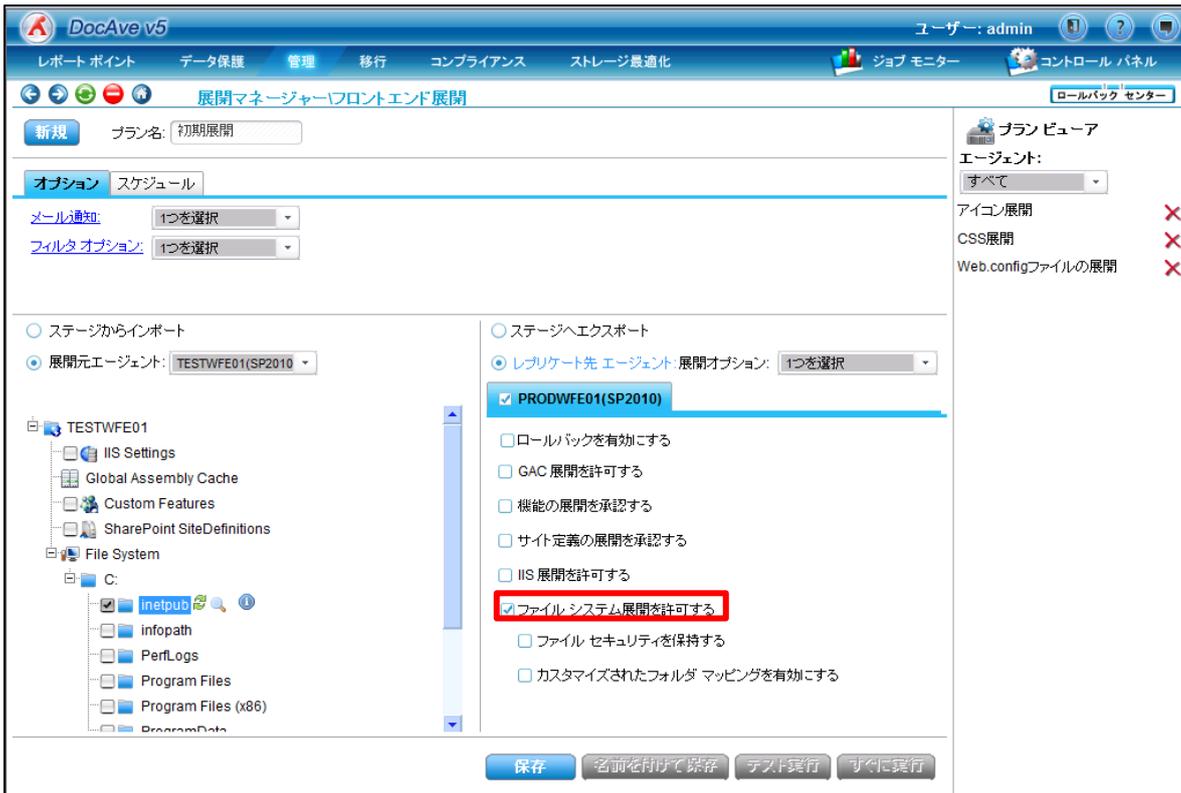


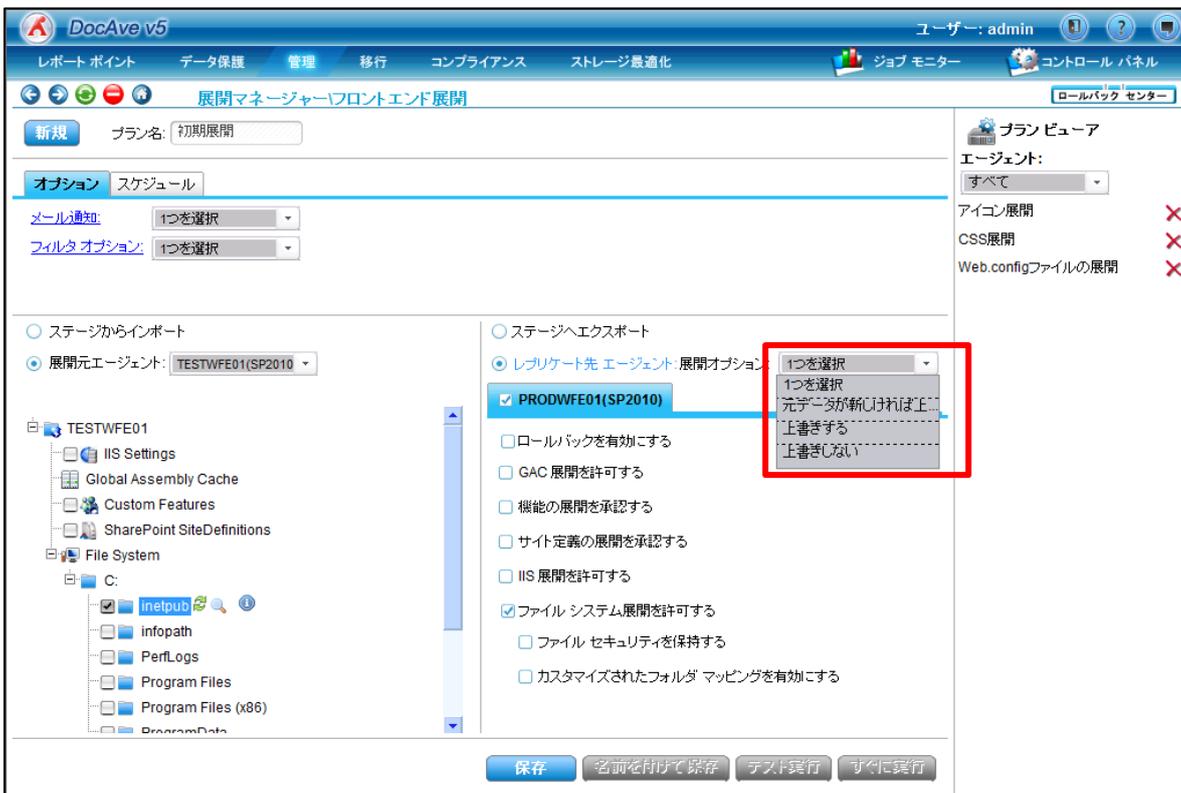
表 4.4-3 展開先の設定項目一覧

設定項目	説明
ロールバックを有効にする	ロールバックを構成することができます。
GAC の展開を許可する	展開先へ選択したグローバルアセンブリキャッシュ (GAC) を展開します。
機能の展開を承認する	展開先へ選択したカスタム機能を展開します。
サイト定義の展開を承認する	展開先へ選択したサイト定義を展開します。
IIS 展開を許可する	展開先へ選択した IIS を展開します。
ファイルシステム展開を許可する	展開先へ選択したファイルを展開します。展開元のフォルダパスと展開先のフォルダパスのマッピングを行うことができます。

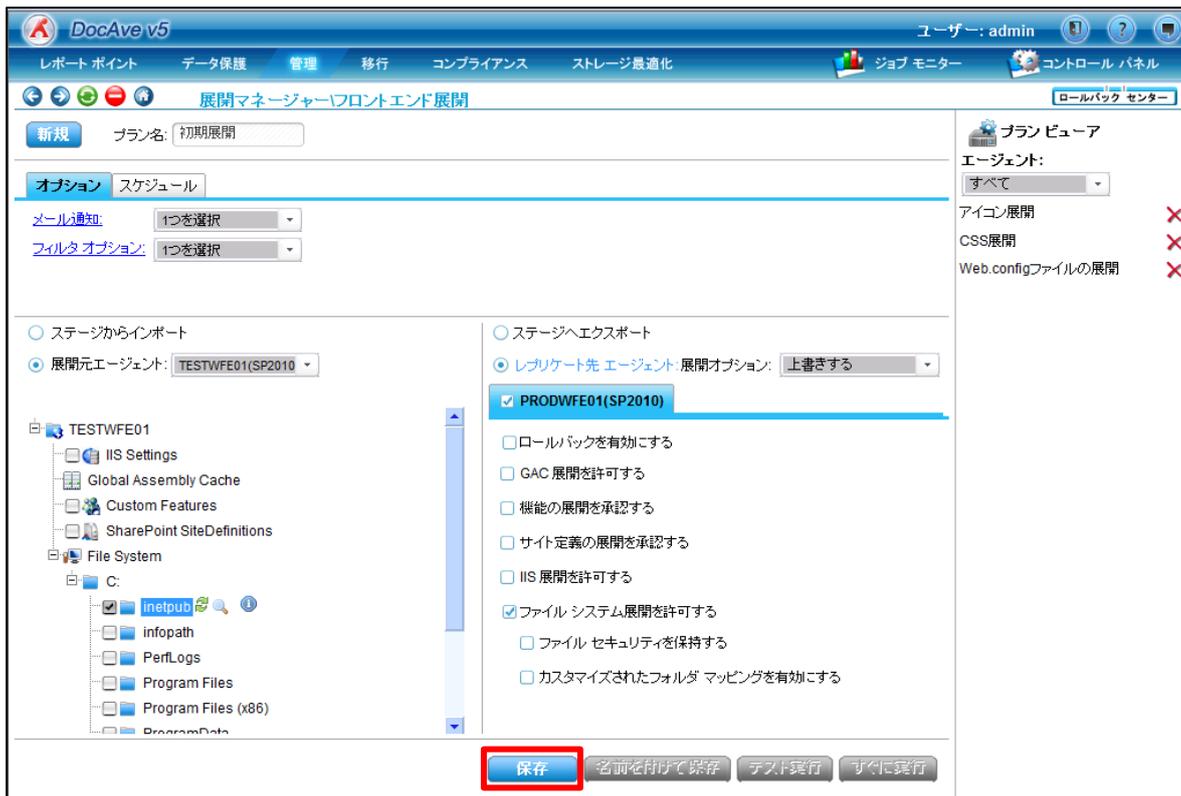
7. 展開元に応じて、オプションを選択します。例では、展開元が「File System」となるため、「ファイルシステム展開を許可する」をチェックしております。



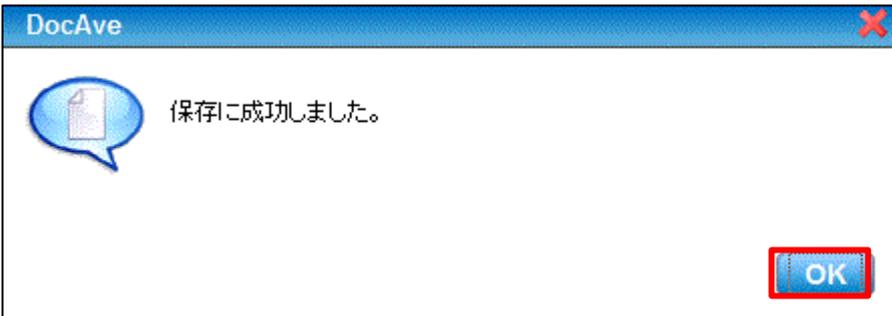
8. 「展開オプション」を選択します。シナリオに応じて、展開オプションを選択します。



9. フロントエンド展開の構成内容を確認し、「保存」をクリックします。



10. 「保存に成功しました。」と表示されることを確認し、「OK」をクリックします。



11. プランビューアに保存したプランが表示されていることを確認します。



#### 4.4.6 フロントエンド展開－オプションの設定

このセクションではオプションの設定手順について説明します。

1. 「オプション」タブでオプションの設定を行います。

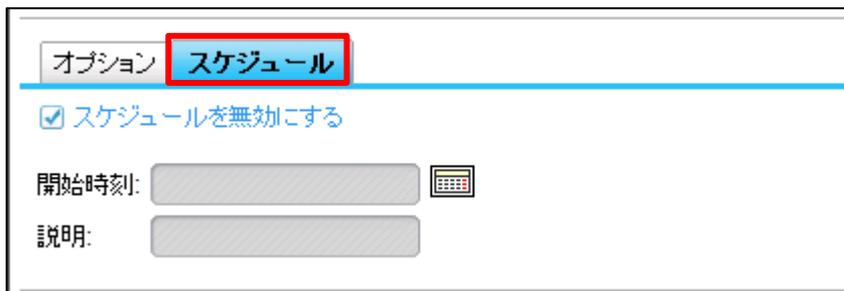
表 4.4-4 「オプション」の設定項目一覧

設定項目	説明
メール通知	メール通知のプロファイルを選択します。 ※メール通知のプロファイルは「コントロールパネル」－「レポート」－「メール通知」から設定することが可能です。
フィルタオプション	フィルタオプションのプロファイルを選択します。 ※フィルタオプションのプロファイルは「管理」－「展開マネージャー」－「フィルタオプション」から設定することが可能です。

#### 4.4.7. フロントエンド展開－スケジュールの設定

このセクションではスケジュールの設定手順について説明します。

1. 「スケジュール」タブでスケジュールの設定を行います。既定では「スケジュールを無効にする」が選択されています。



オプション **スケジュール**

スケジュールを無効にする

開始時刻:  

説明:

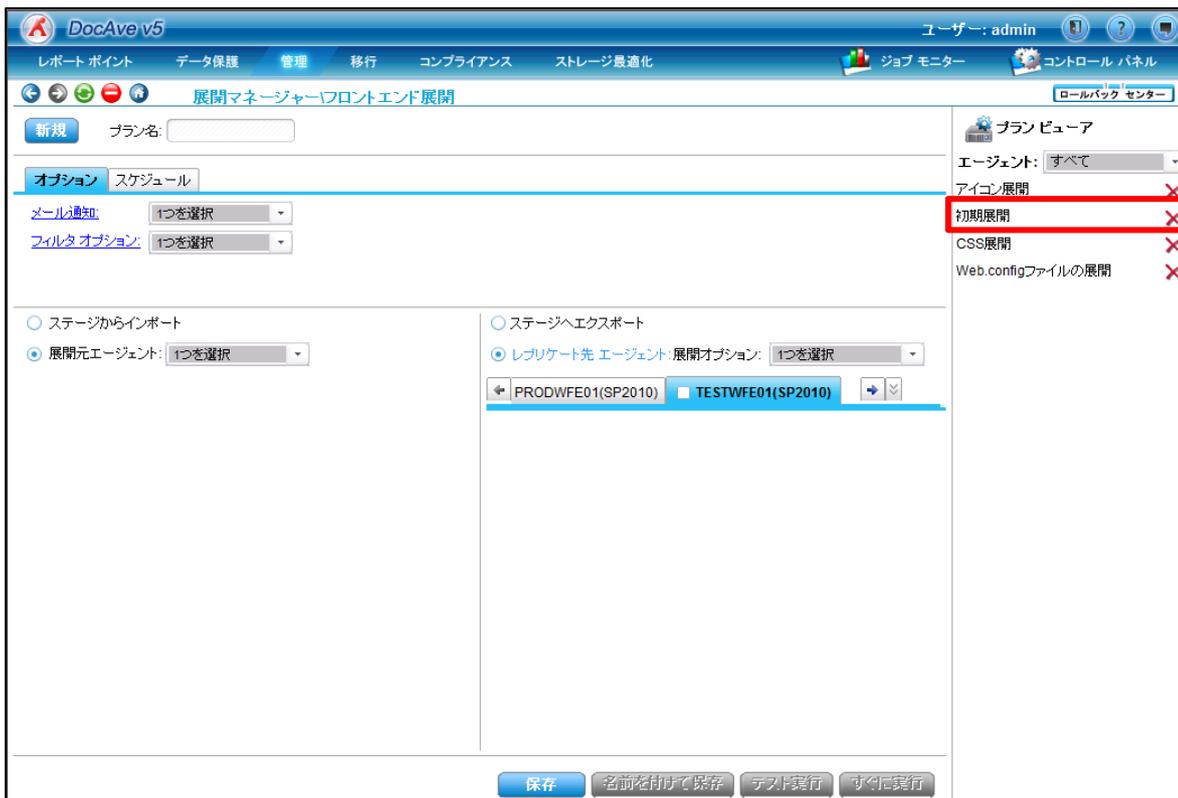
表 4.4-5 「スケジュール」の設定項目一覧

設定項目	説明
スケジュールを無効にする	チェックボックスを有効にすると、スケジュールが無効になり即時実行されます。
開始時刻	入力した時刻に展開が開始されます。
説明	スケジュールの説明を入力します。

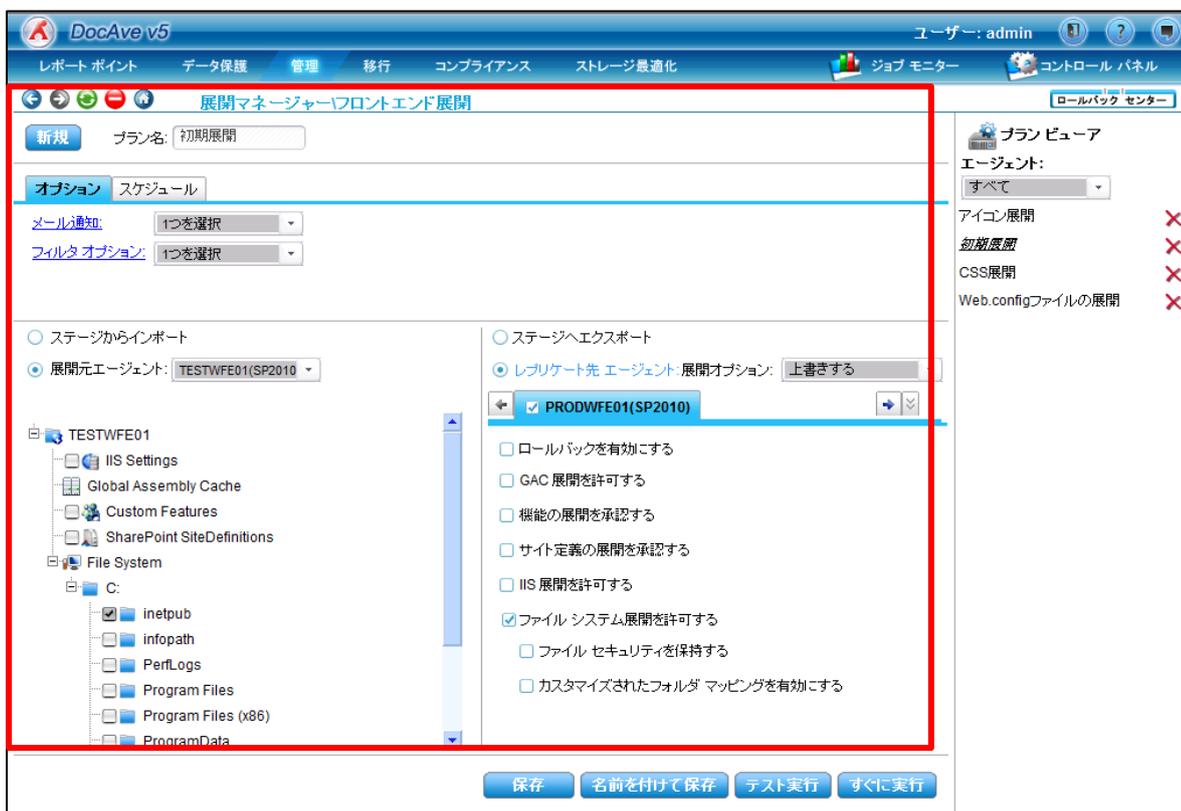
#### 4.4.8. フロントエンド展開－実行と結果の確認

このセクションではフロントエンド展開の実行と結果確認について説明します。

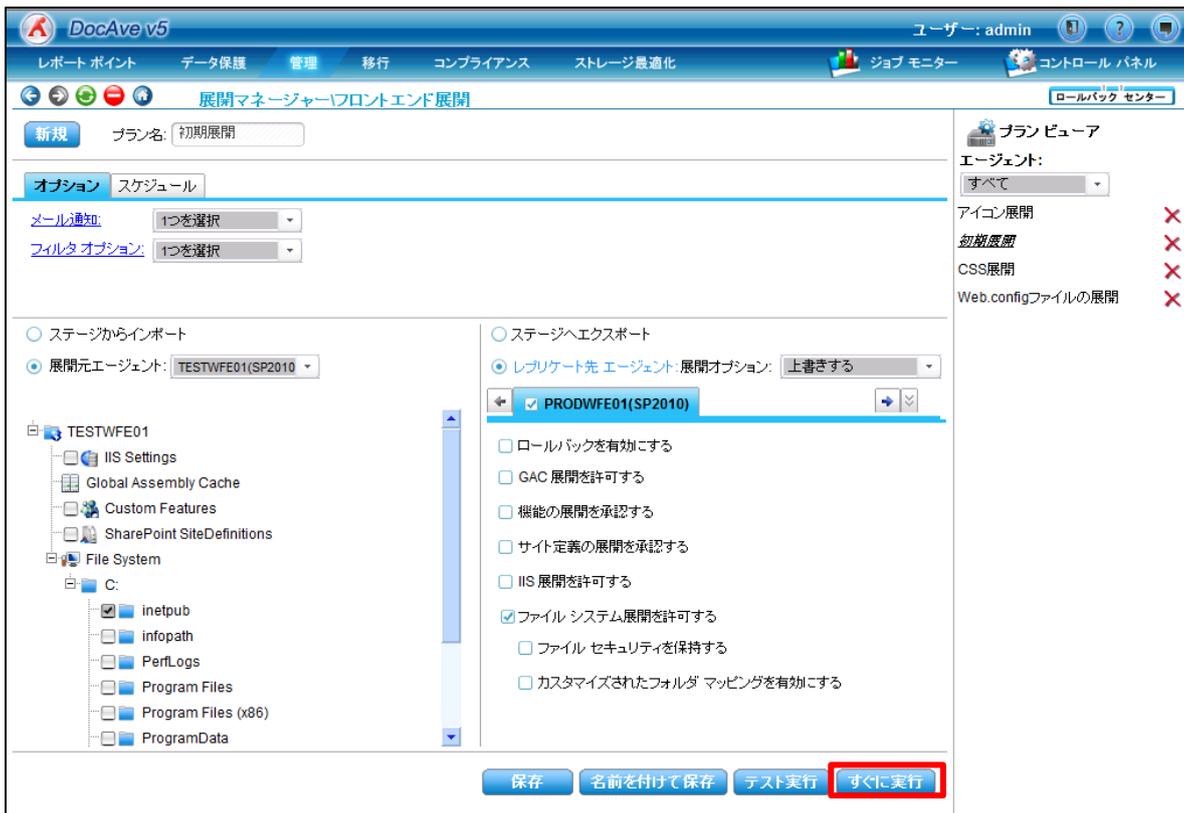
1. 「プランビューア」より実行する「プラン」を選択します。



2. 選択したプランの設定が表示されていることを確認します。



3. 「**すぐに実行**」をクリックします。



4. フロントエンド展開が実行され、実行中の画面が表示されます。必要に応じて、「**ジョブレポートに移る**」を選択します。



5. ジョブモニターにて、実行したプランのジョブが進行中であることを確認します。



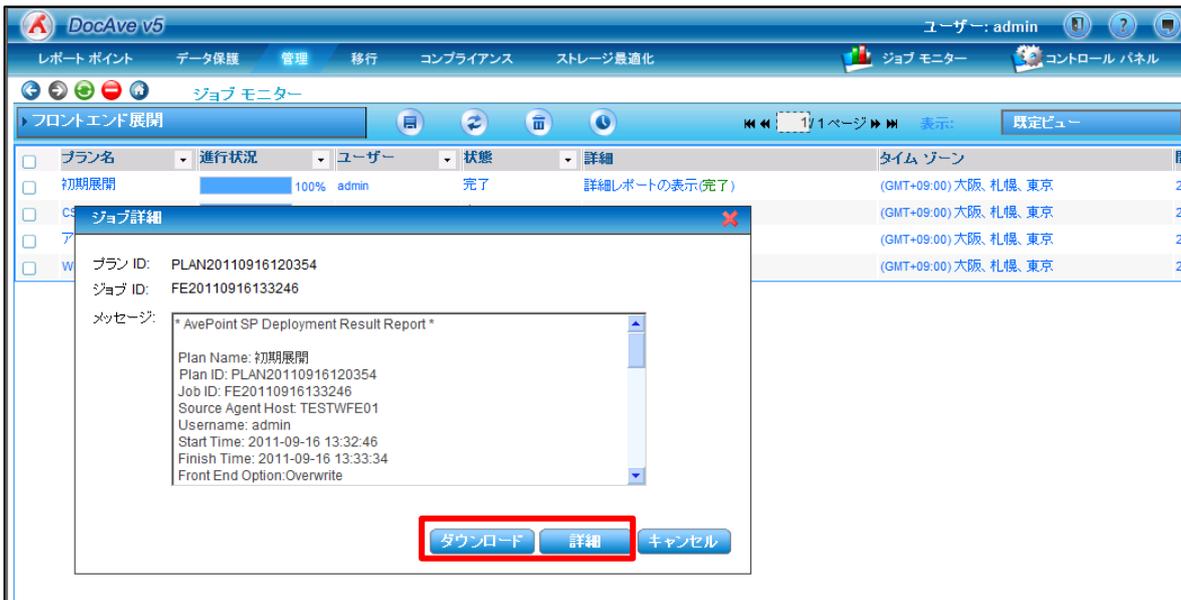
6. 実行したプランのジョブが完了したことを確認します。



7. ジョブの実行結果の詳細を確認したい場合は、当該のジョブの「詳細レポートの表示(完了)」をクリックします。



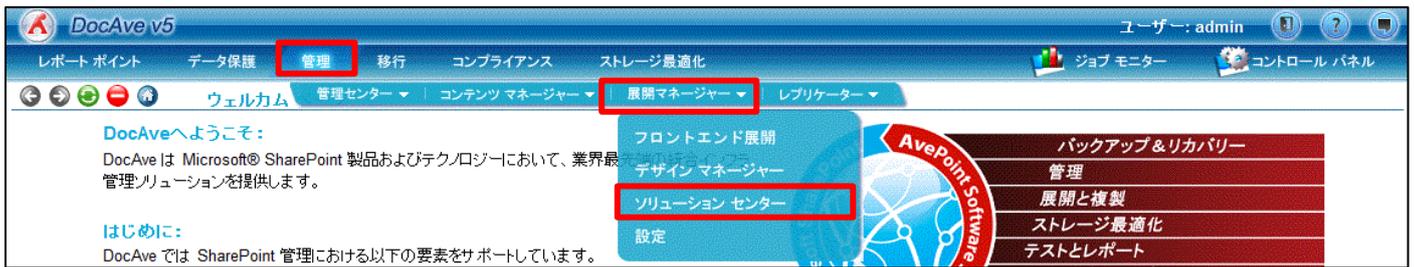
8. ジョブの詳細が表示されますので、実行ログの「ダウンロード」や実行結果の「詳細」を確認することができます。



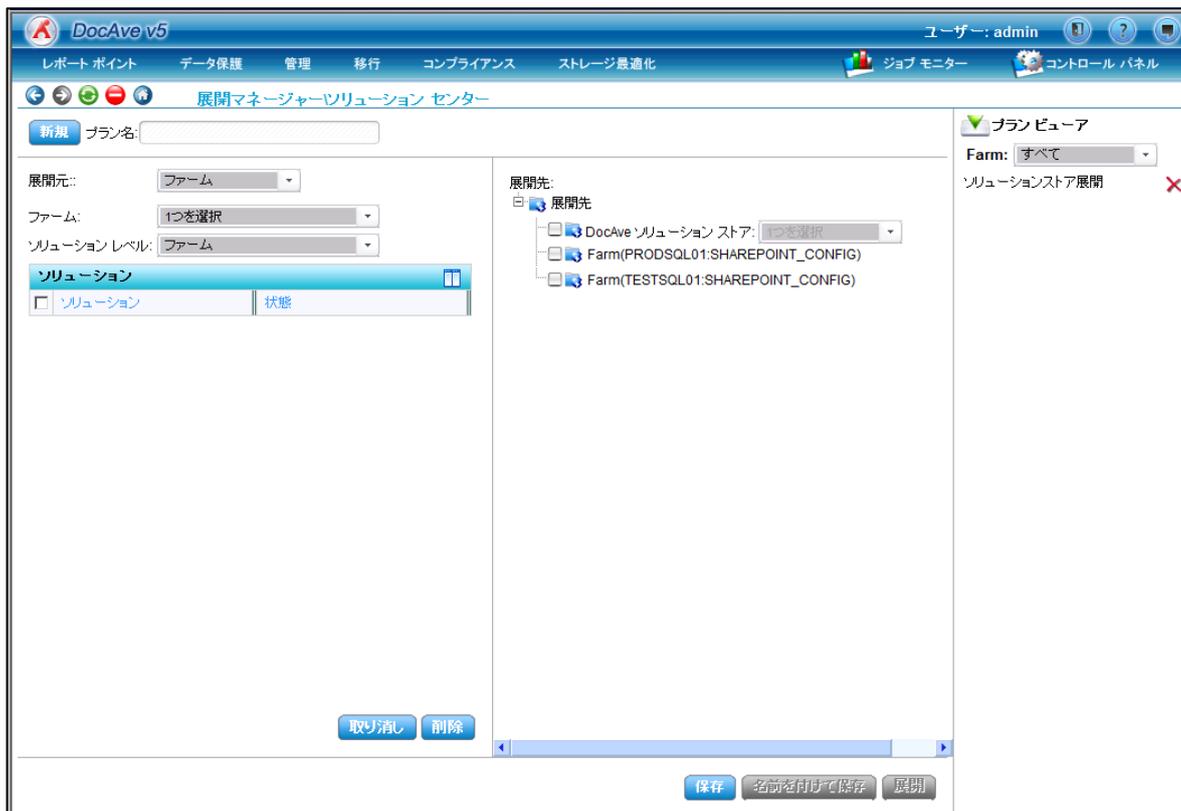
#### 4.4.9. ソリューションセンタープランの設定

このセクションではソリューションセンターのプランの設定手順について説明します。

1. DocAve 管理コンソールから、「管理」-「展開マネージャー」-「ソリューションセンター」を選択します。



2. ソリューションセンターの設定画面が開きます。



3. 「展開元」を選択します。展開元はデフォルトでは、「ファーム」が選択されています。

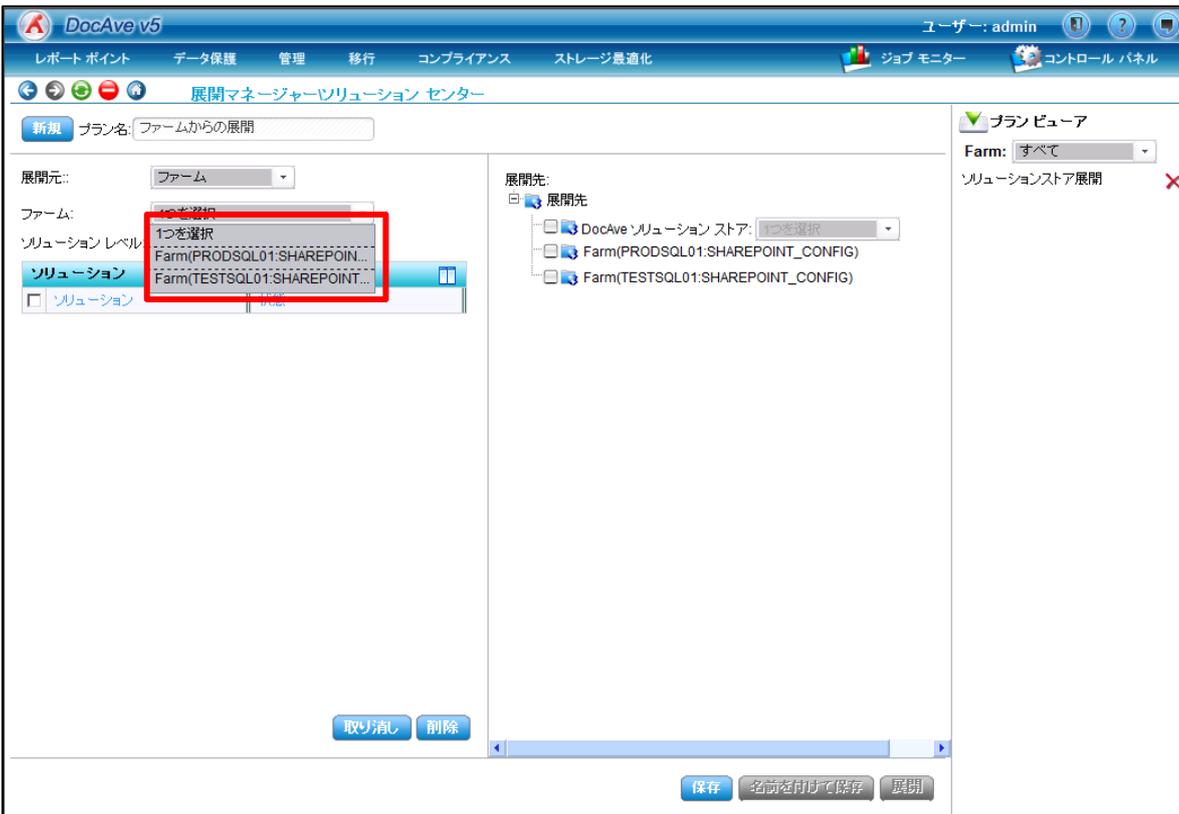


(1) 「展開元」に「ファーム」を選択した場合

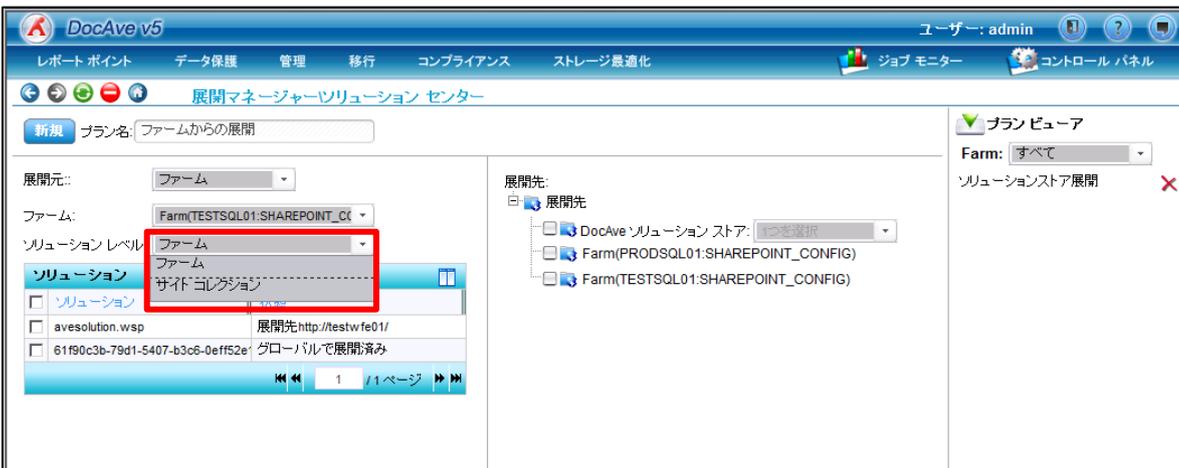
i. 「プラン名」に任意のプラン名を入力します。



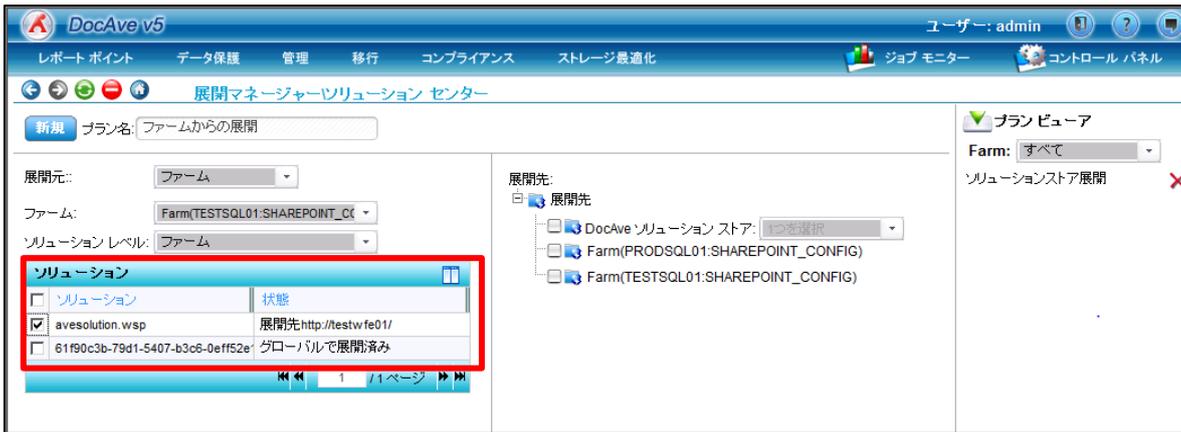
ii. 「ファーム」のプルダウンメニューより対象のファームを選択します。



iii. 「ソリューションレベル」のプルダウンメニューより展開されているソリューションのレベルを選択します。



iv. すでに展開済みのソリューションが一覧で表示されますので、展開の対象となる「ソリューション」をチェックします。



(2) 「展開元」に「ファイルシステム」を選択した場合

i. 「プラン名」に任意のプラン名を入力します。



ii. 「展開元エージェント」から任意のエージェントを選択します。

※展開元は、以下で事前に設定しておく必要があります。

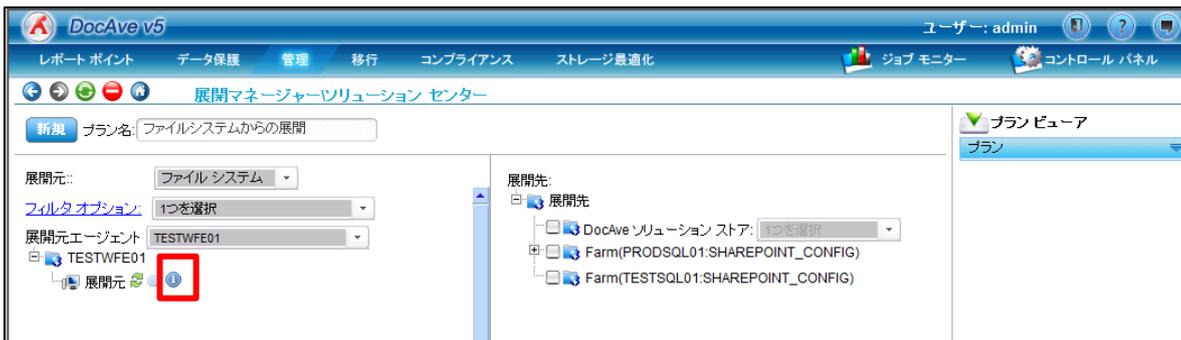
「管理」-「展開マネージャー」-「設定」に移動し、「ソリューションセンター設定」タブより「展開元デバイス」を設定します。



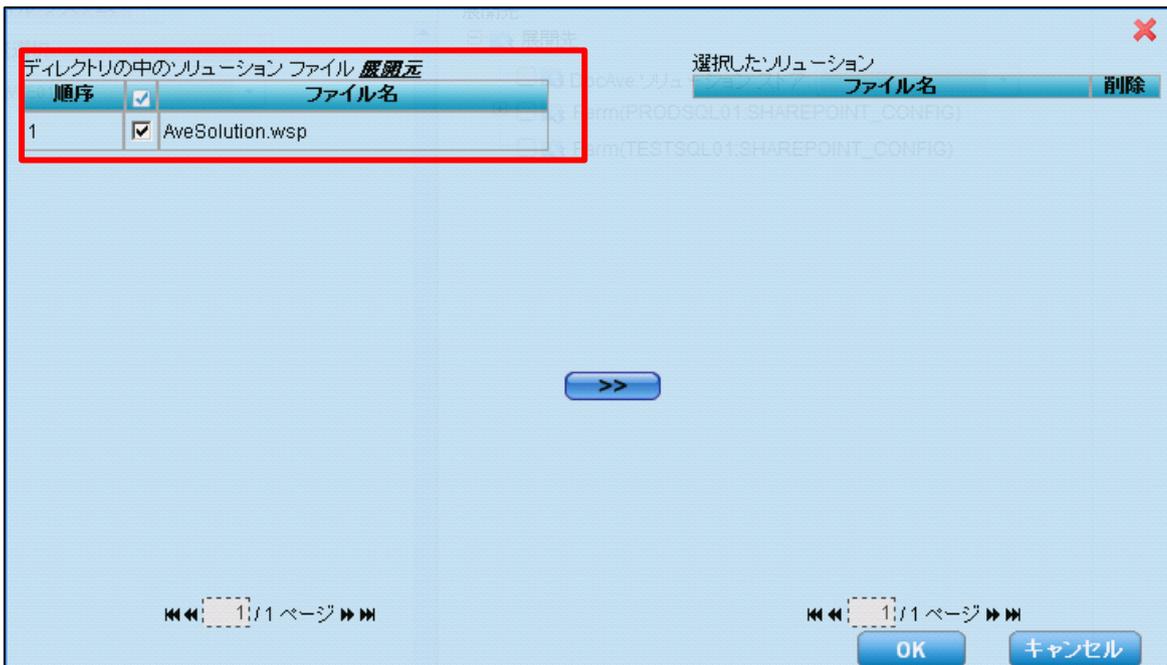
iii. 事前に設定した展開元がツリー表示されます。



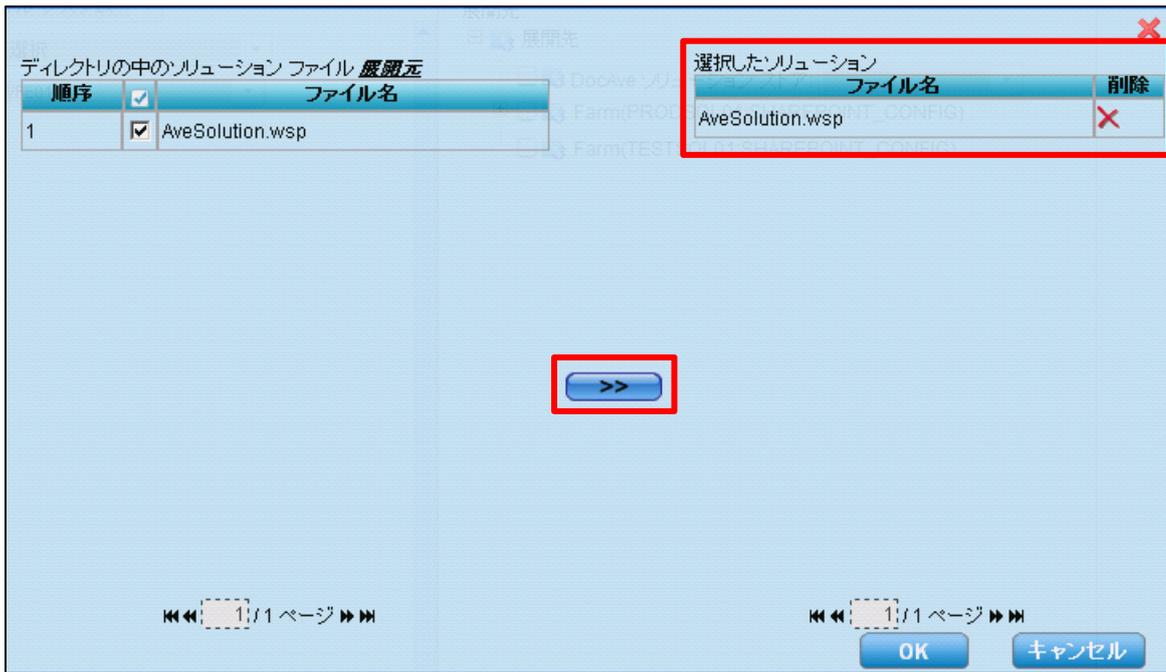
iv. 展開元の右側に表示される「i」アイコンをクリックします。



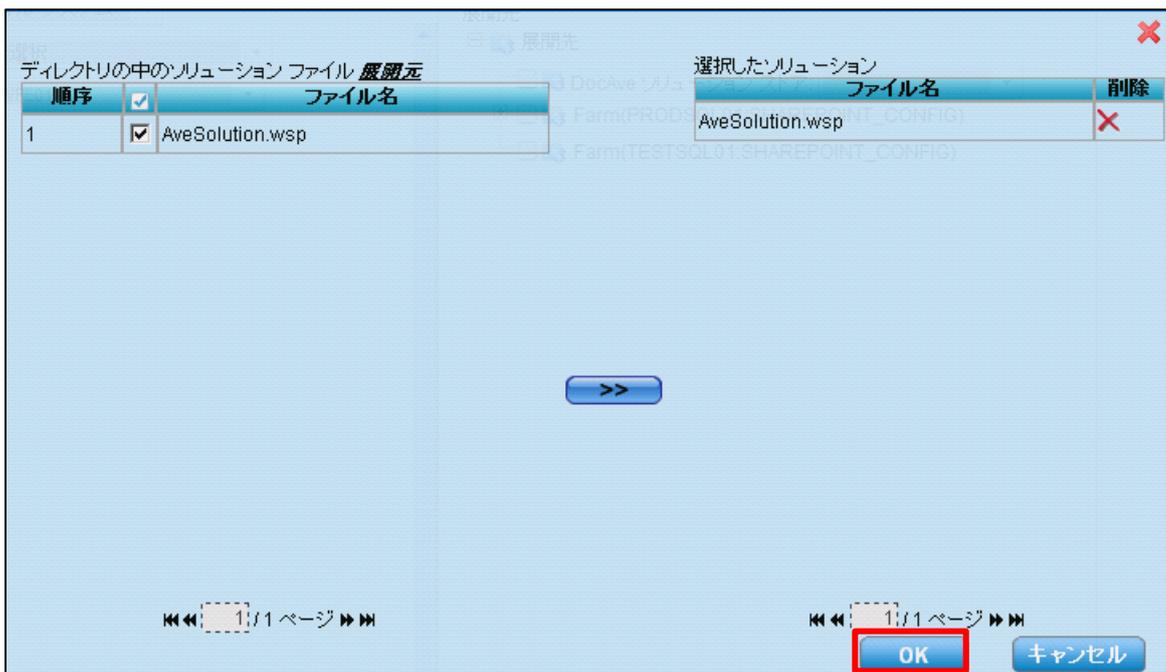
v. 展開元ソリューションの選択画面が表示されますので、展開対象の「ソリューション」にチェックします。



- vi. 「>>」アイコンをクリックし、選択したソリューションに追加されたことを確認します。



- vii. 「OK」をクリックします。



(3) 「展開元」に「ソリューションストア」を選択した場合

※ソリューションストアを展開元に設定する場合は、事前に DocAve ソリューションストアにソリューションを展開しておく必要があります。

i. 「プラン名」に任意のプラン名を入力します。



ii. 展開元のソリューションが保存されている「論理デバイス」を選択します。



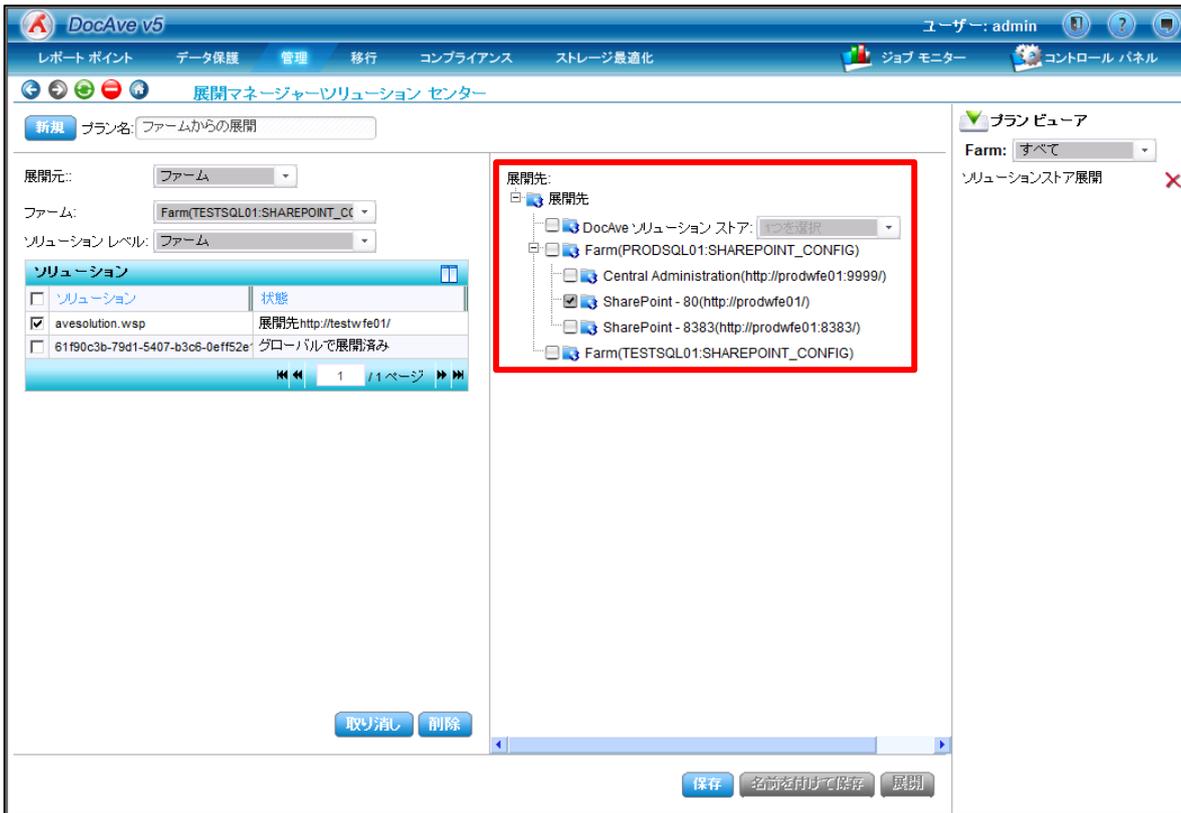
iii. 「コントロールエージェント」を選択します。



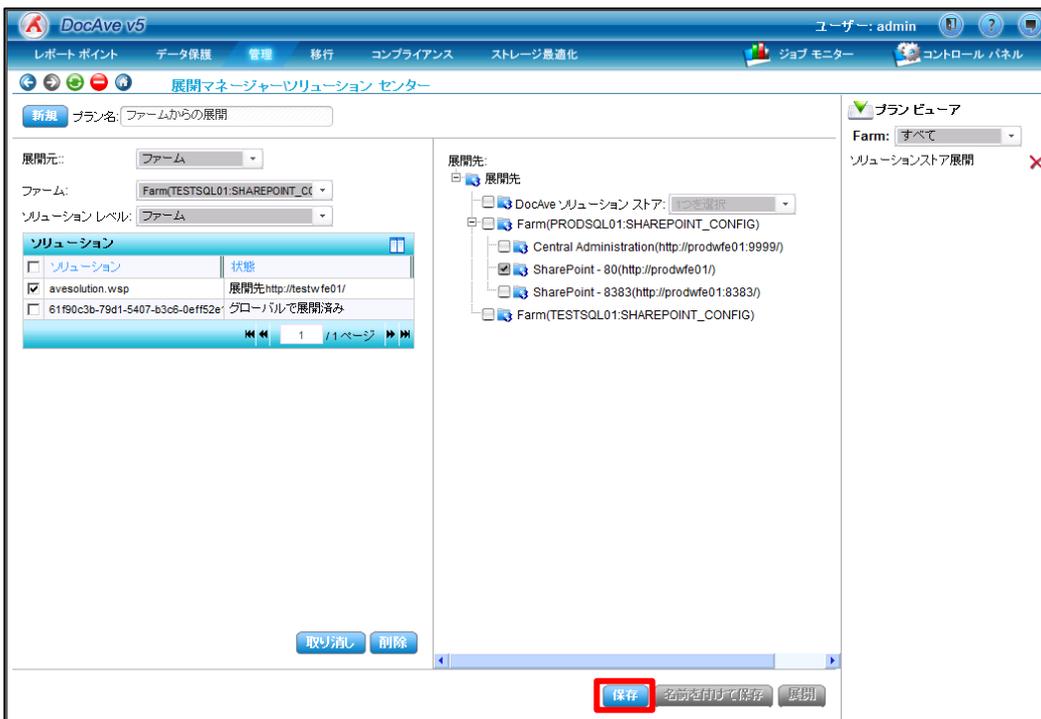
iv. 展開元となる「ソリューション」をチェックします。



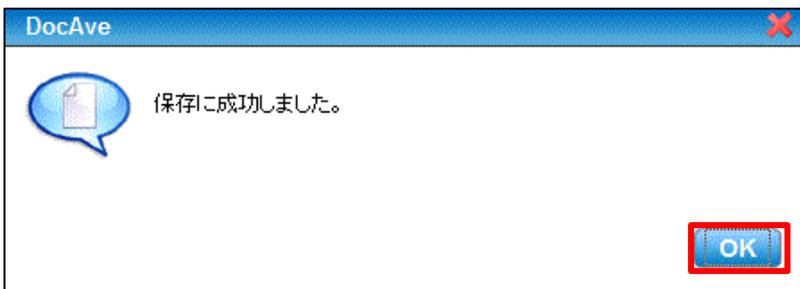
4. 右側の「展開先」にて、任意の展開先をチェックします。



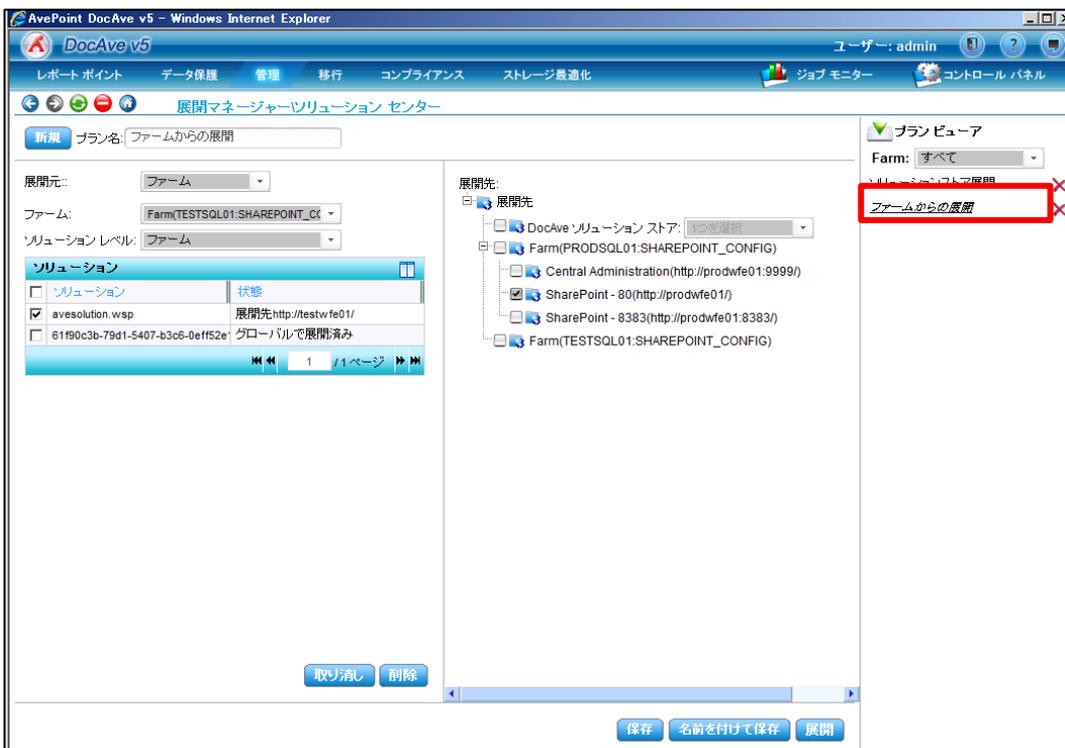
5. 「保存」をクリックします。



6. 「保存に成功しました。」と表示されることを確認し、「OK」をクリックします。



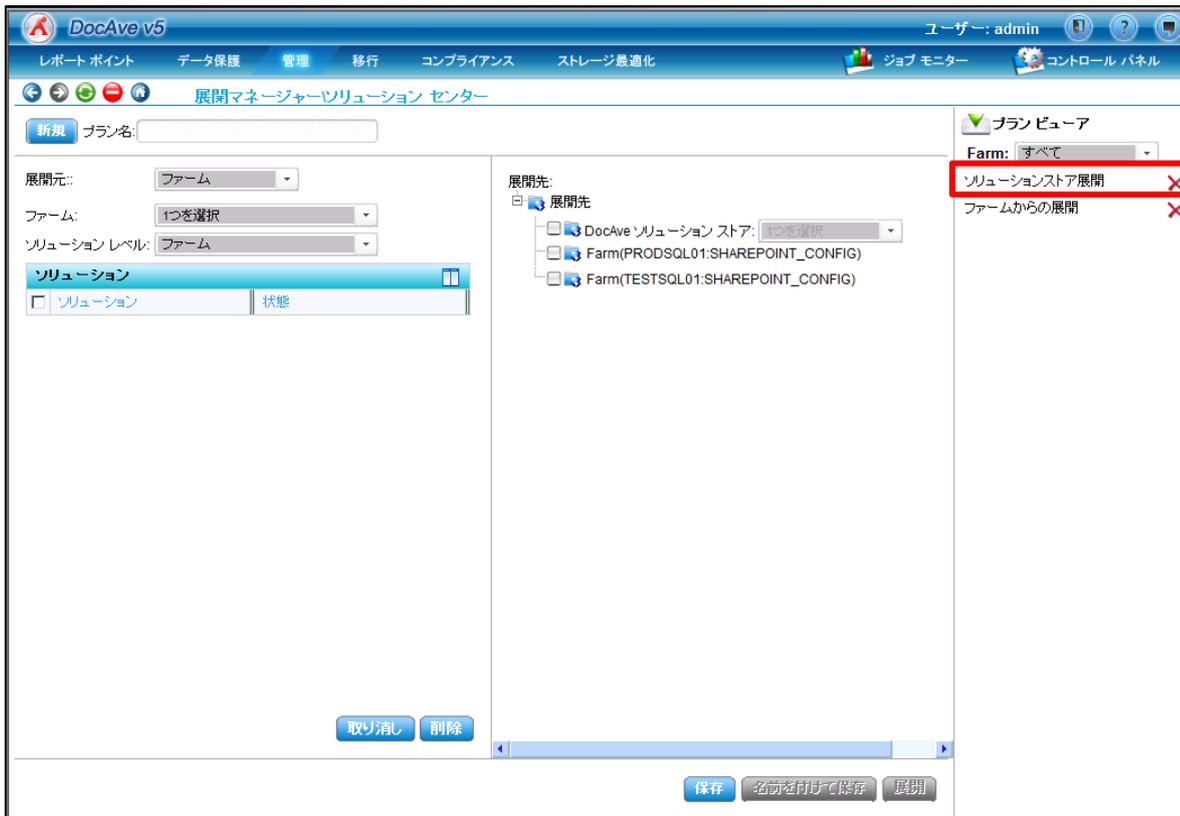
7. プランビューアに表示された「プラン」が確認できることを確認します。



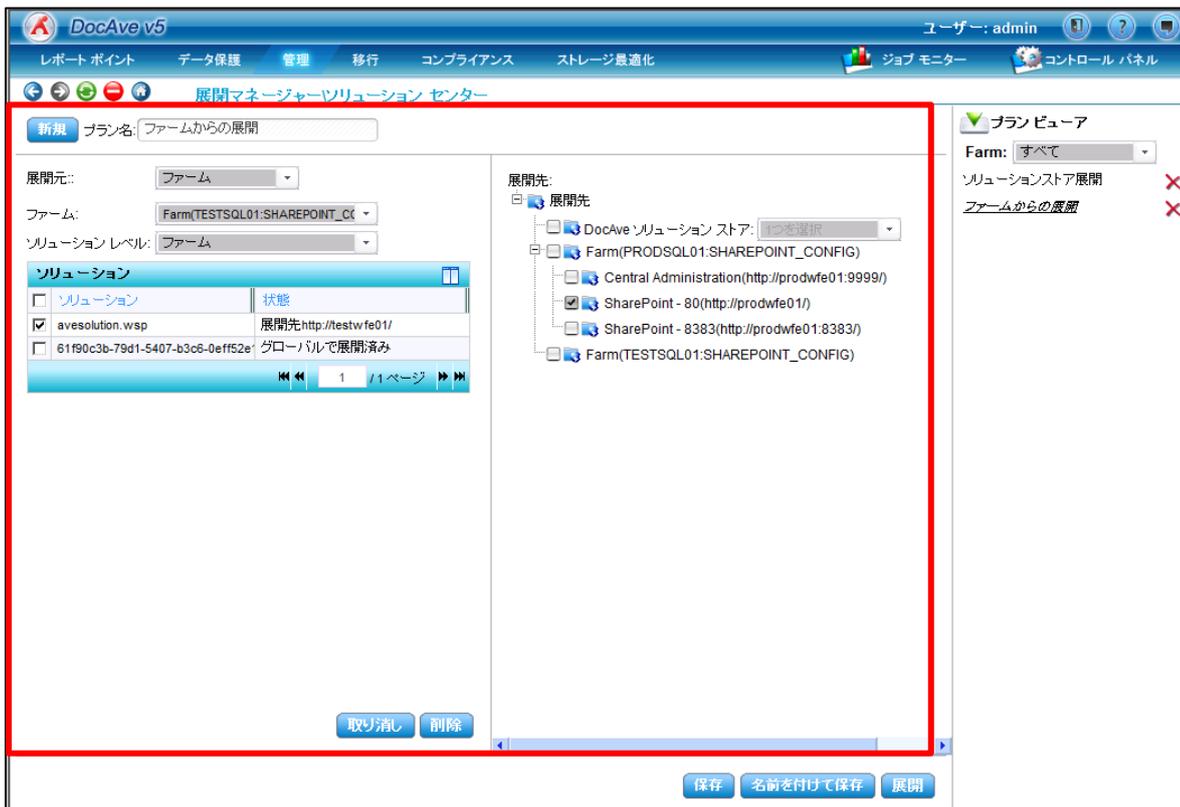
#### 4.4.10. ソリューションセンター実行と結果の確認

このセクションではソリューションセンターの実行と結果確認について説明します。

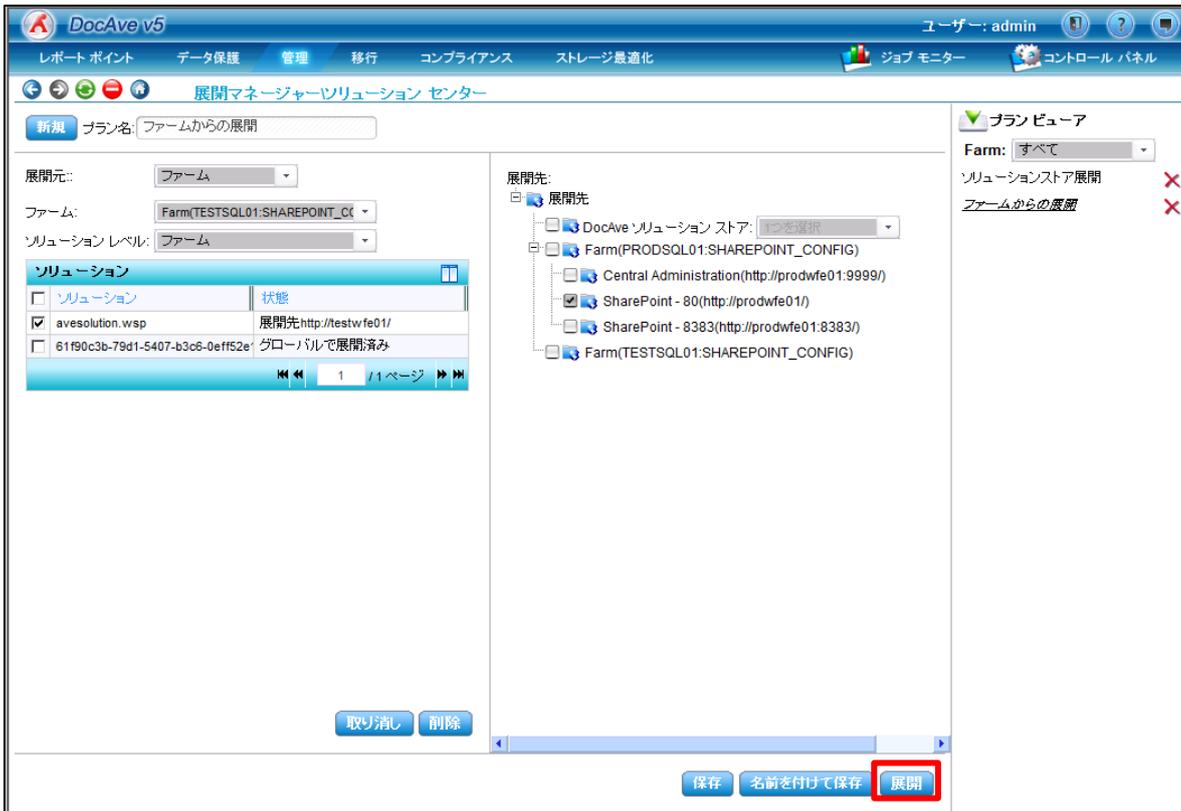
1. 「プランビューア」より実行する「プラン」を選択します。



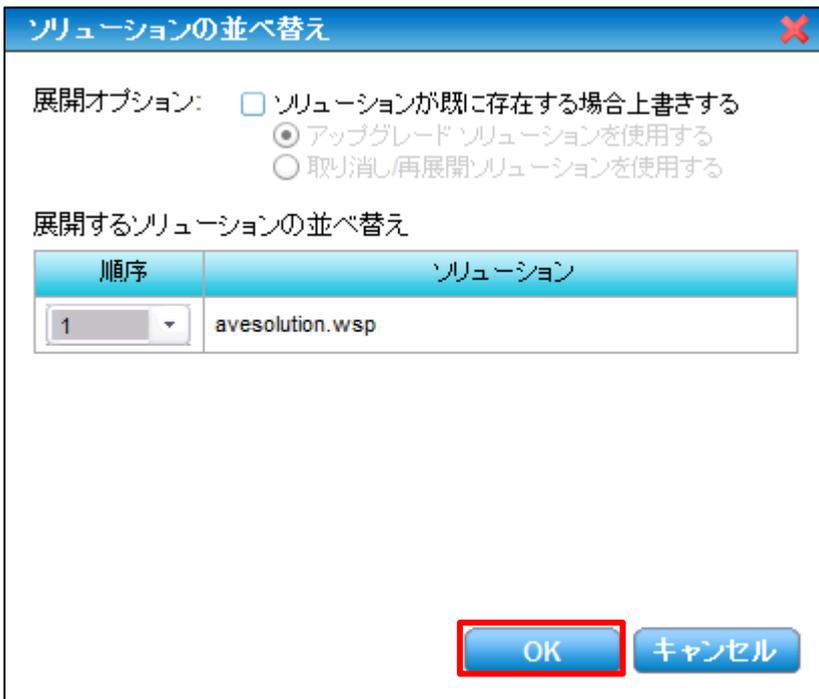
2. 選択したプランの設定が表示されていることを確認します。



3. 「展開」をクリックします。



4. ソリューションが既に存在する場合は、「展開オプション」にチェックを入れて、「OK」をクリックします。



5. ソリューションセンターが実行され、実行中の画面が表示されます。必要に応じて、「ジョブレポートに移る」を選択します。



6. ジョブモニターにて、実行したプランのジョブが進行中であることを確認します。



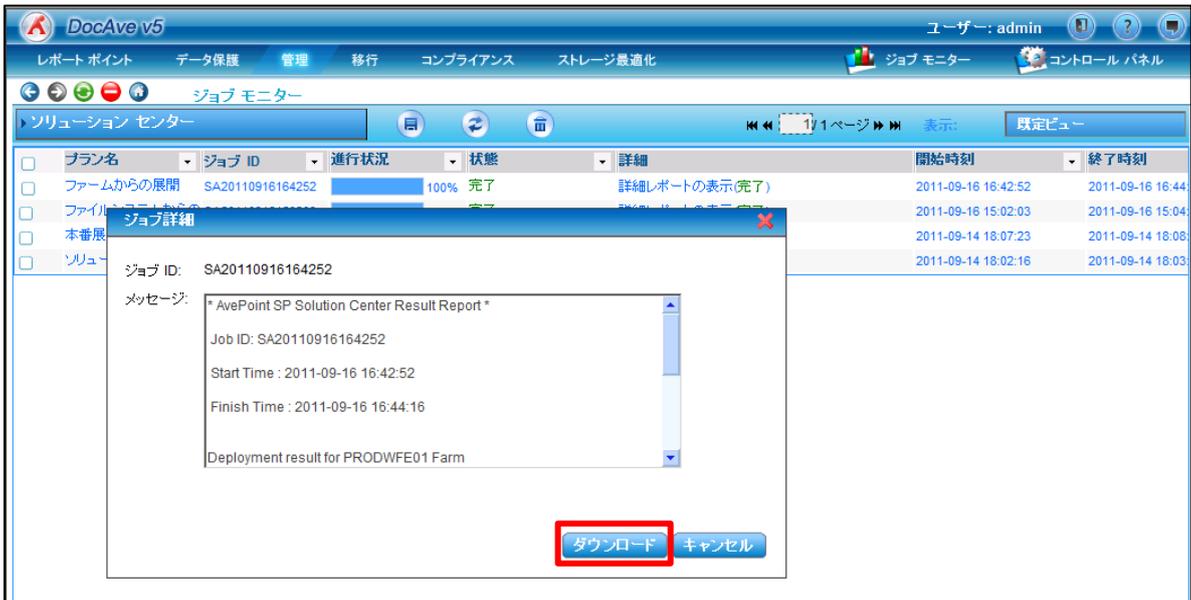
7. 実行したプランのジョブが完了したことを確認します。



8. ジョブの実行結果の詳細を確認したい場合は、当該のジョブの「詳細レポートの表示(完了)」をクリックします。



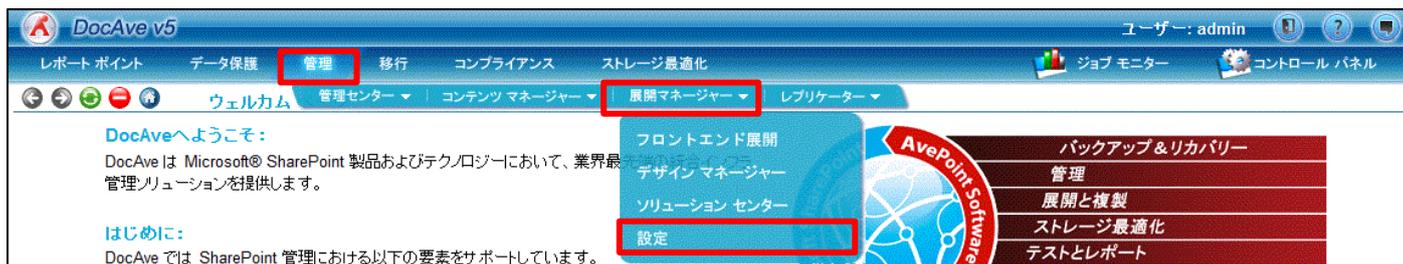
9. ジョブの詳細が表示されますので、実行ログの「ダウンロード」を行うことができます。



#### 4.4.11. デザインマネージャー設定

このセクションではデザインマネージャー設定の手順について説明します。

1. DocAve 管理コンソールから、「管理」-「展開マネージャー」-「設定」を選択します。



2. 「デザインマネージャー設定」タブを開きます。



(1) エクスポート先

「デザインマネージャー設定」-「エクスポート先」では、ステージモードで展開する際に必要となるエクスポート先の設定を行います。

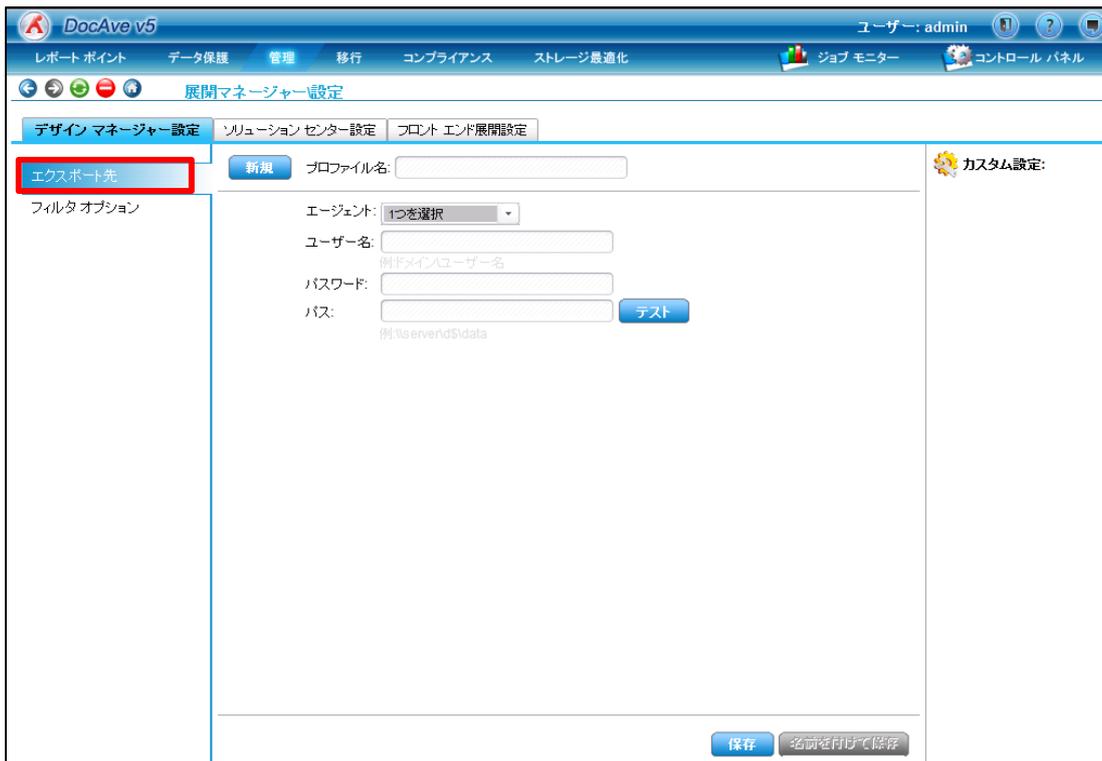


表 4.4-6 「エクスポート先」の設定項目一覧

設定項目	説明
プロフィール名	プロフィール名を指定します。
エージェント	実行するエージェントを指定します。
ユーザー名	エクスポート先にアクセスするユーザー名を指定します。
パスワード	エクスポート先にアクセスするユーザーのパスワードを指定します。
パス	エクスポート先のパスを指定します。

(2) フィルタオプション

「デザインマネージャー設定」-「フィルタオプション」では、特定のサイトやアイテムを展開対象より除外や包含する設定を行います。

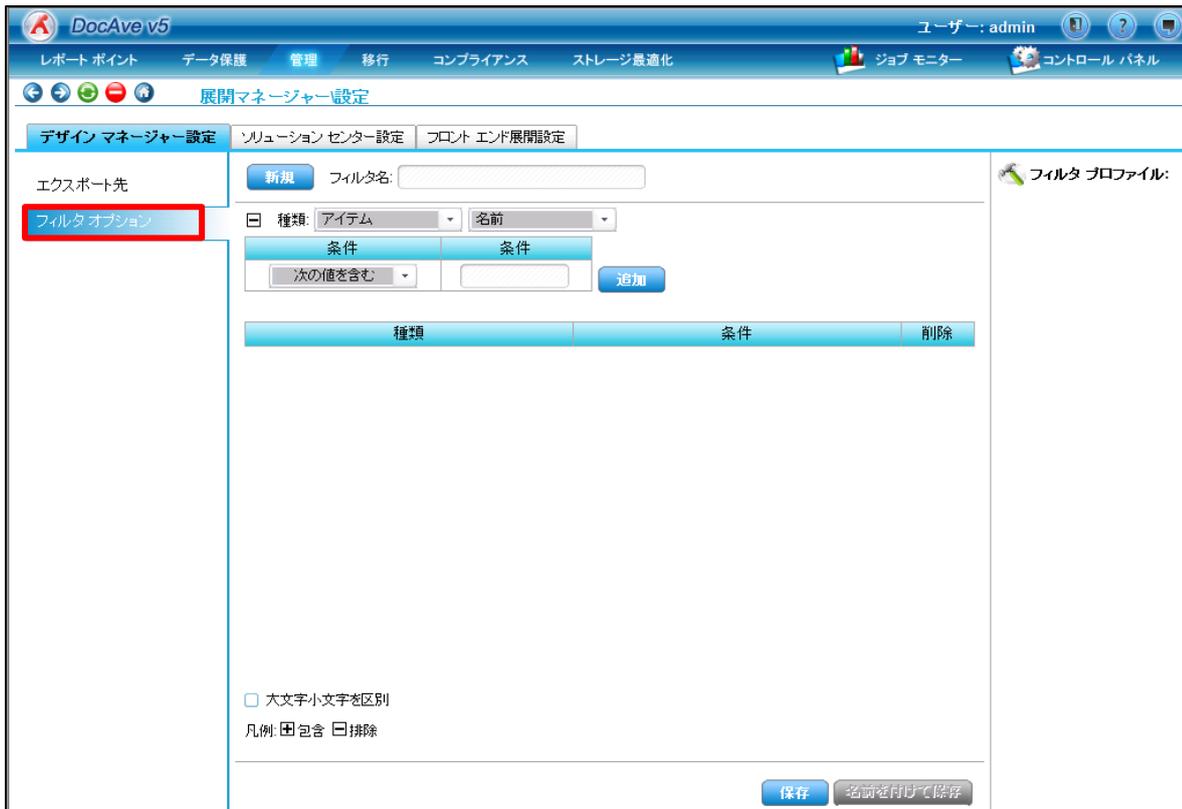


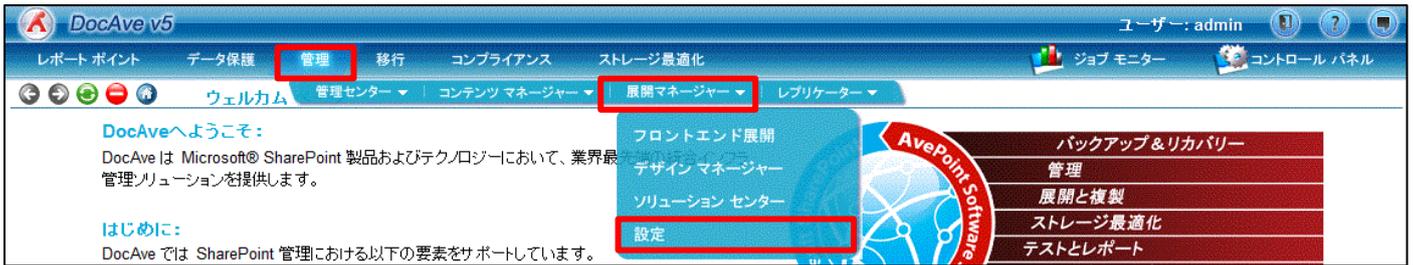
表 4.4-7 「フィルタオプション」の設定項目一覧

設定項目	説明
フィルタ名	フィルタ名を指定します。
種類	フィルタ条件を設定するコンテンツの種類を指定します。 (例)サイトコレクション、リスト、アイテムなど
条件	指定した「種類」に対して、フィルタ条件を指定します。
大文字小文字を区別	大文字小文字を区別する場合にチェックします。

#### 4.4.12. ソリューションセンター設定

このセクションではソリューションセンター設定の手順について説明します。

1. DocAve 管理コンソールから、「管理」-「展開マネージャー」-「設定」を選択します。



2. 「ソリューションセンター設定」タブをクリックします。



(1) 展開元デバイス

「ソリューションセンター」-「展開元デバイス」では、ソリューションの展開元に「ファイルシステム」を指定した場合に必要な設定を行います。

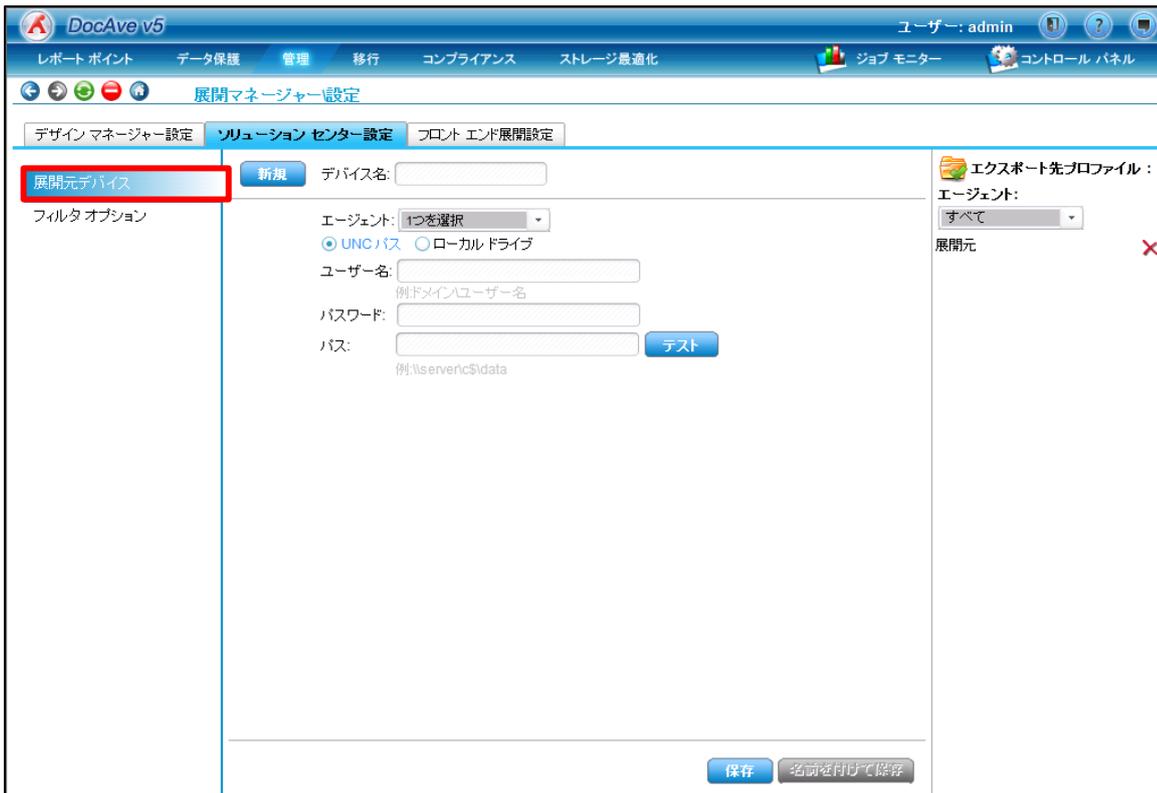


表 4.4-8 「展開元デバイス」の設定項目一覧

設定項目	説明
デバイス名	デバイス名を指定します。
エージェント	実行するエージェントを指定します。
UNC パス	UNC パスを保存先にする場合に指定します。
ユーザー名	物理デバイスにアクセスするユーザーのユーザー名を指定します。
パスワード	物理デバイスにアクセスするユーザーのパスワードを指定します。
パス	物理ファイルの格納先のパスを指定します。
ローカルドライブ	ローカルドライブを保存先にする場合に選択します。
パス	バックアップファイルの格納先のパスを指定します。

## (2) フィルタオプション

「ソリューションセンター設定」-「フィルタオプション」では、ソリューションの展開元に「ファイルシステム」を指定した場合に特定のフォルダやファイルを展開対象より除外や包含する設定を行います。

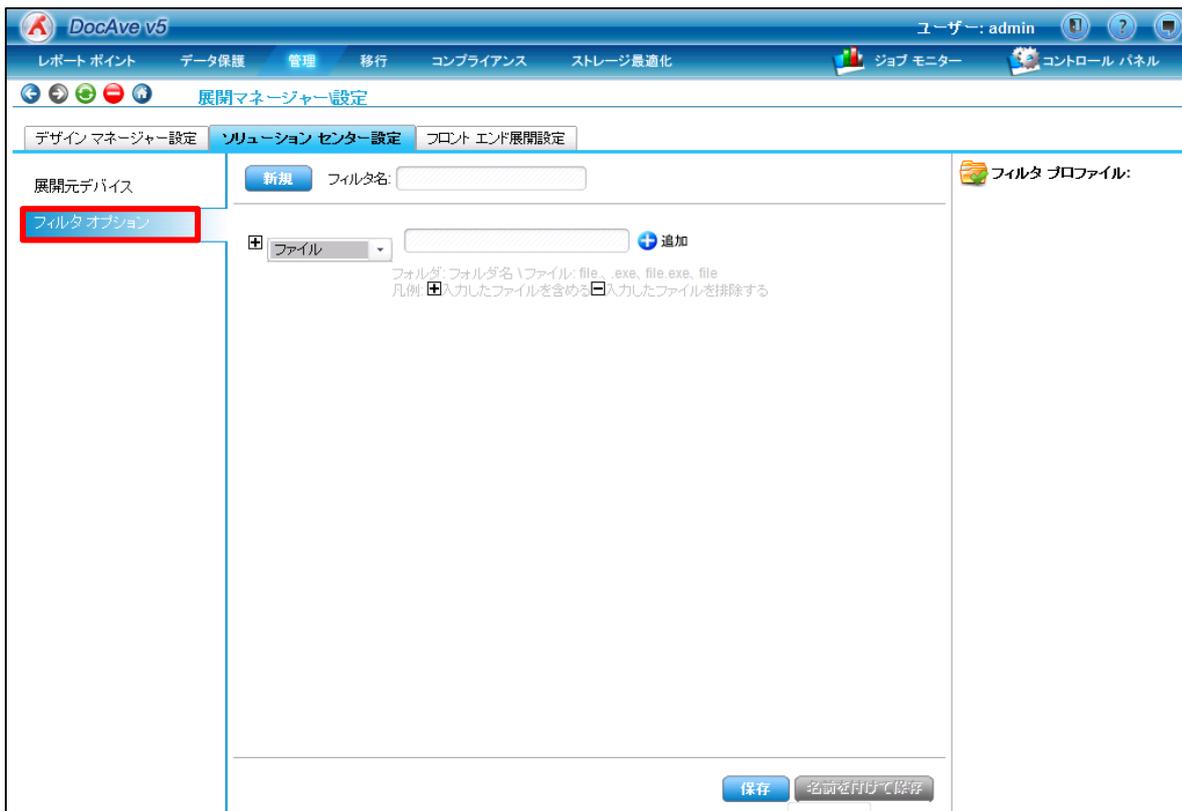


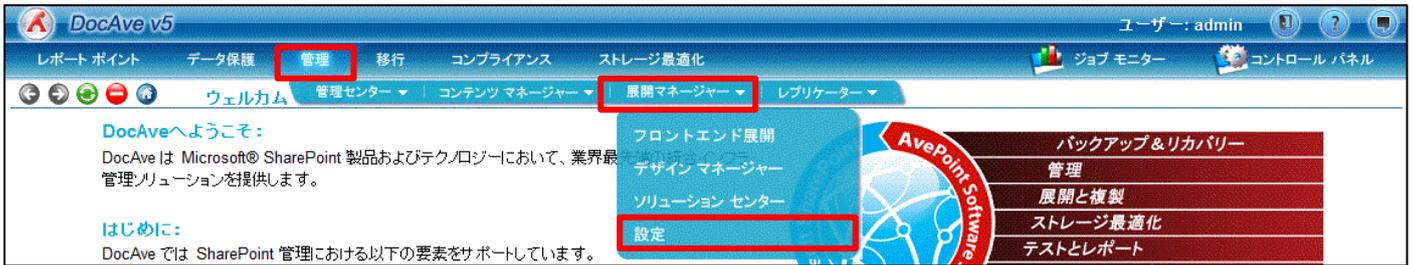
表 4.4-9 「フィルタオプション」の設定項目一覧

設定項目	説明
フィルタ名	フィルタ名を指定します。
種類	フィルタ条件を設定するコンテンツの種類を指定します。 (例)フォルダ、ファイル
条件	指定した「種類」に対して、フィルタ条件を入力します。

#### 4.4.13. フロントエンド展開設定

このセクションではフロントエンド展開設定の手順について説明します。

1. DocAve 管理コンソールから、「管理」-「展開マネージャー」-「設定」を選択します。



2. 「フロントエンド展開設定」タブをクリックします。



(1) ストレージ

「フロントエンド展開設定」-「ストレージ」では、「ロールバックを有効にする」をチェックした場合のバックアップファイルの保存先の設定を行います。

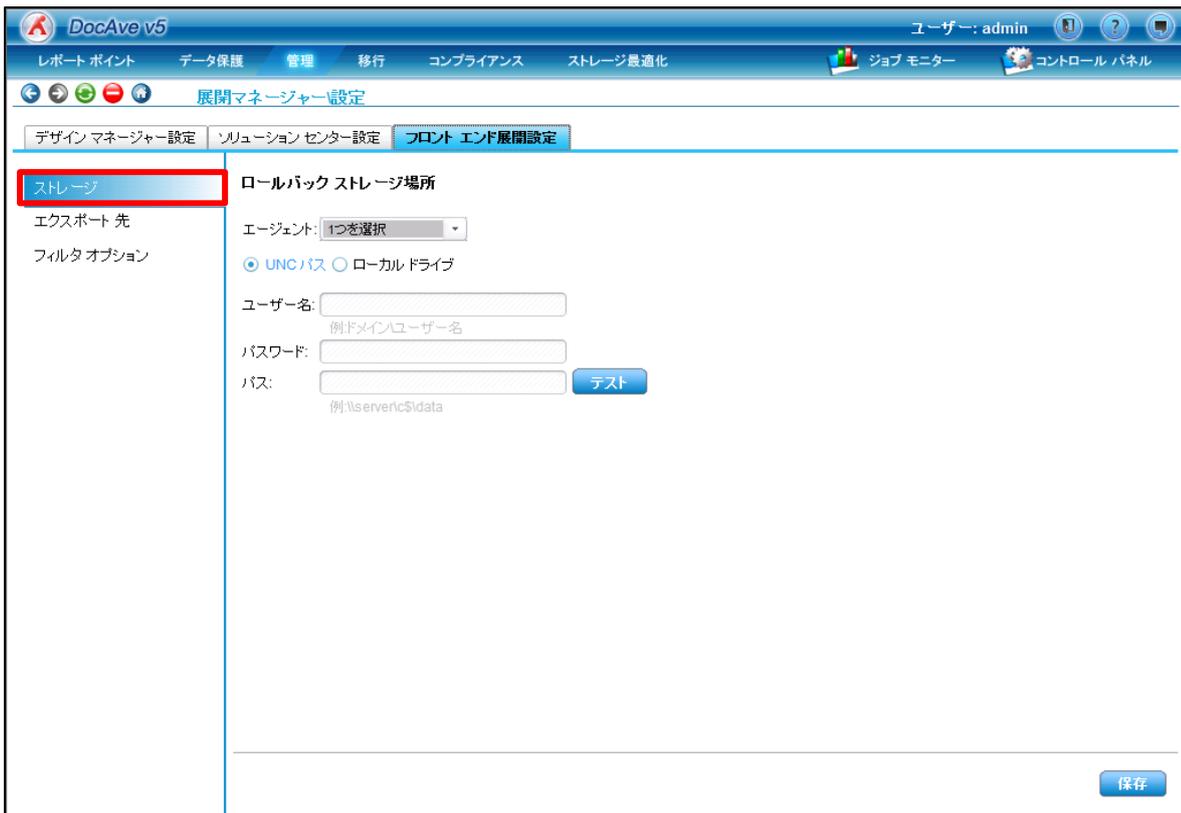


表 4.4-10 「ストレージ」の設定項目一覧

設定項目	説明
エージェント	実行するエージェントを指定します。
UNC パス	UNC パスを保存先にする場合に指定します。
ユーザー名	物理デバイスにアクセスするユーザーのユーザー名を指定します。
パスワード	物理デバイスにアクセスするユーザーのパスワードを指定します。
パス	物理ファイルの格納先のパスを指定します。
ローカルドライブ	ローカルドライブを保存先にする場合に選択します。
パス	バックアップファイルの格納先のパスを指定します。

## (2) エクスポート先

「フロントエンド展開設定」-「エクスポート先」では、ステージモードで展開する際に必要となるエクスポート先の設定を行います。

The screenshot shows the 'DocAve v5' interface with the '展開マネージャー設定' (Deployment Manager Settings) page. The 'フロントエンド展開設定' (Front-end Deployment Settings) tab is active. In the left sidebar, 'エクスポート先' (Export Destination) is selected. The main configuration area includes a '新規' (New) button and a '場所名' (Location Name) field. Below are fields for 'エージェント' (Agent) with a dropdown menu, 'ユーザー名' (Username) with a text input and a hint '例:ドメイン\ユーザー名', 'パスワード' (Password) with a text input, and 'パス' (Path) with a text input and a hint '例: \\serverid\data'. A 'テスト' (Test) button is next to the path field. At the bottom right, there are '保存' (Save) and '名前を付けて保存' (Save with name) buttons. The right sidebar shows 'エクスポート先プロファイル' (Export Destination Profile) with an 'エージェント' (Agent) dropdown set to 'すべて'.

表 4.4-11 「エクスポート先」の設定項目一覧

設定項目	説明
場所名	場所名を指定します。
エージェント	実行するエージェントを指定します。
ユーザー名	エクスポート先にアクセスするユーザー名を指定します。
パスワード	エクスポート先にアクセスするユーザーのパスワードを指定します。
パス	エクスポート先のパスを指定します。

### (3) フィルタオプション

「フロントエンド展開設定」-「フィルタオプション」では、「GAC の展開を許可する」または、「ファイルシステム展開を許可する」を使用して展開する場合に、特定のフォルダやファイルを展開対象より除外や包含する設定を行います。

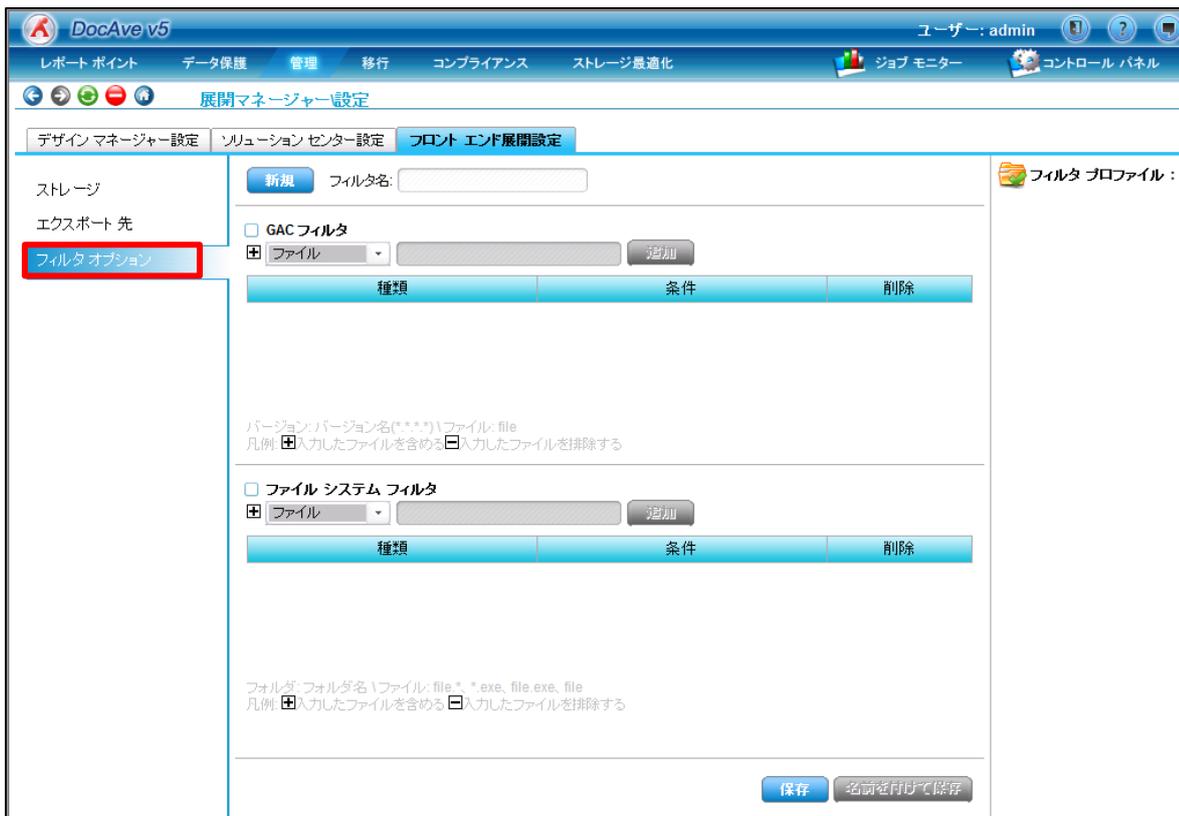


表 4.4-12 「フィルタオプション」の設定項目一覧

設定項目	説明
フィルタ名	フィルタ名を指定します。
GAC フィルタ	GAC を展開する際にフィルタ設定を利用する場合にチェックします。
種類	フィルタ条件を設定するコンテンツの種類を指定します。 (例)ファイル、バージョン、会社名
条件	指定した「種類」に対して、フィルタ条件を入力します。
ファイルシステムフィルタ	ファイルシステムから展開する際にフィルタ設定を利用する場合にチェックします。
種類	フィルタ条件を設定するコンテンツの種類を指定します。 (例)ファイル、フォルダ
条件	指定した「種類」に対して、フィルタ条件を入力します。

## 第5章 展開時のロールバック

---

本章では、DocAve 展開マネージャー利用時のロールバックの考え方、および設定・実行手順を説明します。

## 5.1. 問題発生時のロールバック

本セクションでは、問題発生時のロールバックの詳細を説明します。

### 5.1.1. デザインマネージャーロールバックのシナリオ

#### (1) シナリオ

部内ポータル運用開始後、デザインマネージャーを使用してサイトトップの変更を本番環境に展開しました。しかし、展開後、変更を急遽取りやめる方針となったため、本番環境側の変更も元の状態に戻すことになりました。

サイトトップを展開前の状態に戻す必要があります。ただし、本番環境は既に運用が開始されているため、変更したサイトトップ以外の要素に影響がないようロールバックを行う必要があります。

図 5.1-1 ロールバック前のイメージ



図 5.1-2 ロールバック後のイメージ



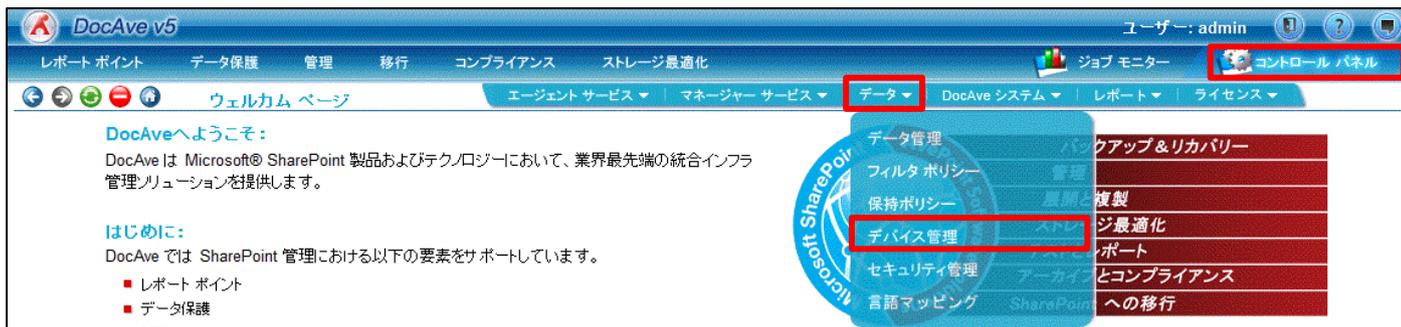
表 5.1-1 ロールバック対象となる要素

展開項目	ロールバックの内容
Web パーツの削除	・「部内予定表」Web パーツが削除される前の状態に戻す

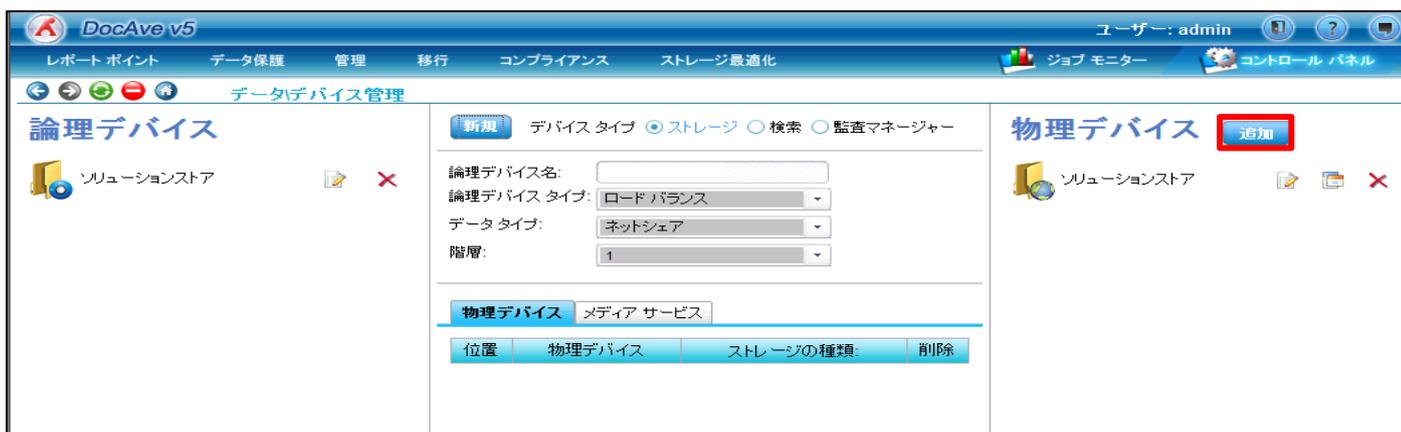
## 5.1.2. デザインマネージャーロールバック手順

### (1) (事前作業)論理デバイスの設定

1. DocAve 管理コンソールから、「コントロールパネル」-「データ」-「デバイス管理」を選択します。



2. デバイス管理画面が表示されます。物理デバイスペインにある「追加」をクリックします。



3. 物理デバイス追加画面にて、物理デバイスの情報を入力し、「保存」をクリックします。

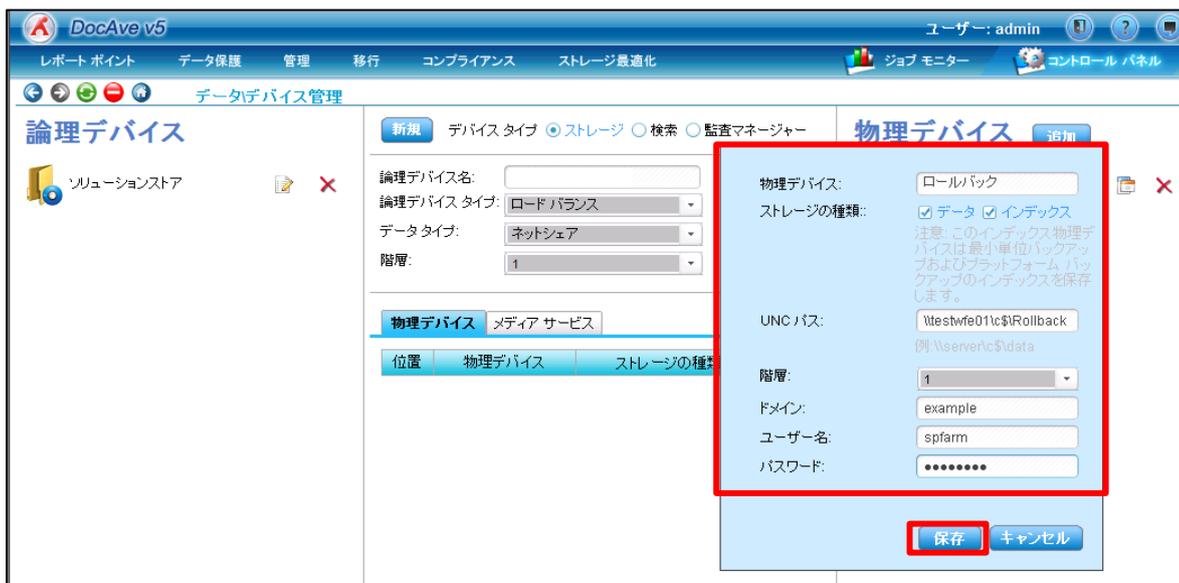
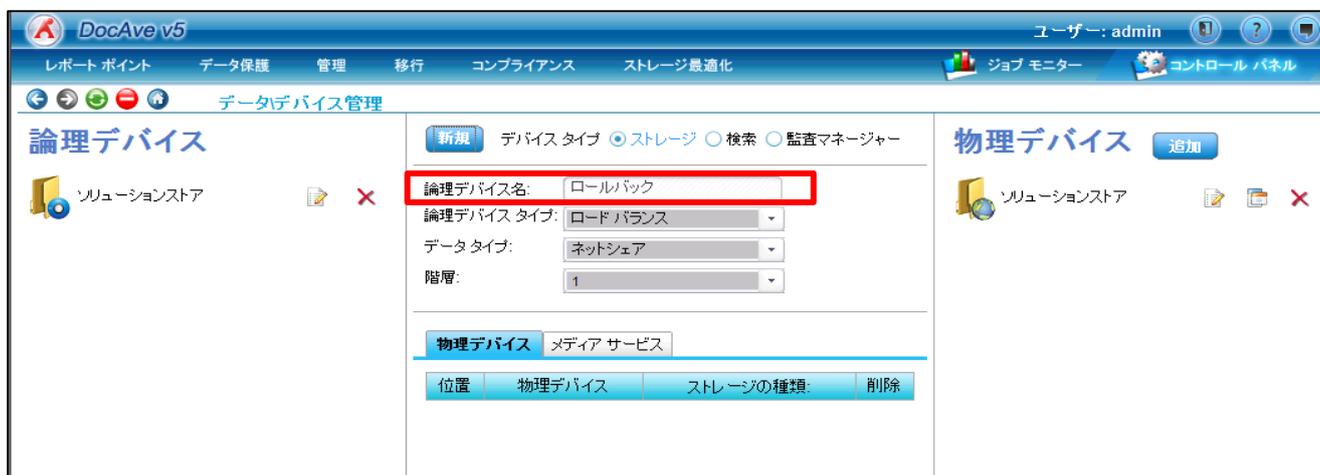


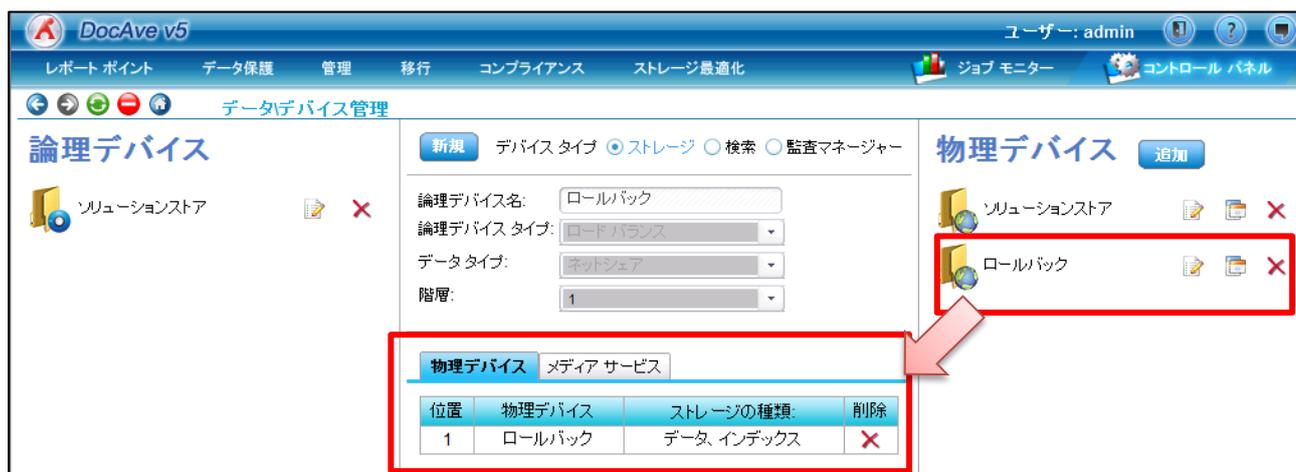
表 5.1-2 「物理デバイス追加」の設定項目一覧

設定項目	説明	設定
物理デバイス	物理ファイルの格納先の名前を指定します。	ロールバック(任意の値)
ストレージの種類	保存したいストレージの種類を選択します。	データ、インデックスにチェック
UNC パス	UNC パスを保存先にする場合に指定します。	¥¥testwfe01¥¥c\$Rollback(任意の値)
階層	物理デバイスに割り当てる階層を指定します。	1
ドメイン	物理デバイスにアクセスするユーザーのドメインを指定します。	Example
ユーザー名	物理デバイスにアクセスするユーザーのユーザー名を指定します。	Spfarm(保存先に権限のあるユーザー)
パスワード	物理デバイスにアクセスするユーザーのパスワードを指定します。	*****

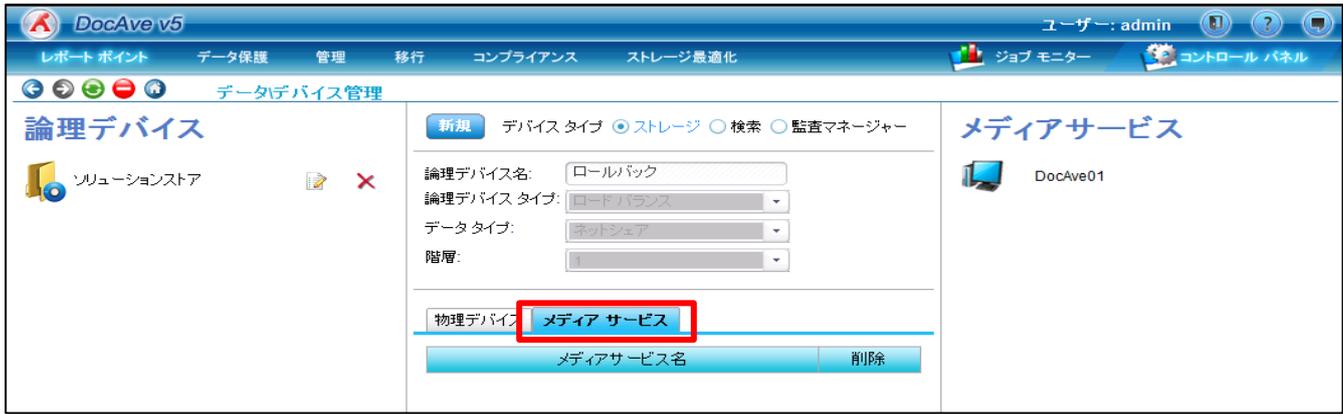
4. 「論理デバイス名」に任意の名前を入力します。



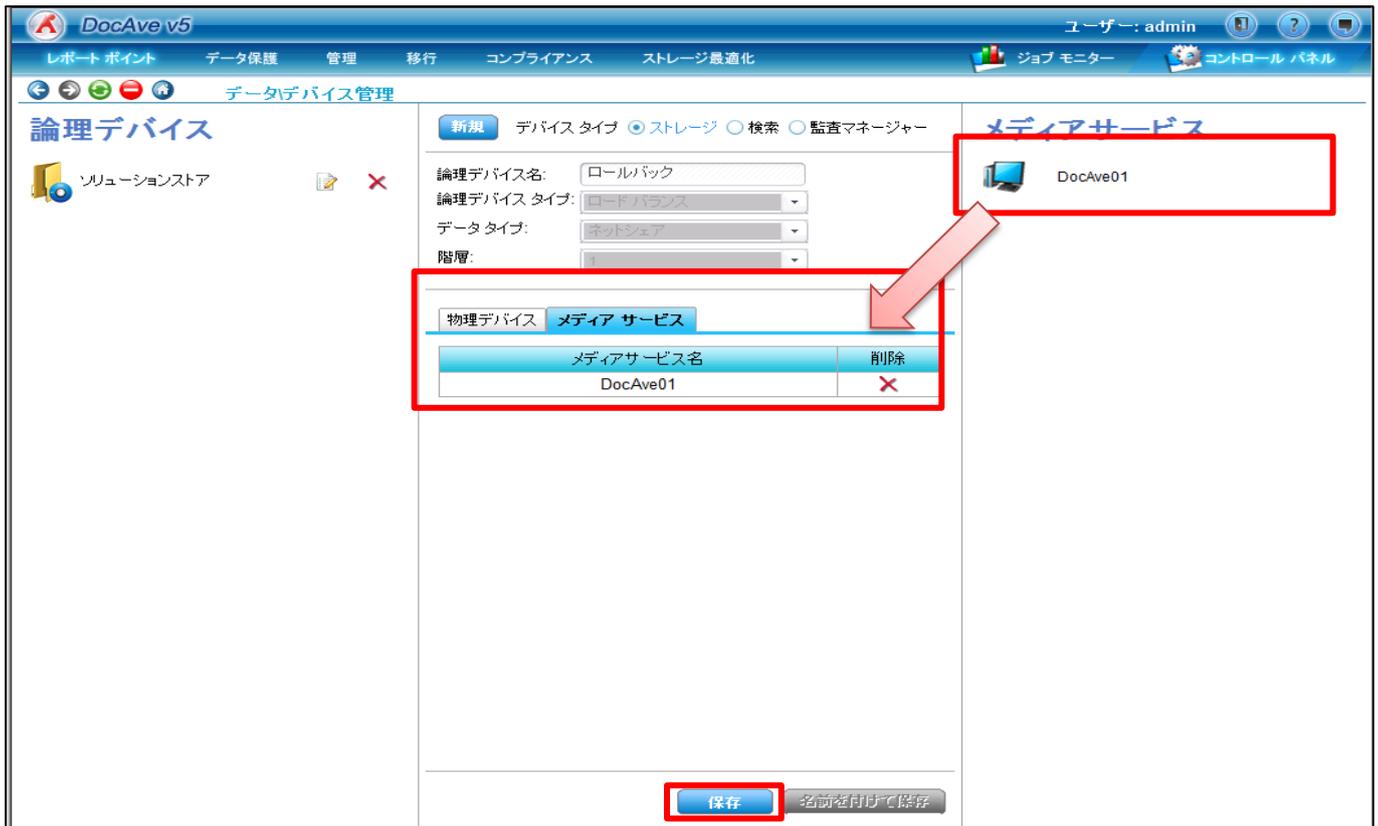
5. 作成した「物理デバイス」を「物理デバイス」タブにドラッグします。



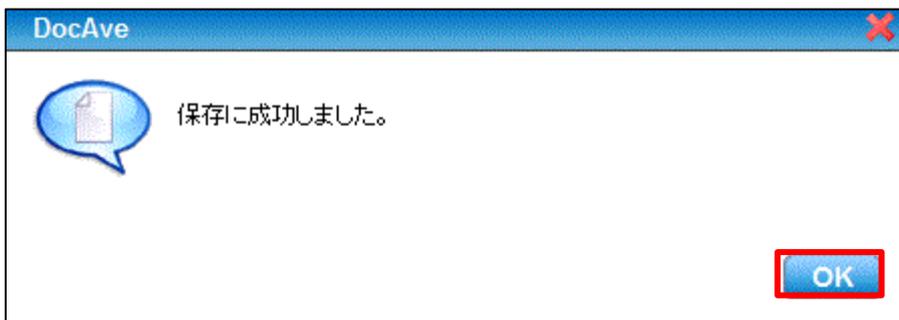
6. 「メディアサービス」タブをクリックします。



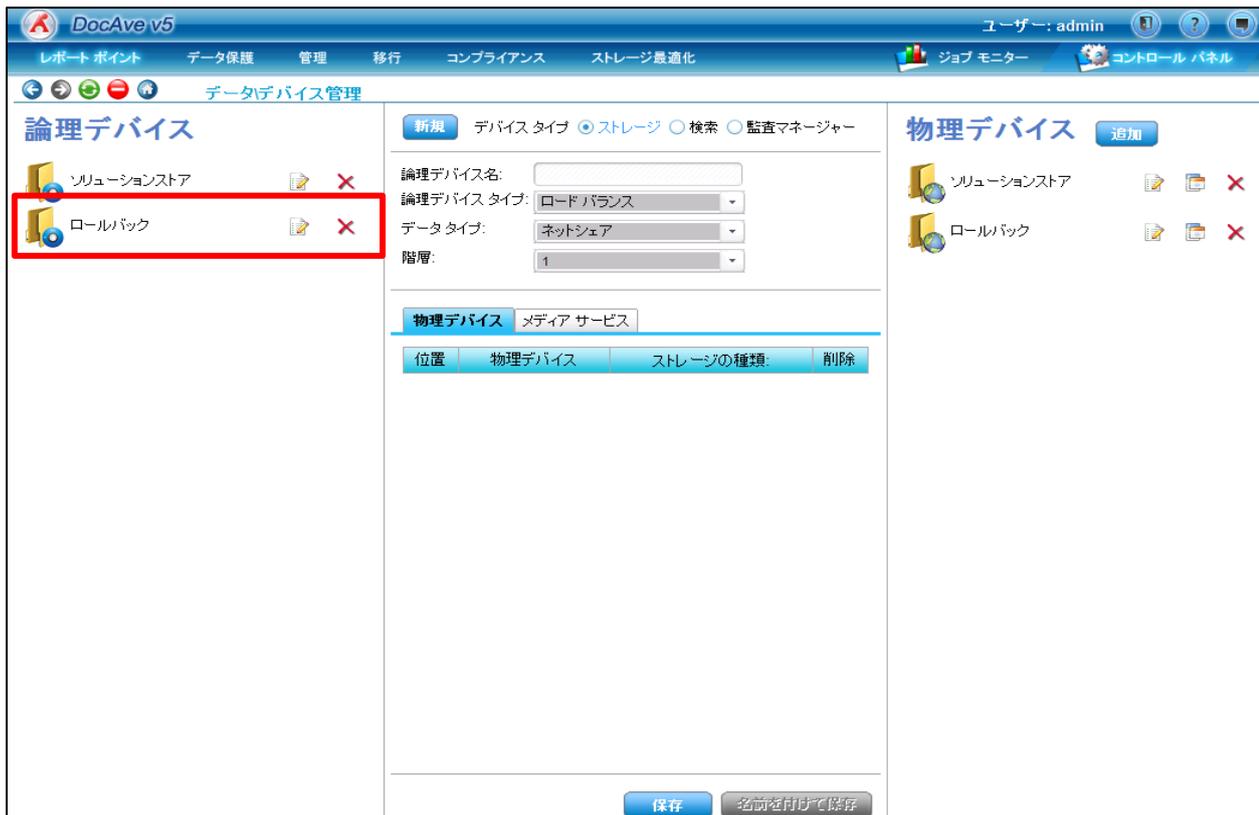
7. 「メディアサービス」に表示されるサーバーを「メディアサービス」タブにドラッグし、「保存」をクリックします。



8. 「保存に成功しました。」と表示されますので、「OK」をクリックします。



9. 論理デバイスのペインに作成された論理デバイスが存在することを確認します。

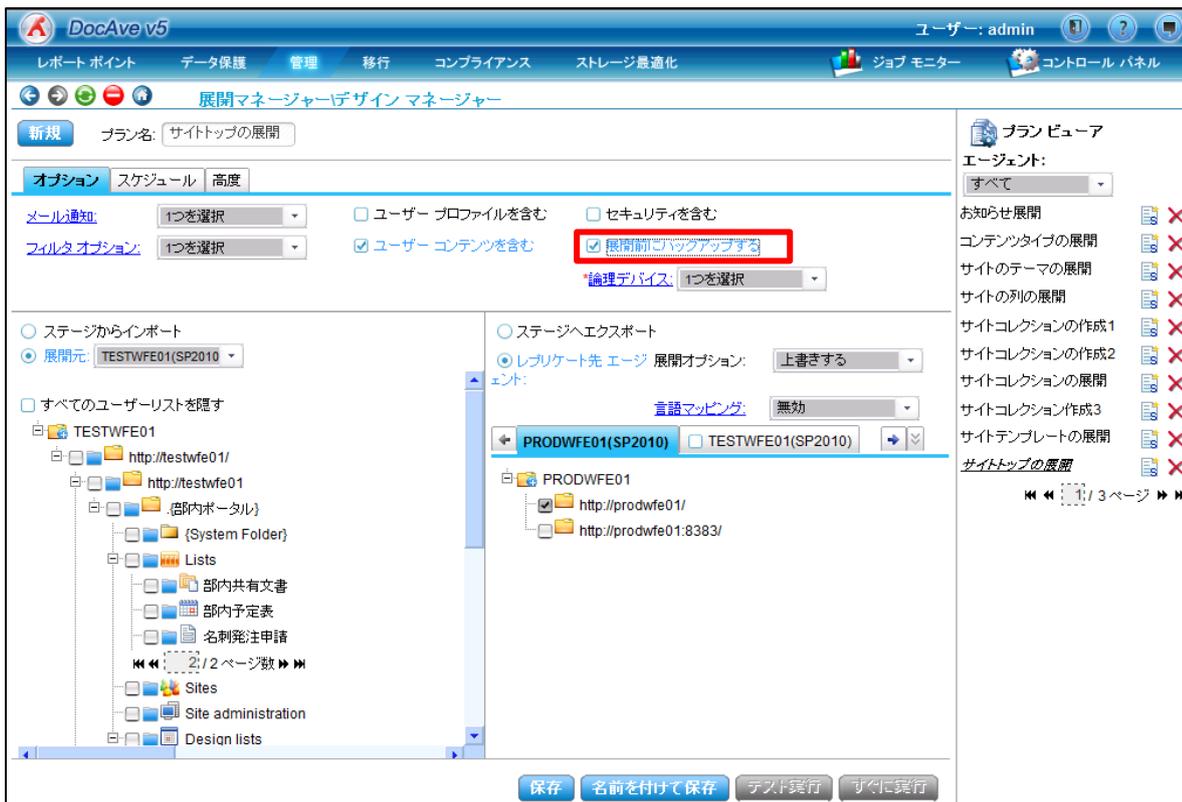


(2) (事前作業)オプションの有効化

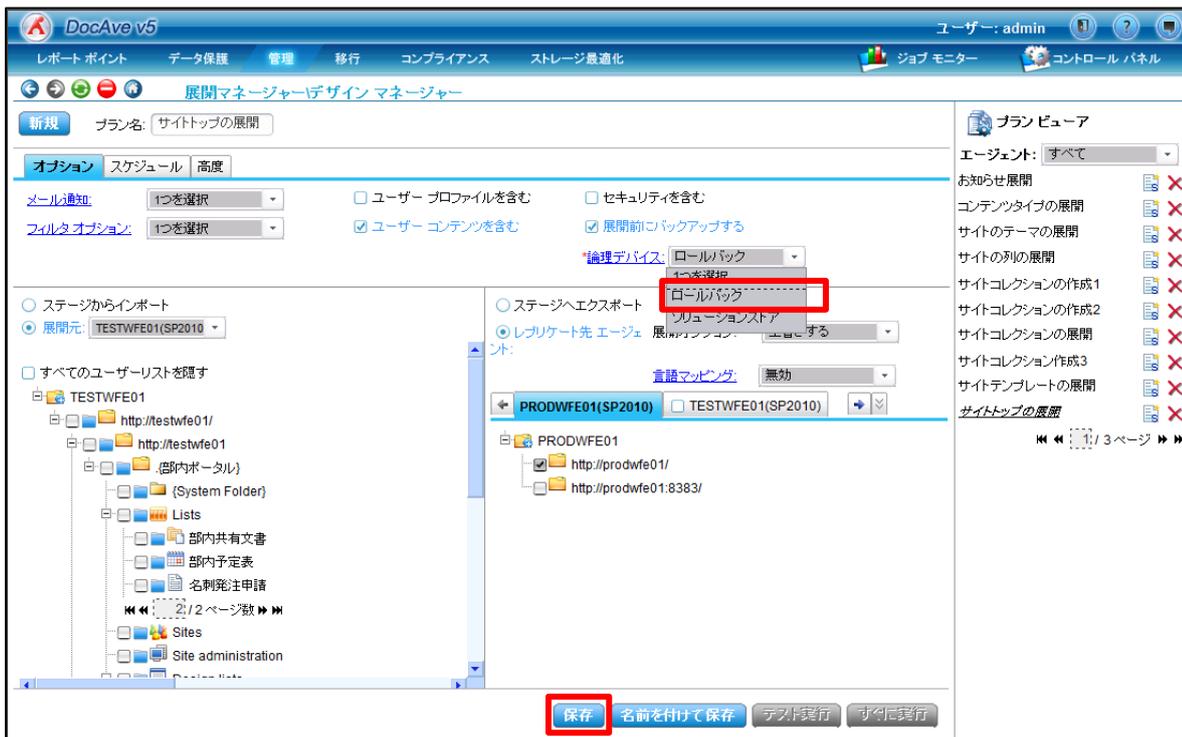
1. デザインマネージャーにてプランを作成し、「展開前にバックアップ」にチェックします。

展開プラン作成手順の詳細に関しては、以下の項目を参照ください。

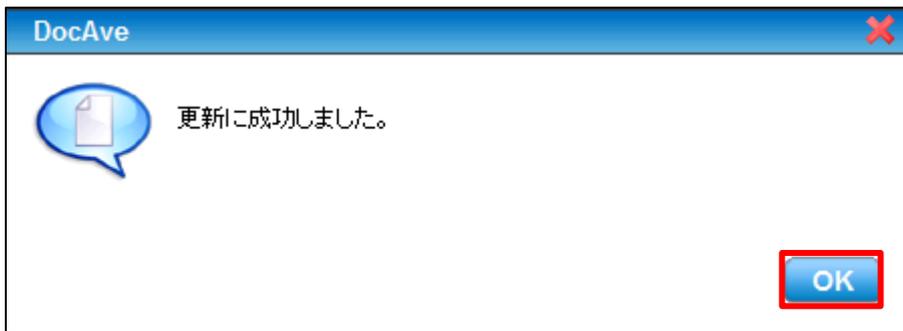
・「4.3.5 サイトコレクションレベルの追加ーサイトトップ変更の展開」



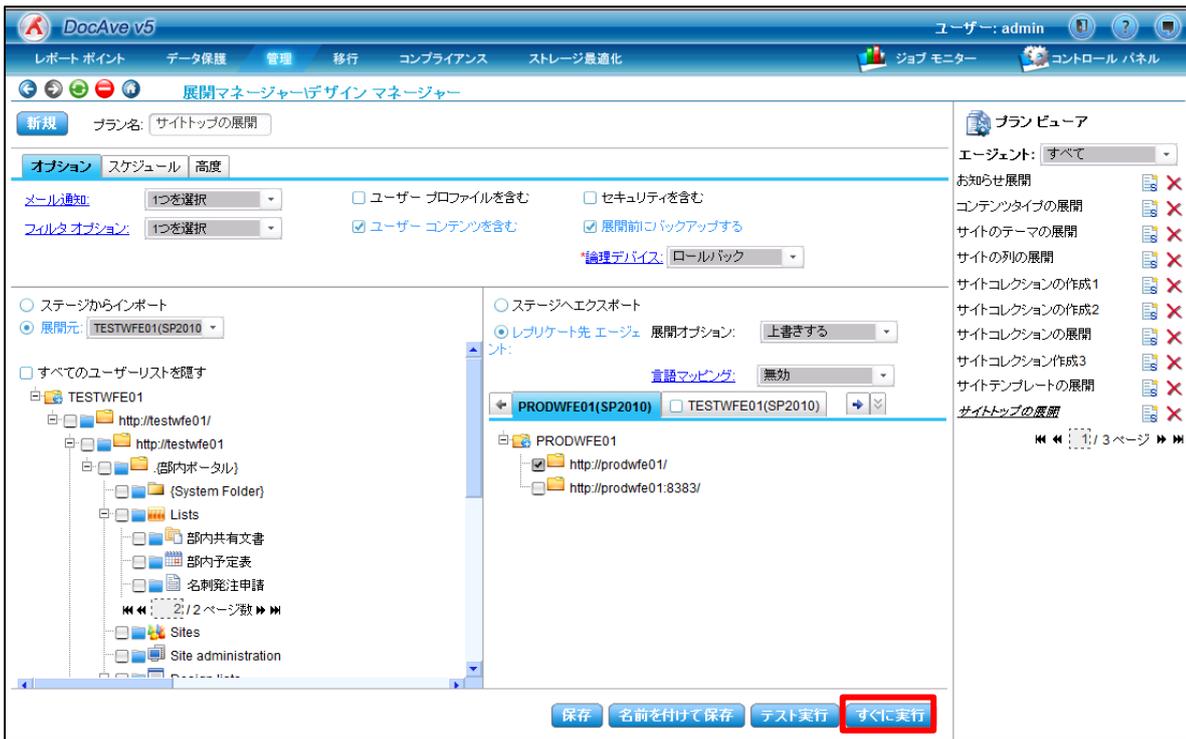
2. 論理デバイスのプルダウンメニューより前途で作成した「論理デバイス」を選択し、「保存」をクリックします。



3. 更新に成功しましたと表示されますので、「OK」をクリックします。



4. 「すぐに実行」をクリックします。



5. 実行オプションにて「完全」を選択し、「実行」をクリックします。



6. ジョブモニターにてジョブが完了となることを確認します。

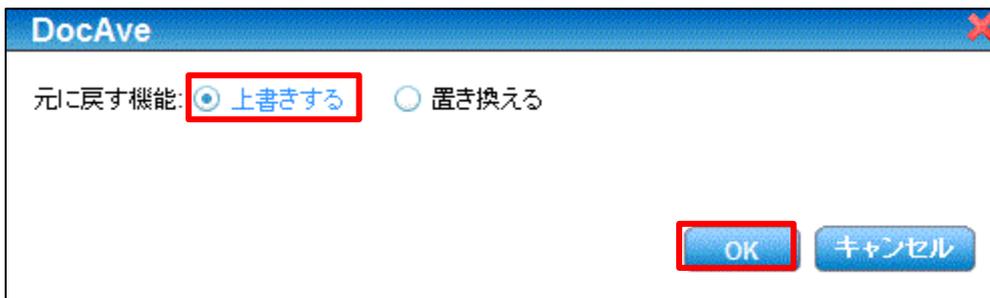


### (3) ロールバックの実行

1. 「ジョブモニター」-「デザインマネージャー」にて当該ジョブの「制御」列で「元に戻す」をクリックします。



2. 「上書きする」を選択し、「OK」をクリックします。



3. 「ジョブモニター」-「最小単位リスト」で、ジョブの実行状態を確認します。



4. 展開先のサイトにて、ロールバックが完了し、「部内予定表」Web パーツが元の状態となっていることを確認します。



### 5.1.3. フロントエンド展開－ロールバックのシナリオ

検証環境ファームで web.config ファイルの定義変更を行い、フロントエンド展開を使用して、web.config ファイルを本番環境へ展開しました。しかし、web.config に対して行った変更を急遽取りやめる方針となったため、本番環境側の変更も元の状態に戻すことになりました。

展開した web.config ファイルのみを戻す必要があり、他の要素に影響がないように戻す必要があります。

図 5.1-3 web.config のロールバックイメージ

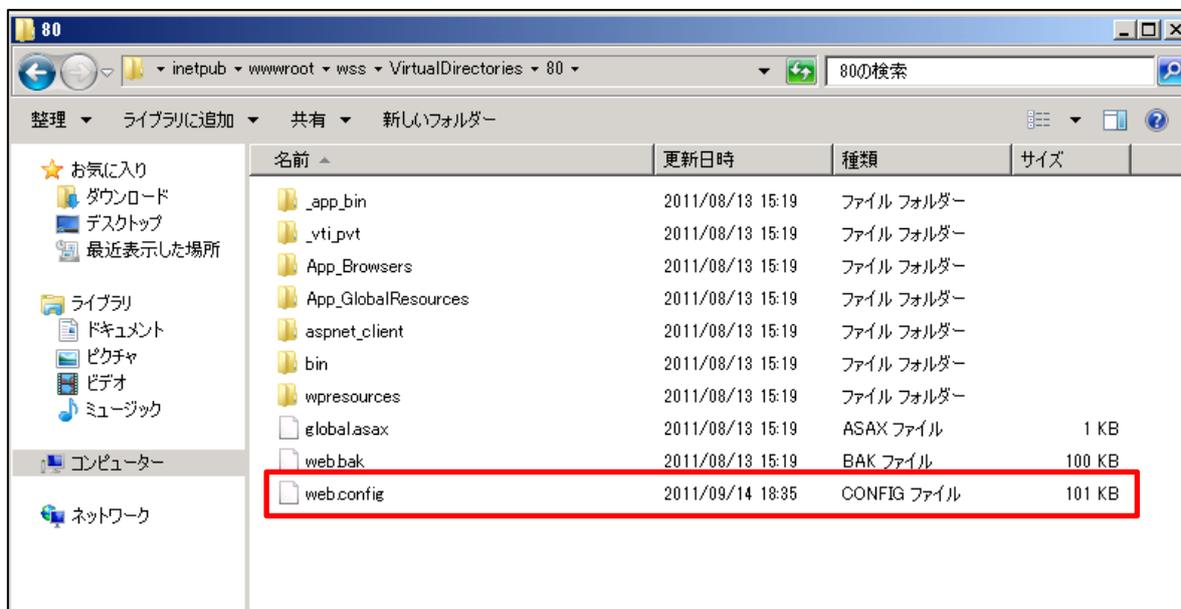


表 5.1-3 ロールバック対象となる要素

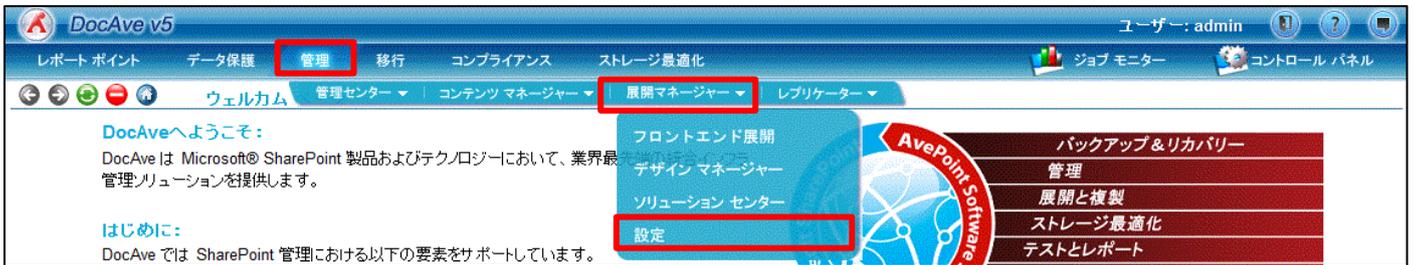
項目	ロールバックの内容
web.config ファイル	・フロントエンド展開を実行する前の状態に戻す

### 5.1.4. フロントエンド展開－ロールバック手順

このセクションではフロントエンド展開時のロールバック手順について説明します。

#### (1) (事前作業)ストレージの設定

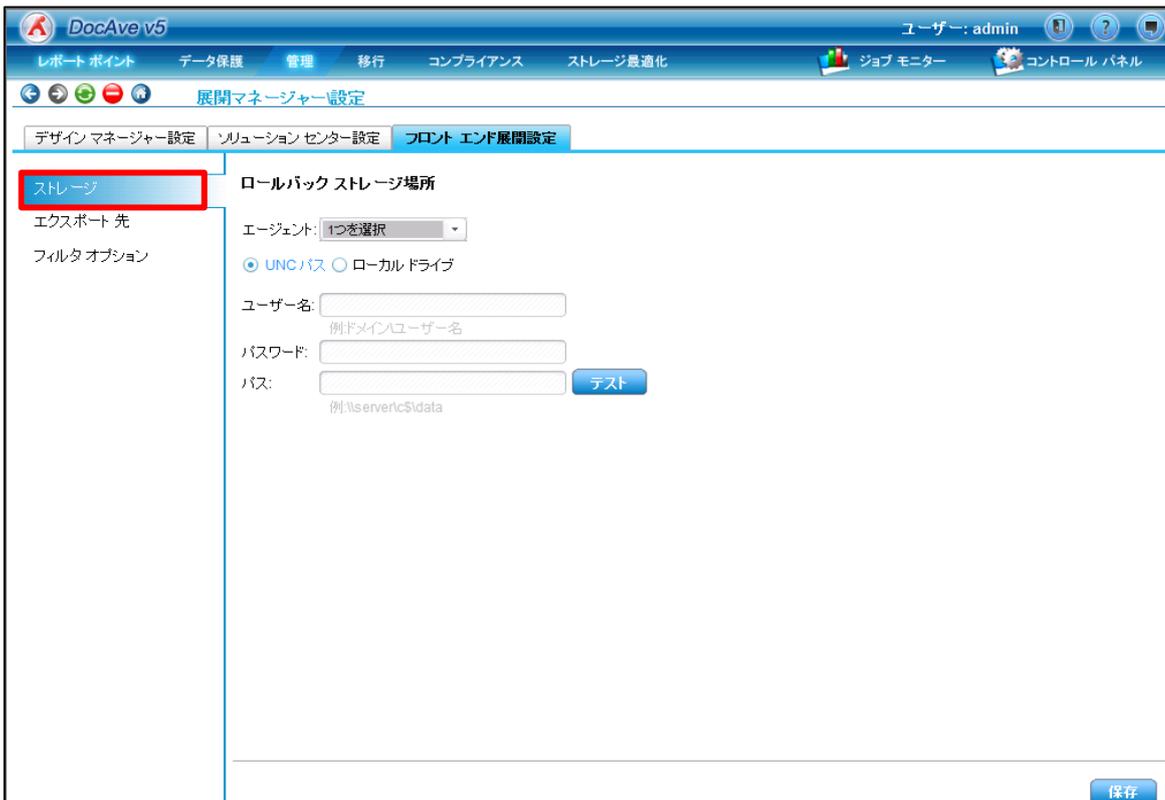
1. DocAve 管理コンソールから、「管理」-「展開マネージャー」-「設定」を選択します。



2. 「フロントエンド展開設定」タブを選択します。



3. 左側領域で「ストレージ」が選択されていることを確認します。



4. 「エージェント」を選択し、以下の値を入力します。

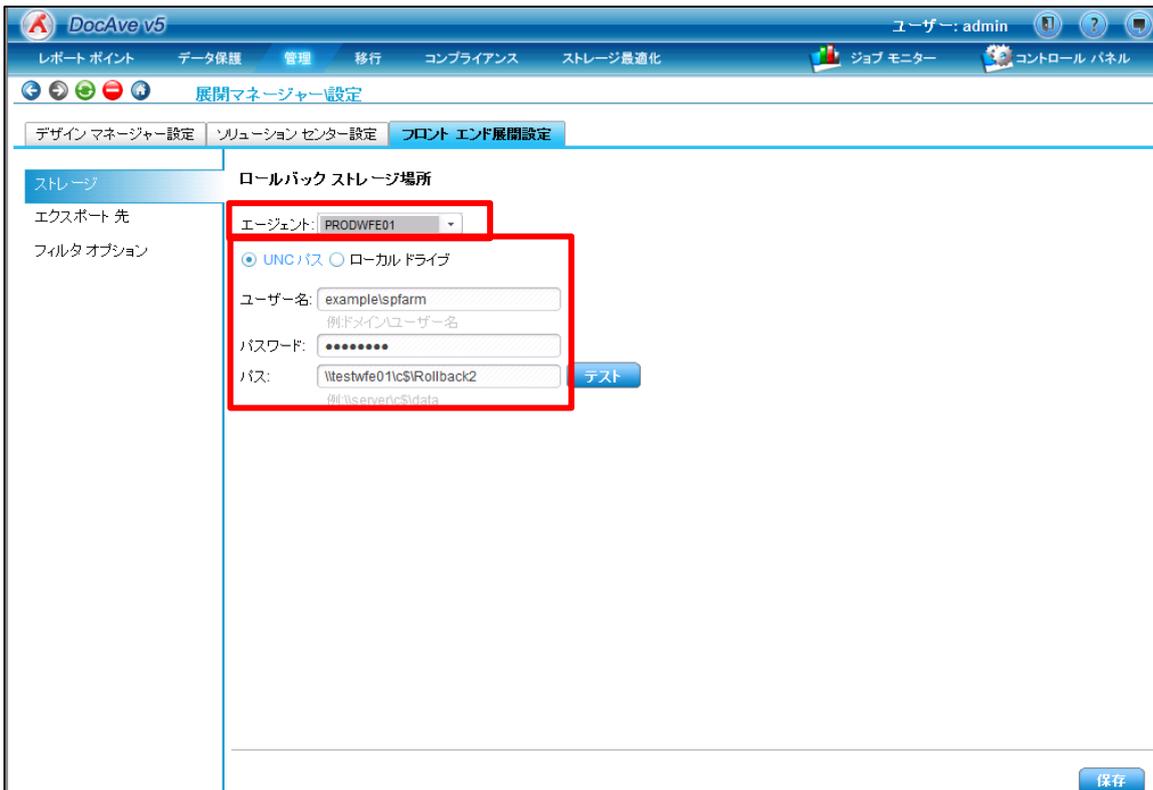
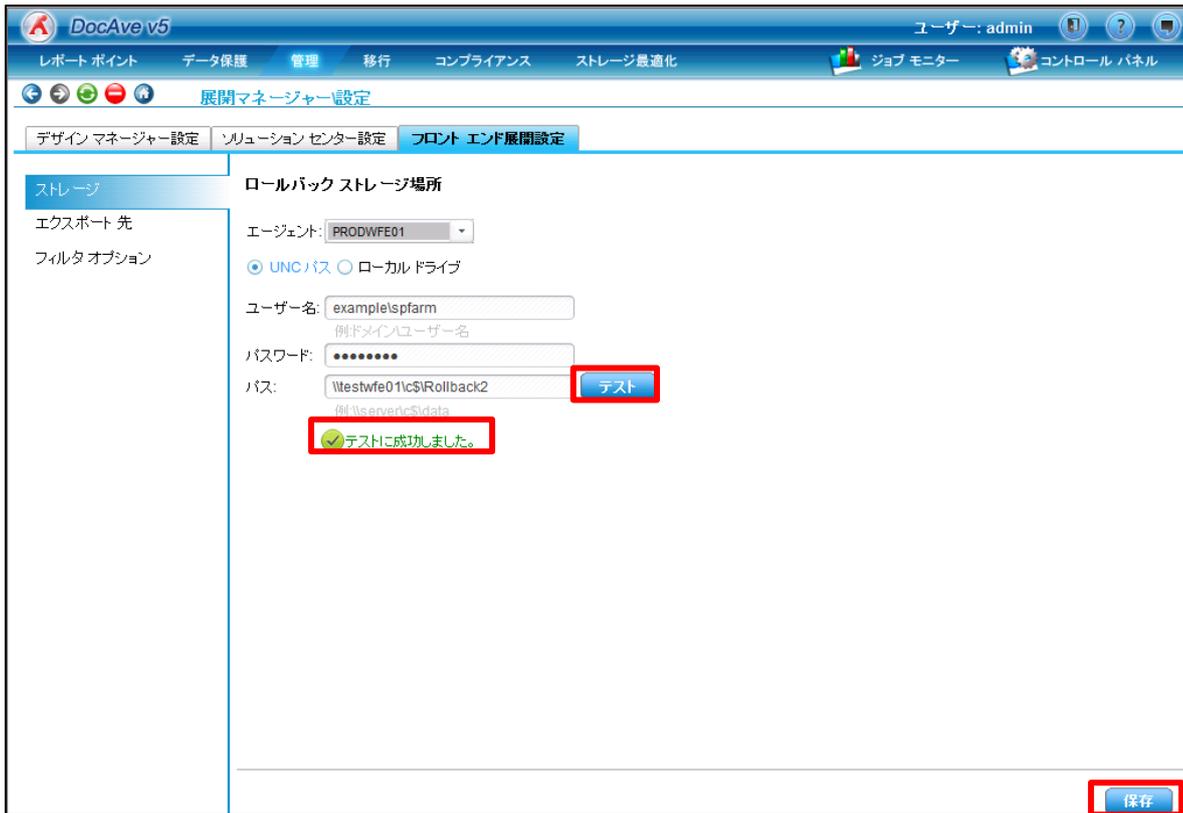


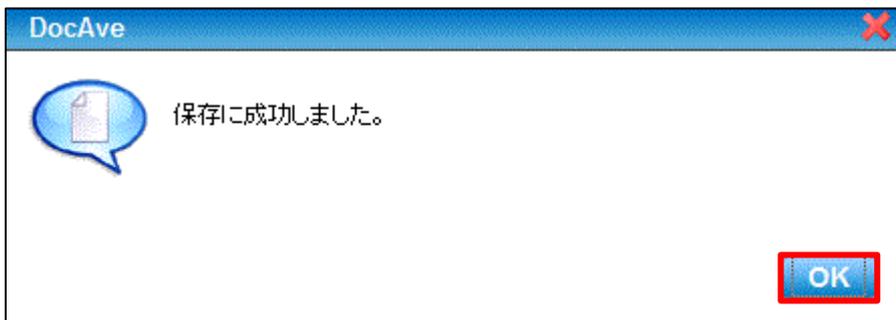
表 5.1-4 「ストレージ」の設定項目一覧

設定項目	説明	設定例
エージェント	実行するエージェントを指定します。	PROWFEE01
UNC パス	UNC パスを保存先にする場合に指定します。	選択
ユーザー名	物理デバイスにアクセスするユーザーのユーザー名を指定します。	Spfarm (保存先に権限のあるユーザー)
パスワード	物理デバイスにアクセスするユーザーのパスワードを指定します。	*****
パス	物理ファイルの格納先のパスを指定します。	¥¥tesewfe01¥c\$¥¥Rollback2

5. 「テスト」を実行して、「テストに成功しました。」が表示されたら、「保存」をクリックします。



6. 「保存に成功しました。」と表示されることを確認し、「OK」をクリックします。

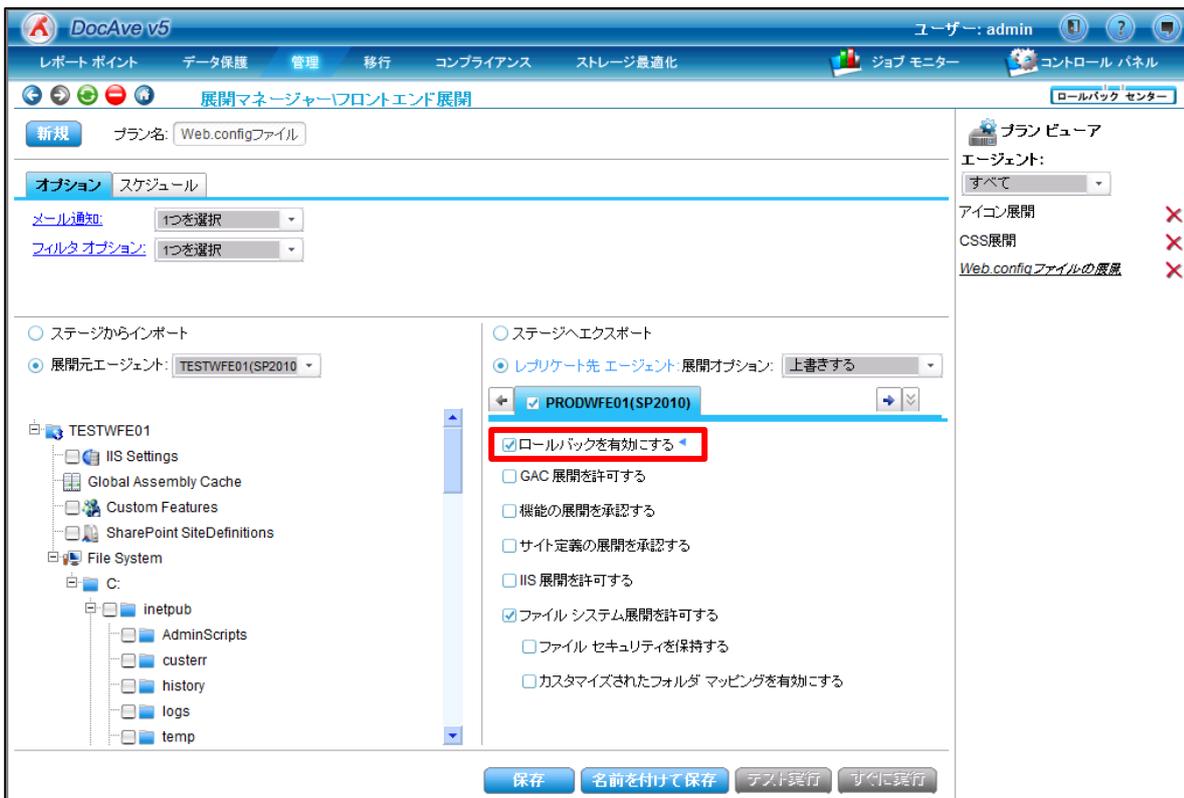


(2) (事前作業)オプションの有効化

1. フロントエンド展開にてプランを作成し、「ロールバックを有効にする」にチェックします。

展開プラン作成手順の詳細に関しては、以下の項目を参照ください。

・「4.2.7 ファームレベルの展開 — web.config の展開」



2. 「ロールバックを有効にする」の右側(◀)をクリックして、下記の設定値を入力します。

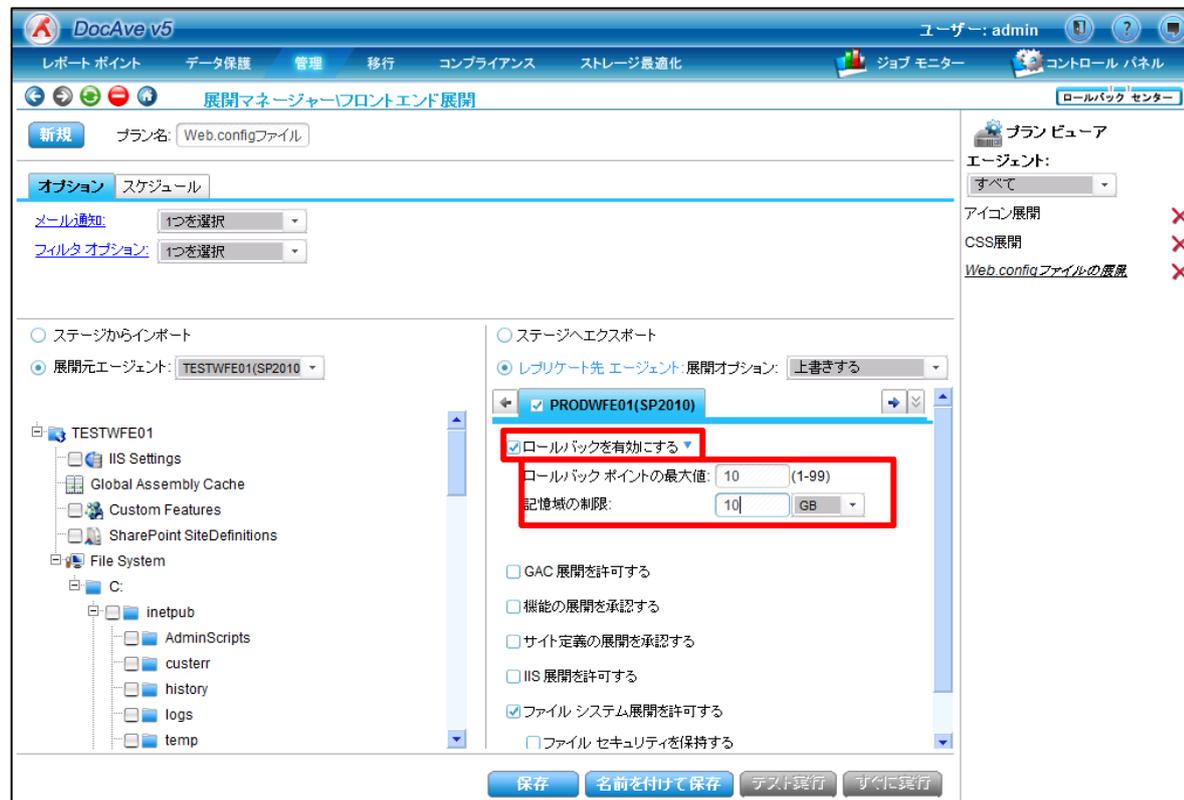
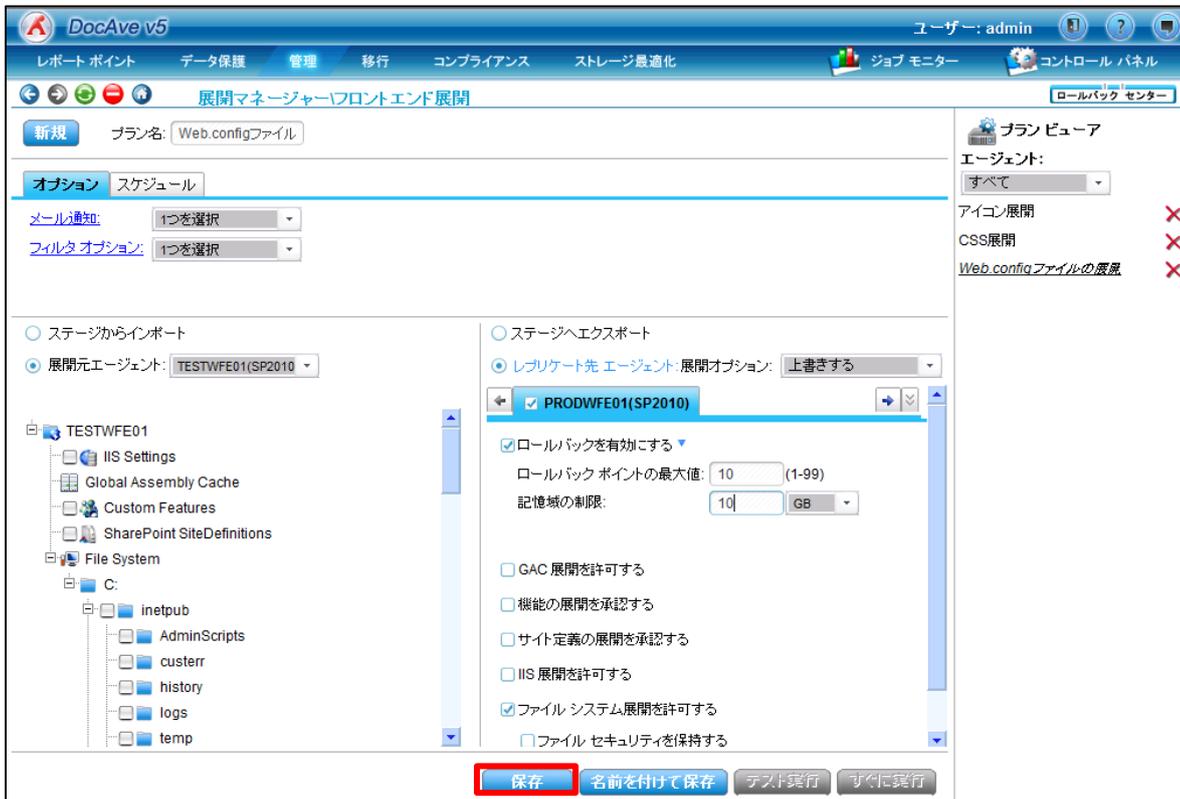


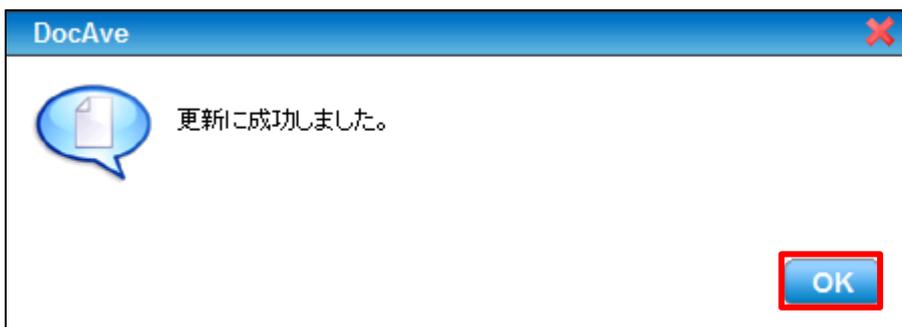
表 5.1-5 「ロールバックを有効にする」の設定項目一覧

設定項目	説明	設定例
ロールバックポイントの最大値	バックアッププラン数の最大値を設定します。	10
記憶域の制限	バックアップデータのサイズを制限します。	10GB

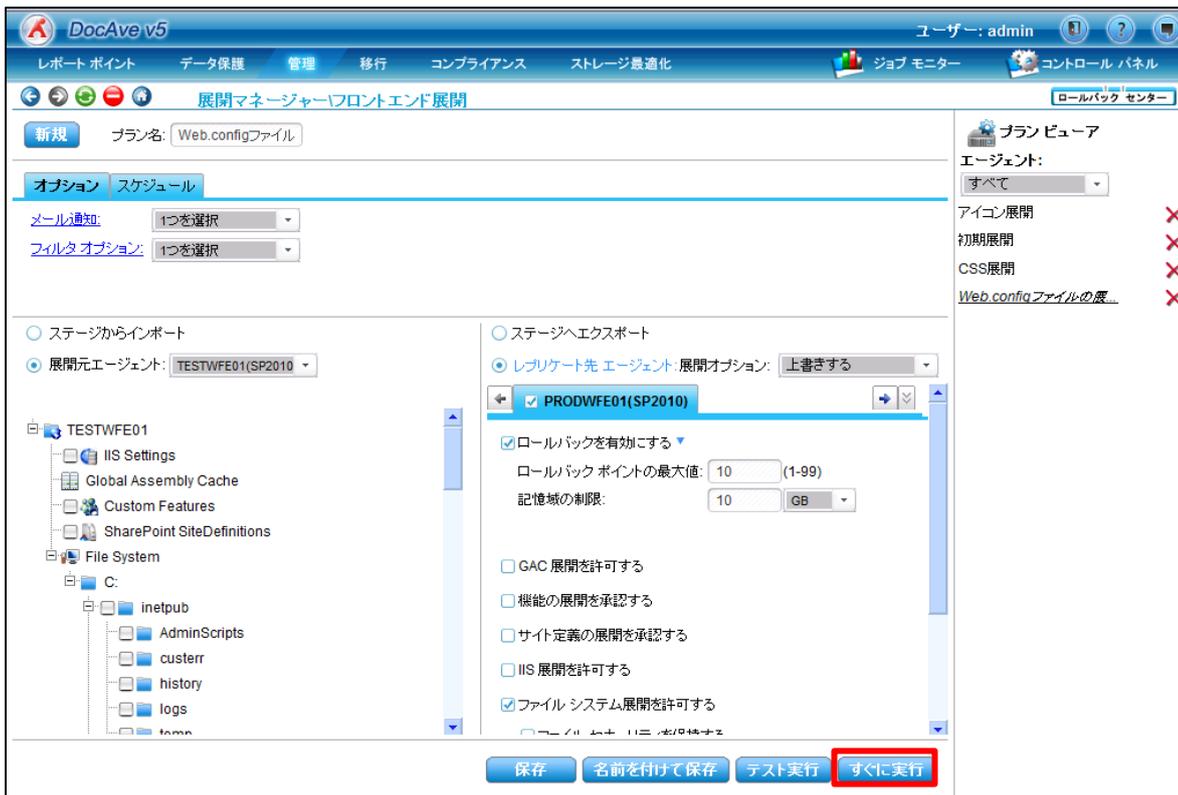
3. 「保存」をクリックします。



4. 更新に成功しましたと表示されますので、「OK」をクリックします。



5. 「**すぐに実行**」をクリックします。



6. ジョブモニターにてジョブが「完了」となることを確認します。

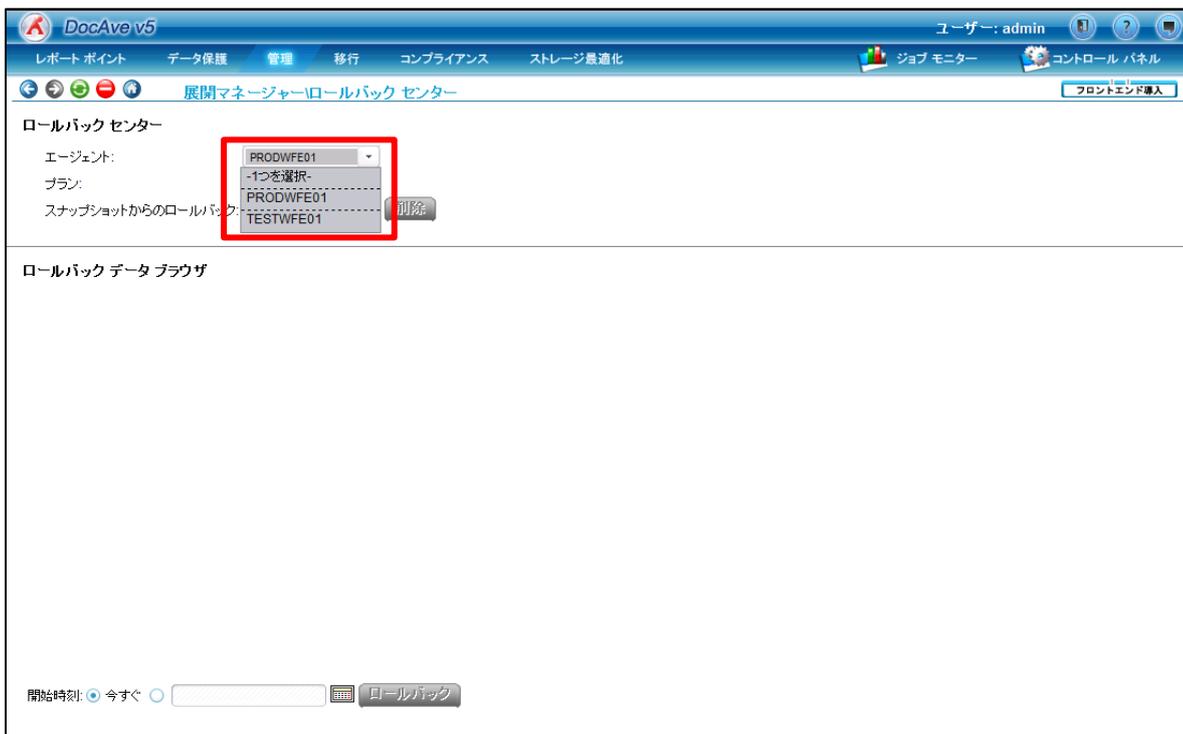


### (3) ロールバックの実行

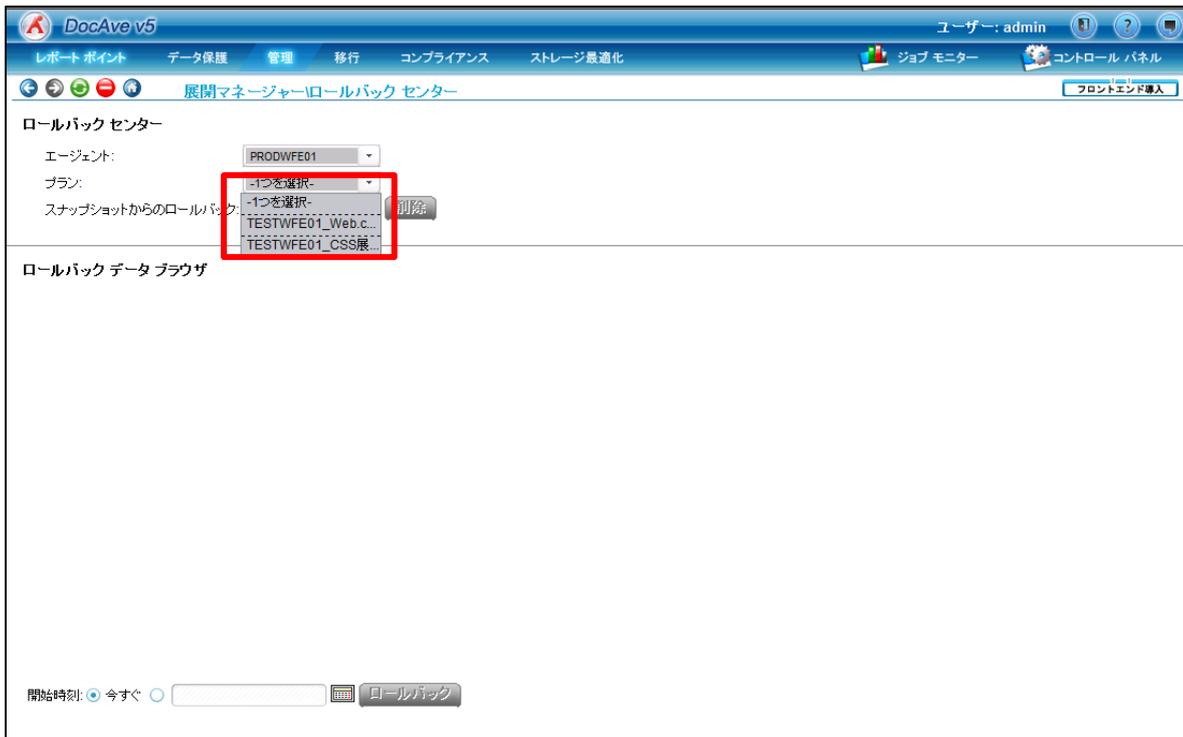
1. 「フロントエンド展開」の設定画面より「ロールバックセンター」をクリックします。



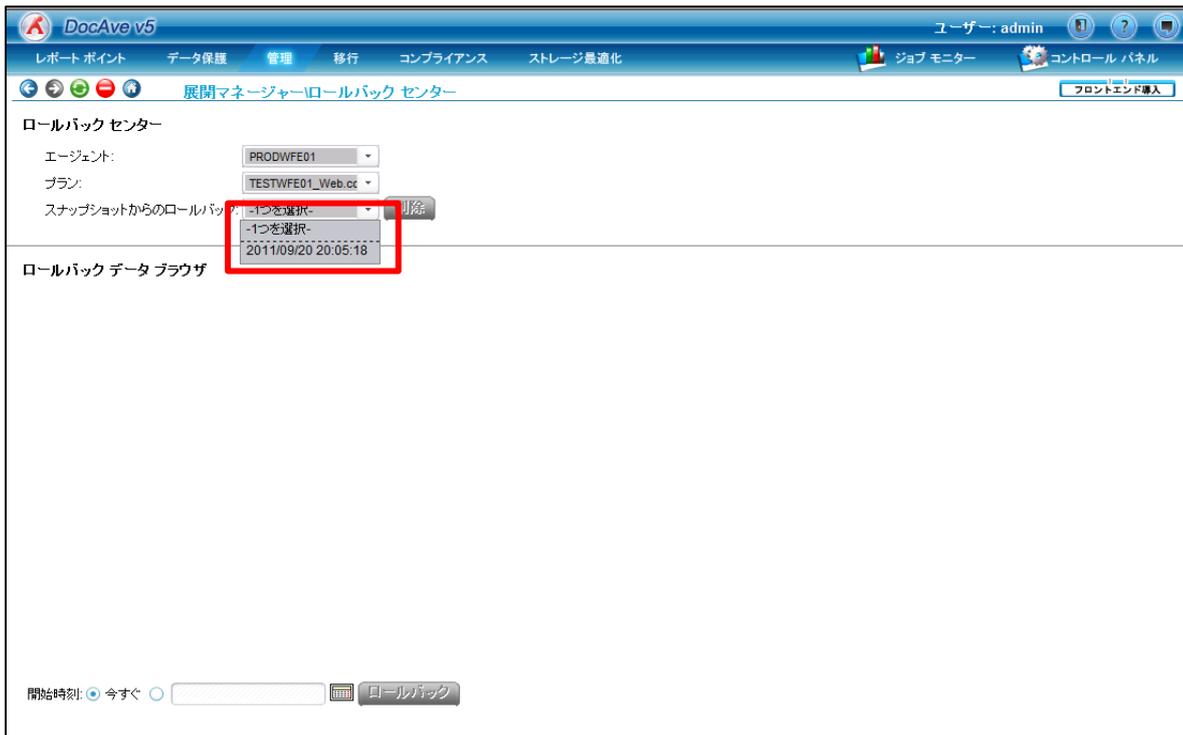
2. 「ロールバックセンター」の「エージェント」のプルダウンから対象のエージェント(PRODWFE01)を選択します。



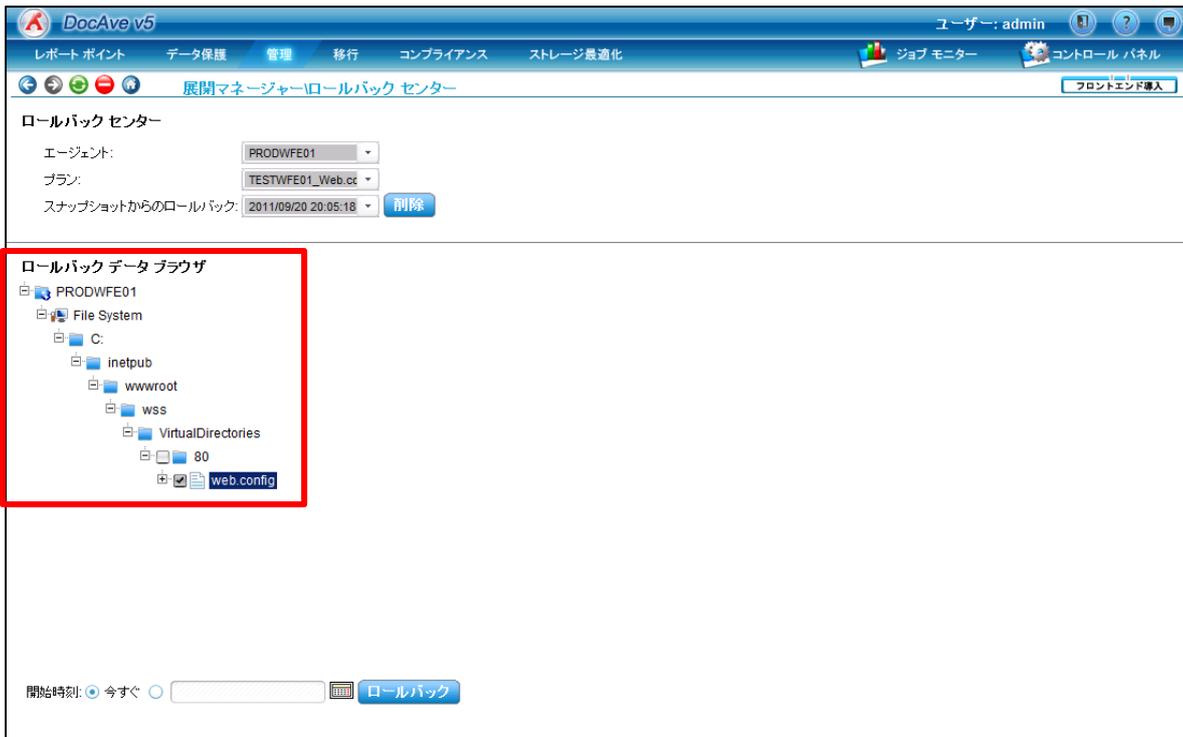
3. 「プラン」プルダウンよりロールバックしたい対象のプラン名を選択します。



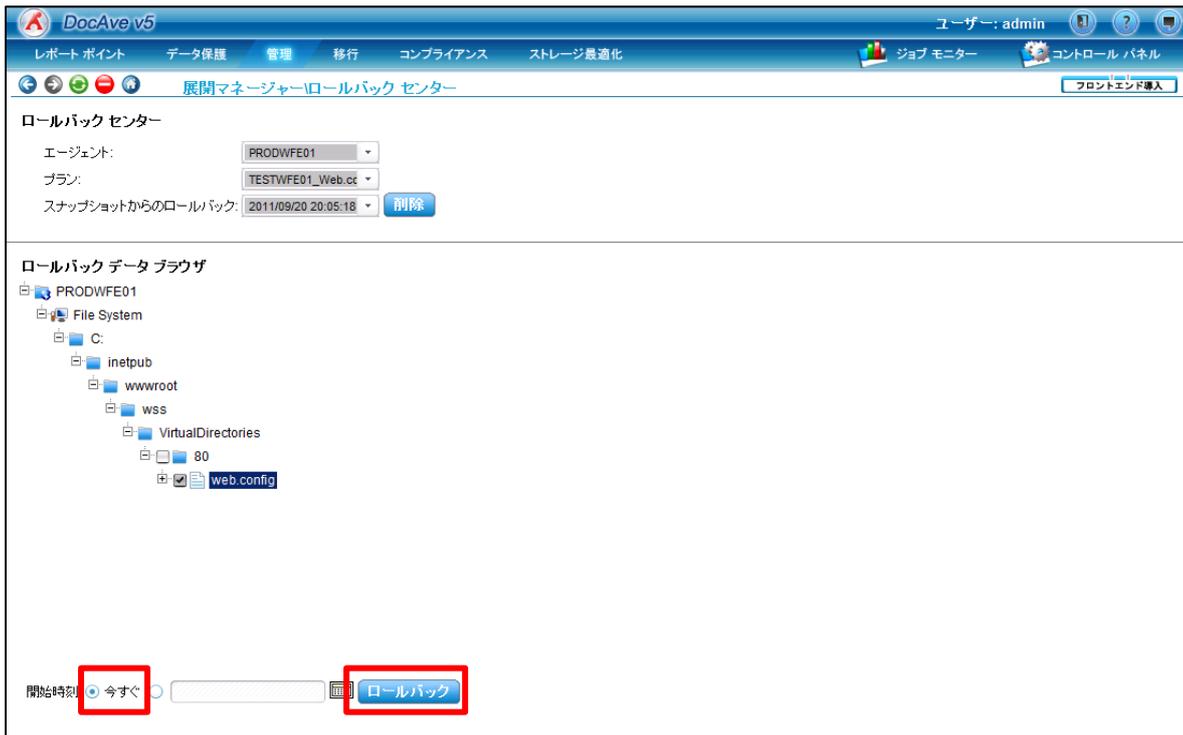
4. 「スナップショットからロールバック」プルダウンよりロールバックしたい対象のスナップショットを選択します。



5. 「ロールバックアップデータブラウザ」を展開し、ロールバックしたい対象のファイルをチェックします。



6. 開始時刻で「今すぐ」を選択し、「ロールバック」をクリックします。



7. 「ジョブモニター」-「フロントエンドロールバック」を選択し、対象のロールバックが「完了」となっていることを確認します。

The screenshot displays the DocAve v5 Job Monitor interface. The top navigation bar includes 'ジョブ モニター' (Job Monitor) and 'コントロール パネル' (Control Panel). The main content area shows a table of jobs under the heading 'フロントエンド ロールバック' (Frontend Rollback). The table has columns for 'プラン名' (Plan Name), '進行状況' (Progress), 'ユーザー' (User), '状態' (Status), '詳細' (Details), 'タイムゾーン' (Time Zone), and '開始時刻' (Start Time). Two jobs are listed, both with a status of '完了' (Completed).

プラン名	進行状況	ユーザー	状態	詳細	タイムゾーン	開始時刻
rollback	100%	admin	完了	詳細レポートの表示(完了)	(GMT+09:00)大阪、札幌、東京	2011-09-20
rollback	100%	admin	完了	詳細レポートの表示(完了)	(GMT+09:00)大阪、札幌、東京	2011-09-20

## 第6章 パラメータシート

---

本章では、DocAve 展開マネージャーのパラメータシートを記載します。

## 6.1. 設計シート

DocAve 展開マネージャー使用時に必要なパラメータシートです。お客様環境に合わせてご利用ください。

### 6.1.1. デザインマネージャープランの構成

#### (1) デザインマネージャーのプラン作成画面

※DocAve 管理コンソールの「管理」-「展開マネージャー」-「デザインマネージャー」をクリックして開きます。

項目	設定値
デザインマネージャー	
プラン名	
展開元	
ステージからインポート	
展開元	
展開先	
ステージへエクスポート	
レプリケート先エージェント	
展開オプション	
言語マッピング	
オプション	
メール通知	
フィルタオプション	
ユーザープロフィールを含む	
ユーザーコンテンツを含む	
セキュリティを含む	
展開時にバックアップする	
スケジュール	
スケジュール A	
スケジュールを無効にする	
開始時刻	
間隔	
展開タイプ	
説明	
スケジュール B	
スケジュールを無効にする	
開始時刻	
間隔	
展開タイプ	
説明	
高度	
DocAve アーカイブ済みデータ	
レプリケートしない	

	コンテンツへのリンクのみレプリケート	
	元のコンテンツをレプリケート	
	アーカイバから	
	バイナリストアから	
	コネクタから	
	すべてのサイトコレクションへ展開する	
	すべてのサイトへ展開する	

## 6.1.2. フロントエンド展開プランの構成

### (1) フロントエンド展開のプラン作成画面

※DocAve 管理コンソールの「管理」-「展開マネージャー」-「フロントエンド展開」をクリックして開きます。

項目	設定値
フロントエンド展開	
プラン名	
展開元	
ステージからインポート	
展開元	
展開先	
ステージへエクスポート	
レプリケート先エージェント	
展開オプション	
ロールバックを有効にする	
ロールバックポイントの最大値	
記憶域の制限	
GAC 展開を許可する	
機能の展開を承認する	
サイトの定義を承認する	
IIS 展開を許可する	
IIS セキュリティを保持する	
IIS 設定	
TCP ポート	
説明	
ローカルパス	
ファイル システム展開を許可する	
ファイルセキュリティを保持する	
カスタマイズされたフォルダマッピングを有効にする	
導入元フォルダ	
展開先フォルダ	
オプション	
メール通知	
フィルタオプション	
スケジュール	
スケジュールを無効にする	
開始時刻	
説明	

### 6.1.3. ソリューションセンタープランの構成

#### (1) ソリューションセンターのプラン作成画面

※DocAve 管理コンソールの「管理」-「展開マネージャー」-「ソリューションセンター」をクリックして開きます。

項目	設定値
ソリューションセンター	
プラン名	
展開元	
ファーム	
ファーム	
ソリューションレベル	
ソリューション	
ファイルシステム	
フィルタオプション	
展開元エージェント	
ソリューション	
ソリューションストア	
論理デバイス	
コントロールエージェント	
ソリューション	
展開先	
ファーム	
ソリューションストア	

#### 6.1.4. 展開マネージャーの設定

##### (1) デザインマネージャー設定

※DocAve 管理コンソールの「管理」-「展開マネージャー」-「設定」をクリックし、デザインマネージャー設定タブを開きます。

項目	設定値
エクスポート先	
プロファイル名	
エージェント	
ユーザー名	
パスワード	
パス	
フィルタオプション	
フィルタ名	
種類	
条件	
大文字小文字を区別	

##### (2) ソリューションセンター設定

※DocAve 管理コンソールの「管理」-「展開マネージャー」-「設定」をクリックし、ソリューションセンター設定タブを開きます。

項目	設定値
展開デバイス	
デバイス名	
エージェント	
UNC パス	
ユーザー名	
パスワード	
パス	
ローカルドライブ	
パス	
フィルタオプション	
フィルタ名	
種類	
条件	

(3) フロントエンド展開設定

※DocAve 管理コンソールの「管理」-「展開マネージャー」-「設定」をクリックし、フロントエンド設定タブを開きます。

項目	設定値
ストレージ	
エージェント	
UNC パス	
ユーザー名	
パスワード	
パス	
ローカルドライブ	
パス	
エクスポート先	
場所名	
エージェント	
ユーザー名	
パスワード	
パス	
フィルタオプション	
フィルタ名	
GAC フィルタ	
種類	
条件	
ファイシステムフィルタ	
種類	
条件	

## 第7章 付録

---

本章では、DocAve 展開マネージャーの評価シートなど、DocAve 展開マネージャーを利用したSharePointの展開作業に利用できる Tips 資料について記載します。

## 7.1. 評価項目シート

本セクションでは、展開マネージャーで実現できるご要望を一覧化しております。お客様がご利用される機能のチェック表としてご利用ください。それぞれのご要望を実現する方法については、「解説」に記載されている章をご確認ください。

機能	ご要望	チェック	解説
ファームへの一括変更	ひな型サイトから新規のサイトコレクションを作成したい	<input type="checkbox"/>	4.2.1
	ソリューションを任意の場所で管理したい	<input type="checkbox"/>	4.2.6
	検証環境から本番環境にソリューションを展開したい	<input type="checkbox"/>	4.2.6
	複数の WFE サーバーに対して web.config ファイルを一括で展開したい	<input type="checkbox"/>	4.2.7
	複数の WFE サーバーに対して CSS ファイルを一括で展開したい	<input type="checkbox"/>	4.2.8
	複数の WFE サーバーに対してアイコンファイルを一括で展開したい	<input type="checkbox"/>	4.2.9
	検証環境から本番環境にサイトコレクションを展開したい	<input type="checkbox"/>	4.2.10
サイトコレクションへの一括変更	複数のサイトに対してサイトテンプレートを一括で登録したい	<input type="checkbox"/>	4.2.2
	複数のサイトに対してカスタムテーマを一括で登録したい	<input type="checkbox"/>	4.2.3
	複数のサイトに対してカスタム列を一括で登録したい	<input type="checkbox"/>	4.2.4
	複数のサイトに対してドキュメントライブラリを一括で作成したい	<input type="checkbox"/>	4.2.5
	複数のサイトに対してマスターページを一括で登録したい	<input type="checkbox"/>	4.3.1
	複数のサイトに対してコンテンツタイプを一括で登録したい	<input type="checkbox"/>	4.3.2
	複数のサイトに対してサンドボックスソリューションを一括で展開したい	<input type="checkbox"/>	4.3.4
	複数のサイトに対してサイトトップのデザインを一括で適用したい	<input type="checkbox"/>	4.3.5
	複数のサイトに対してリストテンプレートを一括で登録したい	<input type="checkbox"/>	4.3.6
	複数のサイトに対して InfoPath フォームを使用したライブラリを一括で展開したい	<input type="checkbox"/>	4.3.9
リストへの一括変更	複数のライブラリに対してサイト列を一括で設定したい	<input type="checkbox"/>	4.3.3
	複数のリストに対して SharePoint Designer で編集したアイテム投稿フォームを一括で展開したい	<input type="checkbox"/>	4.3.7
	複数のリストに対してビューを追加したい	<input type="checkbox"/>	4.3.8
アイテムへの一括変更	新規アイテムを一括で追加したい	<input type="checkbox"/>	4.3.10
	既存アイテムを一括で変更したい	<input type="checkbox"/>	4.3.10